

JP1 Version 9

JP1/Integrated Management - Manager
運用ガイド

手引・操作書

3020-3-R78-51

対象製品

適用 OS のバージョン, JP1/Integrated Management - Manager, および JP1/Integrated Management - View が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については各製品のリリースノートで確認してください。

適用 OS : Windows Server 2003, Windows XP Professional

P-242C-6H94 JP1/Integrated Management - View 09-50

適用 OS : Windows 7, Windows Server 2008, Windows Vista

P-2A2C-6H94 JP1/Integrated Management - View 09-50

適用 OS : Windows Server 2003

P-242C-8E94 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Windows Server 2008

P-2A2C-8E94 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Solaris

P-9D2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : AIX

P-1M2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : HP-UX (IPF)

P-1J2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Linux 5 (AMD/Intel 64), Linux 5 (x86), Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64), Linux 5 Advanced Platform (x86)

P-9S2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS : Linux 5 (IPF), Linux 5 Advanced Platform (IPF)

P-9V2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AIX 5L は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

BSAFE は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

GIF は、米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

J2EE は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商

標です。

Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

JDBC は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Internet Information Services は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

NetInsight は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

POSIX は、the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. (IEEE) で制定された標準仕様です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Solaris は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Sun は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Sun Microsystems は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

TELstaff は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

VMware および ESX は、VMware, Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E91」には、Oracle Corporation またはその子会社、関連会社が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E91」には、UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S.Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).



本製品は、EMC Corporation の RSA(R) BSAFE™ ソフトウェアを搭載しています。

HITACHI
Inspire the Next

© 株式会社 日立製作所



発行

2011 年 9 月 3020-3-R78-51

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2011, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-R78-51) JP1/Integrated Management - Manager 09-50 , JP1/Integrated Management - View 09-50

追加・変更内容	変更箇所
バックアップ対象ファイルに次のファイルを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> • 共通除外条件表示項目定義ファイル • システムカラー定義ファイル • コマンドボタン定義ファイル • 発生元ホストマッピング定義ファイル 	1.1.1 , 1.1.3
サービスの状態を収集するコマンドに、ログファイルトラップ（リモート）およびイベントログトラップ（リモート）を追加した。	8.6.2
ログファイルおよびディレクトリ一覧を更新した。	10.2.3
リモート監視ログファイルトラップが稼働しているときのトラブルの要因と対処を追加した。	10.5(38)
IM 構成管理・ビューアで処理中ダイアログが表示され続ける場合の要因と対処を追加した。	10.5(39)

変更内容 (3020-3-R78-50) JP1/Integrated Management - Manager 09-50 , JP1/Integrated Management - View 09-50

追加・変更内容	変更箇所
JP1/IM・MO を使用している場合の操作方法を追加した。	1.2.1(5) , 1.2.2(6) , 1.2.3(5) , 1.2.3(6) , 1.2.3(7) , 3.3
リモート監視構成の場合のバックアップ対象ファイルを追加した。	1.2.2(1)(c)
リモート監視構成でマネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更したときに必要な作業の説明を追加した。	2.2.4
システムの階層構成で監視構成を変更するときのエージェント構成およびリモート監視構成の違いと、注意事項を追加した。	2.3
項目に発生元ホスト名を追加した。	5.1.1(1)(a) , 5.1.2 , 5.5.1(1)
イベント情報のマッピングと発生元ホストのマッピングの違いを追加した。	5.1.3
業務グループの参照・操作制限を有効にしている場合の制限事項を追加した。	5.1.3 , 5.1.11 , 5.8.1 , 7.2.1 , 7.2.2(2) , 7.2.2(3) , 9.5.2 , 9.5.3 , 9.5.5
JP1 イベントをインシデントとして登録するために、JP1/IM・Service Support の [登録先プロセスワークボード] 画面を表示する手順を追加した。	5.1.10

追加・変更内容	変更箇所
共通除外条件の有効・無効を切り替える説明に、jcochfilter コマンドの次のオプションの説明と例を追加した。 <ul style="list-style-type: none"> • -on • -off • -e 	5.8.2(2)
[コマンド] ボタンでのコマンドの実行方法を追加した。	7.1.2
[統合機能メニュー] 画面に表示される機能のバージョンを明らかにした。	7.3.2
[IM 構成編集] 画面の名称を [エージェント構成編集] 画面に変更した。また、リモート監視の場合は、[リモート監視構成編集] 画面を使用する記述を追加した。	8.2, 8.7.3, 10.5(35)
業務グループの管理についての説明を追加した。	8.4
リモート監視の運用についての説明を追加した。	8.5, 8.6.1, 8.7.1(2), 8.7.1(3), 8.7.2(2), 8.7.2(3)
エクスポート、インポートの対象となる情報に、次の情報を追加した。 <ul style="list-style-type: none"> • リモート認証情報 • 業務グループ情報 • 監視グループ情報 	8.7.1, 8.7.2
業務グループの参照・操作制限を有効にしている場合の制限事項を追加した。	9.5.2, 9.5.3, 9.5.5
ログファイルおよびディレクトリ一覧を更新した。	10.2.3
トラブルへの対処方法の「コマンドが実行できない場合」に、業務グループまたは監視グループを実行ホスト名に指定した場合の対処を追加した。	10.5(3)
リモート監視のトラブルについての対処方法を追加した。	10.5(37), 10.5(38)

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

今版 (3020-3-R78-50) では、前版 (3020-3-R78-40) の内容の一部を移動し、目次構成を変更しました。前版との対応は次のようになっています。

旧 (3020-3-R78-40)	新 (3020-3-R78-50)
8.3 プロファイルを管理する	8.5 プロファイルを管理する
8.4 サービスの稼働状況を管理する	8.6 サービスの稼働状況を管理する
8.5 IM 構成管理の管理情報をインポート・エクスポートする	8.7 IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする
8.6 仮想化システム構成を管理する	8.3 仮想化システム構成を管理する

はじめに

このマニュアルは、JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management - View の運用方法、操作方法、トラブルシューティングなどについて説明したものです。なお、このマニュアルでは、JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management - View を総称して、JP1/Integrated Management または JP1/IM と表記します。

対象読者

オープンプラットフォームのシステムを管理するインフラを、JP1/IM を使って管理、運用、操作される方を対象としています。具体的には次の方を対象としています。

- システムで発生する事象を一元監視したいシステム管理者
- システムを管理するインフラの状態をシステムで発生する事象と関連づけて一元監視したいシステム管理者

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編から構成されています。

第 1 編 運用編

JP1/Integrated Management のシステムを維持するために必要な作業、およびシステムの評価方法について説明しています。

第 2 編 操作編

JP1/Integrated Management を使った監視業務の操作方法について説明しています。

第 3 編 他製品との連携編

統合管理製品以外の他製品と連携した監視業務の概要、連携機能、監視環境の構築方法、操作方法、連携時の画面、および連携時に使用できるコマンドオプションについて説明しています。

第 4 編 トラブルシューティング編

JP1/Integrated Management でトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1/IM 関連

- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager クイックリファレンス (3020-3-R75)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3020-3-R76)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3020-3-R77)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス (3020-3-R79)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3020-3-R80)

はじめに

- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ (3020-3-R81)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i (3020-3-R82)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Rule Operation 構築・運用ガイド (3020-3-R83)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Rule Operation 画面リファレンス (3020-3-R84)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - TELstaff JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View 構築・運用ガイド (3020-3-R85)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Message Optimizer (3020-3-R86)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Service Support 構築・運用ガイド (3020-3-R91)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Service Support 操作ガイド (3020-3-R92)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド (3020-3-K04)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス (3020-3-K05)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Incident Master (3020-3-K09)

JP1 関連

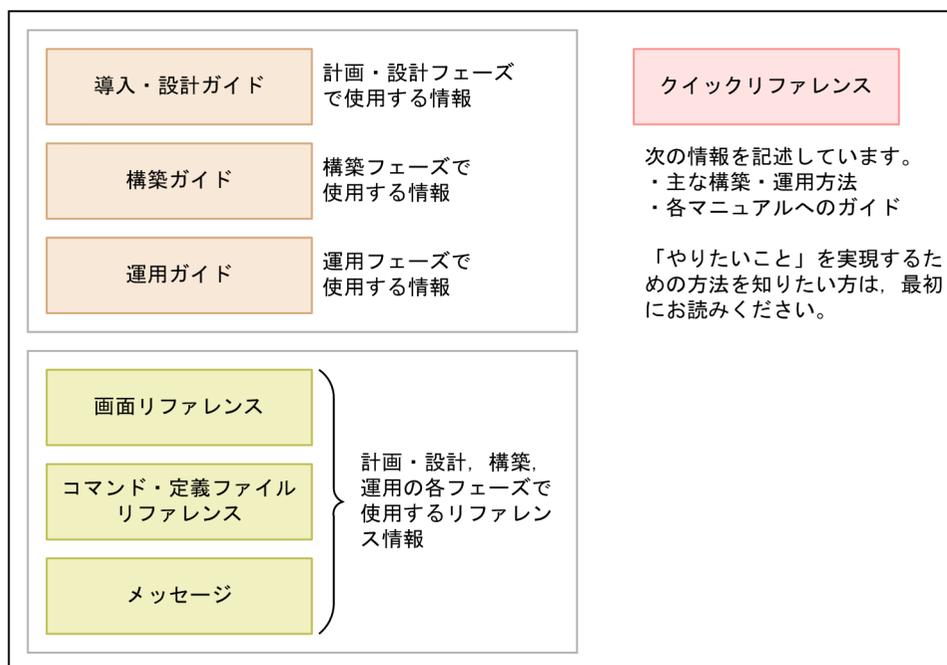
- JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-R71)
- JP1 Version 9 JP1/Base メッセージ (3020-3-R72)
- JP1 Version 9 JP1/Base 関数リファレンス (3020-3-R73)

BJEX 関連

- uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引 (3000-3-E02)

マニュアルの体系

JP1/IM のマニュアルでは、システム的设计・構築・運用などのシステムのライフサイクルでの段階ごとに必要な情報を説明しています。目的に合わせて必要なマニュアルをお読みください。JP1/IM のマニュアルとシステムのライフサイクルの関係を次の図に示します。



このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記		正式名称
AIX		AIX 5L 5.3
		AIX 6.1
BJEX		uCosminexus Batch Job Execution Server
Cosminexus	Cosminexus Application Server	Cosminexus Application Server Enterprise Version 6
		Cosminexus Application Server Standard Version 6
		uCosminexus Application Server Enterprise
		uCosminexus Application Server Standard
		uCosminexus Service Platform
HNTRLib		Hitachi Network Objectplaza Trace Library
HNTRLib2		Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2
HP-UX	HP-UX (IPF)	HP-UX 11i V2 (IPF)

このマニュアルでの表記		正式名称
		HP-UX 11i V3 (IPF)
Hyper-V		Microsoft(R) Hyper-V(TM) 1.0
		Microsoft(R) Hyper-V(TM) 2.0
IE	Microsoft Internet Explorer	Microsoft(R) Internet Explorer(R)
	Windows Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)
IIS	Internet Information Services	Microsoft(R) Internet Information Services 5.01 以降
JP1/AJS	JP1/AJS2 - Advanced Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Advanced Manager
	JP1/AJS - Agent	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent
		JP1/Automatic Job Management System 3 - Agent
	JP1/AJS - Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager
		JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager
	JP1/AJS - View	JP1/Automatic Job Management System 2 - View
		JP1/Automatic Job Management System 3 - View
	JP1/AJS2 - Scenario Operation View	JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation View
JP1/AJS2 - View for Mainframe	JP1/Automatic Job Management System 2 - View for Mainframe	
JP1/Cm2/ESA		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent
		JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent for Extension Mib Runtime
JP1/Cm2/SSO	JP1/Cm2/SSO	JP1/Cm2/SNMP System Observer
	JP1/PFM/SSO	JP1/Performance Management/ Distributed SNMP System Observer
		JP1/Performance Management/SNMP System Observer
	JP1/SSO	JP1/Distributed Server System Observer
JP1/Server System Observer		
JP1/FTP		JP1/File Transmission Server/FTP
JP1/Integrated Management または JP1/IM	バージョン 7 製品	
	JP1/IM - Central Console または JP1/IM - CC	JP1/Integrated Manager - Central Console

このマニュアルでの表記	正式名称
JP1/IM - Central Console 10 Node または JP1/IM - CC 10 Node	JP1/Integrated Manager - Central Console 10 Node
JP1/IM - Central Console アップグレード または JP1/IM - CC アップグレード	JP1/Integrated Manager - Central Console アップグレード
JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Manager - Central Information Master
JP1/IM - Central Scope または JP1/IM - CS	JP1/Integrated Manager - Central Scope
JP1/IM - Incident Master または JP1/IM - IDM	JP1/Integrated Manager - Incident Master
JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Manager - TELstaff
	JP1/Integrated Manager - TELstaff Alarm View
JP1/IM - View	JP1/Integrated Manager - View
バージョン 8 製品	
JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Management - Central Information Master
JP1/IM - Incident Master または JP1/IM - IDM	JP1/Integrated Management - Incident Master
JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
JP1/IM - Rule Operation または JP1/IM - RL	JP1/Integrated Management - Rule Operation
JP1/IM - Service Support または JP1/IM - SS	JP1/Integrated Management - Service Support
JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Management - TELstaff
	JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View
JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
バージョン 9 製品	
JP1/IM - Event Gateway for Network Node Manager i または JP1/IM - EG for NNMi	JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i
JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager

このマニュアルでの表記		正式名称
	JP1/IM - Message Optimizer Assistant または JP1/IM - MO	JP1/Integrated Management - Message Optimizer
		JP1/Integrated Management - Message Optimizer Assistant
	JP1/IM - Rule Operation または JP1/IM - RL	JP1/Integrated Management - Rule Operation
	JP1/IM - Service Support または JP1/IM - SS	JP1/Integrated Management - Service Support
	JP1/IM - TELstaff	JP1/Integrated Management - TELstaff
	JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View	
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
JP1/NetInsight II - Facility Manager		JP1/NetInsight(R) II - Facility Manager
		JP1/NetInsight(R) II - Facility Manager Standard
		JP1/NetInsight(R) II - Facility Manager Upgrade License
JP1/NPS		JP1/Network Printing System
JP1/PAM	JP1/PA - Adaptor	JP1/Performance Analysis - Adaptor
		JP1/Performance Management - Analysis Adaptor
	JP1/PA - Manager	JP1/Performance Analysis - Manager
		JP1/Performance Management - Analysis Manager
	JP1/PA - View	JP1/Performance Analysis - View
		JP1/Performance Management - Analysis View
JP1/PFM	JP1/PFM - Agent	JP1/Performance Management - Agent for Platform などのエージェント製品群
	JP1/PFM - Manager	JP1/Performance Management - Manager
	JP1/PFM - View	JP1/Performance Management - View
	JP1/PFM - Web Console	JP1/Performance Management - Web Console
JP1/PFM/SSO for Application Server		JP1/Performance Management/SNMP System Observer for Application Server
JP1/SC/CM		JP1/ServerConductor/Control Manager
JP1/ServerConductor	JP1/ServerConductor	JP1/ServerConductor/Advanced Agent
		JP1/ServerConductor/Agent

このマニュアルでの表記		正式名称
		JP1/ServerConductor/Blade Server Manager
		JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus
		JP1/ServerConductor/Server Manager
	ServerConductor	ServerConductor/Advanced Agent
		ServerConductor/Agent
		ServerConductor/Blade Server Manager
		ServerConductor/Server Manager
	System Manager	System Manager - Advanced Agent
		System Manager - Management Console
		System Manager - Server Agent
		System Manager - Server Agent for HP-UX
	JP1/SES	
Linux	Linux 5 (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (AMD/Intel 64)
	Linux 5 (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (IPF)
	Linux 5 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (x86)
	Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
	Linux 5 Advanced Platform (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (IPF)
	Linux 5 Advanced Platform (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (x86)
NNM	HP NNM	HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
		HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
	JP1/Cm2/NNM	JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前
	NNMi	HP NNMi
JP1/Cm2/NNMi		JP1/Cm2/Network Node Manager i 09-00 以降

このマニュアルでの表記		正式名称
SCVMM		Microsoft(R) System Center Virtual Machine Manager 2008
Solaris		Solaris 9
		Solaris 10
vCenter		VMware vCenter Server
Virtage		日立サーバ仮想機構「Virtage」
VMware		VMware(R) ESX 3.5
		VMware(R) ESX 4.0
Windows 2000		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows 7		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003 (IPF)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
	Windows Server 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 R2 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
	Windows Server 2008	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard		

このマニュアルでの表記	正式名称	
Windows Server 2008 (IPF)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-based Systems	
	Windows Server 2008 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64
	Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
	Windows Server 2008 R2 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard x64
	Windows Vista	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate		
Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	

注 JP1/IM - Central Information Master , JP1/IM - Incident Master , JP1/IM - Rule Operation , JP1/IM - Service Support , JP1/IM - TELstaff , JP1/IM - Message Optimizer Assistant , および JP1/IM - Event Gateway for Network Node Manager i については、このマニュアルで説明する JP1/IM - Manager , JP1/IM - View に関連する機能概要だけ説明しています。

- Windows 2000 , Windows XP Professional , Windows Server 2003 , Windows Vista , Windows Server 2008 および Windows 7 を総称して Windows と表記することがあります。
- HP-UX , Solaris , AIX , および Linux を総称して UNIX と表記することがあります。

このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AMD	Advanced Micro Devices
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
CMT	Container-Managed Transaction
CRLF	Carriage Return/Line Feed
CSV	Comma Separated Value
DB	Database

はじめに

英略語	正式名称
DBMS	Database Management System
DNS	Domain Name System
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GMT	Greenwich Mean Time
GUI	Graphical User Interface
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	HyperText Transfer Protocol
IP	Internet Protocol
IPF	Itanium(R) Processor Family
ISAM	Indexed Sequential Access Method
J2EE	Java(TM)2 Platform Enterprise Edition
Java VM	Java(TM) Virtual Machine
JDBC	Java(TM) DataBase Connectivity
JIS	Japanese Industrial Standards
LAN	Local Area Network
NAT	Network Address Translator
NIC	Network Interface Card
NTP	Network Time Protocol
OTS	Object Transaction Service
POSIX	Portable Operating System Interface for UNIX
SFO	Session Fail Over
SNMP	Simple Network Management Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TXT	Text
UAC	User Account Control
UCS	Universal Multiple-Octet Coded Character Set
UNC	Universal Naming Convention
URL	Uniform Resource Locator
UTC	Universal Time Coordinated
UTF	UCS Transformation Format
WAN	Wide Area Network
WWW	World Wide Web

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	メニュー項目、画面名、ボタン名、およびキーボードのキーなどを示す。 例 メニュー項目 : [新規作成] 画面名 : [ログイン] 画面 ボタン名 : [OK] ボタン キーボードのキー : [Ctrl] キー
[] - []	画面のメニューから項目を選択する操作を示す。 例 [ファイル] - [新規作成] を選択する。 上記の例では、メニューバーの [ファイル] を選んで、プルダウンメニューの [新規作成] を選択することを示す。
[] + []	キーを同時に押すことを示す。 例 [Ctrl] + [C] キー 上記の例では、[Ctrl] キーと [C] キーを同時に押すことを示す。

コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 例 「A B C」は、「A, B または C」を示す。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず一組の項目を選択する。項目の区切りは で示す。 例 {A B C} は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる（省略してもよい）。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択する。 例 [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。 [B C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
...または ...	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。 例 「A, B, ...」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示す。
<u> </u> (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムがとる標準値を示す。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効である。 例 [A B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したと見なすことを示す。
	空白を表す。 ₀ : 0 個以上の空白（空白を省略できる） ₁ : 1 個以上の空白（空白を省略できない）
	タブを表す。 例 A とした場合に、A の前にタブがあることを示す。

数式で使用する記号

このマニュアルの数式中で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
x	乗算記号を示す。
/	除算記号を示す。

図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

●コンピュータ (端末) ●コンピュータ



●ディスク装置,
ファイル



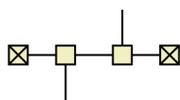
●画面



●WAN



●ネットワーク



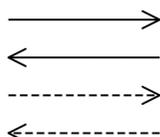
●通信回線



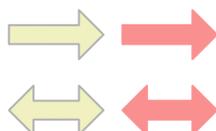
●プログラム



●制御の流れ



●データの流れ



●工程, 作業項目の
流れ



●障害



Windows 版 JP1/IM, JP1/Base のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、Windows 版 JP1/IM, JP1/Base のインストール先フォルダを次のように表記しています。

製品名	インストール先 フォルダの表記	デフォルトインストール先フォルダ
JP1/IM - View	View パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1CoView
JP1/IM - Manager	Manager パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1IMM
	Console パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Cons
	Scope パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Scope
JP1/Base	Base パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Base

注 各製品をデフォルトのままインストールした場合のインストール先フォルダを表しています。Windows 7, Windows Server 2008 および Windows Vista の場合, 「システムドライブ :%Program Files」と表記している部分は, インストール時の OS 環境変数によって決定されるため, 環境によって異なる場合があります。

このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは, ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば, ローカルユーザー, ドメインユーザーおよび, Active Directory 環境で動作に違いはありません。

オンラインマニュアルについて

JP1/IM では, WWW ブラウザーで参照できる HTML マニュアルを提供しています。HTML マニュアルは, 下記 WWW ブラウザーで参照できます。

- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
- Windows Internet Explorer 7 以降

オンラインマニュアルの内容は, このマニュアルと同様です。

オンラインマニュアルは, 次の操作で目次が表示されます。

- JP1/IM - View : [ヘルプ] - [目次] を選択する。または, スタートメニューから [プログラム] - [JP1_Integrated Management - View] - [ヘルプ] を選択する。

注意事項

- スタートメニューからオンラインマニュアルを表示させると, OS の設定によってすでに表示されているブラウザの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

目次

第 1 編 運用編

1	JP1/IM システムのメンテナンス	1
1.1	設定情報の管理	2
1.1.1	バックアップ (Windows の場合)	2
1.1.2	リカバリー (Windows の場合)	7
1.1.3	バックアップ (UNIX の場合)	7
1.1.4	リカバリー (UNIX の場合)	11
1.2	データベースの管理	12
1.2.1	データベースの再編成	12
1.2.2	データベースのバックアップおよびリカバリー	14
1.2.3	データベースの再作成および設定変更	20
1.3	ディスク容量の管理	30
1.4	履歴レポートの活用	32
1.4.1	イベントの CSV 出力	32
1.4.2	関連イベントの発行履歴	32
1.5	設定情報および DB の移行	34
2	JP1/IM システムの構成変更	35
2.1	JP1/IM の設定情報の変更	36
2.2	JP1/IM が動作するホストの設定変更	37
2.2.1	ホスト名を変更した場合の影響および必要作業	37
2.2.2	IP アドレスを変更した場合の影響および必要作業	39
2.2.3	システムの日時変更時に必要な作業	40
2.2.4	リモート監視構成でマネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更したときに必要な作業	42
2.3	システムの階層構成での監視構成の変更	44
2.3.1	エージェント構成とリモート監視構成の違い	44
2.3.2	リモート監視構成からエージェント構成に監視構成を変更する場合の注意事項	45

第 2 編 操作編

3	JP1/IM - Manager の起動と終了	47
3.1	JP1/IM - Manager を起動する	48
3.1.1	Windows の場合	48
3.1.2	UNIX の場合	49
3.1.3	クラスタシステムで運用する場合	50
3.2	JP1/IM - Manager を終了する	51
3.2.1	Windows の場合	51
3.2.2	UNIX の場合	51
3.2.3	クラスタシステムで運用する場合	52
3.3	起動と終了に関する注意事項	53
4	JP1/IM - Manager へのログインとログアウト	55
4.1	JP1/IM - Manager にログインする	56
4.1.1	JP1/IM - Manager に GUI でログインする	56
4.1.2	JP1/IM - Manager にコマンドでログインする	58
4.2	JP1/IM - Manager からログアウトする	60
5	セントラルコンソールによるシステムの監視	61
5.1	JP1 イベントによりシステムを監視する	62
5.1.1	JP1 イベントの見方	62
5.1.2	JP1 イベントの詳細情報を表示する	68
5.1.3	JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する (イベント情報のマッピング)	70
5.1.4	JP1 イベントの対処状況を表示する	74
5.1.5	重要イベントだけを表示する	75
5.1.6	集約イベントと繰り返しイベントを表示する	76
5.1.7	関連イベントを表示および操作する	80
5.1.8	期間を指定してイベントを表示する	82
5.1.9	時刻を指定してイベントを表示する	83
5.1.10	JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Service Support に登録する (JP1/IM - Service Support 連携)	84
5.1.11	JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Incident Master に登録する (JP1/IM - Incident Master 連携)	85

5.1.12	ルール起動要求の状況を確認し，ルール起動要求の操作をする（JP1/IM - Rule Operation 連携）	87
5.2	重要イベントの対処状況を設定する	90
5.3	イベントの重大度を変更する	91
5.4	メモ情報を編集する	93
5.5	JP1 イベントを検索する	94
5.5.1	検索の方法	94
5.5.2	検索結果の表示	97
5.5.3	イベント検索で対処状況を設定する	99
5.6	JP1 イベントを発行したアプリケーションをモニター起動する	101
5.6.1	対応するプログラム	101
5.7	表示フィルターを有効にする	103
5.8	イベント取得フィルターを切り替える	104
5.8.1	JP1/IM - View の [システム環境設定] 画面または [イベント取得条件一覧] 画面から切り替える	104
5.8.2	jcochfilter コマンドを使用して切り替える	106
5.9	JP1/IM - View の表示情報を CSV 出力する	110
5.9.1	イベント一覧を CSV 出力する	110
5.9.2	統合監視 DB の内容を CSV 出力する	110
5.9.3	JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピーする	111

6

セントラルスコープによるシステムの監視		113
6.1	[監視ツリー] 画面で監視する	114
6.1.1	監視ノードの状態を変更する	114
6.1.2	監視ノードの監視状態を変更する	115
6.1.3	監視ノードを検索する	116
6.1.4	状態変更イベントを検索する	116
6.1.5	監視ノードの属性を表示する	117
6.1.6	ガイド情報を表示する	118
6.1.7	[ビジュアル監視] 画面を表示する	118
6.1.8	ログインユーザーの一覧を表示する	119
6.1.9	[監視ツリー] 画面の情報をローカルホストに保存する	119
6.2	[ビジュアル監視] 画面で監視する	120
6.2.1	[ビジュアル監視] 画面から [監視ツリー] 画面を呼び出す	121
6.2.2	監視ノードの状態を変更する	121
6.2.3	監視ノードの監視状態を変更する	121

6.2.4	監視ノードを検索する	122
6.2.5	状態変更イベントを検索する	122
6.2.6	監視ノードの属性を表示する	123
6.2.7	ガイド情報を表示する	124

7

JP1/IM によるシステムの操作 125

7.1	コマンドを実行する	126
7.1.1	〔実行コマンド〕でコマンドを実行する	126
7.1.2	〔コマンド〕ボタンでコマンドを実行する	127
7.1.3	コマンドを実行するユーザー	129
7.1.4	コマンドの実行状態を確認または削除する	129
7.2	自動アクションの状況を確認し、自動アクションの操作を行う	131
7.2.1	自動アクションの実行状況を確認する	131
7.2.2	自動アクションの実行結果を確認する	133
7.2.3	自動アクション機能の稼働状況を確認する	139
7.3	統合機能メニューで他アプリケーションの画面を表示する	140
7.3.1	〔統合機能メニュー〕画面の操作	141
7.3.2	〔統合機能メニュー〕画面から操作できる機能	142

8

IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理 149

8.1	ホストを管理する	150
8.2	システムの階層構成を管理する	151
8.3	仮想化システム構成を管理する	153
8.3.1	仮想化システムのホストを登録する	153
8.3.2	仮想化システムのホスト情報を表示する	153
8.3.3	セントラルスコープの監視ツリーへ反映する	154
8.4	業務グループを管理する	155
8.5	プロファイルを管理する	156
8.6	サービスの稼働状況を管理する	158
8.6.1	サービスの稼働情報を収集する	158
8.6.2	サービスの稼働情報を表示する	159
8.7	IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする	161
8.7.1	IM 構成管理の管理情報をエクスポートする	161
8.7.2	IM 構成管理の管理情報をインポートする	169
8.7.3	インポートした IM 構成管理の管理情報をシステムに反映する	177

第3編 他製品との連携編

9

BJEX との連携	181
9.1 BJEX との連携の概要	182
9.1.1 バッチジョブ実行システムと連携する場合のシステム構成	182
9.2 BJEX 連携用の JP1/IM の機能	185
9.2.1 応答待ちイベントと JP1/IM の関係	185
9.2.2 応答待ちイベントの監視	187
9.2.3 応答待ちイベントの滞留	190
9.2.4 応答待ちイベントへの応答	192
9.2.5 応答待ちイベントのキャンセル	194
9.3 BJEX と連携するための設定	196
9.3.1 JP1/IM - Manager の設定	196
9.3.2 JP1/IM - View の設定	197
9.3.3 JP1/Base の設定	198
9.3.4 BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信に関する設定	198
9.3.5 BJEX の設定	199
9.4 応答待ちイベントの操作	201
9.4.1 応答待ちイベントに回答する操作の流れ	201
9.4.2 応答待ちイベントに回答する	205
9.4.3 応答待ちイベントの滞留を手動で解除する	205
9.4.4 応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させる	206
9.5 BJEX 連携時の画面	207
9.5.1 画面遷移	207
9.5.2 [イベントコンソール] 画面	208
9.5.3 [イベント詳細] 画面	210
9.5.4 [応答入力] 画面	211
9.5.5 [関連イベント一覧] 画面	213
9.5.6 [ユーザー環境設定] 画面	214
9.5.7 [イベント検索条件設定] 画面	214
9.5.8 フィルターの条件定義画面	215
9.6 BJEX 連携時のコマンド	217
9.6.1 jcoimdef	217
9.6.2 jim_log.bat (Windows 限定)	217
9.6.3 jim_log.sh (UNIX 限定)	218

第4編 トラブルシューティング編

10	トラブルシューティング	219
10.1	対処の手順	220
10.2	ログ情報の種類	221
10.2.1	共通メッセージログ	221
10.2.2	統合トレースログ	221
10.2.3	ログファイルおよびディレクトリ一覧	224
10.3	トラブル発生時に採取が必要な資料	256
10.3.1	Windows の場合	256
10.3.2	UNIX の場合	270
10.4	資料の採取方法	283
10.4.1	Windows の場合	283
10.4.2	UNIX の場合	289
10.5	トラブルへの対処方法	293

索引

335

1

JP1/IM システムのメンテナンス

この章では、JP1/IM システムのメンテナンスについて説明します。

システム運用管理の基盤となる JP1/IM を安定して運用するために、定義ファイルのバックアップやデータベースの管理など、定期的にメンテナンス作業を計画してください。

1.1 設定情報の管理

1.2 データベースの管理

1.3 ディスク容量の管理

1.4 履歴レポートの活用

1.5 設定情報および DB の移行

1.1 設定情報の管理

ここでは、JP1 システムのバックアップおよびリカバリーについて説明します。

ディスク障害などが発生してシステムが動作しなくなった場合、JP1/IM で使用する各種のデータが回復できなくなることがあります。このような不測の事態に備えて、定期的に各種のファイルのバックアップを取得しておく必要があります。

ここでの説明を基に、システム全体のバックアップ計画の一環として、JP1 のバックアップ・リカバリーを検討してください。なお、バックアップとリカバリーはサーバ間のファイル移行には使用できません。

1.1.1 バックアップ (Windows の場合)

JP1/IM の設定情報のバックアップについて説明します。

JP1/IM の設定を変更した場合に、バックアップを取得してください。JP1/IM のバックアップを取得する場合は、必ず JP1/Base のバックアップを同時に取得してください。JP1/Base のユーザーが設定する定義ファイルのバックアップ方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

バックアップは、ファイルをコピーするなど、任意の方法で取得してください。バックアップは、できるだけ JP1/IM のサービスを停止した状態で取得してください。しかたなく実行中に取得する場合は、次の点に注意が必要です。

- 実行中に定義ファイルが書き換えられるケースがあります。ファイルの書き換え中にバックアップすると、ファイルが壊れた状態でバックアップされます。バックアップ実行直後に、取得したバックアップとバックアップ元のファイルを比較して、内容が一致していることを確認してください。
- バックアップ時には対象ファイルに排他などのロックをしないでください。ロックする場合は、接続しているビューアーをすべてログアウトした状態で対象ファイルを別ファイルにコピーしてください。コピーしたあと、コピーしたファイルとコピー元ファイルを比較して、内容が一致していることを確認してから、コピーしたファイルをバックアップしてください。

JP1/IM のバックアップ対象ファイルを次に示します。なお、論理ホストの場合は表中の「Console パス」を「共有フォルダ ¥JP1Cons」, 「Scope パス」を「共有フォルダ ¥JP1Scope」, 「Manager パス」を「共有フォルダ ¥JP1IMM」に置き換えてください。

表 1-1 JP1/IM のバックアップ対象ファイル

製品名	ファイル名	内容
各製品共通	マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.2(5) 共通定義情報のコピー」で作成した退避ファイル	共通定義情報退避ファイル ¹

製品名		ファイル名	内容
JP1/IM - Manager	JP1/IM - Central Console	Console パス ¥conf¥jplco_env.conf	IM 環境定義ファイル
		Console パス ¥conf¥jplco_param.conf	IM パラメーター定義ファイル
		Console パス ¥conf¥jplco_param_V7.conf	IM パラメーター定義ファイル
		Console パス ¥conf¥jplco_service.conf	拡張起動プロセス定義ファイル
		Console パス ¥conf¥jplco_system.conf	IM サーバシステム環境設定ファイル
		Console パス ¥conf¥action¥actdef.conf	自動アクション定義ファイル
		Console パス ¥conf¥console¥actprofile¥actprofile_JP1 ユーザー名	アクションプロファイル
		Console パス ¥conf¥console¥actprofile¥actprofile2_JP1 ユーザー名	
		Console パス ¥conf¥console¥attribute¥*.conf	イベント拡張属性定義ファイル
		Console パス ¥conf¥console¥filter¥*.conf	フィルター定義ファイル
		Console パス ¥conf¥console¥filter¥attr_list¥common_exclude_filter_attr_list.conf	共通除外条件表示項目定義ファイル
		Console パス ¥conf¥console¥mapping¥mapping.conf	イベント情報マッピング定義ファイル
		Console パス ¥conf¥console¥monitor¥*.conf	モニター画面呼び出し定義ファイル
		Console パス ¥conf¥console¥object_type¥*	オブジェクトタイプ定義ファイル
		Console パス ¥conf¥console¥profile¥.system	システムプロファイル
		Console パス ¥conf¥console¥profile¥defaultUser	JP1/IM - View のユーザープロファイル (デフォルト)
		Console パス ¥conf¥console¥profile¥profile_JP1 ユーザー名	JP1/IM - View のユーザープロファイル

1. JP1/IM システムのメンテナンス

製品名	ファイル名	内容
	Console パス ¥conf¥console¥profile¥systemColor.conf	システムカラー定義ファイル
	Console パス ¥www¥console_ja.html ²	WWW ページ版動作定義ファイル
	Console パス ¥default¥console.conf ²	通信環境定義ファイル
	Console パス ¥conf¥console¥correlation¥view_cor.conf	繰り返しイベントの集約設定ファイル
	Console パス ¥conf¥console¥correlation¥view_cor_JP1 ユーザー名.conf	繰り返しイベントの集約設定ファイル
	Console パス ¥conf¥console¥rmtcmd¥cmdbtn.conf	コマンドボタン定義ファイル
	Console パス ¥conf¥health¥jcohc.conf	ヘルスチェック定義ファイル
	Console パス ¥conf¥hostmap¥user_hostmap.conf	発生元ホストマッピング定義ファイル
	Console パス ¥conf¥action¥actnotice.conf	自動アクション通知定義ファイル
	Console パス ¥conf¥processupdate¥processupdate.conf	対処状況イベント定義ファイル
	Console パス ¥conf¥guide¥jco_guide.txt	イベントガイド情報ファイル
	Console パス ¥conf¥discrim¥以下のすべてのファイル	インシデント登録用定義ファイル (JP1/IM - Incident Master 連携用)
	Console パス ¥conf¥console¥incident¥incident.conf	インシデント手動登録定義ファイル (JP1/IM - Incident Master 連携用)
	ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	イベントガイドメッセージファイル
	Console パス ¥conf¥evgen¥以下のすべてのファイル	相関イベント発行用定義ファイル
	ユーザー任意のフォルダ ¥ファイル名.conf	相関イベント発行定義ファイル
	Console パス ¥conf¥action¥attr_list¥attr_list.conf	イベント条件表示項目定義ファイル

製品名	ファイル名	内容
JP1/IM - Central Scope	Console パス ¥conf¥chsev¥jcochsev.conf	重大度変更定義ファイル
	Scope パス ¥conf¥jcs_guide_sjis.txt	ガイド情報ファイル
	Scope パス ¥conf¥jcs_hosts	ホスト情報ファイル
	Scope パス ¥conf¥action_complete_on.conf	対処済み連動設定ファイル
	Scope パス ¥conf¥action_complete_off.conf	
	ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	状態変更イベント自動削除設定ファイル
	ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	監視オブジェクト初期化設定ファイル
	Scope パス ¥conf¥auto_dbbackup_on.conf	監視オブジェクトDBのバックアップ・リカバリー設定ファイル
	Scope パス ¥conf¥auto_dbbackup_off.conf	
	Scope パス ¥conf¥evhist_warn_event_on.conf	状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル
	Scope パス ¥conf¥evhist_warn_event_off.conf	
	ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	ガイドメッセージファイル
	Scope パス ¥conf¥jcs_atc_cm_host.conf	CM ホスト定義ファイル (JP1/IM - Central Information Master 連携用)
ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	状態変更条件メモリ常駐機能の設定ファイル	
JP1/IM - View	View パス ¥conf¥webdata¥ja¥*.html	WWW ページ呼び出し定義ファイル
	View パス ¥conf¥tuning.conf	IM - View 設定ファイル
	View パス ¥default¥view.conf.update	通信環境定義ファイル
	View パス ¥default¥tree_view.conf.update	
	View パス ¥conf¥sovtoolexec¥ja¥!JP1_CS_APP0.conf	起動プログラム定義ファイル

1. JP1/IM システムのメンテナンス

製品名	ファイル名	内容
	View パス ¥conf¥sovtoolitem¥ja¥!JP1_CS_FTOOL 0.conf	ツールバー定義ファ イル
	View パス ¥conf¥sovtoolitem¥ja¥!JP1_CS_FTREE 0.conf	アイコン動作定義 ファイル
	View パス ¥conf¥appexecute¥ja¥*.conf	アプリケーション実 行定義ファイル
	View パス ¥conf¥function¥ja¥*.conf	統合機能メニュー定 義ファイル
	ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファ イル名	ツリー構成ファイル
	View パス ¥image¥icon¥以下のファイル	アイコンファイル
	View パス ¥image¥visual¥以下のファイル	ビジュアルアイコン ファイル ³
	View パス ¥image¥map¥以下のファイル	背景画像ファイル
	View パス ¥conf¥jcfview¥jcfview.conf	IM 構成管理・ ビューアー動作定義 ファイル
	View パス ¥conf¥cmvsystem¥ja¥local.conf	JP1/IM・Central Information Master 連携用の定義ファ イル ⁴
	View パス ¥conf¥launch¥ja¥*.conf	link&launch 定義 ファイル ⁴
	View パス ¥conf¥jcmlog.properties	クライアントライ ブラリが使うログ用 定義ファイル ⁴
	View パス ¥conf¥jrmview¥jrmview.conf	ルールオペレーシ ョン・ビューアー動 作定義ファイル ⁵
	View パス ¥default¥jrmview_reg.conf	共通定義設定ファ イル ⁵

注 1 共通定義情報退避ファイルは、クラスタシステムの論理ホストの定義情報を退避したファイルです。この退避ファイルは、クラスタシステムのセットアップ時に作成します。この退避ファイルには、JP1/IM だけでなく、JP1/Base、JP1/AJS、および 06-02 以降の JP1/Power Monitor の定義情報も退避されます。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「6.1.3(5) 共通定義情報の設定」を参照してください。

注 2 物理ホストにだけ存在するファイルです。

注 3 ユーザーによって追加されたファイルが対象となります。

注 4 JP1/IM・View (JP1/IM・Central Information Master 連携部分) で使用するファイルです。

注 5 JP1/IM - View (JP1/IM - Rule Operation 連携部分) で使用するファイルです。

1.1.2 リカバリー (Windows の場合)

JP1/IM の設定情報のリカバリーについて説明します。

JP1/IM のバックアップ情報をリカバリーする場合は、必ず JP1/Base を先にリカバリーしてください。次の前提条件を確認した上で、バックアップファイルを、元の位置にリカバリーしてください。

前提条件

- JP1/Base がインストール済みであること。
- JP1/IM - Manager がインストール済みであること。
- 論理ホスト環境をリカバリーする場合は、論理ホスト環境の JP1 がセットアップ済みであること。
- JP1/Base と JP1/IM - Manager が停止していること。

1.1.3 バックアップ (UNIX の場合)

JP1/IM の設定情報のバックアップについて説明します。

JP1/IM の設定を変更した場合に、バックアップを取得してください。JP1/IM のバックアップを取得する場合は、必ず JP1/Base のバックアップを同時に取得してください。JP1/Base のユーザーが設定する定義ファイルのバックアップ方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

バックアップの手段には tar や cpio などのコマンドがあります。また、JP1/OmniBack II などのバックアップツールを使用してバックアップを取得できます。任意の方法でバックアップを取得してください。バックアップは、できるだけ JP1/IM のデーモンを停止した状態で取得してください。しかたなく実行中に取得する場合は、次の点に注意が必要です。

- 実行中に定義ファイルが書き換えられるケースがあります。ファイルの書き換え中にバックアップすると、ファイルが壊れた状態でバックアップされます。バックアップ実行直後に、取得したバックアップとバックアップ元のファイルを比較して、内容が一致していることを確認してください。
- バックアップ時には対象ファイルに排他などのロックをしないでください。ロックする場合は、接続しているビューアーをすべてログアウトした状態で対象ファイルを別ファイルにコピーしてください。コピーしたあと、コピーしたファイルとコピー元ファイルを比較して、内容が一致していることを確認してから、コピーしたファイルをバックアップしてください。

JP1/IM のバックアップ対象ファイルを次に示します。なお、論理ホストの場合は表中の「/etc/opt」を「共有ディレクトリ」に置き換えてください。

1. JP1/IM システムのメンテナンス

表 1-2 JP1/IM のバックアップ対象ファイル

製品名		ファイル名	内容
各製品共通		マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.2(5) 共通定義情報のコピー」で作成した退避ファイル	共通定義情報退避ファイル ¹
JP1/IM - Manager	JP1/IM - Central Console	/etc/opt/jplcons/conf/jplco_env.conf	IM 環境定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/jplco_param.conf	IM パラメーター定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/jplco_param_V7.conf	IM パラメーター定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/jplco_service.conf	拡張起動プロセス定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/jplco_system.conf	IM サーバシステム環境設定ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/action/actdef.conf	自動アクション定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/actprofile/actprofile_JP1 ユーザー名	アクションプロファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/actprofile/actprofile2_JP1 ユーザー名	
		/etc/opt/jplcons/conf/console/attribute/*.conf	イベント拡張属性定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/filter/*.conf	フィルター定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/filter/attr_list/common_exclude_filter_attr_list.conf	共通除外条件表示項目定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/mapping/mapping.conf	イベント情報マッピング定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/monitor/*.conf	モニター画面呼び出し定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/object_type/*	オブジェクトタイプ定義ファイル
		/etc/opt/jplcons/conf/console/profile/.system	システムプロファイル
/etc/opt/jplcons/conf/console/profile/defaultUser	JP1/IM - View のユーザープロファイル(デフォルト)		

製品名	ファイル名	内容
	/etc/opt/jplcons/conf/console/ profile/profile_JP1 ユーザー名	JP1/IM - View の ユーザープロファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/console/ profile/systemColor.conf	システムカラー定義 ファイル
	/opt/jplcons/www/console_ja.html 2	WWW ページ版動作 定義ファイル
	/etc/opt/jplcons/default/ console.conf 2	通信環境定義ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/console/ correlation/view_cor.conf	繰り返しイベントの 集約設定ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/console/ correlation/view_cor_JP1 ユーザー名 .conf	繰り返しイベントの 集約設定ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/console/ rmtcmd/cmdbtn.conf	コマンドボタン定義 ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/health/ jcohc.conf	ヘルスチェック定義 ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/hostmap/ user_hostmap.conf	発生元ホストマッピ ング定義ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/action/ actnotice.conf	自動アクション通知 定義ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/ processupdate/processupdate.conf	対処状況イベント定 義ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/guide/ jco_guide.txt	イベントガイド情報 ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/discrim/ 以下 のファイル	インシデント登録用 定義ファイル (JP1/ IM - Incident Master 連携用)
	/etc/opt/jplcons/conf/console/ incident/incident.conf	インシデント手動登 録定義ファイル (JP1/IM - Incident Master 連携用)
	ユーザー任意のディレクトリ / ユーザー任意 のファイル名	イベントガイドメッ セージファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/evgen/ 以下の すべてのファイル	関連イベント発行用 定義ファイル
	ユーザー任意のディレクトリ / ファイル名 .conf	関連イベント発行定 義ファイル
	/etc/opt/jplcons/conf/chsev/ jcochsev.conf	重大度変更定義ファ イル

1. JP1/IM システムのメンテナンス

製品名	ファイル名	内容
	/etc/opt/jp1cons/conf/action/attr_list/attr_list.conf	イベント条件表示項目定義ファイル
JP1/IM - Central Scope	/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide_sjis.txt	ガイド情報ファイル
	/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide_euc.txt	
	/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide_UTF-8.txt	
	/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide.txt	
	/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_hosts	ホスト情報ファイル
	/etc/opt/jp1scope/conf/action_complete_on.conf	対処済み運動設定ファイル
	/etc/opt/jp1scope/conf/action_complete_off.conf	
	ユーザー任意のディレクトリ / ユーザー任意のファイル名	状態変更イベント自動削除設定ファイル
	ユーザー任意のディレクトリ / ユーザー任意のファイル名	監視オブジェクト初期化設定ファイル
	/etc/opt/jp1scope/conf/auto_dbbackup_on.conf	監視オブジェクトDBの上限監視設定ファイル
	/etc/opt/jp1scope/conf/auto_dbbackup_off.conf	
	/etc/opt/jp1scope/conf/evhist_warn_event_on.conf	状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル
	/etc/opt/jp1scope/conf/evhist_warn_event_off.conf	
	ユーザー任意のディレクトリ / ユーザー任意のファイル名	ガイドメッセージファイル
	/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_atc_cm_host.conf	CM ホスト定義ファイル (JP1/IM - Central Information Master 連携用)
ユーザー任意のディレクトリ / ユーザー任意のファイル名	状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイル	

注 1 共通定義情報退避ファイルは、クラスタシステムの論理ホストの定義情報を退避したファイルです。この退避ファイルは、クラスタシステムのセットアップ時に作成します。この退避ファイルには、JP1/IM だけでなく、JP1/Base, JP1/AJS, および 06-02 以降の JP1/Power Monitor の定義情報も退避されます。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.1.3(5) 共通定義情報の設定」を参照してください。

注 2 物理ホストにだけ存在するファイルです。

1.1.4 リカバリー（UNIX の場合）

JP1/IM の設定情報のリカバリーについて説明します。

JP1/IM のバックアップ情報をリカバリーする場合は、必ず JP1/Base を先にリカバリーしてください。次の前提条件を確認した上で、バックアップファイルを、元の位置にリカバリーしてください。

前提条件

- JP1/Base がインストールされ、セットアップコマンドが実行済みであること。
- JP1/IM - Manager がインストールされ、セットアップコマンドが実行済みであること。
- 論理ホスト環境をリカバリーする場合は、論理ホスト環境の JP1 がセットアップ済みであること。
- JP1/Base と JP1/IM - Manager が停止していること。

1.2 データベースの管理

JP1/IM のシステムで使用するデータベースには次のものがあります。

- コマンド実行履歴
- 監視オブジェクト DB
- ホスト情報 DB
- イベント DB
- 応答待ちイベント滞留ファイル
- IM データベース

監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB は、セントラルスコープの機能を使用している場合に使われます。応答待ちイベント滞留ファイルは、応答待ちイベント管理機能を使用している場合に使われます。ここでは、これらのデータベースのバックアップ・リカバリー手順、およびデータベースの再作成手順について説明します。

1.2.1 データベースの再編成

(1) コマンド実行履歴の再編成

コマンド実行履歴は、再編成する必要はありません。

(2) 監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB の再編成

監視オブジェクト DB、およびホスト情報 DB は、再編成する必要はありません。

(3) イベント DB の再編成

イベント DB は、再編成する必要はありません。

(4) 応答待ちイベント滞留ファイルの再編成

応答待ちイベント滞留ファイルは、再編成する必要はありません。

(5) IM データベースの再編成

ここでは、IM データベースの再編成手順について説明します。

IM データベースのうち、IM 構成管理 DB ではデータの追加、削除を繰り返すことによって、IM データベースに断片化された空き領域が発生して、ホストやプロパティの数が上限値に達する前に新規登録ができなくなったり、登録、更新、削除の速度に遅れを感じたりすることがあります。

この現象を回避するために、次の契機で IM データベースを再編成します。

なお、統合監視 DB の場合では断片化された空き領域が発生しないため、再編成は不要です。

- 定期的なバックアップ作業のため、JP1/IM - Manager を停止したとき
- 年に 1 回程度の頻度で再編成実施計画を立てて実施するとき
- メッセージ「KFPH00212-I」または「KFPH00213-W」が統合トレースログおよび Windows イベントログ (syslog) に出力されたとき

ホストやプロパティの数が上限値に達する前に新規登録ができなくなったり、登録、更新、削除の速度に遅れを感じたりする現象が起こったときは、次の手順でデータベースの空き容量を解放してください。なお、統合監視 DB では、データベースの空き容量を解放、または再編成する必要はありません。

1. jimdbreclaim コマンドを使用して、データベースの空き容量を解放する。
2. IM データベースに登録されているホスト情報やプロファイルに不要なものがないかどうかを確認して、不要なものがあれば削除する。

この方法で、現象が解消されない場合は、IM データベースを再編成する必要があります。次に物理ホストでの IM データベースの再編成手順およびクラスタ環境での IM データベースの再編成手順について示します。

(a) 物理ホストでの IM データベースの再編成手順

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。
2. jimdbbrorg コマンドを使用して、対象データベースを再編成する。
jimdbbrorg コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbrorg」(1. コマンド) を参照してください。
3. JP1/IM-Manager サービスを起動する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(b) クラスタ環境での IM データベースの再編成手順

クラスタ環境の場合、実行系ホスト上で実行します。また、共有ディレクトリにアクセスできる状態である必要があります。

1. JP1/IM-Manager サービスとクラスタデータベースサービスを停止する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。
2. jimdbbrorg コマンドを使用して、対象データベースを再編成する。
jimdbbrorg コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management -

1. JP1/IM システムのメンテナンス

Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrogr」(1. コマンド)を参照してください。

3. JP1/IM-Manager サービスと手順 1 で停止したクラスタデータベースサービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー

(1) コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリー手順

コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリー手順について説明します。

(a) バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. 対象ファイルのバックアップを取得する。
対象ファイルについては、「(c) バックアップ対象ファイル」を参照してください。
4. JP1/Base を起動する。
5. JP1/IM - Manager を起動する。

(b) リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. バックアップしたファイルをそれぞれのディレクトリに配置する。
4. JP1/Base を起動する。
5. JP1/IM - Manager を起動する。

! 注意事項

リカバリーするとバックアップしてからリカバリーするまでに実行した自動アクション、および [コマンド実行] 画面から実行したコマンドの履歴が参照できなくなります。

(c) バックアップ対象ファイル

バックアップ対象のファイルを次に示します。

Windows の場合

表 1-3 バックアップ対象ファイル (Windows)

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	Base パス ¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
アクション情報ファイル	Console パス ¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス ¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
WMI 認証情報に関する定義ファイル	Manager パス ¥conf¥agtless¥targets¥wmi.ini
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥conf¥agtless¥targets¥wmi.ini
SSH 認証情報に関する定義ファイル	Manager パス ¥conf¥agtless¥targets¥ssh.ini
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥conf¥agtless¥targets¥ssh.ini

UNIX の場合

表 1-4 バックアップ対象ファイル (UNIX)

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jplbase/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
	共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
アクション情報ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log
WMI 認証情報に関する定義ファイル	/etc/opt/jplimm/conf/agtless/targets/wmi.ini
	共有フォルダ /jplimm/conf/agtless/targets/wmi.ini
SSH 認証情報に関する定義ファイル	/etc/opt/jplimm/conf/agtless/targets/ssh.ini
	共有フォルダ /jplimm/conf/agtless/targets/ssh.ini

コマンド実行履歴ファイルについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

1. JP1/IM システムのメンテナンス

(2) 監視オブジェクト DB のバックアップ・リカバリー手順

監視オブジェクト DB のバックアップ・リカバリー手順について説明します。監視オブジェクト DB は、セントラルスコープの機能を使用している場合に使われます。

(a) バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 対象ファイルのバックアップを取得する。
対象ファイルを次の表に示します。

表 1-5 バックアップ対象ファイル

OS	情報の種類	対象ファイル
Windows	監視オブジェクト DB	Scope パス ¥database¥jcsdb¥ 以下の全ファイル
		共有フォルダ ¥jplscope¥database¥jcsdb¥ 以下の全ファイル
UNIX	監視オブジェクト DB	/var/opt/jplscope/database/jcsdb/ 以下の全ファイル
		共有ディレクトリ /jplscope/database/jcsdb/ 以下の全ファイル

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(b) リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. バックアップしたファイルをディレクトリに配置する。
3. JP1/IM - Manager を起動する。

(3) ホスト情報 DB のバックアップ・リカバリー手順

ホスト情報 DB のバックアップ・リカバリー手順について説明します。ホスト情報 DB は、セントラルスコープの機能を使用している場合に使われます。

(a) バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 対象ファイルのバックアップを取得する。
対象ファイルを次の表に示します。

表 1-6 バックアップ対象ファイル

OS	情報の種類	対象ファイル
Windows	ホスト情報 DB	Scope パス ¥database¥jcshosts¥ 以下の全ファイル

OS	情報の種類	対象ファイル
		共有フォルダ ¥jplscope¥database¥jcshosts¥ 以下の全ファイル
UNIX	ホスト情報 DB	/var/opt/jplscope/database/jcshosts/ 以下の全ファイル
		共有ディレクトリ /jplscope/database/jcshosts/ 以下の全ファイル

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(b) リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. バックアップしたファイルをディレクトリに配置する。
3. JP1/IM - Manager を起動する。

(4) イベント DB のバックアップ・リカバリー手順

イベント DB のバックアップ・リカバリー手順については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のバックアップとリカバリーの説明を参照してください。

なお、JP1/IM - Manager ホストのイベント DB をバックアップ・リカバリーする場合、同時にコマンド実行履歴もバックアップ・リカバリーする必要があります。コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリーの手順については、「(1) コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリー手順」を参照してください。

! 注意事項

イベント DB をバックアップ・リカバリーする場合は、必ずコマンド実行履歴も同時にバックアップ・リカバリーしてください。

イベント DB だけをバックアップ・リカバリーすると、イベント DB 内の JP1 イベントと自動アクションの実行結果の関連づけに矛盾が発生します。

イベント DB のリカバリーの前に実行された自動アクションの結果が、イベント DB のリカバリーのあとに登録された JP1 イベントに対する自動アクションの実行結果として表示されてしまうことがあります。

(5) 応答待ちイベント滞留ファイルのバックアップ・リカバリー手順

応答待ちイベント滞留ファイルのバックアップ・リカバリー手順について説明します。応答待ちイベント滞留ファイルは、応答待ちイベント管理機能を使用している場合に使われます。

(a) バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。

1. JP1/IM システムのメンテナンス

2. 対象ファイルのバックアップを取得する。
対象ファイルを次の表に示します。

表 1-7 バックアップ対象ファイル

OS	対象ファイル
Windows	Console パス ¥log¥response¥resevent.dat
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥response¥resevent.dat
UNIX	/var/opt/jplcons/log/response/resevent.dat
	共有ディレクトリ /jplcons/log/response/resevent.dat

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(b) リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. バックアップしたファイルをディレクトリに配置する。
3. JP1/IM - Manager を起動する。

(6) IM データベースのバックアップ・リカバリー手順

ここでは、物理ホストでの IM データベースのバックアップ・リカバリー手順、およびクラスタ環境での IM データベースのバックアップ・リカバリー手順について説明します。

! 注意事項

IM データベースのバックアップ・リカバリーをする場合、同時にイベント DB のバックアップ・リカバリーをする必要があります。イベント DB のバックアップ・リカバリーの手順については、「(4) イベント DB のバックアップ・リカバリー手順」を参照してください。

(a) 物理ホストでの IM データベースのバックアップ・リカバリー手順

物理ホストでのバックアップ手順を次に示します。

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。
2. jimdbbackup コマンドを使用して、対象データベースのバックアップを取得する。
jimdbbackup コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」(1. コマンド)を参照してください。
3. 対象ファイルのバックアップを取得する。

対象ファイルについては、「(c) バックアップ対象ファイル」を参照してください。

4. JP1/IM-Manager サービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

物理ホストでのリカバリー手順を次に示します。

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. jimdbrecovery コマンドを使用して、対象データベースをリカバリーする。

jimdbrecovery コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」(1. コマンド)を参照してください。

3. バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置する。

IM 構成管理の機能を有効にしている場合、バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置してください。

4. JP1/IM-Manager サービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(b) クラスタ環境での IM データベースのバックアップ・リカバリー手順

クラスタ環境でのバックアップ手順を次に示します。クラスタ環境の場合、実行系ホスト上で実行します。また、共有ディレクトリにアクセスできる状態である必要があります。

1. JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを停止する。

JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. jimdbbackup コマンドを使用して、対象データベースのバックアップを取得する。

jimdbbackup コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」(1. コマンド)を参照してください。

3. 対象ファイルのバックアップを取得する。

対象ファイルについては、「(c) バックアップ対象ファイル」を参照してください。

4. JP1/IM-Manager サービスおよび手順 1 で停止したクラスタデータベースサービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

1. JP1/IM システムのメンテナンス

クラスタ環境でのリカバリー手順を次に示します。クラスタ環境の場合、実行系ホスト上で実行します。また、共有ディレクトリにアクセスできる状態である必要があります。

1. JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを停止する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。
2. jimdbrecovery コマンドを使用して、対象データベースをリカバリーする。
jimdbrecovery コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」(1. コマンド) を参照してください。
3. バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置する。
IM 構成管理の機能を有効にしている場合、バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置してください。
4. JP1/IM-Manager サービスおよび手順 1 で停止したクラスタデータベースサービスを起動する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(c) バックアップ対象ファイル

バックアップ対象のファイルを次に示します。

Windows の場合

表 1-8 バックアップ対象ファイル (Windows)

情報の種類	対象ファイル
システムの管理情報	Manager パス ¥data¥imcf¥ 以下の全ファイル
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥data¥imcf¥ 以下の全ファイル

UNIX の場合

表 1-9 バックアップ対象ファイル (UNIX)

情報の種類	対象ファイル
システムの管理情報	/var/opt/jp1imm/data/imcf/ 以下の全ファイル
	共有ディレクトリ /jp1imm/data/imcf/ 以下の全ファイル

1.2.3 データベースの再作成および設定変更

(1) コマンド実行履歴の再作成手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。

2. JP1/Base を停止する。
3. 次の表に示すコマンド実行履歴ファイル，アクション情報ファイル，アクションホスト名格納ファイルを削除する。

Windows の場合

表 1-10 削除対象ファイル (Windows)

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	Base パス ¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
アクション情報ファイル	Console パス ¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス ¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥acttxt{1 2}.log

UNIX の場合

表 1-11 削除対象ファイル (UNIX)

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jplbase/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
	共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
アクション情報ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log

4. JP1/Base を起動する。
5. JP1/IM - Manager を起動する。

JP1/Base，JP1/IM - Manager を再起動し，JP1/IM - View や自動アクションからコマンド実行することでコマンド実行履歴が再作成されます。

(2) 監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB の再作成手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. ファイルをバックアップする。
Scope パス ¥database¥ フォルダをバックアップしてください。

1. JP1/IM システムのメンテナンス

3. 監視オブジェクト DB を再作成する。

```
jcsdbsetup -f
```

コマンドを実行すると、既存の監視オブジェクト DB を削除したあと、オブジェクト DB が再作成されます。

4. ホスト情報 DB を再作成する。

まず、Scope パス ¥database¥jcshosts¥ フォルダ以下のファイルを削除してから次のコマンドを実行してください。

```
jcshostsimport -r ホスト情報ファイル(jcs_hosts)
```

5. JP1/IM - Manager を起動する。

(3) イベント DB の再作成手順

イベント DB を再作成する対象ホストにインストールされている JP1/Base のバージョンによって、手順が異なります。

(a) マネージャー (JP1/Base 09-00 以降) の場合

統合監視 DB を使用しない場合と統合監視 DB を使用する場合で手順が異なります。

統合監視 DB を使用しない場合

JP1/Base の jevdbinit コマンドを実行してイベント DB を初期化します。イベント DB の削除および再作成は必要ありません。

JP1/Base のイベント DB を初期化する手順については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のイベントサービス環境の設定の章、イベント DB の初期化に関する説明を参照してください。

統合監視 DB を使用する場合

次の手順に従って、イベント DB を初期化します。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base の jevdbinit コマンドを -s オプションを指定しないで実行する。
-s オプションを指定しないと、初期化する前のイベント DB 内通し番号を引き継ぎます。

jevdbinit コマンドの -s オプションを指定してイベント DB 内通し番号を変更した場合は、統合監視 DB を再セットアップする必要があります。最初に、jcodbunsetup コマンドを実行して統合監視 DB をアンセットアップしてください。その後、jcodbsetup コマンドを実行して統合監視 DB をセットアップし直してください。

jevdbinit コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドの章を参照してください。

(b) エージェント (JP1/Base 07-11 以降) の場合

JP1/Base の jevdbinit コマンドを実行してイベント DB を初期化します。イベント

DB の削除および再作成は必要ありません。

JP1/Base のイベント DB を初期化する手順については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のイベントサービス環境の設定の章、イベント DB の初期化に関する説明を参照してください。

(c) エージェント (JP1/Base 07-10 以前) の場合

イベント DB を再作成すると、次の問題が発生します。

- JP1 イベントの転送先のホストで、JP1 イベントの転送受け付け、登録、および取得の処理性能が劣化する。

これは、再作成によって転送元のイベント DB が初期化され、転送先のイベント DB の管理情報と不整合が発生するためです。

問題発生を防ぐため、次の手順に従ってイベント DB を再作成してください。

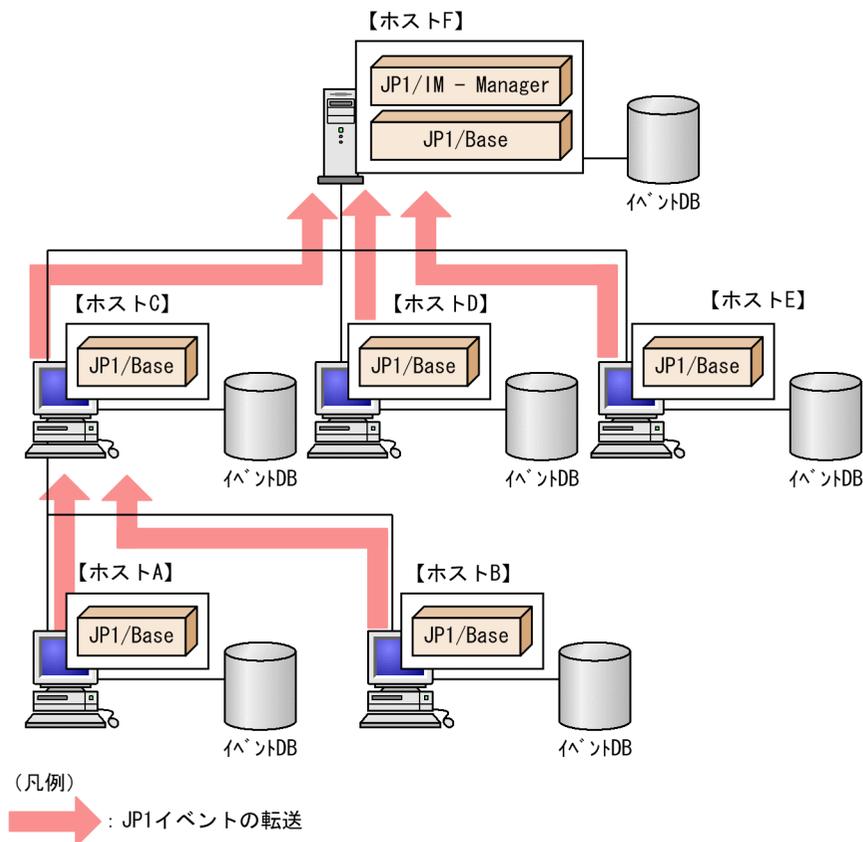
1. JP1/Base を停止する。
2. 手順 1 で停止した JP1/Base の転送設定ファイル (forward) に定義されているすべての転送先ホストの JP1/Base を停止する。
転送先ホストの JP1/Base から、さらにほかのホストへ転送している場合、その転送先も同様に停止します。なお、停止するホストに JP1/IM - Manager をインストールしている場合は、JP1/IM - Manager を事前に停止してください。
転送設定ファイル (forward) については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のイベントサービス環境の設定の章、JP1 イベントの転送設定の説明を参照してください。
3. 手順 1, 2 で停止した JP1/Base のイベント DB を削除する。
イベント DB の内容を参照する必要がある場合、JP1/Base の `jevexport` コマンドで CSV ファイルに出力しておいてください。なお、出力した CSV ファイルを使ってイベント DB を再作成することはできません。
`jevexport` コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドの章を参照してください。
4. 手順 2 で停止した JP1/Base (および JP1/IM - Manager) を起動する。
5. 手順 1 で停止した JP1/Base を起動する。

手順 4, 5 で JP1/Base を起動することで、イベント DB が再作成されます。

例えば、次の図に示すようなシステム構成でイベント DB を再作成するとします。

1. JP1/IM システムのメンテナンス

図 1-1 イベント DB を再作成したいホストと転送先ホストの例



ホスト A のイベント DB を再作成 (削除) する場合, JP1 イベントの転送先ホストであるホスト C およびホスト F のイベント DB を削除する必要があります。

(4) 応答待ちイベント滞留ファイルの再作成手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 応答待ちイベント滞留ファイルを削除する。

表 1-12 削除対象ファイル

OS	対象ファイル
Windows	Console バス ¥log¥response¥resevent.dat
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥response¥resevent.dat
UNIX	/var/opt/jplcons/log/response/resevent.dat
	共有ディレクトリ /jplcons/log/response/resevent.dat

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(5) IM データベースのサイズ拡張手順

ここでは、物理ホストでの IM データベースのサイズ拡張手順、およびクラスタ環境での IM データベースのサイズ拡張手順について説明します。

(a) 物理ホストでの IM データベースのサイズ拡張手順

1. 統合監視 DB を切り離す。

データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を継続（機能は一部縮退）する場合は、統合監視 DB を切り離し、セントラルコンソールが JP1/Base のイベント DB だけを使用するようにします。

次のコマンドを実行したあと、JP1/IM・Manager を再起動してください。

```
jcoimdef -db OFF
```

jcoimdef コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」(1. コマンド)を参照してください。

また、JP1/IM・MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM・MO の JP1/IM・Message Optimizer サービスも停止してください。

2. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

手順 1 でセントラルコンソールが利用するデータベースを JP1/Base のイベント DB に切り替えた場合は JP1/IM-Manager サービスを停止する必要はありません。

3. データベースをバックアップする。

-m EXPAND オプションを指定して、jimdbbackup コマンドを実行します。

jimdbbackup コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」(1. コマンド)を参照してください。

4. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

セットアップしているデータベースだけ、アンセットアップします。

5. セットアップ情報ファイルを編集する。

セットアップ情報ファイルのデータベースサイズ (IMDBSIZE) に指定したサイズを変更します。

6. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。

手順 4 でアンセットアップしたデータベースだけ、セットアップします。

セットアップ時には、バックアップ時より大きなデータベースサイズと、バックアップ時と同じデータベース格納ディレクトリを指定する必要があります。

7. データベースをリカバリーする。

-m EXPAND オプションを指定して jimdbrecovery コマンドを実行します。

jimdbrecovery コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・

1. JP1/IM システムのメンテナンス

Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」(1. コマンド)を参照してください。

8. JP1/IM-Manager サービスを起動する。

手順 1 で統合監視 DB を切り離した場合は、次のコマンドを実行したあと、JP1/IM-Manager を再起動してください。

```
jcoimdef -db ON
```

jcoimdef コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」(1. コマンド)を参照してください。

また、JP1/IM-MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM-MO の JP1/IM-Message Optimizer サービスも起動してください。

(b) クラスタ環境での IM データベースのサイズ拡張手順

1. 統合監視 DB を切り離す。

データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を継続(機能は一部縮退)する場合は、統合監視 DB を切り離し、セントラルコンソールが JP1/Base のイベント DB だけを使用するようにします。

次のコマンドを実行したあと、JP1/IM-Manager を再起動してください。

```
jcoimdef -db OFF -h 論理ホスト名
```

jcoimdef コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」(1. コマンド)を参照してください。

また、JP1/IM-MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM-MO の JP1/IM-Message Optimizer サービスも停止してください。

2. JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを停止する。

手順 1 でセントラルコンソールが利用するデータベースを JP1/Base のイベント DB に切り替えた場合は JP1/IM-Manager サービスを停止する必要はありません。

また、クラスタソフトに登録したクラスタデータベースサービスを停止します。

3. データベースをバックアップする。

-m EXPAND オプションを指定して、jimdbbackup コマンドを実行します。

jimdbbackup コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」(1. コマンド)を参照してください。

4. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

セットアップしているデータベースだけ、アンセットアップします。

5. クラスタセットアップ情報ファイルを編集する。

クラスタセットアップ情報ファイルのデータベースサイズ (IMDBSIZE) に指定したサイズを変更します。

6. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。
手順 4 でアンセットアップしたデータベースだけ、セットアップします。
セットアップ時には、バックアップ時より大きなデータベースサイズと、バックアップ時と同じデータベース格納ディレクトリを指定する必要があります。
7. データベースをリカバリーする。
-m EXPAND オプションを指定して jimdbrecovery コマンドを実行します。
jimdbrecovery コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」(1. コマンド)を参照してください。
8. クラスタデータベースサービスおよび JP1/IM-Manager サービスを起動する。
手順 2 で停止したクラスタデータベースサービスおよび JP1/IM-Manager サービスを開始する。
手順 1 で統合監視 DB を切り離した場合は、次のコマンドを実行したあと、JP1/IM - Manager を再起動してください。

```
jcoimdef -db ON -h 論理ホスト名
```

jcoimdef コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」(1. コマンド)を参照してください。

また、JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(6) IM データベースのポート変更手順

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。
2. データベースをバックアップする。
-m MAINT オプションを指定して jimdbbackup コマンドを実行します。
jimdbbackup コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」(1. コマンド)を参照してください。
3. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。
セットアップしているデータベースだけ、アンセットアップします。
4. セットアップ情報ファイルを編集する。
セットアップ情報ファイルに記載されているポート番号を変更します。

1. JP1/IM システムのメンテナンス

5. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。
手順 3 でアンセットアップしたデータベースだけ、セットアップします。
6. データベースをリカバリーする。
-m MAINT オプションを指定して jimdbrecovery コマンドを実行します。
jimdbrecovery コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」(1. コマンド)を参照してください。
7. JP1/IM - Manager を起動する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(7) ホスト名変更時の IM データベース再構築手順

物理ホストまたは論理ホストのホスト名を変更した場合、IM データベースを再構築する必要があります。再構築の手順を次に示します。ただし、論理ホストのホスト名変更の場合は、クラスタソフトに登録する IM データベースのサービスも本手順で作成されたサービスを再登録する必要があります。

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。
JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。
2. データベースをバックアップする。
-m MAINT オプションを指定して jimdbbackup コマンドを実行します。
jimdbbackup コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」(1. コマンド)を参照してください。
3. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。
セットアップしているデータベースだけ、アンセットアップします。
4. JP1/IM - Manager のホスト名を変更する。
5. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。
手順 4 でアンセットアップしたデータベースだけ、セットアップします。
6. データベースをリカバリーする。
-m MAINT オプションを指定して jimdbrecovery コマンドを実行します。
jimdbrecovery コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」(1. コマンド)を参照してください。
7. JP1/IM - Manager を起動する。
変更対象ホストの JP1/IM - Manager を起動します。論理ホストのセットアップ時は、クラスタセットアップ情報ファイルの論理ホスト名の編集が必要です。

JP1/IM - MO を使用している場合は、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

1.3 ディスク容量の管理

JP1/IM の運用を安定して継続するため、ディスクの空き容量を定期的に確認してください。

(1) データベース容量の管理

JP1/IM が使用するデータベースは、運用を継続しても無効領域が増加しないよう設計されています。必要な容量を確保していれば、運用中にデータベースを確認する必要はありません。

統合監視 DB では、JP1 イベントの容量が格納可能な範囲を超えた場合、JP1 イベントが自動で削除されます。そのため、定期的に JP1 イベントの情報を保存出力し、データの消失を防ぐ必要があります。

次に、保存出力を用いてディスク容量を管理する手順を示します。

1. 保存出力に関する情報を確認する。

```
jcoevtreport -showsv
```

コマンドを実行すると、保存出力に関する情報を表示します。情報を参考に、保存出力する周期、保存出力に必要な空き容量を見積もってください。

表示する項目を次の表に示します。

表 1-13 表示する項目

表示項目	内容
未出力イベントの割合	統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合（統合監視 DB の最大容量との比率）をパーセンテージで表示します。
未出力イベントのサイズ	統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの統合監視 DB 内でのデータサイズを、メガバイト単位で表示します。 表示するサイズは、統合監視 DB 内でのデータサイズです。CSV 出力には、表示された未出力イベントのサイズ× 1.2 の容量が必要となります。
削除警告通知設定	削除警告通知位置の設定値を表示します。 削除警告通知が OFF の場合は「-」（半角ハイフン）を表示します。

2. 未出力イベントを保存出力する。

```
jcoevtreport -save
```

コマンドを実行すると、保存出力していない JP1 イベントをすべて CSV 形式で出力します。

jcoevtreport コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoevtreport」(1. コマンド)

を参照してください。

JP1 イベントが多く発生してしまい、定期的な保存出力では間に合わなかった場合は、削除警告通知イベントを発行できます。削除警告通知イベントは、保存出力していない JP1 イベントの割合が削除警告通知位置を超えたことを通知します。

次に、削除警告通知の設定手順を示します。

1. 削除警告通知イベントの発行を有効にする。

```
jcoimdef -dbntc ON
```

コマンドを実行すると、統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合（統合監視 DB の最大容量との比率）が削除警告通知位置を超えたとき、削除警告通知イベントを発行する機能を有効にします。削除警告通知イベントのデフォルトは OFF です。

2. 削除警告通知位置を指定する。

```
jcoimdef -dbntcpos 70
```

コマンドを実行すると、削除警告通知イベントを発行する JP1 イベントの割合を、70% に指定します。削除警告通知位置は、20 ~ 80 の範囲で指定できます。デフォルトは、80 です。

jcoimdef コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」(1. コマンド)を参照してください。

(2) ログファイル容量の管理

ディスク容量を圧迫する原因の一つとして、ログファイル容量の増加があります。

JP1/IM, JP1/Base の場合、ログファイルの容量を事前に見積もっておけば、ログファイル容量の増加を考慮する必要はありません。これは JP1/IM, JP1/Base が出力するログファイルは、複数のログファイルを切り替えて使用するなどの方式を採用しているためです。

OS や同ホストのほかの製品については、それぞれの仕様を確認してログファイルの容量が増加しないよう注意してください。

(3) ダンプファイルの管理

JP1/IM, JP1/Base やユーザープログラムなどで問題が発生して異常終了した場合は、ワトソンログ (Windows の場合) や core ダンプ (UNIX の場合) などのダンプファイルが出力される場合があります。

これらのダンプファイルは容量が大きいことが多いため、トラブルが発生した場合は、必要なものを資料として採取してから、削除するようにしてください。

トラブル発生時の資料採取については、「10. トラブルシューティング」を参照してください。

1.4 履歴レポートの活用

JP1/IM は、運用中に発生した JP1 イベントの情報、JP1/IM の処理情報などの履歴を管理しています。履歴を活用して、JP1/IM のメンテナンスの検討材料としてください。

1.4.1 イベントの CSV 出力

JP1 イベントを CSV 出力する機能を、イベントレポート出力と呼びます。JP1 イベントを CSV 出力する方法には、次の三つがあります。

イベント情報のスナップショットを CSV 出力する

スナップショットとは、特定のタイミングで情報を抽出することを意味します。JP1/IM・View に表示されるイベント情報のスナップショットは、運用に合わせてフィルタリングした JP1 イベントを出力できます。例えば、どのホストや製品で問題が発生しているのか、どのような対処をしているかなど、運用しているシステムの障害レポートとして利用できます。

[イベントコンソール] 画面に表示されているイベント一覧を CSV 出力する方法については、「5.9.1 イベント一覧を CSV 出力する」を参照してください。

イベント DB の内容を CSV 出力する

JP1/Base が管理するイベント DB の内容を、`jevexport` コマンドを使用して CSV 出力します。マネージャーへ転送する必要のない JP1 イベント、例えば、JP1/AJS のジョブ正常終了などの JP1 イベントを運用の履歴や統計情報として利用したい場合は、エージェントのイベント DB の内容を `jevexport` コマンドを使用して CSV 出力できます。

`jevexport` コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドに関する章を参照してください。

統合監視 DB の内容を CSV 出力する

統合監視 DB に登録されている JP1 イベントを、`jcoevtreport` コマンドを使用して CSV 出力します。統合監視 DB に登録されている JP1 イベント、例えば、先週発生した JP1 イベントの一覧を出力する場合、指定したイベントだけを出力する場合などに利用できます。

`jcoevtreport` コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcoevtreport`」(1. コマンド)を参照してください。

1.4.2 関連イベントの発行履歴

関連イベント発行履歴ファイルには、関連イベント発行サービスの動作状況や関連イベントの発行処理の内容が出力されます。

関連イベント発行履歴ファイルを参照することで、定義した関連イベント発行条件どお

りに関連イベントが発行されているかどうかを確認できます。例えば、特定の発行条件に対して、不成立の履歴が多く出力されている場合、発行処理の対象としている JP1 イベントの組み合わせが適切でない、またはタイムアウト時間が短いおそれがあります。

定期的に行う発行条件を見直す際には、参考として関連イベント発行履歴ファイルを参照してください。

1.5 設定情報および DB の移行

この節では、JP1/IM の設定情報および DB をホスト名または IP アドレスが異なる別のマシン上の JP1/IM に移行する場合に必要な作業について説明します。

(1) JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console)

別ホストへ移行する場合、移行できる定義は「自動アクション定義ファイル」だけです。

その他の定義については、移行先ホストで再定義する必要があります。

(2) JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope)

`jcsdbexport` コマンド、`jcsdbimport` コマンドによって、監視オブジェクト DB の情報を移行できます。

その他の定義については、移行先ホストで再定義する必要があります。

なお、監視オブジェクト DB の情報を移行する際は、監視オブジェクトの状態変更条件および共通条件に設定している自ホストのホスト名および IP アドレスが合っているかを見直してください。

(3) JP1/IM - Manager (IM 構成管理)

`jcfexport` コマンド、`jcfimport` コマンドによって、IM 構成管理の管理情報を移行できます。

インポートした IM 構成管理の管理情報をシステムに反映するには、「8.7.3 インポートした IM 構成管理の管理情報をシステムに反映する」を参照してください。

なお、インポートした設定ファイルのプロファイル情報に、移行元のマネージャーホスト名を記載している場合は、プロファイルの設定を見直してください。

(4) JP1/IM - View

移行先ホストで再定義する必要があります。

(5) IM データベース

IM データベースの移行については、「1.2.3(7) ホスト名変更時の IM データベース再構築手順」を参照してください。

なお、移行先のホストで、IM データベースの格納先は移行元と同じディレクトリ構成にする必要があります。

2

JP1/IM システムの構成変更

この章では、JP1/IM システムの構成変更の際に必要な作業について説明します。

2.1 JP1/IM の設定情報の変更

2.2 JP1/IM が動作するホストの設定変更

2.3 システムの階層構成での監視構成の変更

2.1 JP1/IM の設定情報の変更

JP1/IM で監視，操作するホストを増加させる，JP1/IM の動作を変更して JP1/IM の業務（システムの運用監視）の効率化を図るなど，JP1/IM の運用環境を変更する場合は，まず，どのような目的で変更するのかを明確にする必要があります。また，運用環境の変更に伴い，必要な設定作業が何かを洗い出す必要があります。

変更の目的と設定作業については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」およびマニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

2.2 JP1/IM が動作するホストの設定変更

この節では、JP1/IM が動作しているマシンのホスト名、IP アドレス、およびシステムの日時を変更した場合の影響と、変更時に必要となる作業について説明します。また、リモート監視構成の場合に、マネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更した場合に必要な作業について説明します。

ネットワーク構成の変更などに対応したい場合、ここで説明する内容を基に作業してください。

2.2.1 ホスト名を変更した場合の影響および必要作業

ホスト名を変更した場合の影響、およびその変更によって必要になる作業について説明します。

(1) ホスト名の変更による影響

(a) フィルター条件で設定したホスト名

[重要イベント定義] 画面、[表示フィルター設定] 画面、または [ユーザーフィルター詳細設定] 画面で定義してある登録ホスト名が変更対象であった場合は、それぞれの設定画面で登録ホスト名の設定を変更する必要があります。

(b) [アクション設定] 画面または自動アクション定義ファイルで設定したホスト名

[アクション設定] 画面または自動アクション定義ファイルで定義してある実行ホスト名が変更対象であった場合は、[アクション設定] 画面または自動アクション定義ファイルで実行ホスト名の設定を変更する必要があります。

(c) 監視オブジェクトの状態変更条件で設定したホスト名

[状態変更条件設定] 画面または [共通条件詳細設定] 画面で設定したホスト名が変更対象であった場合は、それぞれの設定画面でホスト名の設定を変更する必要があります。

(d) 関連イベント発行定義ファイルで設定したホスト名

関連イベント発行定義ファイルで、関連イベントの発行条件として定義してあるホスト名が変更対象であった場合は、関連イベント発行定義ファイルでホスト名の設定を変更する必要があります。

(e) 重大度変更定義ファイルで設定したホスト名

重大度変更定義ファイルで、重大度変更条件として定義してあるホスト名が変更対象であった場合は、重大度変更定義ファイルでホスト名の設定を変更する必要があります。

(f) JP1/IM - Incident Master のシステム環境設定で指定しているホスト名

JP1/IM - Incident Master と連携しているシステムの場合、JP1/IM - Incident Master のシステム環境設定で指定している IMCC ホスト名 (属性名: `IDM_IMCC_HOSTNAME`) の

2. JP1/IM システムの構成変更

変更をするため、システム環境設定ファイル (`global.asa`) の編集が必要です。変更方法の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Incident Master」を参照してください。

(2) ホスト名の変更によって必要となる作業

(a) JP1/IM - Manager および JP1/IM - View で必要な作業

システム構成の再配布が必要になります。手順を次に示します。

1. JP1/IM - Manager に接続しているすべての JP1/IM - View を終了する。
2. JP1/IM - Manager を終了する。
3. `jbsrt_distrib` コマンドを実行し、システム構成の再配布をする。
4. JP1/IM - Manager を起動する。
5. JP1/IM - Manager に接続しているすべての JP1/IM - View を起動する。

システム構成の配布方法の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.10 システムの階層構成の設定 (IM 構成管理を使用しない場合)」(Windows の場合) または「2.9 システムの階層構成の設定 (IM 構成管理を使用しない場合)」(UNIX の場合) を参照してください。

(b) JP1/Base で必要な作業

JP1/Base をいったん終了してから、再起動する必要があります。

(c) IM データベースで必要な作業

「1.2.3(7) ホスト名変更時の IM データベース再構築手順」を参照してください。

(3) クラスタシステムを運用している場合

クラスタシステムを運用している環境で論理ホスト名を変更した場合は、変更前の論理ホスト名を削除してください。そのあと、変更後の論理ホスト名に対して、クラスタ運用ができるよう再セットアップしてください。

Windows の場合

論理ホストの削除方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.5 IM データベースと論理ホストの削除」を参照してください。セットアップ方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.2 論理ホストのインストール・セットアップ」を参照してください。

UNIX の場合

論理ホストの削除方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.5 IM データベースと論理ホストの削除」を参照し

てください。セットアップ方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.2 論理ホストのインストール・セットアップ」を参照してください。

! 注意事項

旧ホスト名のときに発行された JP1 イベントについては、ホスト名が変更されたあとは、次のように処理されます。

- JP1/IM - View の「登録ホスト名」には、旧ホスト名が表示されます。
- イベント検索をする場合は、旧ホスト名でマッチされます。
- [イベント詳細] 画面を表示したときに、「指定した JP1 イベントが見つからない」などのエラーが発生することがあります。
- 旧ホスト名のときに発行された JP1 イベントからは、JP1/AJS - View のモニター表示はできません。
- [アクション結果] 画面, [アクション結果詳細] 画面, [アクション結果一覧] 画面の「ホスト名」には、旧ホスト名が表示されます。

2.2.2 IP アドレスを変更した場合の影響および必要作業

IP アドレスを変更した場合の影響、およびその変更によって必要となる作業について説明します。

(1) IP アドレスの変更による影響

[状態変更条件設定] 画面または [共通条件詳細設定] 画面で設定した IP アドレスが変更対象であった場合は、それぞれの設定画面で IP アドレスの設定を変更する必要があります。

(2) IP アドレスの変更によって必要となる作業

(a) JP1/IM - Manager および JP1/IM - View で必要な作業

JP1/IM - Manager および JP1/IM - View の再起動が必要になります。手順を次に示します。

1. JP1/IM - Manager に接続しているすべての JP1/IM - View を終了する。
2. JP1/IM - Manager を終了する。
3. JP1/IM - Manager を起動する。
4. JP1/IM - View を起動する。

(b) JP1/Base で必要な作業

JP1/Base をいったん終了してから、再起動する必要があります。

2. JP1/IM システムの構成変更

(c) IM データベースで必要な作業

IM データベースをいったん終了してから、再起動する必要があります。

2.2.3 システムの日時変更時に必要な作業

JP1/IM の運用中にシステムの日時を変更する場合の注意事項および手順について説明します。

サーバのシステム時刻を、NTP (Network Time Protocol) サーバなどを利用した時刻が過去に返ることがない方式で合わせる場合には、次の手順に従わずに変更できません。その場合、JP1/Base を停止する必要はありません。

(1) システムの日時を過去に戻す場合

システムの日時を変更する際、過去の日時に変更することは通常避けてください。

システム時刻の進みや遅れを補正する場合でも、システム時刻を過去に戻すと自動アクションの実行結果の表示順序や監視ツリーの状態更新日時などの表示が不正になることがあります。このような現象は、システム時刻を過去に戻したことで、JP1/IM - Manager, JP1/Base の管理データに不整合が生じたときに発生します。JP1/IM - View には影響ありません。

また、システム時刻を過去に戻すと、到着時刻を指定してイベント検索したときに、正しくイベント検索ができないことがあります。

テストなどでシステムの時刻を意図的に未来の日時へ変更したような場合に、システム日時を元に戻すときは、次に示す手順で戻してください。

(a) マネージャーのシステム日時を元に戻す手順

1. JP1/IM - Manager を終了する。
2. IM データベースを使用している場合は、IM データベースを終了する。
3. JP1/Base を終了する。
4. システムの時刻を戻す。
5. システムの時刻が時刻を戻す前の時刻に達したら JP1/Base, および JP1/IM - Manager を起動する。

例えば、手順 4 で時刻を「02:00」から「01:00」に戻した場合、システムの時刻が「02:00」になってから、JP1/Base および JP1/IM - Manager を起動します。

なお、IM データベースを使用している場合は、JP1/Base, IM データベース, JP1/IM - Manager の順で起動してください。

また、次の方法でも日時を元に戻せます。ただし、この方法では、アクション情報ファイルやアクションホスト名格納ファイルなどの手順 5 に示す情報、および IM データベースのイベント情報やホスト情報が削除されますので注意してください。

1. JP1/IM - Manager を終了する。
2. JP1/Base を終了する。
3. IM データベースを使用している場合は、IM データベースをアンセットアップする。
Windows の場合は、「JP1/IM-Manager DB Server」サービスを起動しておく必要があります。
統合監視 DB および IM 構成管理 DB をセットアップしている場合には、両方のアンセットアップが必要です。
4. システムの時刻を戻す。
5. アクション情報ファイル、アクションホスト名格納ファイル、コマンド実行履歴ファイル、イベント DB を削除する。
削除ファイルの格納場所は次の表のとおりです。

Windows の場合

表 2-1 削除対象ファイル (Windows)

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	Console パス ¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス ¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
コマンド実行履歴ファイル	Base パス ¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
イベント DB	Base パス ¥sys¥event¥servers¥default¥ 以下の IMEvent*. * ファイル
	共有フォルダ ¥jplbase¥event¥ 以下の IMEvent*. * ファイル

注 イベントサーバインデックス (index) ファイルで別パスを指定した場合は、指定したパス以下のファイルが対象となります。

UNIX の場合

表 2-2 削除対象ファイル (UNIX)

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log

2. JP1/IM システムの構成変更

ファイル名	格納場所
コマンド実行履歴 ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
	共有ディレクトリ /jp1base/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
イベント DB	/var/opt/jp1base/sys/event/servers/default/ 以下の IMEvent*.* ファイル
	共有ディレクトリ /jp1base/event/ 以下の IMEvent*.* ファイル

注 イベントサービインデックス (index) ファイルで別パスを指定した場合は、指定したパス以下のファイルが対象となります。

6. IM データベースを使用している場合は、IM データベースをセットアップする。
7. JP1/Base を起動する。
8. JP1/IM - Manager を起動する。

以上で、マネージャーのシステム日時を元に戻す作業は完了です。なお、セントラルスコープの機能を使用する場合は、次の手順を続けて作業してください。

1. JP1/IM - View で JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) にログインする。
2. [監視ツリー] 画面で最上位の監視グループを選択し、状態を「初期状態」にする。
監視ノードをすべて「初期状態」に戻すことで、セントラルスコープの管理するデータの不整合を解消します。

(b) エージェントのシステム時刻を元に戻す手順

エージェントのシステム時刻を元に戻す場合は、該当ホストの JP1/Base のイベント DB だけでなく、イベント転送先ホストの JP1/Base の時刻も元に戻す必要があります。手順などの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の JP1/Base 運用中の設定変更の章、システムの日時変更時に必要な作業の説明を参照してください。

(2) システムの時刻が遅れているため、時刻を進める場合

システムの時刻を進める場合には、過去に戻す場合と異なり、JP1/IM を停止したり、ファイルを削除したりする必要はありません。

ただし、IM データベースを使用している場合は、IM データベースの起動または停止処理中に時刻を変更しないでください。

2.2.4 リモート監視構成でマネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更したときに必要な作業

リモートの監視対象ホストを管理するマネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更した場合には、[リモート監視設定] 画面または [システム共通設定]

画面の設定を見直す必要があります。

リモートの監視対象ホストのユーザー名およびドメイン名を変更した場合も、[リモート監視設定] 画面または [システム共通設定] 画面の設定を見直してください。

参考

リモートの監視対象ホストを登録・変更する場合、OS 通信設定の情報をシステム共通設定として保存し、管理できます。この場合、[リモート監視設定] 画面ではなく、[システム共通設定] 画面で設定してください。

[リモート監視設定] 画面または [システム共通設定] 画面での設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.4 ホスト情報を変更する」を参照してください。

[リモート監視設定] 画面または [システム共通設定] 画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」を参照してください。

- 「4.7 [リモート監視設定] 画面」
- 「4.20 [システム共通設定] 画面」

2.3 システムの階層構成での監視構成の変更

この節では、JP1/IM で監視するシステムの階層構成をリモート監視構成からエージェント構成に監視構成を変更する場合の構成の違い、および注意事項について説明します。

2.3.1 エージェント構成とリモート監視構成の違い

エージェント構成のログファイルトラップおよびイベントログトラップと、リモート監視構成のログファイルトラップ（リモート監視ログファイルトラップ）およびイベントログトラップ（リモート監視イベントログトラップ）には、次の違いがあります。

表 2-3 エージェント構成とリモート監視構成の違い

機能	オプションまたはパラメーター	エージェント構成			リモート監視構成		
		最小値	最大値	省略した場合	最小値	最大値	省略した場合
ログファイルトラップ起動オプション	ファイル監視間隔（-t オプション）	1	86,400	10	60	86,400	300
	先頭からの読み込み指定（-h オプション）	指定できる			指定できない		
	表示コマンド名（UNIX 限定）（-n オプション）						
	登録先イベントサーバ名（-s オプション）						
	正規表現のタイプ（-R オプション）	指定できない（共通定義情報で指定する）			指定できる		
	ログファイル名	1	<ul style="list-style-type: none"> Windows の場合 32 UNIX の場合 100 	-	1	32	-
ログファイルトラップ動作定義ファイル	open-retry-interval	1	600	1	3	600	3
	hold-count	0	1,000	100	0	100	100

機能	オプションまたはパラメーター	エージェント構成			リモート監視構成		
		最小値	最大値	省略した場合	最小値	最大値	省略した場合
	FILETYPE	SEQ SEQ2 WRAP1 WRAP2 HTRACE			SEQ SEQ2 WRAP2		
	RECTYPE	VAR { ' ¥n' '1 行の終了文字' '1 行の終了記号' } FIX レコード長			VAR ' ¥n' で固定する		
	HEADSIZE	指定できる			指定できない		
イベントログトラップ起動オプション	正規表現のタイプ (-R オプション)	指定できない (共通定義情報で指定する)			指定できる		
イベントログトラップ動作定義ファイル	server	指定できる			物理ホストの場合は物理に、論理ホストの場合は論理に接続する		
	trap-interval	1	180	10	60	86,400	300
	jplevent-send	指定できる			指定できない		

(凡例)

- : 省略できない

2.3.2 リモート監視構成からエージェント構成に監視構成を変更する場合の注意事項

リモート監視構成のログファイルトラップ (リモート監視ログファイルトラップ) およびイベントログトラップ (リモート監視イベントログトラップ) を、エージェント構成のログファイルトラップおよびイベントログトラップで監視するように構成を変更する場合の注意事項について説明します。

(1) ログファイルトラップ

ログファイルトラップの監視構成を変更する場合は、次の点を注意してください。

- 正規表現のタイプ (-R オプション) を指定している場合、指定内容に合わせた共通定義情報を設定する
 - -R basic を指定しているとき
基本正規表現を有効にする
 - -R extended を指定しているとき

2. JP1/IM システムの構成変更

拡張正規表現を有効にする

- 正規表現のタイプ (-R オプション) を指定していない場合、共通定義情報で拡張正規表現を有効に設定する
- ファイル監視間隔 (-t オプション) を指定していない場合、監視間隔が短くなる
- 論理ホストのリモート監視を移行する場合、登録先イベントサーバ名 (-s オプション) を指定する

(2) イベントログトラップ

イベントログトラップの監視構成を変更する場合は、次の点を注意してください。

- 正規表現のタイプ (-R オプション) を指定している場合、指定内容に合わせた共通定義情報を設定する
 - -R basic を指定しているとき
基本正規表現を有効にする
 - -R extended を指定しているとき
拡張正規表現を有効にする
- 正規表現のタイプ (-R オプション) を指定していない場合、共通定義情報で拡張正規表現を有効に設定する
- 論理ホストのリモート監視を移行する場合、server を指定する
- trap-interval に 181 以上を指定している場合、180 以下に変更する
- trap-interval を指定していない場合、監視間隔が短くなる
- jplevent-send に 1 (通知設定) を定義する

3

JP1/IM - Managerの起動と終了

この章では、JP1/IM - Managerの起動および終了の手順について説明します。

3.1 JP1/IM - Managerを起動する

3.2 JP1/IM - Managerを終了する

3.3 起動と終了に関する注意事項

3.1 JP1/IM - Manager を起動する

ここでは、JP1/IM - Manager の起動手順を説明します。

JP1/IM - Manager を起動する場合は、先に JP1/Base のイベントサービスを起動してください。IM データベースを使用するときは、JP1/IM - Manager の起動時に IM データベースを起動する必要があります。

また、JP1/Base のイベントサービスを再起動した場合は、必ず JP1/IM - Manager を再起動してください。再起動しなかった場合は、イベントが表示されないなどの現象が発生します。

起動方法は、OS によって異なります。

3.1.1 Windows の場合

Windows の場合、起動方法は IM データベースを使用するかどうかによって異なります。

IM データベースを使用する場合の起動方法を次に示します。

1. IM データベースを起動する。
JP1/IM-Manager DB Server サービスを起動します。
2. JP1/IM - Manager を起動する。
JP1/IM-Manager サービスを起動します。

IM データベースを使用しない場合の起動方法を次に示します。

1. JP1/IM - Manager を起動する。
JP1/IM-Manager サービスを起動します。

IM データベースおよび JP1/IM - Manager を起動するには、JP1/Base の起動管理機能を使用する方法と、起動管理機能を使わない方法があります。

起動管理機能は、あらかじめ設定した順序に従って、サービスを起動する機能です。起動管理機能が設定してあると、Windows の起動時に、まず、JP1/Base Control Service が起動し、そのあと JP1/Base、JP1/IM - Manager などの各サービスを順に起動します。

なお、起動管理機能を使用してサービスを起動するには、Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、「サービス」ダイアログボックスで JP1/IM-Manager DB Server サービスおよび JP1/IM-Manager サービスの起動方法を「手動」にしておく必要があります。起動管理機能の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスの起動順序および終了順序の設定 (Windows 限定) の章を参照してください。

IM データベースの起動

IM データベースは、デフォルトでは、JP1/Base の起動管理機能で起動しないように設定されています。

起動管理機能を使わないで起動する場合は、[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] から、JP1/IM-Manager DB Server サービスを起動してください。

起動管理機能を使って起動する場合は、JP1/Base の起動順序定義ファイルで、次の行から「#」を削除してください。また、StopCommand の <JP1/IM - Manager Path> の部分を Manager パスに置き換えてください。

```
#[Jp1IM-Manager DB]
#Name=JP1/IM-Manager DB Server
#ServiceName= HiRDBEmbeddedEdition_JM0
#StopCommand=Managerパス¥bin¥imdb¥jimdbstop.exe
```

起動管理機能の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスの起動順序および終了順序の設定（Windows 限定）の章を参照してください。

JP1/IM - Manager の起動

JP1/IM - Manager は、デフォルトでは、JP1/Base の起動管理機能で起動するように設定されています。

起動管理機能を使わないで起動する場合は、[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] から、JP1/IM-Manager DB Server サービスおよび JP1/IM-Manager サービスを起動してください。

3.1.2 UNIX の場合

UNIX の場合は、OS の機能によって JP1/IM - Manager を起動します（自動起動スクリプトが設定されている場合）。

IM データベースを使用しているときは、システム起動時に自動起動スクリプトが実行されて、JP1/Base、JP1/IM - Manager、IM データベースが順に起動します。なお、自動起動スクリプトの設定の有効・無効に関係なく、システム起動時に pdprcd プロセスが起動されます。

IM データベースを使用していないときは、システムを起動すると、自動起動スクリプトが実行されて、JP1/Base、JP1/IM - Manager が順に起動します。

自動起動スクリプトの設定については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.18.3 自動起動および自動終了の設定」を参照してください。また、自動起動スクリプトの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_start (UNIX 限定)」（1. コマンド）を参照してください。

自動起動スクリプトを設定しないで JP1/IM - Manager を起動する場合は、/etc/opt/jp1cons/jco_start.model スクリプト、またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行して起動してください。

3. JP1/IM - Manager の起動と終了

なお、JP1/IM - Manager を起動する前に、JP1/Base のイベントサービスを必ず起動してください。JP1/Base のイベントサービスが起動していないと JP1/IM - Manager を起動できません。

3.1.3 クラスタシステムで運用する場合

プラットフォーム（OS およびクラスタソフトの種類）にかかわらず、クラスタシステムで論理ホストの JP1/IM - Manager を運用する場合は、クラスタソフトの制御によって JP1/IM - Manager を起動します。

クラスタシステムでは、実行系サーバでアプリケーションを実行し、システムダウンなどの障害発生時に待機系サーバへフェールオーバーするために、アプリケーションをクラスタソフトに登録して起動停止を制御しています。JP1/IM - Manager をクラスタ運用する場合も、クラスタソフトが JP1/IM - Manager を制御するように登録して運用します。

なお、クラスタ運用している JP1/IM - Manager は、クラスタソフトの操作によって起動・停止をしてください。コマンドを実行するなど手動で起動・停止した場合は、クラスタソフトの管理する JP1/IM - Manager の動作状態と実際の動作状態が異なってしまい、障害と判定される場合があります。

3.2 JP1/IM - Manager を終了する

ここでは、JP1/IM - Manager の終了手順を説明します。

JP1/IM - Manager は、JP1/Base より前に終了してください。IM データベースを使用するときは、JP1/IM - Manager の終了時に、IM データベースを終了する必要があります。

終了方法は、OS によって異なります。

3.2.1 Windows の場合

JP1/Power Monitor をインストールしている場合は、JP1/Base の起動管理機能を使用してサービスを終了できます。起動管理機能を使用した場合は、JP1/Power Monitor を使って電源をオフにするときに、自動的に JP1/IM - Manager、IM データベース、JP1/Base が順に終了します。起動管理機能の設定については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスの起動順序および終了順序の設定（Windows 限定）の章を参照してください。

起動管理機能を使わないで終了させる場合は、[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] から、JP1/IM-Manager サービスを終了してください。

3.2.2 UNIX の場合

IM データベースを使用している場合、自動終了スクリプトが設定されているときは、システムを終了すると、JP1/IM - Manager、IM データベース、JP1/Base が続けて終了します。なお、pdprcd プロセスは、JP1/IM - Manager、および IM データベースが終了しても起動したままとなりますが、停止する必要はありません。

IM データベースを使用していない場合、自動終了スクリプトが設定されているときは、システムを終了すると、JP1/IM - Manager、JP1/Base が続けて終了します。

自動終了スクリプトの設定については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.18.3 自動起動および自動終了の設定」を参照してください。また、自動終了スクリプトの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_stop (UNIX 限定)」(1. コマンド)を参照してください。

自動終了スクリプトを設定しないで JP1/IM - Manager を終了させる場合は、`/etc/opt/jplcons/jco_stop.model` スクリプト、またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行して終了してください。

3.2.3 クラスタシステムで運用する場合

プラットフォーム（OS およびクラスタソフトの種類）にかかわらず、クラスタシステムで論理ホストの JP1/IM - Manager を運用する場合は、クラスタソフトの制御によって JP1/IM - Manager を停止します。

クラスタシステムでは、実行系サーバでアプリケーションを実行し、システムダウンなどの障害発生時に待機系サーバへフェールオーバーするために、アプリケーションをクラスタソフトに登録して起動停止を制御しています。JP1/IM - Manager をクラスタ運用する場合も、クラスタソフトが JP1/IM - Manager を制御するように登録して運用します。

なお、クラスタ運用している JP1/IM - Manager は、クラスタソフトの操作によって起動・停止をしてください。コマンドを実行するなど手動で起動・停止した場合は、クラスタソフトの管理する JP1/IM - Manager の動作状態と実際の動作状態が異なってしまう、障害と判定される場合があります。

3.3 起動と終了に関する注意事項

JP1/Base のイベントサービスを再起動した場合は、必ず JP1/IM - Manager を再起動してください。また、接続していた JP1/IM - View も再起動してください。再起動を行わない場合、イベントが表示されなくなるなどの現象が発生します。

論理ホスト対応の JP1/IM - Manager 全体のサービスを停止しても、プロセスが停止しない場合に、強制的にプロセスを停止したいときには、`jco_killall.cluster` コマンドを実行してください。このコマンドを使った停止は、正規の方法で JP1/IM - Manager のサービスを停止してもプロセスが停止しない場合にだけ使用してください。

JP1/IM - Manager の起動時にイベントを大量¹に取得する場合は、イベントの取得量に比例して起動時間²が長くなります。そのため、JP1/IM-Manager サービス (Windows の場合) または `jco_start` コマンド (UNIX の場合) がタイムアウト³し、エラー値を返してくることがあります。その場合は、JP1/IM - Manager が起動していないように見えますが、しばらくすると起動が完了します。

注 1

起動時のイベント取得フィルターの条件やイベント DB にたまっているイベントの量によって変わります。

注 2

マシン性能によって変わります。

注 3

JP1/IM-Manager サービス (Windows の場合) または `jco_start` コマンド (UNIX の場合) のタイムアウトは 2 分です。

IM データベースの起動が失敗した場合、IM データベースの状態が再起動中断状態であり、不安定な状態になることがあります (IM データベースの起動が失敗したあと、`jimdbstatus` コマンドを実行して、戻り値が 8 のとき)。

IM データベースの状態が再起動中断状態であり、不安定な状態になる要因は次のとおりです。

- ディスク容量不足 (IM データベースの容量不足ではない)
- メモリー容量不足

IM データベースの状態が再起動中断状態であり、不安定な状態の場合、サービスの停止、またはコマンドの実行による IM データベースの通常停止はできません。この状態を回避するためには、`-f` オプションを指定して `jimdbstop` コマンドを実行し、IM データベースを強制停止する必要があります。

IM データベースを使用している場合、JP1/Base、IM データベースサービス、JP1/IM - Manager の順に起動してください。

3. JP1/IM - Manager の起動と終了

IM データベースを使用している場合、JP1/IM - Manager、IM データベースサービス、JP1/Base の順に終了してください。

JP1/IM - MO を使用している場合は、JP1/IM - Manager の終了の前に、接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止してください。

4

JP1/IM - Manager へのログインとログアウト

JP1/IM - View は、JP1/IM - Manager へログインして使用します。この章では、JP1/IM - Manager へのログイン・ログアウトの手順について説明します。

なお、JP1/IM - View から JP1/IM - Central Information Master へのログイン・ログアウトについては説明していません。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

4.1 JP1/IM - Manager にログインする

4.2 JP1/IM - Manager からログアウトする

4.1 JP1/IM - Manager にログインする

JP1/IM - View および IM 構成管理・ビューアーを使用するには、ビューアーから JP1/IM - Manager へのログインが必要です。JP1/IM - Manager にログインする方法には、GUI でログインする方法と、jcoview コマンドまたは jcfview コマンドを使用してログインする方法があります。

なお、jcoview コマンドまたは jcfview コマンドのショートカットを Windows のスタートアップに登録すれば、Windows へのログオンと同時に JP1/IM - View および IM 構成管理・ビューアーを起動できます。また、jcoview コマンドまたは jcfview コマンドのショートカットを Windows の [スタート] ボタンの横に表示される「クイック起動バー (Quick Launch bar)」に登録したり、ホストまたはユーザーごとに jcoview コマンドまたは jcfview コマンドのショートカットを作成したりできます。

4.1.1 JP1/IM - Manager に GUI でログインする

(1) JP1/IM - View を使用する

JP1/IM - Manager に GUI でログインし、JP1/IM - View を使用する方法を次に示します。

1. Windows のスタートメニューから、[プログラム] - [JP1_Integrated Management - View] - [統合ビュー] を選択する。
[ログイン] 画面が表示されます。
2. ログイン画面で、ユーザー名、パスワード、および接続ホスト名を入力する。
ユーザー名には、小文字だけを使用できます。大文字を使用した場合も小文字として認証されます。
パスワードは、大文字・小文字を区別します。
接続ホスト名には、ログインする JP1/IM - Manager があるホストの名称を指定します。ビューアーで定義されているホスト名か、IP アドレスを指定してください。
3. 使用したい機能に合わせてチェックボックスをチェックする。
片方または両方をチェックできます。
[センtralコンソール] チェックボックスをチェックすると、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に接続します。
[センtralスコープ] チェックボックスをチェックすると、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) に接続します。
4. [OK] ボタンをクリックする。
JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に接続した場合は [イベントコンソール] 画面、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) に接続した場合は [監視ツリー] 画面が表示されます。

ログインするユーザー名は、事前に登録が必要です。ユーザーの登録については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章を参照してください。

JP1/IM - Manager にログインする場合、一つのビューアーからは、最大三つの異なるマネージャーにログインできます。

WWW ページ版の JP1/IM - View を使用する場合

WWW ブラウザーを使用してログインする場合は、次のように操作します。

1. WWW ブラウザーを起動し、次の URL を指定する。

`http://接続ホスト名/JP1IM/console_ja.html`

[ログイン] 画面が表示されます。

2. ユーザー名とパスワードを入力する。
接続ホスト名には、URL で指定したホスト名が表示されます。この画面でホストを変更することはできません。
3. [OK] ボタンをクリックする。
[イベントコンソール] 画面が表示されます。

WWW ブラウザーを使用してログインする場合は、一つのビューアーからは 1 台のマネージャーにしかログインできません。また、WWW ブラウザーを使用してログインできるのは JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) だけで、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) は使用できません。

(2) IM 構成管理・ビューアーを使用する

JP1/IM - Manager に GUI でログインし、IM 構成管理・ビューアーを使用する方法を次に示します。

1. Windows のスタートメニューから、[プログラム] - [JP1_Integrated Management - View] - [構成管理] を選択する。
[ログイン] 画面が表示されます。
Windows のスタートメニューから IM 構成管理・ビューアーを起動するには、事前に `jcovcfsetup` コマンドを実行して、Windows のスタートメニューに [構成管理] を追加しておく必要があります。Windows のスタートメニューに [構成管理] を追加する方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.20.2 IM 構成管理・ビューアーのセットアップ」を参照してください。
2. ログイン画面で、ユーザー名、パスワード、および接続ホスト名を入力する。
ユーザー名には、小文字だけを使用できます。大文字を使用した場合も小文字として認証されます。
パスワードは、大文字・小文字を区別します。
接続ホスト名には、ログインする JP1/IM - Manager があるホストの名称を指定します。ビューアーで定義されているホスト名か、IP アドレスを指定してください。

4. JP1/IM - Manager へのログインとログアウト

3. [OK] ボタンをクリックする。

IM 構成管理に接続し , [IM 構成管理] 画面が表示されます。

ログインするユーザー名は , 事前に登録が必要です。ユーザーの登録については , マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章を参照してください。

JP1/IM - Manager にログインする場合 , 一つのビューアーからは , 最大三つの異なるマネージャーにログインできます。

4.1.2 JP1/IM - Manager にコマンドでログインする

(1) JP1/IM - View を使用する

JP1/IM - Manager に `jcoview` コマンドでログインし , JP1/IM - View を使用方法を次に示します。

次のコマンドを実行します。

- ログイン画面を起動する場合

```
jcoview [-c] [-s] [-h 接続ホスト名] [-u ユーザー名]
```

引数を指定しなかった場合は , 前回ログインしたときの情報が入力された状態でログイン画面が起動します。

引数を指定した場合は , 指定した値が入力された状態で [ログイン] 画面が起動します。

- ログインする場合

```
jcoview [-c] [-s] [-h 接続ホスト名] [-u ユーザー名] [-p パスワード]
```

引数をすべて指定した場合は , JP1/IM - Manager の JP1/IM - Central Console , JP1/IM - Central Scope 両方にログインします。 `-c` だけ指定した場合は JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に , `-s` だけ指定した場合は JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) にログインします。 `-c` , `-s` 両方とも省略した場合は JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) にログインします。

ユーザーが認証されると , [ログイン] 画面は表示されません。指定した引数に従って [イベントコンソール] 画面 , [監視ツリー] 画面が表示されます。

それぞれの引数の指定方法については , 「4.1.1 JP1/IM - Manager に GUI でログインする」を参照してください。また , `jcoview` コマンドの詳細については , マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcoview` (Windows 限定) 」 (1. コマンド) を参照してください。

(2) IM 構成管理・ビューアーを使用する

JP1/IM - Manager に `jcfview` コマンドでログインし , IM 構成管理・ビューアーを使用する方法を次に示します。

次のコマンドを実行します。

- ログイン画面を起動する場合

```
jcfview -h 接続ホスト名 -u ユーザー名
```

引数を指定しなかった場合は、前回ログインしたときの情報が入力された状態でログイン画面が起動します。

引数を指定した場合は、指定した値が入力された状態で [ログイン] 画面が起動します。

- ログインする場合

```
jcfview -h 接続ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード
```

引数をすべて指定した場合は、JP1/IM - Manager の IM 構成管理にログインします。

ユーザーが認証されると、[ログイン] 画面は表示されません。指定した引数に従って [IM 構成管理] 画面が表示されます。

それぞれの引数の指定方法については、「4.1.1 JP1/IM - Manager に GUI でログインする」を参照してください。また、jcfview コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcfview (Windows 限定)」(1. コマンド) を参照してください。

4.2 JP1/IM - Manager からログアウトする

JP1/IM - Manager からログアウトする場合は、次の方法でログアウトしてください。

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) からログアウトする場合

- [イベントコンソール] 画面で [ファイル] - [終了 (ログアウト)] を選択する。
- [イベントコンソール] 画面の右上の × ボタンをクリックする。

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) からログアウトする場合

- [監視ツリー] 画面で [ファイル] - [終了 (ログアウト)] を選択する。
- [監視ツリー] 画面の右上の × ボタンをクリックする。

JP1/IM - Manager (IM 構成管理) からログアウトする場合

- [IM 構成管理] 画面で [ファイル] - [終了 (ログアウト)] を選択する。
- [IM 構成管理] 画面の右上の × ボタンをクリックする。

上記方法で起動中の画面が終了します。ただし、統合機能メニューから起動した画面とモニター画面は終了しません。これらの画面は、個別に終了させてください。

WWW ブラウザーを使用してログインしている場合、およびコマンドでログインしている場合も、同じ操作でログアウトします。ログアウトせずに終了した場合、マネージャー上にログイン情報が残った状態になり、最終的にマネージャーのリソース不足になることがあります。必ずログアウト操作で終了してください。

5

セントラルコンソールによるシステムの監視

この章では、JP1/IM - View を使用して JP1 イベントを監視する手順について説明します。

5.1 JP1 イベントによりシステムを監視する

5.2 重要イベントの対処状況を設定する

5.3 イベントの重大度を変更する

5.4 メモ情報を編集する

5.5 JP1 イベントを検索する

5.6 JP1 イベントを発行したアプリケーションをモニター起動する

5.7 表示フィルターを有効にする

5.8 イベント取得フィルターを切り替える

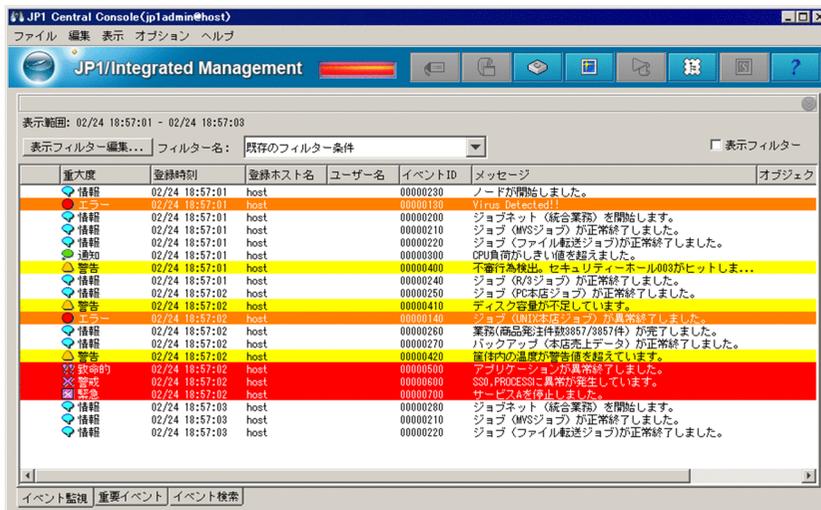
5.9 JP1/IM - View の表示情報を CSV 出力する

5.1 JP1 イベントによりシステムを監視する

受信した JP1 イベントは、[イベントコンソール] 画面に表示されます。[イベントコンソール] 画面は、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) にログインすると表示されます。

[イベントコンソール] 画面の表示例を次に示します。

図 5-1 [イベントコンソール] 画面 ([イベント監視] ページ) の表示例



5.1.1 JP1 イベントの見方

[イベントコンソール] 画面には、ログインしているマネージャーのイベント DB に登録されている JP1 イベントが表示されます。新しい JP1 イベントはイベント一覧の下に追加されます。到着日時が最も新しい JP1 イベントが、イベント一覧の最も下に表示されます。

(1) イベント一覧の表示項目

イベント一覧には、JP1 イベントの属性、および対処状況が表示されます。イベントの属性として、基本属性または共通の拡張属性の代わりに固有の拡張属性を表示することもできます。

イベント一覧に表示される項目の列幅は、マウスでドラッグすることによって任意の幅に変更できます。一つのページ (例: [イベント監視] ページ) で列幅を変更すると、ほかの二つのページ (例: [重要イベント] ページおよび [イベント検索] ページ) の列幅も変更されます。

また、[イベント監視] ページおよび [イベント検索] ページに表示される特定のイベン

トに背景色が付くように設定できます。背景色が付く対象となるイベントは、「緊急 (Emergency)」、「警戒 (Alert)」、「致命的 (Critical)」、「エラー (Error)」および「警告 (Warning)」のイベントです。

重大度変更機能を使用して重大度を変更した場合、変更後の重大度でイベントの背景色を設定します。

なお、重大度変更機能は、統合監視 DB を使用する場合に設定できます。

統合監視 DB を設定する方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4(2) 統合監視 DB の設定」を参照してください。

重大度変更機能を設定する方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.10 重大度変更機能の設定」を参照してください。

ログアウト時の各表示項目の列幅を保存するかどうか、および特定のイベントに背景色を付けるかどうかは、[ユーザー環境設定] 画面で設定できます。[ユーザー環境設定] 画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.17 [ユーザー環境設定] 画面」を参照してください。

(a) JP1 イベントの属性

イベント一覧には、各イベントの属性（基本属性または共通の拡張属性）が表示されます。デフォルトでは、重大度、登録時刻、登録ホスト名、ユーザー名、イベント ID、メッセージ、オブジェクトタイプ、およびアクションが表示されています。イベント一覧の表示項目は、[ユーザー環境設定] 画面で変更できます。表示項目の変更方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.17 [ユーザー環境設定] 画面」を参照してください。

イベント一覧に表示できる項目（列）は、イベント属性のうち、次のものです。

表 5-1 イベント一覧の表示項目

属性	説明
対処状況表示項目	JP1 イベントの対処状況を示す情報（対処済、処理中、保留、未処理）が表示されます。集約イベントの対処状況と、繰り返しイベントの対処状況が異なる場合には、「!」が表示されます。
集約状態	繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合にだけ表示され、集約イベントの繰り返し回数が表示されます。集約中イベントの場合は、集約中であることを示す「+」が、繰り返し回数の後ろに表示されます。
重大度	JP1 イベントの緊急性を示します。緊急性の高い順に、次の値があります。「緊急 (Emergency)」、「警戒 (Alert)」、「致命的 (Critical)」、「エラー (Error)」、「警告 (Warning)」、「通知 (Notice)」、「情報 (Information)」、「デバッグ (Debug)」 なお、統合監視 DB を使用する場合に、重大度変更機能で重大度を変更したときは、変更したあとの JP1 イベントの緊急性を表します。
登録時刻	イベント発行元ホストのイベント DB に JP1 イベントが登録された時刻です。

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

属性	説明
登録ホスト名	JP1 イベントを登録したエージェント名（イベントサーバ名）です。
発生元ホスト名	JP1 イベントの発行契機となった事象が発生したホストの名称です。統合監視 DB を使用し、発生元ホストのマッピングを有効にしたときに表示されます。
ユーザー名	JP1 イベント発行元のユーザー名です。
イベント ID	発行元のプログラムや、発生した事象を表す値です。
メッセージ	JP1 イベントの内容を表すメッセージテキストです。
オブジェクトタイプ	イベント発行の契機となる事象が発生したオブジェクトの種類を表す「JOB」、 「JOBNET」などの文字列です。
アクション	自動アクションが設定されていて、イベントがアクション実行の対象となった場合に、アクションマーク <input checked="" type="checkbox"/> （抑止されなかったアクション）、 <input type="checkbox"/> （抑止されたアクション）、または <input checked="" type="checkbox"/> （一部抑止されたアクション）が表示されます。また、繰り返しイベントの集約表示機能を使用していて、集約イベントのアクション状況と、繰り返しイベントのアクション状況が異なる場合には、「！」が表示されます。
プロダクト名	JP1 イベントを発行したプログラムの名称です。
オブジェクト名	イベント発行の契機となる事象が発生したオブジェクト（ジョブ、ジョブネットなど）の名称です。
登録名タイプ	オブジェクトの種別です。通常はオブジェクトタイプと同じですが、ジョブネットとジョブのように階層のある業務の場合は、最上層のオブジェクトの種別が表示されます。
登録名	オブジェクトの名称です。通常はオブジェクト名と同じですが、ジョブネットとジョブのように階層のある業務の場合は、最上層のオブジェクトの名称が表示されます。
到着時刻	接続しているマネージャーのイベント DB に JP1 イベントが到着した時刻です。 [イベント検索] ページの場合は、検索対象ホストのイベント DB に登録された時刻です。
開始時刻	実行を開始した時刻をビューアーのタイムゾーンで表示します。
終了時刻	実行を終了した時刻をビューアーのタイムゾーンで表示します。
事象種別	オブジェクトに対して起こった事象（実行開始、定義作成など）を表示します。
イベント DB 内通し番号	発行元に関係なくこのイベントサーバに到達した順番です。
発行元プロセス ID	発行元アプリケーションプログラムのプロセス ID です。
発行元ユーザー ID	発行元プロセスのユーザー ID です。Windows からのイベントの場合は・1 となります。
発行元グループ ID	発行元プロセスのグループ ID です。Windows からのイベントの場合は・1 となります。
発行元ユーザー名	発行元プロセスのユーザー名です。

属性	説明
発行元グループ名	発行元プロセスのグループ名です。Windows からのイベントの場合は空白となります。
発行元イベント DB 内 通し番号	発行元ホストでのイベント DB 内通し番号です（転送によって値は変化しません）。
種別	JP1 イベントのイベント種別です。 相関成立のアイコン  および相関不成立のアイコン  が表示されます。
アクション種別	アクションの種別です。 アクション種別を示すアイコン  (コマンド),  (ルール) が表示されます。
重大度 (変更前)	変更する前の重大度です。 統合監視 DB を使用し、重大度変更機能を有効にしたとき設定できます。
重大度変更	重大度を変更した場合に <input checked="" type="checkbox"/> を表示します。 統合監視 DB を使用し、重大度変更機能を有効にしたとき表示されます。
メモ	JP1 イベントにメモ情報がある場合に  を表示します。 統合監視 DB を使用し、メモ情報の設定機能を有効にしたとき設定できます。

(b) JP1 イベントの固有の拡張属性

イベント一覧の表示項目（基本属性または共通の拡張属性）の欄に、固有の拡張属性の内容を表示できます。例えば、SNMP トラップが JP1 イベントに変換されてイベント一覧に表示される場合に、登録ホストの欄に SNMP トラップ発行元ホスト名を表示できます。

固有の拡張属性が表示されているときは、表示された属性値の先頭に「#」（シャープ記号と半角の空白）が表示されます。

固有の拡張属性を表示するには、表示項目と固有の拡張属性とをマッピングしておく必要があります。固有の拡張属性のマッピングの詳細については、「5.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する（イベント情報のマッピング）」を参照してください。

(c) JP1 イベントの対処状況

イベント一覧に表示されているすべてのイベントの左端の列に、イベントへの対処状況（「対処済」、「処理中」、および「保留」）を示す対処状況マークを表示できます。対処状況マークを表示する方法については、「5.1.4 JP1 イベントの対処状況を表示する」を参照してください。

なお、繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合には、自動的に JP1 イベントの対処状況を示す情報（対処済、処理中、保留、未処理）が表示されます。集約イベントの対処状況と、繰り返しイベントの対処状況が異なる場合には、「!」が表示されず。

(2) 画面に表示されるイベント

画面に表示されるイベント

画面に表示されるイベントには、通常の JP1 イベント、集約イベント（集約中イベント、集約完了イベントを含む）および相関イベントがあります。

集約イベント

[集約表示] に繰り返し回数や、集約中であることを示す「+」が表示されます。

集約イベントの表示・操作については、「5.1.6 集約イベントと繰り返しイベントを表示する」を参照してください。

相関イベント

[種別] にアイコン ,  が表示されます。

相関イベントの表示・操作については、「5.1.7 相関イベントを表示および操作する」を参照してください。

画面に表示できるイベント数

画面に表示できるイベント数は、[ユーザー環境設定] 画面の [スクロールバッファ] に指定した値です。表示できる JP1 イベント数の上限は 2,000 件です。

統合監視 DB を使用すると、統合監視 DB に保存されているすべてのイベントを表示できます。[表示開始位置指定] 領域にあるスライダーでイベント表示位置を移動する、または時間を指定することで表示できます。統合監視 DB の設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「1.4(2) 統合監視 DB の設定」を参照してください。

JP1 イベントの数が、表示できる JP1 イベントの数の上限を超えると次の動作となります。

[イベント監視] ページ

対処状況の状態にかかわらず、最も到着時刻が古い JP1 イベントから消去されます。

[重要イベント] ページ

対処状況が対処済で、最も到着時刻の古い JP1 イベントから消去されます。

対処済の重要イベントがない場合は、対処状況の状態にかかわらず、到着時刻が古い JP1 イベントから消去されます。

画面から消去された JP1 イベントも、イベント DB には登録されています。画面から消去された JP1 イベントを参照する場合は、JP1 イベントを検索してください。JP1 イベントの検索方法については、「5.5 JP1 イベントを検索する」を参照してください。

画面起動時に表示される JP1 イベント

画面を起動したときに表示される JP1 イベントは、次のどちらかの条件に合う最新の JP1 イベントです。

ログインしているマネージャーの起動後、画面を起動するまでに発生した JP1 イベント

jcoimdef コマンドで設定した「イベント DB からのイベント取得開始位置」から、ログインしているマネージャーの起動時までに発生した JP1 イベント

画面を起動したときに表示される JP1 イベントの件数は、次の値のどちらか小さい方を上限とします。

[システム環境設定] 画面の [イベントバッファ] に指定した値 (イベントバッファ数)

[ユーザー環境設定] 画面の [スクロールバッファ] に指定した値 (スクロールバッファ数)

なお、JP1 イベントの件数には、内部的に使用する連絡用イベント も含まれます。そのため、初期表示時には、表示される JP1 イベントの件数が上限値に達しない場合もあります。

注 連絡用イベント

重要イベントの対処状況を変更や削除したとき、および自動アクションを実行したときに内部的に発行されるイベントで、画面には表示されない。

イベント一覧の更新

イベント一覧は、ユーザーが設定した更新間隔で更新され、最新の JP1 イベントが表示されます。ただし、自動更新をしない設定にしている場合は、画面を起動しても、最新の JP1 イベントが表示されません。この場合に、最新の JP1 イベントを表示するには、[表示] - [最新情報に更新] を選択します。

自動更新するかどうか、および自動更新の間隔は、[ユーザー環境設定] 画面で設定します。

(3) フィルターの適用

フィルターを適用することで [イベントコンソール] 画面に表示される JP1 イベントを制限できます。

イベント取得フィルターが設定されている場合は、JP1/IM - Manager が JP1/Base から取得する JP1 イベントが制限されます。

ユーザーフィルターが設定されている場合は、ログインしているユーザーによって、表示される JP1 イベントが制限されます。

表示フィルターが設定されている場合は、[フィルター名] リストボックスから適用するフィルターを選択し、[表示フィルター] チェックボックスをチェックすることで、設定されているフィルターの条件に一致する JP1 イベントだけが表示されます。

重要イベントだけを表示するには、[重要イベント] ページに切り替えます。重要イベン

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

トを受信すると、画面上部のランプの色が赤に変わります。[重要イベント] ページで、すべての重要イベントを対処済にする、削除する、または重要イベントを解除すると、ランプの色が青に戻ります。[重要イベント] ページについては、「5.1.5 重要イベントだけを表示する」を参照してください。

5.1.2 JP1 イベントの詳細情報を表示する

イベント一覧に表示されている JP1 イベントの詳細な属性情報を表示できます。

詳細情報を表示するには、[イベントコンソール] 画面のイベント一覧で、属性を表示したい JP1 イベントをダブルクリックします。[イベント詳細] 画面が表示されます。

[イベント詳細] 画面には、イベント属性、メッセージ、イベントガイド情報およびメモが表示されます。

[イベント属性] には、その JP1 イベントに登録されているイベント属性名と属性値が表示されます。登録されている属性は、その JP1 イベントによって異なります。

イベント一覧上で前後に並んでいる JP1 イベントの詳細情報を見たい場合は、[前イベント] または [次イベント] のボタンをクリックします。

次のどれかの方法でも、JP1 イベントの詳細を表示できます。

[イベントコンソール] 画面で JP1 イベントを選択し、[表示] - [イベント詳細表示] を選択する。

[イベントコンソール] 画面で JP1 イベントを選択し、ポップアップメニューから [イベント詳細表示] を選択する。

[イベントコンソール] 画面で JP1 イベントを選択し、ツールバーからイベント詳細表示ボタンをクリックする。

詳細情報として表示される項目を次に示します。

表 5-2 JP1 イベントの詳細情報

表示名	内容
イベント DB 内通し番号	発行元に関係なくこのイベントサーバに到達した順番。
イベント ID	発行アプリケーションプログラムや事象の内容を表す値。
発行元プロセス ID	発行元アプリケーションプログラムのプロセス ID。
登録時刻	発行元イベントサーバでの登録時刻。
到着時刻	自イベントサーバでの登録時刻。
発行元ユーザー ID	発行元プロセスのユーザー ID。Windows からのイベントの場合は -1 となる。
発行元グループ ID	発行元プロセスのグループ ID。Windows からのイベントの場合は -1 となる。
発行元ユーザー名	発行元プロセスのユーザー名。

表示名	内容
発行元グループ名	発行元プロセスのグループ名。Windows からのイベントの場合は空白となる。
発行元イベントサーバ名	発行元のイベントサーバ名（イベント一覧では、「登録ホスト名」と表示される）。イベントが、JP1/Base(エージェント) JP1/IM-Manager(拠点マネージャー) JP1/IM-Manager(統合マネージャー)のように転送された場合でも、最初の JP1/Base のイベントサーバ名が入る。
発行元イベント DB 内通し番号	発行元ホストでのイベント DB 内通し番号（転送によって値は変化しない）。
メッセージ	イベントの内容を表した文字列。
重大度	JP1 イベントの緊急性を表す。緊急性の高い順に、次の値がある。 「緊急 (Emergency)」、「警戒 (Alert)」、「致命的 (Critical)」、「エラー (Error)」、「警告 (Warning)」、「通知 (Notice)」、「情報 (Information)」、「デバッグ (Debug)」 なお、統合監視 DB を使用する場合に、重大度変更機能で重大度を変更したときは、変更したあとの JP1 イベントの緊急性を表す。
ユーザー名	業務を実行しているユーザー名。
プロダクト名	JP1 イベントを発行したプログラム名。
オブジェクトタイプ	イベント発行の契機となったオブジェクトの種類を表す名称。
オブジェクト名	イベント発行の契機となったオブジェクト（ジョブ、ジョブネットなど）の名称。
登録名タイプ	オブジェクトの種別。通常はオブジェクトタイプと同じだが、ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合、最上層のオブジェクトの種別となる。値の範囲はオブジェクトタイプと同じ。
登録名	ユーザーの操作時に実行を指示する単位になる名称。通常はオブジェクト名と同じだが、ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合、最上層のオブジェクトの名称になる。
オブジェクト ID	アクションの契機となったイベントのイベント DB 内通し番号。
事象種別	オブジェクト名に示したオブジェクトに対して起こった事象。
開始時刻	実行開始または再実行開始の時刻。
終了時刻	実行終了の時刻。
終了コード	コマンドの実行結果。
ガイド	JP1 イベントに対応したイベントガイド情報。 イベントガイド表示を有効にしている場合に表示される。なお、JP1 イベントに対応するイベントガイド情報がない場合は「KAVB1588-I」のメッセージが表示される。
関連イベント DB 内通し番号	関連元イベントのイベント DB 内通し番号を半角スペースで区切ったもの。次の形式で表示される。 イベント DB 内通し番号 イベント DB 内通し番号 イベント DB 内通し番号・・・
関連イベント発行条件名	成立した関連イベント発行条件名。

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

表示名	内容
重大度（変更前）	統合監視 DB を使用する場合に、重大度変更機能で重大度を変更したとき、変更する前の JP1 イベントの緊急性を表す。緊急性の高い順に、次の値がある。「緊急 (Emergency)」、「警戒 (Alert)」、「致命的 (Critical)」、「エラー (Error)」、「警告 (Warning)」、「通知 (Notice)」、「情報 (Information)」、「デバッグ (Debug)」
発生元ホスト名	JP1 イベントの発行契機となった事象が発生したホストの名称。 統合監視 DB を使用し、発生元ホストのマッピングを有効にしたときに表示される。
メモ	統合監視 DB を使用し、メモ情報の設定機能を有効にしたとき、メモ情報を表示する。

なお、重大度以降の項目は、イベントによって表示されない場合があります。

5.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する（イベント情報のマッピング）

イベント一覧の表示項目（基本属性または共通の拡張属性）の欄に、固有の拡張属性の内容を表示できます。

例を次に示します。

マッピング定義の設定

次に示すマッピング定義が設定されています。

イベント情報マッピング定義 1

固有の拡張属性「LOGHOST」を「登録ホスト名」にマッピング
マッピング対象のイベント ID：12E0

イベント情報マッピング定義 2

固有の拡張属性「LOGTIME」を「到着時刻」にマッピング
マッピング対象のイベント ID：12E0

発行されたイベント

次の内容のイベントが発行されました。

表 5-3 イベント発行内容

項番	属性	内容
1	重大度	エラー
2	登録時刻	2001/10/30 17:47:31
3	到着時刻	2001/10/30 17:47:39
4	登録ホスト名	host_A
5	ユーザー名	jp1nps
6	イベント ID	000012E0

項番	属性	内容
7	メッセージ	KAJJC391-E ...
8	LOGHOST	loghost_1
9	LOGTIME	1003976997

注 時刻形式では、2001/10/25 11:29:57 になります。

[イベントコンソール] 画面での表示

通常、[イベントコンソール] 画面のイベント一覧では、上記の表の項番 1 ~ 項番 7 の内容が表示されますが、項番 8 を項番 4 に、項番 9 を項番 3 にマッピングしているため、次のように表示されます。

表 5-4 [イベントコンソール] 画面での表示

重大度	登録時刻	到着時刻	登録ホスト名	ユーザー名	イベント ID	メッセージ
エラー	10/25 17:47:31	# 10/25 11:29:57	# loghost_1	jp1nps	000012E0	KAJJC391-E ...

固有の拡張属性を表示するには、[イベント情報マッピング定義] 画面で表示項目と固有の拡張属性とをマッピングします。[イベント情報マッピング定義] 画面を起動するには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。また、業務グループの参照・操作制限を設定している場合、JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2) JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

参考

イベント情報マッピングと発生元ホストのマッピングの違いについて

イベント情報マッピングは、JP1 イベントの拡張属性の属性値をイベント一覧の表示項目の属性にマッピングして表示する機能です。イベント一覧の「登録ホスト名」に、別の属性値を表示できます。ただし、この機能は、イベント一覧上の表示の変更に限るため、アクションやイベント相関などのイベント条件には利用できません。

これに対し、発生元ホストのマッピングは、JP1/IM - Manager が取得した JP1 イベントのホスト名と発生元ホスト名を登録し、JP1 イベントを監視・管理するための機能です。イベント一覧の「発生元ホスト名」に表示でき、アクションやイベント相関などのイベント条件にも利用できます。ただし、統合監視 DB を使用し、発生元ホストのマッピングを有効にする必要があります。

固有の拡張属性をマッピングする手順は次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で [オプション] - [イベント情報マッピング定義] を選択する。

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

[イベント情報マッピング定義] 画面が表示されます。

[定義一覧] には、現在設定されているマッピング定義情報の一覧が表示されています。

最大で 16 個のマッピング定義ができます。

2. イベント情報マッピングを有効にするために、[マッピング] の [する] を選択する。
3. 新規にマッピングを定義するには、[追加] ボタンをクリックする。定義済みのマッピング情報を変更するには、[定義一覧] リストの項目を選択してから [編集] ボタンをクリックするか、[定義一覧] リストの項目をダブルクリックする。
[イベント情報マッピング詳細定義] 画面が表示されます。

4. [表示項目] から、イベント一覧のどの表示項目に固有の拡張属性をマッピングするかを選択する。

選択できる項目は、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページ、[重要イベント] ページ、および [イベント検索] ページのイベント一覧に表示できる次の項目です。

発行元プロセス ID、到着時刻、発行元ユーザー ID、発行元グループ ID、発行元ユーザー名、発行元グループ名、登録ホスト名、発行元イベント DB 内通し番号、重大度、ユーザー名、プロダクト名、オブジェクトタイプ、オブジェクト名、登録名タイプ、登録名、事象種別、開始時刻、終了時刻

指定例：登録ホスト名

5. [固有の拡張属性名] に、マッピングする固有の拡張属性の名前を指定する。
指定できる文字は、32 文字までの、半角英大文字、半角数字、および半角のアンダーバーです。拡張属性を表す「E」は不要です。

一つの表示項目には、一つだけの固有の拡張属性をマッピングできます。

到着時刻、開始時刻、および終了時刻に固有の拡張属性をマッピングするときは、属性値が数値（UTC 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数 0 ~ 2,147,483,647）である属性名を指定します。数値以外、または範囲外の数値を持つ属性を指定した場合は、元の属性が表示されます。

指定例：LOGHOST

6. [イベント ID] に、マッピングする JP1 イベントのイベント ID を指定する。

指定できる文字は、1,000 文字までの、A ~ F または a ~ f の半角英字、半角数字、および半角のコンマです。16 進数で指定します。指定できる範囲は、00000000 ~ 7FFFFFFF です。

複数のイベント ID を指定する場合は、コンマで区切って 100 個まで指定できます。

指定例1：3FFF

指定例2：12345B, 7FFFFFFF

7. [OK] ボタンをクリックする。

[イベント情報マッピング詳細定義] 画面が閉じ、設定した内容が [イベント情報マッピング定義] 画面に反映されます。

8. [イベント情報マッピング定義] 画面で [適用] ボタンをクリックする。
[適用] ボタンをクリックされたあとに到着したイベントから、このマッピング定義に沿って固有の拡張属性が表示されます。

表示フィルター、重要イベントフィルター、ユーザーフィルターを使用するときは、マッピングした固有の拡張属性を指定して JP1 イベントをフィルタリングできます。

固有の拡張属性が表示されているときは、表示された属性値の先頭に「#」(シャープ記号と半角の空白)が表示されます。

表示されている固有の拡張属性をフィルター条件として指定する場合は、「#」を入力する必要はありません。

また、[ユーザー環境設定] 画面の [カラーリング] で [有効] チェックボックスをチェックしていた場合、イベントの重大度に基づいてイベントの行に背景色がつきます。

[イベント情報マッピング定義] 画面で設定内容を変更した場合は、その変更内容が、同じ JP1/IM - Manager に接続されているすべての JP1/IM - View のイベント一覧に反映されます。

マッピングされる前の情報を参照するには、マッピングされたイベントを選択してから [イベント詳細] 画面を表示します。[イベント詳細] 画面に、マッピングされる前の情報が表示されます。なお、イベント拡張属性定義ファイルを使用すれば、[イベント詳細] 画面に、固有の拡張属性を表示できます。詳細については、次の説明を参照してください。

イベント拡張属性定義ファイルを使った固有の拡張属性の表示について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.10 ユーザー独自のイベント属性の表示」

イベント拡張属性定義ファイルについて

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「イベント拡張属性定義ファイル」(2. 定義ファイル)

なお、固有の拡張属性をマッピングする場合には、次の点に注意してください。

- イベント検索では、統合監視 DB またはイベントサービスのイベント DB に対して検索がかけられるため、マッピングされる前のイベントに対して検索が行われます。したがって、検索結果には、マッピング情報は反映されません。マッピング対象のイベントを検索する場合は、[イベント検索条件設定] 画面の [固有の拡張属性] 欄を使用して、マッピングする固有の拡張属性の情報を指定します。
- [関連イベント一覧] 画面に表示される関連イベントは、イベント検索の結果であるため、マッピング情報が反映されません。
- 固有の拡張属性がマッピングされたイベントを選択してから [イベント検索条件設定] 画面などで [選択イベント条件入力] ボタンをクリックした場合は、マッピング先の

表示項目の属性および固有の拡張属性の値は、条件一覧に入力されません。

5.1.4 JP1 イベントの対処状況を表示する

[イベントコンソール] 画面のイベント一覧に表示されているすべてのイベントについて、左端の列にイベントへの対処状況を示す対処状況マークを表示できます。

対処状況の種類と、その対処状況を示す対処状況マークを次に示します。

表 5-5 対処状況の種類と対処状況マーク

対処状況	対処状況マーク
対処済	
処理中	
保留	
未対処	(無印)
異なる対処状況	!

注

繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合で、集約イベントの対処状況と、繰り返しイベントの対処状況が異なる状況を指します。

イベントに対処状況を設定するには、[イベント監視] ページのイベント一覧でイベントを選択してから、次のどちらかの操作をします。検索ホストが、ログインしているマネージャーの場合、[重要イベント] ページおよび [イベント検索] ページからも対処状況を変更できます。

選択したイベントがどの対処状況であっても、設定の操作ができます。なお、これらの操作には、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

- メニューバーから [表示] を選択し、サブメニューの中から設定したい対処状況を選ぶ。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから、設定したい対処状況を選ぶ。

[イベント監視] ページで設定した重要イベントの対処状況を示す情報（対処済、処理中、保留、未対処）は、[重要イベント] ページに表示されている同一イベントにも反映されます。なお、[イベント監視] ページ、[重要イベント] ページで設定したイベントの対処状況を示す情報は、[イベント検索] ページに表示されている同一イベントには反映されません。別の JP1/IM - View で設定したイベントの対処状況を示す情報も、[イベント検索] ページに表示されている同一イベントには反映されません。

イベントへの対処状況を示す情報（対処済、処理中、保留、未対処）は、ログインしているマネージャーの統合監視 DB または イベント DB に記録されます。そのため、対処状況を変更すると、同じマネージャーにログインしているほかの JP1/IM - View の [イベント監視] ページの表示も変更されます（重要イベントの場合は、[重要イベント]

ページの表示も変更されます)。ほかのホストから転送されてきたイベントの場合、転送元ホストの統合監視 DB またはイベント DB の情報は変更されません。

5.1.5 重要イベントだけを表示する

画面に重要イベントだけを表示するには、[イベントコンソール] 画面の [重要イベント] ページを選択します。[重要イベント] ページのイベント一覧には、[イベント監視] ページに表示されている JP1 イベントのうち、重要イベントだけが表示されます。

[重要イベント] ページのイベント一覧では、左端の列に重要イベントへの対処状況を示す対処状況マークが表示されます。

繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合には、自動的に JP1 イベントの対処状況マークが表示されます。

対処状況の種類と、その対処状況を示す対処状況マークを次に示します。

表 5-6 対処状況の種類と対処状況マーク

対処状況	対処状況マーク
対処済	
処理中	
保留	
未対処	(無印)
異なる対処状況	!

注

繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合で、集約イベントの対処状況と、繰り返しイベントの対処状況が異なる状況を指します。

どのようなときにそれぞれのマークを使うかは、運用に合わせて決めてください。

どの JP1 イベントを重要イベントとするかは、管理者が定義できます。デフォルトでは、重大度が「緊急 (Emergency)」、「警戒 (Alert)」、「致命的 (Critical)」、「エラー (Error)」の JP1 イベントが重要イベントとなっています。

[重要イベント] ページに表示されている重要イベントの数が、画面に表示できるイベント数の最大値を超えると、古い重要イベントから消去されます。このとき、最初に消去されるのは対処済の重要イベントです。対処済の重要イベントがない場合は、未対処、保留、処理中の重要イベントのうち最も古いイベントが削除されます。この場合は、状態にかかわらず、古い重要イベントから削除されます。なお、統合監視 DB を有効にすると、統合監視 DB に格納されているすべてのイベントを表示できます。イベントは、スライダーでイベント表示位置を移動して表示します。統合監視 DB の設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4(2)

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

「統合監視 DB の設定」を参照してください。

5.1.6 集約イベントと繰り返しイベントを表示する

繰り返しイベントの集約表示機能を使用する場合、短時間に連続して発生する同一内容の JP1 イベントを集約して、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページまたは [重要イベント] ページに表示できます。

同一内容の JP1 イベントを判定するために、重大度を使用します。重大度はイベント重大度変更機能によって変更されたあとの重大度を使用し、変更前の重大度は比較対象としません。

また、集約された繰り返しイベントは、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページまたは [重要イベント] ページから表示される [関連イベント一覧 (集約)] 画面に表示できます。

繰り返しイベントの集約表示機能では、同一内容の JP1 イベントを一つのイベントにまとめたイベントのことを集約イベントといいます。集約イベントには、集約を継続中のイベント (集約中イベント) と、集約が完了したイベント (集約完了イベント) の 2 種類があります。

また、同一内容の JP1 イベントの中で最初に JP1/IM・View が受信した JP1 イベントのことを集約開始イベント、集約開始イベント以降に受信した集約開始イベントと同一内容の JP1 イベントを繰り返しイベント、繰り返しイベントがないためイベントが集約されないイベントを非集約イベントといいます。

繰り返しイベントの集約表示機能は、[ユーザー環境設定] 画面で設定します。設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「4.12 ログインユーザーごとの JP1/IM・View の設定」を参照してください。

(1) 集約イベントと繰り返しイベントの表示

繰り返しイベントの集約表示機能を使用する場合の集約イベント、非集約イベント、および繰り返しイベントの表示について説明します。

集約イベント・非集約イベントの表示

集約イベント・非集約イベントは、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページまたは [重要イベント] ページに表示できます。

また、繰り返しイベントの集約表示機能を使用していない場合と同様に、[イベントコンソール] 画面から [イベント詳細] 画面を表示して、集約イベント・非集約イベントの詳細な属性情報を表示できます。[イベント詳細] 画面は、[イベントコンソール] 画面でイベントを選択し、メニューの [表示] - [イベント詳細表示] を選択すると表示されます。なお、統合監視 DB は、繰り返しイベントの集約表示が有効な場合でも、表示開始位置を指定すると、集約表示を適用できません。

繰り返しイベントの表示

個々の繰り返しイベントは、[関連イベント一覧 (集約)] 画面で表示できます。[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページまたは [重要イベント] ページには表示されません。

[関連イベント一覧 (集約)] 画面は、[イベントコンソール] 画面で、集約イベントを一つ選択したあと、メニューの [表示] - [関連イベント一覧表示] を選択して表示します。

[関連イベント一覧 (集約)] 画面では、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページと同様に対処状況を変更できます。また、[イベント詳細] 画面で、繰り返しイベントの詳細な属性情報を表示できます。[イベント詳細] 画面は、[関連イベント一覧 (集約)] 画面でイベントを選択し、右クリックして表示されるポップアップメニューから [イベント詳細表示] を選択すると表示されます。

なお、対処状況を変更するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

次の場合には、メニュー項目を選択できません。

- [イベント監視] ページまたは [重要イベント] ページで、イベントを複数選択している場合
- 非集約イベントを選択している場合

各画面でのイベントの表示内容を、次の表に示します。

表 5-7 各画面でのイベントの表示内容

画面名 (ページ名)	イベントの種類			
	集約中イベント	集約完了イベント	繰り返しイベント	非集約イベント
[イベントコンソール] 画面 ([イベント監視] ページ)			×	
[イベントコンソール] 画面 ([重要イベント] ページ)			×	
[イベントコンソール] 画面 ([イベント検索] ページ)				
[関連イベント一覧 (集約)] 画面				-

(凡例)

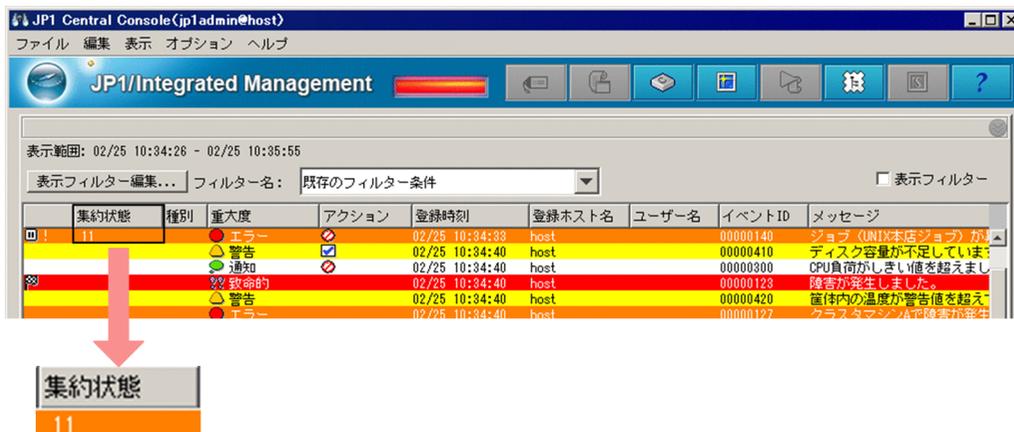
- : 集約表示
- : 非集約表示
- ×
- : 機能なし

(2) 集約表示の見方

繰り返しイベントの集約表示機能が有効な場合、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページおよび [重要イベント] ページでは、次のように集約表示されます。

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

図 5-2 繰り返しイベントの集約表示例



繰り返しイベントの集約表示では、次の項目が表示されます。

[集約状態]

[集約状態] に繰り返し回数が表示されます。繰り返し回数とは、集約イベント数と繰り返しイベントの総数のことです。非集約イベントの場合は、何も表示されません。

- 集約完了イベントの場合

繰り返し回数が表示されます。表示される繰り返し回数は、1 ~ 100 です。

集約状態	重大度
16	△ 警告

- 集約中イベントの場合

繰り返し回数および集約中であることを示す「+」が表示されます。

繰り返し回数が1回（集約開始イベントだけ）の場合は「1+」、繰り返し回数が2回（集約開始イベントと繰り返しイベント1件）の場合は「2+」のように、「1+」～「99+」の範囲で表示されます。なお、[重要イベント] ページでは、集約開始イベントが削除済み状態で、繰り返しイベントがない場合、「0+」と表示されません。

集約状態	重大度
12+	△ 警告

また、[関連イベント一覧 (集約)] 画面を表示したり、集約イベントを削除したりすると、次のように表示されます。

集約開始イベントを削除した場合

[イベントコンソール] 画面の [重要イベント] ページで、集約開始イベントを削除した場合、そのイベントは削除済み状態となり、繰り返し回数の右横に「削除」が表示されます。

集約状態	重大度
11+ 削除	× 緊急

そのあと、イベントの集約が完了して、削除済み状態の非集約イベントになった場合、[イベントコンソール] 画面の [重要イベント] ページに表示されなくなります。

繰り返しイベントを削除した場合

[関連イベント一覧 (集約)] 画面の [関連イベント一覧] で、繰り返しイベントを削除した場合、集約イベントの繰り返し回数が、削除した数だけ減ります。集約完了イベントの繰り返し回数が、繰り返しイベントを削除したことによって1回になった場合、そのイベントは非集約イベントとなります。また、その非集約イベントが削除済み状態であった場合、[イベントコンソール] 画面の [重要イベント] ページに表示されなくなります。

対処状態表示

左端の列に JP1 イベントへの対処状況を示す対処状況マークが表示されます。

対処状況マークの種類および内容は、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページおよび [重要イベント] ページに表示される対処状況マークと同じです。集約イベントと繰り返しイベントの対処状況が異なる場合、対処状況表示に「!」が表示されます。

集約状態	重大度
 !	16  警告

[アクション]

自動アクションの抑止機能を使用している場合、[イベントコンソール] 画面にアクション抑止の状態を示すマークが表示されます。

表 5-8 アクション抑止の状態

アクション抑止の状態	説明
	抑止されなかったアクション
	抑止されたアクション
	一部抑止されたアクション

集約イベントと繰り返しイベントのアクション状況が異なる場合、アクション表示に「!」が表示されます。

集約状態	重大度	アクション
 !	16  警告	 !

(3) 対処状況を変更する

集約イベント、繰り返しイベントの対処状況は、繰り返しイベントの集約表示機能を使用していない場合と同様に変更できます。

集約イベントの対処状況を変更した場合

[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページまたは [重要イベント] ページで、集約イベントの対処状況を変更すると、その時点までに受信した繰り返しイ

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

イベントの対処状況もすべて同じ対処状況に変更されます。

対処状況を変更したあとに受信した繰り返しイベントの対処状況は、変更されません。このため、繰り返しイベントの対処状況が異なるので、対処状況表示に「！」が表示されます。

繰り返しイベントの対処状況を変更した場合

[関連イベント一覧(集約)]画面で、繰り返しイベントの対処状況を変更した場合、繰り返しイベントが集約されている集約イベントの対処状況は変更されません。ただし、集約イベントの中に対処状況が異なる繰り返しイベントがあるため、対処状況表示に「！」が表示されます。

5.1.7 関連イベントを表示および操作する

ここでは、関連イベントの表示および操作について説明します。

関連イベントの表示

関連イベントは [イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページ, [重要イベント] ページおよび [イベント検索] ページに表示されます。

関連イベントは [種別] にアイコンが表示されます。

アイコンは、相関成立  と相関不成立  の 2 種類があります。

なお、[種別] はデフォルトで表示されている項目ではありません。表示するには [ユーザー環境設定] 画面で [種別] を表示項目に指定します。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.17 [ユーザー環境設定] 画面」を参照してください。

関連イベントの操作

関連イベントは通常の JP1 イベントと同様の操作ができます。例えば、イベントの詳細表示や、対処状況の変更などができます。

相関成立イベントの場合、関連イベントからは発行の契機となった相関元イベントの表示ができます。関連イベントを発行したホストが、JP1/IM - View でログインしているホストと別ホストだった場合は、関連イベントを発行したホストから相関元イベントが取得されます。

相関不成立イベントの場合、相関不成立となった時までにイベントの相関条件に従って関連づけられた相関元イベントを表示できます。

相関成立イベント、相関不成立イベントの相関元イベントを表示する手順は次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面の次の各ページで、関連イベントを一つ選択する。
 - ・ [イベント監視] ページ
 - ・ [重要イベント] ページ
 - ・ [イベント検索] ページ
2. メニューの [表示] - [関連イベント一覧表示] を選択する、またはポップアップメニューから [関連イベント一覧表示] を選択する。

[関連イベント一覧 (相関成立)] または [関連イベント一覧 (相関不成立)] 画面が表示され、相関元イベントの一覧が表示されます。

なお、繰り返しイベントの集約表示機能を使用していた場合、関連イベントが次に示すように集約表示されることがあります。

表 5-9 関連イベントの集約表示の例

表示例			説明
集約状態 24	種別 	重大度  エラー	関連イベントが集約完了した場合
集約状態 18+	種別 	重大度  エラー	関連イベントが集約中の場合
集約状態 15 削除	種別 	重大度  警戒	集約が完了した関連イベントを削除した場合
! 24	種別 	重大度  エラー	関連イベントの集約開始イベントと繰り返しイベントの対処状況が異なる場合

この場合、関連元イベントを表示するには、[関連イベント一覧（集約）]画面を表示してから[関連イベント一覧（関連成立）]または[関連イベント一覧（関連不成立）]画面を表示します。

手順を次に示します。

1. [イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページまたは[重要イベント]ページで、集約状態の関連イベントを一つ選択する。
2. メニューの[表示] - [関連イベント一覧表示]を選択する、またはポップアップメニューから[関連イベント一覧表示]を選択する。
[関連イベント一覧（集約）]画面が表示され、関連イベントの一覧が表示されます。
3. [関連イベント一覧（集約）]画面の[関連イベント一覧]から関連イベントを一つ選択する。
4. ポップアップメニューから[関連イベント一覧表示]を選択する。
[関連イベント一覧（関連成立）]または[関連イベント一覧（関連不成立）]画面が表示され、関連元イベントの一覧が表示されます。

なお、集約表示されているイベントの見方などの詳細については、「5.1.6 集約イベントと繰り返しイベントを表示する」を参照してください。

なお、関連イベントまたは関連元イベントの対処状況を「削除」に変更する場合、[重要イベント]ページを起点として、[関連イベント一覧（関連成立）]または[関連イベント一覧（関連不成立）]画面を表示している必要があります。画面表示が次のどちらかであることを確認してください。

- 重要イベント
- 重要イベント - 関連イベント一覧（集約）

また、[関連イベント一覧（関連成立）]または[関連イベント一覧（関連不成立）]画面

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

で、表示対象の関連イベントの対処状況を変更しても、一覧表示されている関連元イベントの対処状況は変更されません。同様に一覧表示されている関連元イベントの対処状況を変更しても、表示対象の関連イベントの対処状況は変更されません。これは、関連元イベントと関連イベントが別の事象を表すイベントであるためです。

5.1.8 期間を指定してイベントを表示する

指定期間のイベント表示を有効にすると、指定期間の JP1 イベントの一覧を表示できます。指定期間のイベント表示機能は、WWW ページ版でも使用できます。

指定期間のイベント表示が使用できる画面を次に示します。

- [イベント監視] ページ
- [重要イベント] ページ

指定期間のイベント表示は、すべてのフィルター（イベント取得フィルター、ユーザーフィルター、重要イベントフィルター、表示フィルター）を通過し、繰り返しイベントの集約処理をしたあとの JP1 イベントを対象とします。

ここでは、指定期間のイベント表示機能を有効にし、期間を指定する手順について説明します。

なお、指定期間内の JP1 イベントかどうかは、JP1/IM - Manager に JP1 イベントが到着した時刻と JP1/IM - View が稼働しているホストの現在時刻を比較して判定します。そのため、JP1/IM - Manager と JP1/IM - View の時刻が異なっていた場合、指定期間外の JP1 イベントが表示されることがあります。JP1/IM - Manager と JP1/IM - View の時刻を合わせておくことをお勧めします。

1. [イベントコンソール] 画面のメニューから [オプション] - [ユーザー環境設定] を選択する。
[ユーザー環境設定] 画面が表示されます。
2. [指定期間のイベント表示] の [有効] をチェックする。
[基準時刻] および [表示期間] が活性となります。
3. [基準時刻] および [表示期間] を指定する。
[基準時刻] は、1 日の区切りとする時刻を 00:00 ~ 23:59 の範囲で指定できます。デフォルトは、09:00 です。
基準時刻と現在時刻の大小関係により、イベントの表示範囲が変わります。それぞれの場合の JP1 イベントの表示範囲について次に示します。
 - JP1/IM - View が稼働しているホストの現在時刻が基準時刻より大きい場合（表示期間 - 1）日前の基準時刻から、明日の基準時刻までの範囲。
 - JP1/IM - View が稼働しているホストの現在時刻が基準時刻より小さい場合
表示期間前の基準時刻から、今日の基準時刻までの範囲。

終端の基準時刻は、範囲に含まれません。

例えば、現在時刻が「09:15」の時に表示期間を「2 日分」、基準時刻に「09:30」を指

定した場合、「2日前」の「09:30」から「今日」の「09:29」までのJP1 イベントの一覧を表示します。

[表示期間]は、過去何日分のJP1 イベントを表示するか1～31日の範囲で指定できます。デフォルトは、1日です。

4. [OK] をクリックする。

設定した内容（指定期間のイベント表示）が有効となり、[ユーザー環境設定]画面が閉じます。[イベントコンソール]画面に、指定した期間のJP1 イベントが表示されます。

指定期間のイベント表示機能が有効な場合、[イベントコンソール]画面の[指定期間のイベント表示]チェックボックス、または[イベントコンソール]画面のメニューから[表示] - [指定期間のイベント表示]を選択することで、指摘期間のイベント表示の適用と未適用を切り替えられます。

再ログインした場合に[ユーザー環境設定]画面の指定期間のイベント表示機能が有効だったときは、[指定期間のイベント表示]チェックボックスと[指定期間のイベント表示]メニューのチェックを付け、指定期間のイベント表示を適用して各ページのイベント一覧を表示します。無効だった場合は、[指定期間のイベント表示]チェックボックスと[指定期間のイベント表示]メニューを非表示にし、指定期間のイベント表示を適用しないで各ページのイベント一覧を表示します。

5.1.9 時刻を指定してイベントを表示する

短時間に大量のJP1 イベントが発生し、[イベント監視]ページの最大表示件数を超えた場合、古いイベントが見えなくなってしまうことがあります。表示開始位置を指定することで、この見えなくなってしまうイベントを、[イベント監視]ページに表示できます。表示開始位置を指定する場合は、事前に統合監視DBを有効にする必要があります。統合監視DBの設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4(2) 統合監視DBの設定」を参照してください。

表示開始位置の指定が使用できる画面を次に示します。

- [イベント監視] ページ
- [重要イベント] ページ

ここでは、表示開始位置を指定して、見えなくなったJP1 イベントを表示する手順について説明します。

1. [イベントコンソール]画面の[開閉]ボタンをクリックして、[表示開始位置指定]領域を開く。

[表示開始位置指定]領域は、ログインしたときは表示されません。

[表示開始位置指定]領域の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.2 [イベント監視] ページ」の「図 2-4 [イベント監視] ページ ([表示開始位置指定]領域を表示した場合)」を参照してください。

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

2. スライダーをイベントの表示を開始したい個所に移動する。

指定した表示開始位置より、現在適用しているユーザーフィルターと表示フィルターに一致するイベントを統合監視 DB から取得し、表示します。表示フィルターは、[イベント監視] ページのときだけ適用されます。最大表示件数（スクロールバッファ）のデフォルトは 500 件です。なお、表示開始位置からのイベント一覧の取得は、新たな表示開始位置を指定するか、[表示キャンセル] ボタンをクリックすることで中断できます。

また、表示開始位置を正確に指定したい場合、[表示開始位置] テキストボックスを用いて指定できます。[表示開始位置] テキストボックスのデフォルト値は、セントラルコンソールにログインした日の基準時刻です。

[最新イベント表示] ボタンをクリックすると、表示開始位置を設定する前の状態に戻ります。自動スクロール機能が有効な場合、新しいイベントを受信すると最新のイベントを表示します。新しいイベントを受信しても [表示開始位置指定] 領域で指定した位置のイベントを表示するように設定したい場合は、自動スクロール機能を無効にしてください。

5.1.10 JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Service Support に登録する（JP1/IM - Service Support 連携）

JP1/IM - Service Support 連携用の設定をしておくことで、JP1/IM - View に表示された JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Service Support に登録できます。設定手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「8.1.1 JP1/IM - Service Support 画面呼び出し設定」を参照してください。

次の画面から、JP1/IM - Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面を表示し、JP1/IM - Service Support にインシデントを登録します。

- [イベントコンソール] 画面の各ページ
- [関連イベント一覧] 画面
- [イベント詳細] 画面

次に、各画面から JP1/IM - Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面を表示するまでの手順を示します。JP1/IM - Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面から JP1/IM - Service Support にインシデントを登録する手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Service Support 操作ガイド」を参照してください。

なお、JP1 イベントをインシデントとして登録するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

(1) [イベントコンソール] 画面の各ページから表示する

表示する手順を次に示します。[イベント検索] ページには、マネージャー以外のイベント DB に登録された JP1 イベントを表示できますが、これらの JP1 イベントはインシデ

ントとして登録できません。マネージャー上に登録された JP1 イベントだけ、インシデントとして登録できます。

表示する手順を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面のイベント一覧に表示される JP1 イベントの中からインシデントとして登録する JP1 イベントを一つ選択する。
2. 右クリックして [インシデント登録], またはメニューから [表示] - [インシデント登録] を選択する。
WWW ブラウザー (IE) が起動して, JP1/IM - Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面が表示されます。

(2) [関連イベント一覧] 画面から表示する

表示する手順を次に示します。

1. [関連イベント一覧] 画面に表示される JP1 イベントの中からインシデントとして登録する JP1 イベントを一つ選択する。
2. 右クリックして [インシデント登録] を選択する。
WWW ブラウザー (IE) が起動して, JP1/IM - Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面が表示されます。

(3) [イベント詳細] 画面から表示する

表示する手順を次に示します。

1. [イベント詳細] 画面の [インシデント登録] ボタンをクリックする。
WWW ブラウザー (IE) が起動して, JP1/IM - Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面が表示されます。

5.1.11 JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Incident Master に登録する (JP1/IM - Incident Master 連携)

JP1/IM - Incident Master 連携用の設定をしておくことで, JP1/IM - View に表示された JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Incident Master に登録できます。設定手順については, マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「8.2.4 JP1/IM - Incident Master 画面呼び出し設定」を参照してください。

次の画面から, JP1/IM - Incident Master の [インシデントの登録] 画面を表示し, JP1/IM - Incident Master にインシデントを登録します。

- [イベントコンソール] 画面の各ページ
- [関連イベント一覧] 画面
- [イベント詳細] 画面

次に, 各画面から JP1/IM - Incident Master の [インシデントの登録] 画面を表示する

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

までの手順を示します。JP1/IM - Incident Master の [インシデントの登録] 画面から JP1/IM - Incident Master にインシデントを登録する手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Incident Master」を参照してください。

なお、JP1 イベントをインシデントとして登録するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。また、業務グループの参照・操作制限を設定している場合、JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2) JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

(1) [イベントコンソール] 画面の各ページから表示する

表示する手順を次に示します。[イベント検索] ページには、マネージャー以外のイベント DB に登録された JP1 イベントを表示できますが、これらの JP1 イベントはインシデントとして登録できません。マネージャー上に登録された JP1 イベントだけ、インシデントとして登録できます。

1. [イベントコンソール] 画面のイベント一覧に表示される JP1 イベントの中からインシデントとして登録する JP1 イベントを一つ選択する。
2. 右クリックして [インシデント登録], またはメニューから [表示] - [インシデント登録] を選択する。
WWW ブラウザー (IE) が起動して、JP1/IM - Incident Master の [インシデントの登録] 画面が表示されます。

(2) [関連イベント一覧] 画面から表示する

表示する手順を次に示します。

1. [関連イベント一覧] 画面に表示される JP1 イベントの中からインシデントとして登録する JP1 イベントを一つ選択する。
2. 右クリックして [インシデント登録] を選択する。
WWW ブラウザー (IE) が起動して、JP1/IM - Incident Master の [インシデントの登録] 画面が表示されます。

(3) [イベント詳細] 画面から表示する

表示する手順を次に示します。

1. [イベント詳細] 画面の [インシデント登録] ボタンをクリックする。
WWW ブラウザー (IE) が起動して、JP1/IM - Incident Master の [インシデントの登録] 画面が表示されます。

5.1.12 ルール起動要求の状況を確認し、ルール起動要求の操作をする（JP1/IM - Rule Operation 連携）

ここでは、JP1/IM が JP1/IM - Rule Operation と連携する場合に、ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation に正しく通知されたかどうか、また JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細] 画面を表示する手順について説明します。

（1）ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation に通知されたかどうかを確認する

ルール起動要求は、自動アクションの状態監視機能を使って、状態監視および遅延監視ができます。これらを設定しておくことで、次のようなトラブルが発生した場合でも早期に検知できます。

- ルール起動要求の通知が想定した時間内に終了しなかった、または、長時間掛かって終了した。
- ルール起動要求の通知に失敗した（状態が「実行不可」「実行失敗」または「実行失敗（キャンセル失敗）」に遷移した）。

また、トラブルを検知した場合、JP1 イベント（イベント ID=2010 または 2011）を発行したり、通知コマンドを実行したりできます。

設定については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.4.3 自動アクションの実行状況監視の設定」を参照してください。

操作手順を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面でルール起動対象イベントを監視する。
[アクション種別] に  が表示されている JP1 イベントが、ルール起動対象イベントです。
2. [アクション結果] 画面や [アクション結果一覧] 画面を開き、ルール起動要求の実行結果を確認する。
ルール起動要求の実行状況を確認します。
3. 必要に応じてルール起動要求をキャンセル、または再実行する。
ルール起動要求が「実行中」のまま遷移しなかったり、「実行失敗」になっていたりと、JP1/IM - Rule Operation にルール起動要求を通知できません。必要に応じてルール起動要求をキャンセルしたり、再実行したりしてください。

ルール起動要求に自動アクションの状態監視機能を設定している場合

遅延監視機能、状態監視機能による通知は、それぞれ一度実行されると、ユーザーが通知抑止を解除するまで通知が抑止されます。遅延監視機能、状態監視機能によって、ルール起動要求の異常を検知した場合、ルール起動要求の再実行やキャンセルの対処が完了したあと、次の手順を実施してください。

1. [イベントコンソール] 画面のメニューから [オプション] - [機能状態通知復帰] - [アクション遅延監視] および [アクション状態監視] を表示し、活性化

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

ている機能名を選択する。

抑止状態になっている機能は、表示（文字）が活性しています。活性している機能名を選択すると、通知抑止を解除するかどうかを問い合わせるダイアログボックスが表示されます。

2. 問い合わせダイアログボックスで [はい] ボタンをクリックする。

通知抑止が解除され、監視が再度有効になります。

参考

ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation 側でルールの起動条件に合致したかどうかは、次に示す三つの画面に表示される [終了コード] で確認できます。

- [アクション結果] 画面
- [アクション結果一覧] 画面
- [アクション結果詳細] 画面

[アクション結果] 画面、[アクション結果一覧] 画面、および [アクション結果詳細] 画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「1. 画面遷移と [ログイン] 画面」を参照してください。

また、自動アクションの状態確認、再実行などの操作について、「7.2.2 自動アクションの実行結果を確認する」もあわせて参照してください。

(2) JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細] 画面を表示する

ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation に通知され、JP1/IM - Rule Operation のルール起動条件に合致した場合、次に示す三つの画面から JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細] 画面を表示できます。

- [アクション結果] 画面
- [アクション結果一覧] 画面
- [アクション結果詳細] 画面

次にそれぞれの手順について説明します。

[アクション結果] 画面から JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細] 画面を表示する

操作手順を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面のイベント一覧で、ルール起動対象イベントを 1 件選択する。
2. 次に示すどれかの方法で [アクション結果] 画面を表示する。
 - メニューバーから [表示] - [自動アクション実行結果表示] を選択する。
 - ポップアップメニューから [自動アクション実行結果表示] を選択する。
 - [自動アクション実行結果表示] ボタンをクリックする。

[アクション結果]画面が表示されます。

3. ルール起動要求の実行結果を1件選択する。

ルール起動要求は[種別]に  が表示されています。また,[実行結果一覧]の[終了コード]が「0」になっていることを確認してください。

4. [ルール結果詳細]ボタンをクリックする。

JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細]画面が表示されます。

[アクション結果一覧]画面から JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細]画面を表示する

操作手順を次に示します。

1. [イベントコンソール]画面で[表示] - [自動アクション結果一覧表示]を選択する。

[アクション結果一覧]画面が表示されます。この画面には、ルール起動要求だけでなく、自動アクションの結果も一覧として表示されます。

2. ルール起動要求の実行結果を1件選択する。

ルール起動要求は[種別]に  が表示されています。また,[実行結果一覧]の[終了コード]が「0」になっていることを確認してください。

3. [ルール結果詳細]ボタンをクリックする。

JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細]画面が表示されます。

[アクション結果詳細]画面から JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細]画面を表示する

これまでに説明した [アクション結果]画面,[アクション結果一覧]画面から表示できる [アクション結果詳細]画面からも,JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細]画面を表示できます。

操作手順を次に示します。

1. [アクション結果]画面,[アクション結果一覧]画面の [実行結果一覧]でルール起動要求を1件選択し,[詳細]ボタンをクリックする。

[アクション結果詳細]画面が表示されます。

[実行結果]の終了コード(属性名)が「0」になっていることを確認してください。

2. [ルール結果詳細]ボタンをクリックする。

JP1/IM - Rule Operation の [ルール結果詳細]画面が表示されます。

[アクション結果]画面,[アクション結果一覧]画面,および [アクション結果詳細]画面については,マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「1. 画面遷移と [ログイン]画面」を参照してください。

[ルール結果詳細]画面については,マニュアル「JP1/Integrated Management - Rule Operation 画面リファレンス」を参照してください。

5.2 重要イベントの対処状況を設定する

重要イベントの対処状況を設定する手順、および重要イベントを削除する手順を次に示します。なお、これらの操作には、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

重要イベントの対処状況を設定する

重要イベントへの実際の対処状況に合わせて、重要イベントに対処状況を設定するには、[重要イベント] ページのイベント一覧で重要イベントを選択してから、次のどれかの操作をします。選択した重要イベントがどの対処状況であっても、設定の操作ができます。

- [重要イベント] ページ上のボタンから、設定したい対処状況のボタンをクリックする。
- メニューバーから [表示] を選択し、サブメニューの中から設定したい対処状況を選ぶ。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから、設定したい対処状況を選ぶ。

重要イベントを削除する

[重要イベント] ページに表示されている重要イベントを画面から削除するには、削除したい重要イベントを選択してから、次のどちらかの操作をします。選択した重要イベントがどの対処状況であっても、削除の操作ができます。

- メニューバーから [表示] - [削除] を選択する。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから [削除] を選択する。
- [重要イベント] ページ上のボタンから、削除のボタンをクリックする。

ここでの「削除」は画面から削除するだけで、イベント DB または統合監視 DB からは削除されません。

[重要イベント] ページで設定した重要イベントの対処状況を示す情報（「対処済」、「処理中」、「保留」、「未対処」）は、[イベント監視] ページに表示されている同一イベントにも反映されます。「削除」情報は反映されません。

重要イベントの対処状況を示す情報（「対処済」、「処理中」、「保留」、「未対処」、「削除」）は、ログインしているマネージャーのイベント DB に記録されます。そのため、対処状況を変更すると、同じマネージャーにログインしているほかの JP1/IM - View の [重要イベント] ページの表示も変更されます（「削除」以外の情報については、[イベント監視] ページの表示も変更されます）。ほかのホストから転送されてきた重要イベントの場合、転送元ホストのイベント DB または統合監視 DB の情報は変更されません。

重要イベントの対処状況は、jcochstat コマンドを使用しても設定できます。

jcochstat コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcochstat」(1. コマンド) を参照してください。

5.3 イベントの重大度を変更する

統合監視 DB を使用する場合、重大度変更機能を設定すると、イベントの重大度を変更できます。

統合監視 DB の設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4(2) 統合監視 DB の設定」を参照してください。

また、重大度変更機能を設定する方法は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.10 重大度変更機能の設定」を参照してください。

ここでは、イベントの重大度を変更する手順を次に示します。

1. イベントの重大度変更機能が有効になっていることを確認する。
無効になっている場合は、`jcoimdef` コマンドを使用し、イベントの重大度変更機能を有効にしてください。`-chsev` オプションを ON にすると、イベントの重大度変更機能が有効となります。デフォルトは無効です。`jcoimdef` コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcoimdef`」(1. コマンド)を参照してください。

2. 重大度変更定義ファイルに、イベントの重大度変更の定義を記述する。
重大度変更はシステム単位で定義します。重大度は、「緊急 (Emergency)」、「警戒 (Alert)」、「致命的 (Critical)」、「エラー (Error)」、「警告 (Warning)」、「通知 (Notice)」、「情報 (Information)」、「デバッグ (Debug)」の範囲で変更できます。
重大度変更定義ファイルの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「重大度変更定義ファイル (`jcochsev.conf`)」(2. 定義ファイル)を参照してください。

重大度変更定義ファイルに設定する内容の例

```
DESC_VERSION=1
def 重大度変更 1
  cnd
    B.ID IN 100 200
    E.SEVERITY IN Warning
    B.SOURCESERVER IN hostA hostB hostC
  end-cnd
  sev Emergency
end-def
```

3. JP1/IM - Manager を再起動または `jco_spmd_reload` コマンドを実行する。
ただし、手順 1 で重大度変更機能を無効から有効に変更した場合は、JP1/IM - Manager を再起動する必要があります。
`jco_spmd_reload` コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_spmd_reload」(1. コマンド)を参照してください。

変更後の JP1 イベントの重大度は、イベント一覧の [重大度] に表示します。変更前の JP1 イベントの重大度は、イベント一覧の [重大度 (変更前)] に表示します。また、重大度を変更した JP1 イベントは、イベント一覧の [重大度変更] にアイコンを表示します。

イベント基盤サービスは、マネージャー上のイベントサービスから受信した JP1 イベントの重大度を変更し、統合監視 DB に登録します。その際、イベントサービスのイベント DB の内容は変更されません。

また、マッピング定義を重大度の変更に使用することがあります。マッピング定義を使用すると、イベント一覧の [重大度] に、別の属性を表示できます。

5.4 メモ情報を編集する

統合監視 DB を使用する場合、メモ情報の設定機能を有効にすると、統合監視 DB に保存されている JP1 イベントにメモ情報を追加できます。

統合監視 DB の設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4(2) 統合監視 DB の設定」を参照してください。

また、メモ情報の設定機能を有効にする方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.6 メモ情報の設定」を参照してください。

ここでは、メモ情報を編集し、統合監視 DB の JP1 イベントに反映する手順について説明します。なお、これらの操作には、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

1. [イベント詳細 (編集)] 画面を表示する。
[イベント詳細 (編集)] 画面は、[イベント詳細] 画面の [編集] ボタンをクリックするか、イベント一覧でイベントを 1 件選択し、[イベント詳細 (編集)] メニューを選択することで表示できます。
2. [イベント情報 (編集)] 画面にメモ情報を記述する。
3. [イベント詳細 (編集)] 画面の [メモ適用] ボタンをクリックする。
イベント一覧の表示項目である「メモ」および [イベント詳細] 画面にメモが表示されます。また、メモ情報があるイベントにメモのアイコン  が表示されます。

5.5 JP1 イベントを検索する

さまざまな条件で JP1 イベントを検索し、検索条件に合った JP1 イベントを画面に表示できます。

ここでは、検索方法および検索結果の表示について説明します。

検索の機能詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.5 イベント検索」を、イベント検索で使用する画面の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 画面リファレンス」の「2.18 [イベント検索条件設定] 画面」を参照してください。

5.5.1 検索の方法

次に JP1 イベントの検索方法について説明します。

統合監視 DB を有効にすると、検索対象がイベント DB と統合監視 DB から選択できるようになります。統合監視 DB の設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「1.4(2) 統合監視 DB の設定」を参照してください。

(1) 検索手順

JP1 イベントを検索する手順は次のとおりです。

1. イベント一覧に表示されている JP1 イベントの属性値を検索条件として利用する場合は、[イベントコンソール] 画面のイベント一覧から JP1 イベントを選択する。
2. [イベントコンソール] 画面で [表示] - [イベント検索] を選択する。または [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページで [イベント検索] ボタンをクリックする。
[イベント検索条件設定] 画面が表示されます。
3. [イベント検索条件設定] 画面で検索条件を設定する。
[イベント検索条件設定] 画面では次の項目を設定します。
 - 検索対象の設定
統合監視 DB を使用する場合、[イベント検索条件設定] 画面に [検索対象] が表示され、統合監視 DB またはイベント DB のどちらかを選択できます。統合監視 DB を使用しない場合、[検索対象] の項目は表示されません。イベント DB にある JP1 イベントを検索します。
 - 検索ホスト名の入力
[検索ホスト名] に検索対象のホスト名 (イベントサーバ名) を入力します。
接続しているホスト名がデフォルトで指定されます。
なお、統合監視 DB を使用する場合に [検索対象] で統合監視 DB を選択したときは、[検索ホスト名] の項目が非活性になります。

指定したホスト名は、マネージャーでアドレス解決します。マネージャー上で解決できるホスト名を指定してください。

特に、ファイアウォール環境で、ファイアウォールの外側のビューアーからイベントを検索する場合は、注意が必要です。ファイアウォール環境では、ファイアウォールの外側からと内側からでは、同じホストの IP アドレスが異なって見える場合があります。そのため、ファイアウォールの外側のビューアーから IP アドレスを指定してイベントを検索する場合は、マネージャー上で解決できる IP アドレスを指定してください。

また、複数の LAN に接続したエージェントに対して代表ホスト以外の NIC 経由で接続する場合も、IP アドレスを指定してください。

- 検索方向の指定

統合監視 DB または イベント DB を検索する方向を指定します。

イベントの検索方向が、[過去方向], [未来方向] のどちらか指定します。なお、[過去方向] がデフォルトで指定されます。

詳細については、「(2) イベントの検索方向」を参照してください。

- 条件群の設定

イベント検索の条件を区別するために、条件群に名前を付けます。

条件群は複数設定でき、条件群同士の関係は OR 条件となります。

なお、条件群の設定は [一覧表示] ボタンをクリックして [一覧] を表示状態にしておく必要があります。

条件群の追加 : [追加] ボタンをクリックすると、定義していない名称「条件群 n」(n は数字) が追加されます。

条件群の複製 : 条件群を選択し、[複製] ボタンをクリックすると、「コピー 選択した条件群名」が追加されます。

条件群の削除 : 条件群を選択し、[削除] ボタンをクリックすると、選択した条件群が削除されます。

条件群のリネーム : 条件群を選択すると、選択した条件群の名前が [条件群名] に表示されます。これを編集し、フォーカスを移動すると、条件群の名前が変更されます。

- 条件の設定 (各条件群の詳細設定)

検索したい JP1 イベントの通過条件または除外条件を設定します。

条件は、複数の条件を組み合わせて設定でき、条件同士の関係は AND 条件となります。

設定できる項目は、発生元ホスト名、登録ホスト名、重大度、オブジェクトタイプ、オブジェクト名、登録名タイプ、登録名、事象種別、ユーザー名、メッセージ、プロダクト名、イベント ID、開始時刻、終了時刻、登録時刻、到着時刻、対処状況の状態 (対処済、未対処、対処中、保留)、アクションの状態 (実行あり、実行なし)、メモ、および固有の拡張属性です。

なお、発生元ホストのマッピングが無効な場合、発生元ホスト名を設定できません。また、メモ機能が無効な場合は、メモの項目が設定できません。

検索対象が統合監視 DB の場合に重大度変更機能を使用していたとき、重大度の項目は、変更後の重大度を設定できます。また、重大度 (変更前)、重大度変更の項

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

目が設定できるようになります。

重大度（変更前）の項目では、重大度を変更する前の重大度が設定できます。重大度変更の項目では、重大度を変更したかどうかを設定できます。

[イベントコンソール] 画面で選択した JP1 イベントの属性値を条件一覧に反映させたいときは、[選択イベント条件入力] ボタンをクリックします。

なお、発生元ホスト名、登録ホスト名、オブジェクトタイプ、オブジェクト名、登録名タイプ、登録名、事象種別、ユーザー名、メッセージ、プロダクト名、および固有の拡張属性については、正規表現でも指定できます。正規表現での指定方法については、「(3) 正規表現での指定方法」を参照してください。

4. [OK] ボタンをクリックする。

[イベント検索] ページが表示され、検索が開始するとページのタブに（検索中）が表示されます。検索結果は、[イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページに検索条件と一致したイベントが順次、表示されます。

イベント検索をキャンセルする場合は、[検索キャンセル] ボタンをクリックします。間違った検索条件でイベント検索を実行してしまった場合や、取得したいイベントを見つけた時点でイベント検索を中断できます。

(2) イベントの検索方向

条件の設定に従った範囲を、検索方向を指定して検索できます。1 回の検索で取得できる件数は、[ユーザー環境設定] 画面で変更できます（デフォルト 20 件）。1 回の検索で取得できなかったイベントは [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページで [次イベント検索] ボタンをクリックすることで取得、表示できます。

イベントの検索方向に [過去方向] を指定すると、統合監視 DB または イベント DB に登録された JP1 イベントの最後尾から（新しいイベントから古いイベント方向に）検索します。[過去方向] を指定してイベントを検索した場合、新しいイベントから順に取得、表示します。[次イベント検索] ボタンをクリックすると、表示しているイベントの上に [次イベント検索] ボタンで選択したイベントを表示します。なお、表示は、古い順（取得したイベントのうち、古いイベントが上に、新しいイベントが下に表示される）となるため、注意してください。

イベントの検索方向に [未来方向] を指定すると、統合監視 DB または イベント DB に登録された JP1 イベントの先頭から（古いイベントから新しいイベント方向に）検索します。[未来方向] を指定してイベントを検索した場合、古いイベントから順に取得します。[次イベント検索] ボタンをクリックすると、表示しているイベントの下に [次イベント検索] ボタンで選択したイベントを表示します。

「5.5.2 検索結果の表示」の例を参考にして、イベント検索の動作を確認してください。

(3) 正規表現での指定方法

[イベント検索条件設定] 画面で設定する検索条件として、正規表現を指定できます。正規表現を指定できるのは、登録ホスト名、オブジェクトタイプ、オブジェクト名、登録名タイプ、登録名、事象種別、ユーザー名、メッセージ、プロダクト名、および固有の

拡張属性です。

[イベント検索条件設定] 画面で検索条件として正規表現を指定するには、[条件一覧] のテキストボックスに正規表現で検索条件を指定し、右側のリストボックスから「正規表現」を選択します。なお、固有の拡張属性に対して正規表現を指定するには、[固有の拡張属性条件詳細設定] 画面を使用します。

なお、使用できる正規表現の種類は検索先ホストの JP1/Base の設定に準じます。詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のセットアップの章、正規表現の説明を参照してください。

5.5.2 検索結果の表示

イベントの検索結果は、[イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページに表示されます。

1 回のイベント検索で取得できるイベントの件数は、[ユーザー環境設定] 画面で設定できます。[ユーザー環境設定] 画面でイベント取得件数を設定する方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 画面リファレンス」の「2.17 [ユーザー環境設定] 画面」を参照してください。

[イベント検索] ページのイベント一覧では、左端の列にイベントへの対処状況を示す対処状況マークが表示されます。

対処状況の種類と、その対処状況を示す対処状況マークを次に示します。

表 5-10 対処状況の種類と対処状況マーク

対処状況	対処状況マーク
対処済	
処理中	
保留	
未対処	(無印)

イベント検索時に、1 回で取得されなかったイベントを表示するには、[次イベント検索] ボタンをクリックします。表示される内容は、検索方向、および各条件で設定した範囲によって異なります。

イベント検索結果の表示例を次に示します。

(前提条件)

- ・1 回のイベント検索で取得できるイベントは 20 件。
- ・イベント DB には次に示すイベントだけが格納されている。

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

図 5-3 イベント DB に格納されているイベント

```
2000 07/01 00:01:00 イベント01
2000 07/01 00:02:00 イベント02
2000 07/01 00:03:00 イベント03
2000 07/01 00:04:00 イベント04
2000 07/01 00:05:00 イベント05
(中略)
2000 07/01 00:56:00 イベント56
2000 07/01 00:57:00 イベント57
2000 07/01 00:58:00 イベント58
2000 07/01 00:59:00 イベント59
2000 07/01 01:00:00 イベント60
```

(例 1)

[イベント検索条件設定] 画面の [検索方向] で [過去方向] を指定すると、イベント一覧には、イベント DB に登録された JP1 イベントの最後尾から 20 件までの JP1 イベントが表示されます。

図 5-4 イベントの最後尾から 20 件表示

```
2000 07/01 00:41:00 イベント41
2000 07/01 00:42:00 イベント42
(中略)
2000 07/01 00:59:00 イベント59
2000 07/01 01:00:00 イベント60
```

[次イベント検索] ボタンをクリックすると、次の 20 件のイベントがすでに表示されているイベントの上に追加して表示されます。

図 5-5 [次イベント検索] ボタンクリック後の表示

```
2000 07/01 00:21:00 イベント21
2000 07/01 00:22:00 イベント22
(中略)
2000 07/01 00:39:00 イベント39
2000 07/01 01:40:00 イベント40
2000 07/01 00:41:00 イベント41
2000 07/01 00:42:00 イベント42
(中略)
2000 07/01 00:59:00 イベント59
2000 07/01 01:00:00 イベント60
```

} 追加

(例2)

[イベント検索条件設定] 画面の [検索方向] で [未来方向] を指定すると、イベント一覧には、イベント DB に登録された JP1 イベントの先頭から 20 件までの JP1 イベントが表示されます。

図 5-6 イベントの先頭から 20 件表示

```
2000 07/01 00:01:00 イベント01
2000 07/01 00:02:00 イベント02
(中略)
2000 07/01 00:19:00 イベント19
2000 07/01 00:20:00 イベント20
```

[次イベント検索] ボタンをクリックすると、次の 20 件のイベントがすでに表示されているイベントの下に追加して表示されます。

図 5-7 [次イベント検索] ボタンクリック後の表示

```
2000 07/01 00:01:00 イベント01
2000 07/01 00:02:00 イベント02
(中略)
2000 07/01 00:19:00 イベント19
2000 07/01 00:20:00 イベント20
2000 07/01 00:21:00 イベント21
2000 07/01 00:22:00 イベント22
(中略)
2000 07/01 00:39:00 イベント39
2000 07/01 00:40:00 イベント40
```

} 追加

5.5.3 イベント検索で対処状況を設定する

[イベント検索] ページでは、検索結果であるイベントを表示している状態で、イベントの実際の対処状況に合わせ、対処状況を設定できます。なお、対処状況を設定するには、次の条件があります。

- ログインしているマネージャーからの検索結果である。
- JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限がある。

[イベント検索] ページで対処状況を設定する

「対処済」「処理中」「保留」および「未対処」の四つの対処状況を設定できます。対処状況を設定するには、[イベント検索] ページの設定対象とするイベントを選択

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

してから、次のどちらかの操作をします。

- メニューバーから [表示] を選択し、サブメニューの中から設定したい対処状況を選ぶ。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから、設定したい対処状況を選ぶ。

[イベント検索] ページで設定したイベントの対処状況を示す情報 (「 対処済 」 , 「 処理中 」 , 「 保留 」 , 「 未対処 」) は , [イベント監視] ページ , [重要イベント] ページに表示されている同一イベントにも反映されます。

[イベント検索] ページでは検索した時点のイベント内容を表示しているため、ほかのページで変更されてもこのページでの表示は変わりません。最新データを表示する場合は、再度検索を実行してください。

5.6 JP1 イベントを発行したアプリケーションをモニター起動する

受信した JP1 イベントに関連するプログラムのモニター画面を表示し、情報の参照や操作ができます。この機能は、WWW ページ版の JP1/IM・View では使用できません。

[イベントコンソール] 画面からモニター画面を起動するには、次のように操作します。

1. [イベントコンソール] 画面のイベント一覧で JP1 イベントを選択し、[表示] - [モ

ニター起動] を選択する。または、ツールバーの  をクリックするか、ポップアップメニューの [モニター起動] を選択する。

対応するプログラムのモニター画面 (WWW ページまたはアプリケーションプログラム) が起動します。

また、[イベント詳細] 画面の [モニター起動] ボタンをクリックして、モニター画面を起動することもできます。

なお、選択した JP1 イベントに対応するプログラムがない、またはモニター画面を起動するための設定がされていない場合は、メニューおよびボタンは選択できません。モニター画面を起動するための設定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「4.14 連携製品のモニター起動の設定」を参照してください。

5.6.1 対応するプログラム

モニター画面を起動できるプログラムを次の表に示します。

プログラム名	画面種別	モニター起動定義ファイル名	対応 OS
JP1/NETM/Asset Information Manager	WWW ページ	hitachi_jp1_aim_mon_ja.conf	Windows Vista および Windows 7 以外の Windows
JP1/PFM	WWW ページ	hitachi_jp1_pfmmgr_mon_ja.conf	制限なし
JP1/IM・Rule Operation	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_im_rm_mon_ja.conf	制限なし

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

プログラム名	画面種別	モニター起動定義ファイル名	対応 OS
JP1/IM - Event Gateway for Network Node Manager i	WWW ページ	hitachi_jp1_im_egn_mon_ja.conf	制限なし
JP1/Base (SNMP トラップ)	WWW ページ	hitachi_jp1_imevtgw_mon_ja.conf	制限なし
JP1/AJS2 - Scenario Operation	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_ajs2so_mon_ja.conf	制限なし
JP1/AJS3 (バージョン 9 以降) または JP1/AJS2 (バージョン 8 以前)	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_ajs2_mon_ja.conf	制限なし
JP1/AJS2 メインフレーム	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_ajs2_mainframe_mon_ja.conf	制限なし
Cosminexus Application Server	アプリケーションプログラム	hitachi_cosminexus_manager_mon_ja.conf	制限なし

5.7 表示フィルターを有効にする

[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページに表示される JP1 イベントに対し、表示フィルターを有効にするには次の操作をします。

1. [フィルター名] リストボックスから、有効にしたい表示フィルターを選択する。
2. [表示フィルター] チェックボックスをチェックする、またはメニューから [表示]
- [表示フィルターの適用] を選択する。
フィルターで設定した条件に一致する JP1 イベントが、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページに表示されます。

表示フィルターを有効にするには、フィルター設定を済ませておく必要があります。

表示フィルターの設定について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の
「4.2.1 表示フィルターを設定する」

5.8 イベント取得フィルターを切り替える

JP1/IM が JP1/Base から JP1 イベントを取得するときのフィルター条件を、複数保存してあるイベント取得フィルターから一つ選択して、切り替えられます。

また、イベント取得フィルターで一時的に特定の JP1 イベントの取得を対象外にしたい場合に定義する共通除外条件の有効・無効を切り替えられます。

共通除外条件の切り替えは、メンテナンス作業を実施するホストを JP1/IM の監視対象外として、メンテナンス作業を実施するホストから発行される JP1 イベントを一時的に取得しないようフィルタリングする場合に実施します。

イベント取得フィルター、および共通除外条件の切り替え方法には、次の 2 種類があります。

- JP1/IM - View の [システム環境設定] 画面または [イベント取得条件一覧] 画面から切り替える
- `jcochfilter` コマンドを使用して切り替える

ただし、イベント取得フィルターが互換用で動作している場合は、イベント取得フィルターの切り替えはできません。

イベント取得フィルターを切り替えた場合に発行されるイベントについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.2.2 イベント取得フィルター」を参照してください。

5.8.1 JP1/IM - View の [システム環境設定] 画面または [イベント取得条件一覧] 画面から切り替える

JP1/IM - View の [システム環境設定] 画面または [イベント取得条件一覧] 画面でイベント取得フィルター、および共通除外条件の有効・無効を切り替えられます。

なお、[システム環境設定] 画面および [イベント取得条件一覧] 画面を起動するには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。また、業務グループの参照・操作制限を設定している場合、JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2) JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

(1) [システム環境設定] 画面から切り替える

(a) イベント取得フィルターを切り替える

切り替えるイベント取得フィルター名が明確な場合、[システム環境設定] 画面からイベント取得フィルターを選択して、切り替えを実施します。

設定手順は、次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で [オプション] - [システム環境設定] を選択する。
[システム環境設定] 画面が表示されます。
2. [適用中のフィルター] のドロップダウンリストから、イベント取得フィルターを選択する。
3. [適用] ボタンをクリックする。
設定した内容が有効になります。

(b) 共通除外条件の有効・無効を切り替える

設定手順は、次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で [オプション] - [システム環境設定] を選択する。
[システム環境設定] 画面が表示されます。
2. [共通除外条件群一覧] から、適用したい条件群をチェックする。
3. [適用] ボタンをクリックする。
設定した内容が有効になります。

(2) [イベント取得条件一覧] 画面から切り替える

(a) イベント取得フィルターを切り替える

[システム環境設定] 画面からでは切り替えるイベント取得フィルター名が特定できない場合、[イベント取得条件一覧] 画面でイベント取得フィルターの設定内容などを確認して、切り替えを実施します。

設定手順は、次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で [オプション] - [システム環境設定] を選択する。
[システム環境設定] 画面が表示されます。
2. [イベント取得条件] の [一覧編集] ボタンをクリックする。
[イベント取得条件一覧] 画面が表示されます。
3. [フィルター一覧] から、イベント取得フィルターを選択する。
フィルター ID やフィルター名からイベント取得フィルターを特定します。内容を確認したい場合は、イベント取得フィルターを一つ選択し、[編集] ボタンをクリックすると、[イベント取得条件設定] 画面が表示され、選択したフィルターの内容が確認できます。
4. [OK] ボタンをクリックする。
[システム環境設定] 画面に戻ります。
5. [適用] ボタンをクリックする。
設定した内容が有効になります。

なお、[イベント取得条件一覧] 画面では、フィルター条件の追加・編集・複製・削除ができません。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

ガイド」の「4.2.4 イベント取得フィルターを設定する」を参照してください。

(b) 共通除外条件の有効・無効を切り替える

設定手順は、次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で [オプション] - [システム環境設定] を選択する。
[システム環境設定] 画面が表示されます。
2. [イベント取得条件] の [一覧編集] ボタンをクリックする。
[イベント取得条件一覧] 画面が表示されます。
3. [共通除外条件群一覧] から、適用したい条件群をチェックする。
内容を確認したい場合は、共通除外条件を一つ選択し、[編集] ボタンをクリックすると、[共通除外条件設定] 画面が表示され、選択した共通除外条件の内容が確認できます。
4. [OK] ボタンをクリックする。
[システム環境設定] 画面に戻ります。
5. [適用] ボタンをクリックする。
設定した内容が有効になります。

5.8.2 jcochfilter コマンドを使用して切り替える

jcochfilter コマンドを使用して、イベント取得フィルター、および共通除外条件の有効・無効を切り替えられます。

jcochfilter コマンドでイベント取得フィルター、および共通除外条件の有効・無効を切り替える場合、JP1/AJS のジョブスケジューラー機能を使用して、所定の時刻に jcochfilter コマンドを実行し、保守業務を開始するジョブネットを作成することで、保守業務と監視状態の変更を自動的化できます。

(1) イベント取得フィルターを切り替える

イベント取得フィルターには、固有のフィルター ID が設定されています。このフィルター ID を利用して、jcochfilter コマンドでイベント取得フィルターを切り替えます。

jcochfilter コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcochfilter」(1. コマンド) を参照してください。

設定手順は、次のとおりです。

1. jcochfilter コマンドを入力して、イベント取得条件一覧をリスト表示する。
物理ホストと論理ホストで、イベント取得条件一覧を表示する場合の例を次に示します。
 - 物理ホスト上のイベント取得条件一覧を表示する場合

次のようにコマンドを入力します。

```
jcochfilter
```

- 論理ホスト hostA 上のイベント取得条件一覧を表示する場合

次のようにコマンドを入力します。

```
jcochfilter -h hostA
```

論理ホスト hostA 上のイベント取得条件一覧の表示例を次に示します。

図 5-8 jcochfilter コマンドによるイベント取得条件一覧の表示例

```
> jcochfilter
KAVB1005-I コマンド (jcochfilter) を開始しました
KAVB0856-I イベント取得フィルター一覧を表示します。ホスト名 : hostA
KAVB0857-I JP1/IM-Central Consoleに接続しました
現在適用しているフィルターID : 3
      フィルター名 : 通常運用フィルター
現在適用している共通除外条件群ID : 0
      共通除外条件群名 : APサーバーメンテナンス
現在適用している共通除外条件群ID : 2
      共通除外条件群名 : DBサーバーメンテナンス

定義されているフィルター一覧 :
ID   フィルター名
0    既存のフィルター条件
3    通常運用フィルター
定義されている共通除外条件群一覧 :
ID   条件群名
0    APサーバーメンテナンス
1    Webサーバーメンテナンス
2    DBサーバーメンテナンス
KAVB1002-I コマンド (jcochfilter) が正常終了しました
```

指定したホスト上の JP1/IM - Manager が起動されていない場合、コマンドによるイベント取得フィルターの切り替えは実行できません。

2. フィルター ID やフィルター名からイベント取得フィルターを特定する。

3. jcochfilter -i コマンドを入力して、イベント取得フィルターを切り替える。

物理ホストと論理ホストで、イベント取得フィルターを切り替える場合の例を次に示します。

- 物理ホスト上のイベント取得フィルターをフィルター ID が 3 のフィルターに切り替える場合

次のようにコマンドを入力します。

```
jcochfilter -i 3
```

- 論理ホスト hostA 上のイベント取得フィルターをフィルター ID が 3 のフィルターに切り替える場合

次のようにコマンドを入力します。

```
jcochfilter -i 3 -h hostA
```

(2) 共通除外条件の有効・無効を切り替える

共通除外条件には、固有の共通除外条件群 ID が設定されています。この共通除外条件群 ID を利用して、`jcochfilter` コマンドで共通除外条件の有効・無効を切り替えます。

`jcochfilter` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcochfilter`」(1. コマンド) を参照してください。

設定手順は、次のとおりです。

1. `jcochfilter` コマンドを入力して、イベント取得条件一覧をリスト表示する。

物理ホストと論理ホストで、イベント取得条件一覧を表示する場合の例を次に示します。

- 物理ホスト上のイベント取得条件一覧を表示する場合

次のようにコマンドを入力します。

```
jcochfilter
```

- 論理ホスト `hostA` 上のイベント取得条件一覧を表示する場合

次のようにコマンドを入力します。

```
jcochfilter -h hostA
```

指定したホスト上の JP1/IM - Manager が起動されていない場合、コマンドによるイベント取得フィルターの切り替えは実行できません。

2. 共通除外条件群 ID や共通除外条件群名から共通除外条件群を特定する。

3. 共通除外条件群の有効・無効を切り替える。

次のどちらかのオプションで共通除外条件群の有効・無効を切り替えます。

- `-e` オプション

有効にしたい共通除外条件群 ID を指定します。

指定しなかった共通除外条件群は無効となります。

- `-on` または `-off` オプション

有効にしたい共通除外条件群 ID を指定します。

指定しなかった共通除外条件群の有効・無効は変更されません。

共通除外条件の動作モードが拡張モードの場合に使用できます。

物理ホストと論理ホストで、共通除外条件の有効・無効を切り替える場合の例を次に示します。

- 物理ホスト上の共通除外条件群 ID が 3 の共通除外条件を有効にして、共通除外条件群 ID が 1, 2 の共通除外条件を無効にした場合 (指定した共通除外条件群だけが変更されます。)

この指定は、共通除外条件の動作モードが拡張モードの場合に使用できます。

```
jcochfilter -on 3 -off 1,2
```

- 物理ホスト上の共通除外条件群 ID が 3 の共通除外条件を有効にして、それ以外を無効にする場合

```
jcochfilter -e 3
```

- 論理ホスト hostA 上の共通除外条件群 ID が 3 の共通除外条件を有効にして、それ以外を無効にする場合

```
jcochfilter -e 3 -h hostA
```

5.9 JP1/IM - View の表示情報を CSV 出力する

JP1/IM - View に表示されている情報について、次の三つの方法で CSV 出力できます。

- JP1/IM - View に表示されている JP1 イベントの一覧情報をファイルに保存する。
- 統合監視 DB に登録している JP1 イベントを `jcoevtreport` コマンドを使用して CSV 出力する。
- JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などで、選択した部分をクリップボードにコピーする。

ここでは、それぞれの方法で CSV 出力する手順について説明します。

5.9.1 イベント一覧を CSV 出力する

JP1/IM - View に表示されているイベント一覧のスナップショット を、CSV ファイルに保存できます。この機能は、WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。

注 スナップショットとは、特定のタイミングで情報を抽出することを意味します。

CSV 出力できる画面を次に示します。

- [イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページ
- [イベントコンソール] 画面の [重要イベント] ページ
- [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページ

CSV 出力する手順は次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で CSV 出力するページを表示する。
[イベントコンソール] 画面のタブで切り替えてください。
CSV 出力されるのは、表示したページのイベント一覧に表示されている情報です。イベント一覧に表示されていない JP1 イベントや項目は出力されません。
[イベント監視] ページに表示されている JP1 イベントを絞り込みたい場合は、表示フィルターを適用してから次に進んでください。
[イベント検索] ページの場合、イベント検索を実行し、CSV 出力したい JP1 イベントを表示してから次に進んでください。
2. [イベントコンソール] 画面で [ファイル] - [表示イベントを保存] を選択する。
[表示イベントを保存] 画面が表示されます。
3. 任意のフォルダに任意のファイル名で保存する。
任意のフォルダ名、任意のファイル名を指定して、保存してください。

5.9.2 統合監視 DB の内容を CSV 出力する

ここでは統合監視 DB の内容を CSV 出力する手順について説明します。CSV 形式で出

力できる情報や、CSV の出力形式については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.11.2 統合監視 DB のイベント情報を保管（イベントレポート出力）」を参照してください。

CSV 出力する手順は次のとおりです。

1. `jcoevtreport` コマンドに CSV 出力する JP1 イベントの属性を指定する。

- 出力範囲

`jcoevtreport` コマンドに出力対象始点日オプション（`-s`）と出力対象終点日オプション（`-e`）を指定することで、出力範囲の指定ができます。

また、`jcoevtreport` コマンドにフィルタリングオプション（`-f`）を指定することで、システム管理者が指定した条件に一致する JP1 イベントだけを CSV 形式にして出力できます。

さらに、`jcoevtreport` コマンドに保存出力オプション（`-save`）を指定することで、統合監視 DB に登録している JP1 イベントの情報を保存出力できます。システム管理者は、定期的に保存出力することで、すべての JP1 イベントの情報を保存できます。

- 出力内容

`jcoevtreport` コマンドに出力項目オプション（`-k`）を指定することで、CSV 形式にして出力する JP1 イベントの固有情報を絞り込むことができます。

また、`jcoevtreport` コマンドに保守情報出力オプション（`-sys`）を指定することで、統合監視 DB に登録している JP1 イベントの保守情報を CSV 形式にして出力できます。保守情報出力は、統合監視 DB で障害が発生した場合の資料採取が目的であるため、出力項目の指定やフィルタリングができません。

- 出力先

`jcoevtreport` コマンドは、アプリケーションで扱いやすいようにファイルを分割しながら JP1 イベントの情報を CSV 形式にして出力します。`jcoevtreport` コマンドの `-o` オプションを指定することで、出力先ファイルの名称を変更できます。出力先ファイルの名称は、「出力ファイル名_通し番号.csv」です。

`jcoevtreport` コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcoevtreport`」(1. コマンド)を参照してください。

2. `jcoevtreport` コマンドを実行して、統合監視 DB に登録している JP1 イベントの情報を、CSV 出力する。

5.9.3 JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピーする

JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などについて、選択した部分の情報を CSV 形式でクリップボードにコピーできます。この機能は、WWW ページ版の JP1/IM・View では使用できません。

5. セントラルコンソールによるシステムの監視

CSV形式でクリップボードにコピーできる情報や、機能を使用できる画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.11.3 JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピー」を参照してください。

CSV形式でクリップボードにコピーする手順は次のとおりです。

1. クリップボードにコピーしたい情報がある画面を表示する。
2. コピーしたい情報を選択する。
3. ショートカットキーの [Ctrl] + [C] キーを押す。

選択した情報がクリップボードにコピーされます。[イベントコンソール] 画面では、ショートカットキーの [Ctrl] + [C] キーを押す代わりに [編集] - [コピー] も選択できます。

6

セントラルスコープによる システムの監視

この章では、JP1/IM - View を使用して監視オブジェクトを監視する手順について説明します。

6.1 [監視ツリー] 画面で監視する

6.2 [ビジュアル監視] 画面で監視する

6.1 [監視ツリー] 画面で監視する

監視オブジェクトの状態は、[監視ツリー] 画面で監視できます。また、[監視ツリー] 画面に表示される監視ノード（監視グループ・監視オブジェクト）に対して、状態の変更や監視状態の変更など、各種操作ができます。

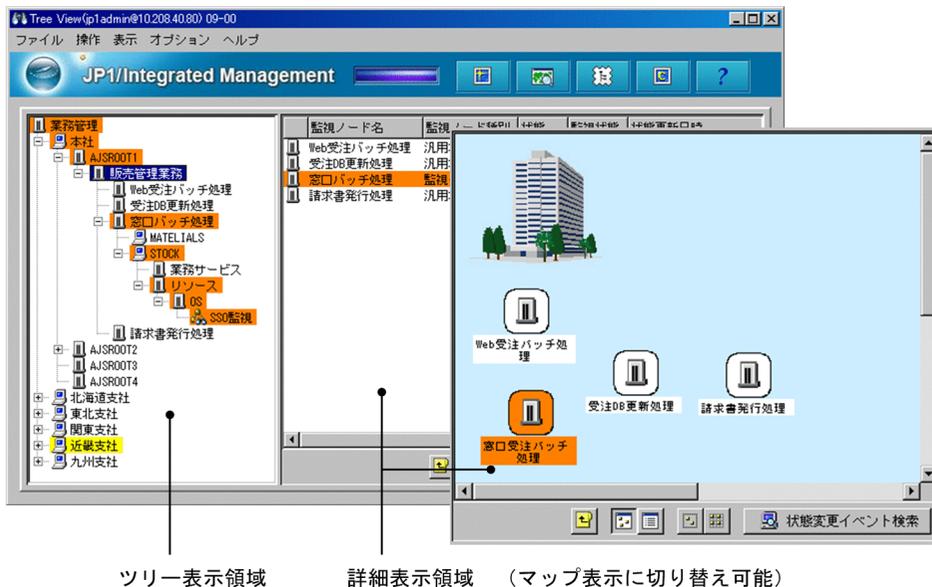
監視ツリーの監視範囲設定を有効にしている場合、監視ツリーには、ログインしている JP1 ユーザーと同じ JP1 資源グループが設定されている監視ノードだけが表示されます。このとき、仮想ルートノードが最上位ノードとして表示されます。表示できる監視ノードが一つもない場合は、仮想ルートノードだけが表示されます。ただし、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つ JP1 ユーザーでログインしている場合は、すべての監視ノードが表示されます。

[監視ツリー] 画面は、次に示す三つのうち、どれかの方法で表示できます。

- JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) にログインする。
- [イベントコンソール] 画面の [セントラルスコープ起動] ボタンをクリックする。
- [イベントコンソール] 画面のメニューバーから [ファイル] - [セントラルスコープ起動] を選択する。

[監視ツリー] 画面の表示例を次に示します。

図 6-1 [監視ツリー] 画面の表示例



6.1.1 監視ノードの状態を変更する

[監視ツリー] 画面に表示された監視ノードの状態を変更する手順について説明します。

なお、変更できる状態、変更時の動作は、監視ノードの種別（監視グループ、監視オブジェクト）によって異なります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2 監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの状態を変更するには、JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は、表示されている監視ノードのうち、JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できます。

監視ノードの状態を変更する手順を次に示します。

1. ツリー表示領域または詳細表示領域に表示された監視ノードを選択する。
2. 次に示すどちらかの方法で監視ノードの状態を変更する。
 - メニューバーから [操作] - [状態変更] を選択し、ユーザーが意図する状態に変更する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [状態変更] を選択し、ユーザーが意図する状態に変更する。

確認ダイアログボックスが表示されます。

3. 確認ダイアログボックスで [はい] ボタンをクリックする。

6.1.2 監視ノードの監視状態を変更する

監視ノードの監視状態を変更する手順について説明します。なお、変更時の動作は、監視ノードの種別（監視グループ、監視オブジェクト）によって異なります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2 監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの監視状態を変更するには、JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は、表示されている監視ノードのうち、JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できます。

監視ノードの監視状態を変更する手順を次に示します。

1. ツリー表示領域または詳細表示領域に表示された監視ノードを選択する。
2. 次に示すどれかの方法で監視ノードの状態を変更する。
 - メニューバーから [操作] - [監視状態変更] を選択し、ユーザーが意図する監視状態に変更する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [監視状態変更] を選択し、ユーザーが意図する監視状態に変更する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [プロパティ] を選択し、[全般] ページの「監視」「非監視」ボックスのどちらかを選択し、[OK] ボタンまたは [適用] ボタンをクリックする。

6. セントラルスコープによるシステムの監視

- 選択した監視ノードをダブルクリックして、[プロパティ]画面を表示し、[全般]ページの「監視」「非監視」ボックスのどちらかを選択し、[OK]ボタンまたは[適用]ボタンをクリックする（監視オブジェクト限定）。

! 注意事項

- 上位監視グループの監視状態が「非監視」の場合、下位監視ノードだけを「監視」にすることはできません。
- 監視ノードの監視状態を「非監視」にすると、状態は「初期状態」に戻ります。

6.1.3 監視ノードを検索する

監視ノードを検索する手順について説明します。監視ツリーの監視範囲設定が有効になっている場合、仮想ルートノードを基点に検索できません。また、仮想ルートノードは検索対象になりません。

監視ノードを検索する手順を次に示します。

1. ツリー表示領域または詳細表示領域に表示された監視グループを選択する。
検索できる監視ノードは、選択した監視グループおよびその監視グループ下の監視ノードに限定できます。
2. 次に示すどちらかの方法で[検索]画面を表示する。
 - メニューバーから[表示] - [検索]を選択する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから[検索]を選択する。
3. [検索]画面で条件を入力し、[検索]ボタンをクリックする。
検索条件に一致する監視ノードが一覧表示されます。

一覧表示された監視ノードに対して次の操作ができます。

- 監視ノードの状態、監視状態を変更する。
監視ノードの状態、監視状態を変更する場合は、右クリックしてポップアップメニューを表示してください。
- 目的とする監視ノードを選択した状態で[監視ツリー]画面を表示する。
この場合は、ダブルクリックしてください。

6.1.4 状態変更イベントを検索する

状態変更イベントを検索する手順を次に示します。

1. 状態が変わった監視ノードを選択する。
2. 次に示すどれかの方法で状態変更イベント検索を実行する。
 - メニューバーから[表示] - [状態変更イベント検索]を選択する。

- 右クリックして表示されるポップアップメニューから [状態変更イベント検索] を選択する。
- 詳細表示領域下にある [状態変更イベント検索] ボタンをクリックする。

監視オブジェクトに対し、状態変更イベント検索を実行した場合、その監視オブジェクトの、状態変更条件に合致した JP1 イベントが、発生の古い順に 100 件まで [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページに表示されます (101 件以降は表示されません)。このため、検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら、適宜、監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

なお、監視オブジェクトの状態変更条件に合致した JP1 イベントが 100 件を超えた場合には、警告の JP1 イベント (イベント ID = 00003FB1) が発行されます。この JP1 イベントが発行された場合には、状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認し、監視オブジェクトの状態を手動で変更してください。

監視グループに対し、状態変更イベント検索を実行した場合、その監視グループ配下の各監視オブジェクトの、状態変更条件に合致した JP1 イベントが、発生の古い順に 100 件まで [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページに表示されます (101 件以降は表示されません)。ただし、監視グループの状態変更条件を定義している場合には、下位の監視ノードの状態を変更したイベントがあっても、対策の必要がある状態変更イベントだけ、発生の古い順に 100 件まで表示されます。

! 注意事項

- 監視ノードの状態を手動で変更すると、状態変更イベントの履歴がクリアされるため、それまでに発生していた状態変更イベントを検索 (表示) できなくなります。監視ノードの状態を手動で変更する前に、状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認してください。
- 状態変更イベント検索で検索できる JP1 イベントは、ユーザーフィルターによって制限された JP1 イベントとなります (ユーザーフィルターによる制限の対象となるユーザーの場合)。
- 状態変更イベントの検索をする場合は、前もって [イベントコンソール] 画面を起動しておくことをお勧めします。
- 監視オブジェクトの状態変更条件に合致する JP1 イベントが 100 件を超えた場合には、対処済み連動機能は無効になります。このため、検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら、適宜、監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

6.1.5 監視ノードの属性を表示する

監視ノードの属性を表示する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。

6. セントラルスコープによるシステムの監視

- 次に示すどれかの方法で [プロパティ] 画面を表示する。
 - メニューバーから [表示] - [プロパティ] を選択する。
 - メニューバーから [オプション] - [基本情報] を選択する。
 - メニューバーから [オプション] - [状態変更条件] を選択する。
 - メニューバーから [オプション] - [イベント発行条件] を選択する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [プロパティ] を選択する。
 - ダブルクリックする (監視オブジェクト限定) 。

なお, [プロパティ] 画面に表示される属性のうち幾つかは, JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーであれば変更できます。監視ノードの属性を変更する場合は, JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーでログインしてください。

6.1.6 ガイド情報を表示する

ガイド情報を表示する手順を次に示します。

- 監視オブジェクトを選択する。
- 次に示すどちらかの方法で [ガイド] 画面を表示する。
 - メニューバーから [表示] - [ガイド] を選択する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ガイド] を選択する。

なお, 状況に応じたガイド情報を表示するための条件や, ガイド情報の内容は, あらかじめガイド情報ファイルに定義する必要があります。

ガイド情報の機能, 設定, および定義ファイルについて

- ガイド情報について設定する内容, ガイド機能について
参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.7 ガイド機能」
- ガイド情報ファイルの編集について
参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「5.6 ガイド情報の編集」
- ガイド情報ファイルの書式について
参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ガイド情報ファイル (jcs_guide_XXX.txt)」(2. 定義ファイル)

6.1.7 [ビジュアル監視] 画面を表示する

[ビジュアル監視] 画面を表示する手順を次に示します。

- 次に示すどちらかの方法で [ビジュアル監視画面を開く] 画面を表示する。
 - メニューバーから [表示] - [ビジュアル監視] を選択する。

- ツールバーの  をクリックする。

2. [ビジュアル監視画面を開く] 画面で表示したい [ビジュアル監視] 画面名を選択し , [OK] ボタンをクリックする。

6.1.8 ログインユーザーの一覧を表示する

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) にログインしている JP1 ユーザーの一覧を表示する手順を次に示します。

1. メニューバーの [オプション] - [ログインユーザー一覧] を選択する。

6.1.9 [監視ツリー] 画面の情報をローカルホストに保存する

ローカルホストに保存する手順を次に示します。

1. メニューバーから [ファイル] - [監視ツリーの状態を保存] を選択する。
ファイル選択画面が開きます。
2. ローカルホストの任意のフォルダに任意の名称を付けて保存する。
監視ツリーの情報が CSV 形式のファイルで保存されます。

監視ツリーの監視範囲設定が有効になっている場合 , [監視ツリー] 画面の情報はローカルホストに保存できません。保存したい場合は , [監視ツリー (編集)] 画面からローカルホストに保存してください。

6.2 [ビジュアル監視] 画面で監視する

監視オブジェクトの状態は、[ビジュアル監視] 画面で監視できます。

監視ツリーの監視範囲設定を有効にしている場合、[ビジュアル監視] 画面には、ログインしている JP1 ユーザーと同じ JP1 資源グループが設定されている監視ノードだけが表示されます。ただし、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限の JP1 ユーザーでログインしている場合は、すべての監視ノードが表示されます。

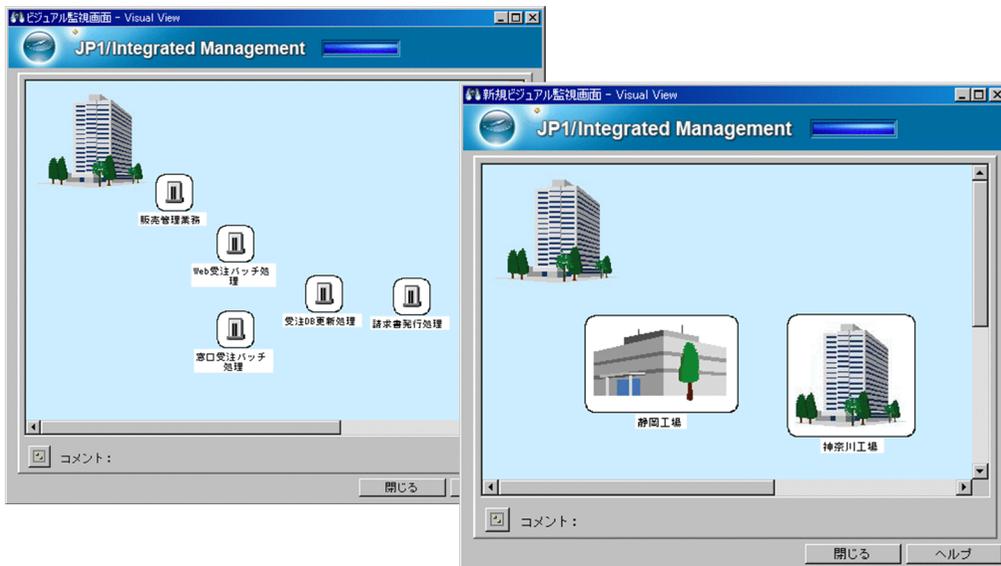
[ビジュアル監視] 画面は、次に示す手順で表示できます。

- 次に示すどちらかの方法で [ビジュアル監視画面を開く] 画面を表示する。
 - [監視ツリー] 画面のメニューバーから [表示] - [ビジュアル監視] を選択する。
 - [監視ツリー] 画面のツールバーの  をクリックする。
- [ビジュアル監視画面を開く] 画面で表示したい [ビジュアル監視] 画面名を選択し、[OK] ボタンをクリックする。

監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合、表示できる監視ノードが一つもないビジュアル監視画面は、[ビジュアル監視画面を開く] 画面の一覧に表示されません。

[ビジュアル監視] 画面の表示例を次に示します。

図 6-2 [ビジュアル監視] 画面の表示例



6.2.1 [ビジュアル監視] 画面から [監視ツリー] 画面を呼び出す

[ビジュアル監視] 画面から [監視ツリー] 画面を表示する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択し、ダブルクリックする。
[ビジュアル監視] 画面でダブルクリックした監視ノードを選択した状態で [監視ツリー] 画面が表示されます。

6.2.2 監視ノードの状態を変更する

[ビジュアル監視] 画面に表示された監視ノードの状態を変更する手順について説明します。なお、変更できる状態、変更時の動作は、監視ノードの種別（監視グループ、監視オブジェクト）によって異なります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2 監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの状態を変更するには、JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は、表示されている監視ノードのうち、JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できません。

監視ノードの状態を変更する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。
2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから [状態変更] を選択し、ユーザーが意図する状態に変更する。
確認ダイアログボックスが表示されます。
3. 確認ダイアログボックスで [はい] ボタンをクリックする。

6.2.3 監視ノードの監視状態を変更する

監視ノードの監視状態を変更する手順について説明します。なお、変更時の動作は、監視ノードの種別（監視グループ、監視オブジェクト）によって異なります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2 監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの監視状態を変更するには、JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は、表示されている監視ノードのうち、JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できません。

監視ノードの監視状態を変更する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。

6. セントラルスコープによるシステムの監視

2. 次に示すどれかの方法で監視ノードの状態を変更する。

- 右クリックして表示されるポップアップメニューから [監視状態変更] を選択し、ユーザーが意図する監視状態に変更する。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから [プロパティ] を選択し、[全般] ページの「監視」「非監視」ボックスのどちらかを選択し、[OK] ボタンまたは [適用] ボタンをクリックする。

! 注意事項

- 上位監視グループの監視状態が「非監視」の場合、下位監視ノードだけを「監視」にすることはできません。上位監視グループの監視状態は、[監視ツリー] 画面で確認してください。
- 監視ノードの監視状態を「非監視」にすると、状態は「初期状態」に戻ります。

6.2.4 監視ノードを検索する

監視ノードを検索する手順を次に示します。

1. 監視グループを選択する。

検索できる監視ノードは、選択した監視グループおよびその監視グループ下の監視ノードに限定できます。

2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから [検索] を選択する。

3. [検索] 画面で条件を入力し、[検索] ボタンをクリックする。

検索条件に一致する監視ノードが一覧表示されます。

一覧表示された監視ノードに対して次の操作ができます。

- 監視ノードの状態、監視状態を変更する。
監視ノードの状態、監視状態を変更する場合は、右クリックしてポップアップメニューを表示してください。
- 目的とする監視ノードを選択した状態で [監視ツリー] 画面を表示する。
この場合は、ダブルクリックしてください。

6.2.5 状態変更イベントを検索する

状態変更イベントを検索する手順を次に示します。

1. 状態が変わった監視ノードを選択する。

2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから [状態変更イベント検索] を選択する。

監視オブジェクトに対し、状態変更イベント検索を実行した場合、その監視オブジェク

トの、状態変更条件に合致した JP1 イベントが、発生の古い順に 100 件まで [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページに表示されます (101 件以降は表示されません)。このため、検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら、適宜、監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

なお、監視オブジェクトの状態変更条件に合致した JP1 イベントが 100 件を超えた場合には、警告の JP1 イベント (イベント ID = 00003FB1) が発行されます。この JP1 イベントが発行された場合には、状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認し、監視オブジェクトの状態を手動で変更してください。

監視グループに対し、状態変更イベント検索を実行した場合、その監視グループ配下の各監視オブジェクトの、状態変更条件に合致した JP1 イベントが、発生の古い順に 100 件まで [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページに表示されます (101 件以降は表示されません)。ただし、監視グループの状態変更条件を定義している場合には、下位の監視ノードの状態を変更したイベントがあっても、対策の必要がある状態変更イベントだけ、発生の古い順に 100 件まで表示されます。

! 注意事項

- 監視ノードの状態を手動で変更すると、状態変更イベントの履歴がクリアされるため、それまでに発生していた状態変更イベントを検索 (表示) できなくなります。手動で変更する前に、状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認してください。
- 状態変更イベント検索で検索できる JP1 イベントは、ユーザーフィルターによって制限された JP1 イベントとなります (ユーザーフィルターによる制限の対象となるユーザーの場合)。
- 状態変更イベントの検索をする場合は、前もって [イベントコンソール] 画面を起動しておくことをお勧めします。
- 監視オブジェクトの状態変更条件に合致する JP1 イベントが 100 件を超えた場合には、対処済み連動機能は無効になります。このため、検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら、適宜、監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

6.2.6 監視ノードの属性を表示する

監視ノードの属性を表示する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。
2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから [プロパティ] を選択する。
[プロパティ] 画面が表示されます。

[プロパティ] 画面に表示される属性のうち幾つかは、JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーであれば変更できます。監視ノードの属性を変更する場合は、JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーでログインしてください。

6.2.7 ガイド情報を表示する

ガイド情報を表示する手順を次に示します。

1. 監視オブジェクトを選択する。
2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ガイド] を選択する。

なお、状況に応じたガイド情報を表示するための条件や、ガイド情報の内容は、あらかじめガイド情報ファイルに定義する必要があります。

ガイド情報の機能、設定、および定義ファイルについて

- ガイド情報について設定する内容、ガイド機能について
参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「4.7 ガイド機能」
- ガイド情報ファイルの編集について
参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「5.6 ガイド情報の編集」
- ガイド情報ファイルの書式について
参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ガイド情報ファイル(jcs_guide_XXX.txt)」(2. 定義ファイル)

7

JP1/IM によるシステムの操作

この章では、JP1/IM - View を使用したシステムの操作について説明します。この章で説明する画面の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2. [イベントコンソール] 画面」および「3. [監視ツリー] 画面」を参照してください。

7.1 コマンドを実行する

7.2 自動アクションの状況を確認し、自動アクションの操作を行う

7.3 統合機能メニューで他アプリケーションの画面を表示する

7.1 コマンドを実行する

エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドを実行できます。この機能は、JP1/IM・View から JP1/IM・Manager (JP1/IM・Central Console) に接続している場合に使用できます。

なお、コマンド実行中のホストの JP1/Base を終了すると、Windows の場合は `CMD.EXE` と実行中のコマンド、UNIX の場合は `shell` と実行中のコマンドの状態が実行中のまま残る場合があります。その場合は、手動でコマンドを停止させるか、そのホストを再起動してください。

また、コマンド実行中にそのホストの JP1/Base を終了すると、キューイング中のコマンドは破棄されます。

7.1.1 [実行コマンド] でコマンドを実行する

操作方法を次に示します。エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドを実行するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

1. [イベントコンソール] 画面で、[オプション] - [コマンド実行] を選択する、また

はツールバーから  をクリックする。

[コマンド実行] 画面が表示されます。

2. [実行ホスト名] にコマンドを実行するホストを指定する。

実行ホスト名には、システム構成定義で管理対象ホストに設定したホスト名を指定します。

過去に指定したホスト名をリストボックスから選択できます。リストボックスには、過去に指定したホスト名が最大 5 個保存されます。

コマンドの実行ホストには、ホストグループ名も指定できます。ホストグループ名を指定すると、ホストグループを構成するすべてのホストでコマンドが実行されます。指定できるホストグループ名は、ログインしているマネージャーで定義されているホストグループ名です。

ホストグループを定義する手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「1.16 コマンド実行環境の設定」(Windows の場合)、「2.15 コマンド実行環境の設定」(UNIX の場合)を参照してください。

また、業務グループまたは監視グループを設定している場合、業務グループまたは監視グループを実行ホスト名に指定できます。実行ホスト名に次のように指定してください。

例：業務グループ「経営システム」を実行ホスト名に指定する場合
/ 経営システム

指定方法に関する詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(3) 業務グループの指定方法」を参照してください。

3. [実行コマンド] で実行するコマンドを指定する。必要に応じて、環境変数ファイルも指定する。
 実行するコマンドラインを [実行コマンド] に入力します。
 過去に指定したコマンドをリストボックスから選択することもできます。また、過去に指定したコマンドの履歴を消したい場合は、[履歴のクリア] ボタンをクリックします。
 [環境変数ファイル] には、コマンド実行先ホストにある環境変数ファイルを絶対パスで指定します。
 実行できるコマンドを次に示します。
 コマンドを実行するホストが UNIX の場合
 - UNIX のコマンド
 - シェルスクリプト
 コマンドを実行するホストが Windows の場合
 - 実行形式ファイル (.com, .exe)
 - バッチファイル (.bat)
 - JP1/Script のスクリプトファイル (.spt) (ただし、.spt ファイルが実行できるよう関連づけが設定されていること)
 ただし、次のようなコマンドは実行できません。
 - 対話操作を必要とするコマンド
 - 画面を表示するコマンド
 - エスケープシーケンスや制御コードを伴うコマンド
 - デーモンなどの、終了しないコマンド
 - Windows メッセージ機構、DDE など、デスクトップとの対話が必要なコマンド (Windows の場合)
 - shutdown や halt など、OS をシャットダウンするコマンド
4. [実行] ボタンをクリックする。
 [実行ホスト] で指定したホストでコマンドが実行されます。コマンドが実行されると、[実行結果] に、実行時刻、ホスト名、およびメッセージが表示されます。

7.1.2 [コマンド] ボタンでコマンドを実行する

[コマンド] ボタンにあらかじめ登録してあるコマンドを実行するには、コマンドを実行するホストに応じて次の 2 とおりがあります。

- エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドを実行する
- 選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行する

コマンドを実行するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限

が必要です。カーソルを [コマンド] ボタンの上に合わせると, [コマンド実行] 画面に [コマンド] ボタンに設定した内容が表示されます。コマンドを実行する前に, 必ずコマンドの内容を確認してください。

(1) エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドを実行する

エージェントホストまたはマネージャーホストで, 即時にコマンドを実行する場合の操作方法を次に示します。

即時にコマンドを実行する

1. [イベントコンソール] 画面で, [オプション] - [コマンド実行] を選択する, また

はツールバーから  をクリックする。

[コマンド実行] 画面が表示されます。

2. 実行したいコマンドが登録されている [コマンド] ボタンをクリックする。
コマンドを実行してもよいかを確認するメッセージが表示されるので, 問題なければ [はい] ボタンをクリックします。
エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドが実行されます。なお, コマンドボタン定義ファイルの `qui` パラメーターで `true` を指定している場合, メッセージは表示されないので, すぐにコマンドが実行されます。

コマンドの登録内容を変更してからコマンドを実行する

コマンドの登録内容を変更してからコマンドを実行する場合の操作方法を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面で, [オプション] - [コマンド実行] を選択する, また

はツールバーから  をクリックする。

[コマンド実行] 画面が表示されます。

2. 実行したいコマンドが登録されている [コマンド] ボタンを右クリックしてポップアップメニューを表示する。
3. ポップアップメニューの [カスタム実行] をクリックする。
[コマンド実行] 画面の [実行ホスト名], [実行コマンド], [環境変数ファイル] の項目に [コマンド] ボタンの設定内容が表示され, 編集できる状態になります。
[実行ホスト名], [実行コマンド], [環境変数ファイル] の各項目を必要に応じて編集します。
4. [実行] ボタンをクリックする。
エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドが実行されます。

(2) 選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行する

イベントの登録ホストが調査対象ホストや障害対策の対象ホストである場合, 実行ホスト名に何も指定しないで [コマンド] ボタンを定義しておく, [コマンド] ボタンをクリックしたとき, 選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行できます。なお, 登録ホストに対し, 別の JP1 イベントの属性をマッピングしていても, [実行ホス

ト名]にはマッピング前の登録ホストが設定されます。

選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行する手順を次に示します。

1. [イベント詳細] 画面で,[コマンド実行] ボタンを選択する。
[コマンド実行] 画面が表示されます。
2. 実行したいコマンドが登録されている [コマンド] ボタンをクリックする。
コマンドを実行してもよいかを確認するメッセージが表示されるので、問題なければ [はい] ボタンをクリックします。
選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドが実行されます。なお、コマンドボタン定義ファイルの qui パラメーターで true を指定している場合、メッセージは表示されなくて、すぐにコマンドが実行されます。

7.1.3 コマンドを実行するユーザー

コマンドは、コマンド実行先ホストのユーザーマッピング定義に従って、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) にログインした JP1 ユーザーを OS のユーザー名にマッピングして実行されます。ユーザーマッピング定義がされていない、またはログインした JP1 ユーザー名がユーザーマッピング定義に登録されていない場合は、コマンドを実行できません。

UNIX の場合、コマンドはマッピングされた OS ユーザーのシェル環境を使用して実行されます。2 バイト文字を使用したコマンドを実行する場合には、OS ユーザーのシェル環境を 2 バイト文字に対応した環境にしてください。

ユーザーマッピングの定義については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

7.1.4 コマンドの実行状態を確認または削除する

JP1/IM - View の [コマンド実行] 画面からコマンドを実行した際に,[実行結果] に実行終了を通知するメッセージ (KAVB2013-I) が表示されない場合、コマンド実行先ホストでトラブルが発生しているおそれがあります。

この場合は次の手順に従ってコマンドの実行状態を確認し、必要であればコマンドを削除してください。

! 注意事項

ここで示す手順は、コマンド実行先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-10 以降の場合にだけ行えます。JP1/Base のバージョンが 07-00 以前の場合には行えません。

1. jcocmdshow コマンドでコマンドの状態を確認する。
コマンドを実行しているホストに対して、jcocmdshow コマンドを実行し、返される情報を基にトラブルが発生していないか調査します。調査の結果、コマンドを停止す

7. JP1/IM によるシステムの操作

る必要があると判断した場合は次の手順に進んでください。

2. jcocmdel コマンドでコマンドを削除する。
コマンドを実行しているホストに対して、jcocmdel コマンドを実行し、コマンドを削除します。
3. jcocmdshow コマンドでコマンドの状態を確認する。
コマンドが正しく削除されたかどうか jcocmdshow コマンドを実行し、確認します。

コマンドの文法について

参照先：マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章

7.2 自動アクションの状況を確認し，自動アクションの操作を行う

特定のJP1 イベントを受信したときに，自動的にアクション（コマンド）を実行できます。この機能を自動アクションと呼びます。アクションは，自動アクションの定義を保存したホストだけでなく，エージェントホストまたはマネージャーホストでも実行できます。

自動アクションの定義方法については，下記参照先を参照してください。

- 自動アクションの設定（GUIで設定する場合）
参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 画面リファレンス」の「2.25 [アクション設定]画面」
- 自動アクションの設定（定義ファイルで設定する場合）
参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション定義ファイル (actdef.conf)」（2. 定義ファイル）

自動アクションの状況確認には，次に示す3種類があります。

自動アクションの実行状況の確認

自動アクションの実行処理でトラブルが発生していないかどうかを確認します。

自動アクションの実行結果の確認と操作（自動アクションのキャンセル，再実行）
実行した自動アクションの実行結果を確認します。また，必要に応じて詳細情報の確認をしたり，手動による自動アクションの再操作をしたりします。

自動アクション機能の稼働状況の確認

自動アクション機能が稼働しているかどうかを確認します。稼働していない場合，自動アクションは実行されません。

ここでは，これらの確認方法，自動アクションの操作方法について説明します。

7.2.1 自動アクションの実行状況を確認する

自動アクションの実行監視（遅延監視，状態監視）機能を有効にしておくことで，下記トラブルが発生した場合でも早期に検知できます。

- 自動アクションが想定した時間内に終了しなかった。または，長時間掛かって終了した。
- 自動アクションの実行に失敗した（状態が「実行不可」「実行失敗」または「実行失敗（キャンセル失敗）」に遷移した）。

実行監視（遅延監視，状態監視）機能を有効にするかどうかは自動アクション定義時に前もって設定しておく必要があります。また，トラブル検知時にJP1 イベントを発行したり，通知コマンドを実行したりする設定が別途必要です。

設定の詳細については下記参照先を参照してください。

自動アクションの設定（GUI で設定する場合）

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.25 [アクション設定]画面」

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.26.1 [アクション詳細設定]画面」

自動アクションの設定（定義ファイルで設定する場合）

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション定義ファイル (actdef.conf)」(2. 定義ファイル)

JP1 イベントの発行設定，通知コマンドの実行設定

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション通知定義ファイル (actnotice.conf)」(2. 定義ファイル)

確認手順を次に示します。なお，異常検知後に実行監視機能（遅延監視，状態監視）を再度有効にするには，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。また，業務グループの参照・操作制限を設定している場合，JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2) JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

1. [イベントコンソール] 画面で自動アクションの実行状況を確認する。または，通知コマンドによって異常が発生したことが通知される。
JP1 イベントの発行設定をしていた場合は，イベント一覧にイベント ID 2010 または 2011 の JP1 イベントが表示されます。通知コマンドの実行設定をしていた場合は，通知コマンドによって異常が通知されます。
JP1 イベント，または通知コマンドによって異常が発生したことがわかった場合には次の手順に進んでください。
2. [アクション結果] 画面や [アクション結果一覧] 画面などを使用して，自動アクションの実行結果を確認し，必要に応じて対処する。
必要に応じて [アクション結果] 画面や [アクション結果一覧] 画面などを使用して，詳細確認やアクションのキャンセル，再実行をしてください。詳細については，「7.2.2 自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
なお，遅延監視機能，状態監視機能による通知は，それぞれ一度実行されると，ユーザーが通知抑止を解除するまで通知が抑止されます。必要に応じて通知抑止を解除してください。抑止された機能を解除する場合には次の手順に進んでください。
3. [イベントコンソール] 画面のメニューから [オプション] - [機能状態通知復帰] - [アクション遅延監視] および [アクション状態監視] を表示し，活性している機

能名を選択する。

抑止状態になっている機能は、表示（文字）が活性となります。活性している機能名を選択すると、通知抑止を解除するかどうか問い合わせるダイアログボックスが表示されます。

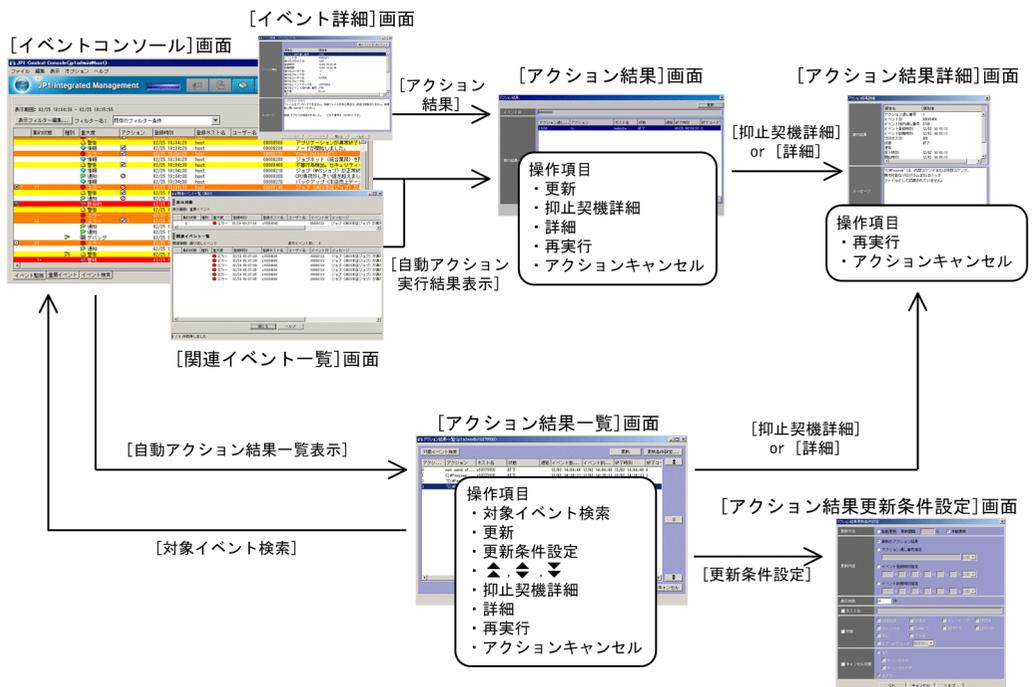
- 問い合わせダイアログボックスで [はい] を選択する。
[はい] を選択すると、通知抑止が解除され、監視機能が再度有効になります。

7.2.2 自動アクションの実行結果を確認する

自動アクションの実行結果は、JP1/IM・View の [アクション結果] 画面または [アクション結果一覧] 画面で確認できます。また、jcashowa コマンドを使用して確認することもできます。

なお、[アクション結果] 画面や [アクション結果一覧] 画面からは、実行結果の確認だけでなく、アクションの詳細表示やアクションの再実行などの操作も行えます。自動アクションに関する画面遷移と操作項目を次の図に示します。

図 7-1 自動アクションに関する画面遷移と操作項目



操作項目は、アクションの実行結果に対し、詳細情報を表示するための項目と再操作（再実行，キャンセル）するための項目に分かれます。

ここでは、実行結果の確認方法、および再操作（再実行，キャンセル）方法について説明します。

(1) 自動アクションの実行結果を確認する

自動アクションの実行結果は、[アクション結果]画面、[アクション結果一覧]画面、または jcashowa コマンドで確認できます。

[アクション結果]画面で実行結果を確認する

[アクション結果]画面には、[イベントコンソール]画面のイベント一覧で選択したイベントに設定されている自動アクションの実行結果を表示できます。

操作手順を次に示します。

1. [イベントコンソール]画面のイベント一覧で、[アクション]の欄にアクションマークが表示されているイベントを1件選択する。
2. 次に示すどれかの方法で [アクション結果]画面を表示する。
 - メニューバーから [表示] - [自動アクション実行結果表示] を選択する。
 - ポップアップメニューから [自動アクション実行結果表示] を選択する。
 - [自動アクション実行結果表示] ボタンをクリックする。

[アクション結果]画面が表示されます。

[アクション結果]画面には、選択したイベント ID とそのイベント ID に設定されている自動アクションの実行結果が表示されます。

3. 各自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合、または状態が「抑止」となったアクションの抑止契機となった自動アクションの詳細を知りたい場合は、次に示す方法で [アクション結果詳細]画面を表示する。

自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合

- [実行結果一覧] から自動アクションを選択し、[詳細] ボタンをクリックする。
- [実行結果一覧] に表示されている自動アクションをダブルクリックする。

抑止契機となった自動アクションを知りたい場合

- [実行結果一覧] から状態が「抑止」となった自動アクションを選択し、[抑止契機詳細] ボタンをクリックする。

[アクション結果詳細]画面が表示されます。

実行結果と出力されたメッセージが表示されます。表示される実行結果の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.30 [アクション結果詳細]画面」を参照してください。

[関連イベント一覧]画面を表示している場合は、アクションマークの付いたイベント選択後、ポップアップメニューから [自動アクション実行結果表示] を選択して [アクション結果]画面を表示できます。また、[イベント詳細]画面を表示している場合は、[アクション結果]ボタンをクリックして、[アクション結果]画面を表示できます。

[アクション結果一覧]画面で実行結果を確認する

[アクション結果一覧]画面には、ログインしているマネージャーで設定した自動アクションの実行結果の一覧を表示できます。なお、表示する自動アクションの条件は、[ア

クション結果更新条件設定]画面で設定します。

操作手順を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面で [表示] - [自動アクション結果一覧表示] を選択する。
 [アクション結果一覧] 画面が表示されます。
 ログインしているマネージャーで設定した自動アクションの中で,[アクション結果更新条件設定] 画面で設定された条件に合う自動アクションの実行結果の一覧が表示されます。
2. 自動アクションの実行結果を表示するための条件を変更したい場合は,[更新条件設定] ボタンをクリックする。
 [アクション結果更新条件設定] 画面が表示されます。
 更新方法(自動更新,手動更新)やアクション結果の取得範囲,更新時の表示件数や表示条件を指定できます。詳細については,マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 画面リファレンス」の「2.32 [アクション結果更新条件設定] 画面」を参照してください。
3. 自動アクションの実行結果の表示内容を更新条件に沿って更新したい場合は,[更新] ボタンをクリックする。
 表示内容が,[アクション結果更新条件設定] 画面で設定された内容で更新されます。
4. リスト表示されている自動アクション以前に発生した自動アクションの実行結果を表示したい場合は  を,以降に発生した自動アクションの実行結果を表示したい場合は  を,[アクション結果更新条件設定] 画面で設定した更新条件に従って再表示したい場合は  をクリックする。
5. 各自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合,または状態が「抑止」となったアクションの抑止契機となった自動アクションの詳細を知りたい場合は,次に示す方法で [アクション結果詳細] 画面を表示する。
 自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合
 - [実行結果一覧] から自動アクションを選択し,[詳細] ボタンをクリックする。
 - [実行結果一覧] に表示されている自動アクションをダブルクリックする。
 抑止契機となった自動アクションを知りたい場合
 - [実行結果一覧] から状態が「抑止」となった自動アクションを選択し,[抑止契機詳細] ボタンをクリックする。
 [アクション結果詳細] 画面が表示されます。
 実行結果と出力されたメッセージが表示されます。表示される実行結果の詳細については,マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 画面リファレンス」の「2.30 [アクション結果詳細] 画面」を参照してください。
6. 自動アクションの実行契機となった JP1 イベントを表示したい場合は [実行結果一覧] から自動アクションを選択し,[対象イベント検索] ボタンをクリックする。

7. JP1/IM によるシステムの操作

イベント検索が行われ [イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページに、自動アクションの実行契機となった JP1 イベントが表示されます。

jcashowa コマンドで実行結果を確認する

自動アクションの実行結果を、jcashowa コマンドを使用して表示させることができます。jcashowa コマンドは、JP1/IM・View のない環境や自動アクションの実行結果をファイル出力したいときなどに使用します。

コマンドの実行例を次に示します。7 月 1 日の 16 時から 17 時の間に受信した JP1 イベントに対する自動アクションの実行結果を表示するには、マネージャーで次のように入力します。

```
jcashowa -d 07/01/16:00,07/01/17:00
```

jcashowa コマンドの文法、および実行結果の表示形式については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcashowa」(1. コマンド) を参照してください。

(2) 自動アクションをキャンセルする

自動アクションの状態が次に示す状態のとき、その自動アクションをキャンセルできません。

- 「送信待機」「キューイング」「実行中」
- 「送信中 (キャンセル失敗)」「送信待機 (キャンセル失敗)」「キューイング (キャンセル失敗)」「実行中 (キャンセル失敗)」

キャンセルは、[アクション結果] 画面、[アクション結果一覧] 画面、[アクション結果詳細] 画面、または jcacancel コマンドでできます。なお、画面を使ってキャンセルする場合には JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。また、業務グループの参照・操作制限を設定している場合、JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2) JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

！ 注意事項

ここで示す手順は、アクション実行先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-10 以降の場合にだけできます。JP1/Base のバージョンが 07-00 以前の場合にはできません。

[アクション結果] 画面、または [アクション結果一覧] 画面から自動アクションをキャンセルする

操作手順を次に示します。

1. [アクション結果]画面,または[アクション結果一覧]画面を表示する。
画面を表示する方法については、「(1) 自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
2. キャンセルしたい自動アクションを選択する。
3. [アクションキャンセル]ボタンをクリックする。
キャンセルするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。
4. [OK]ボタンをクリックする。
選択した自動アクションのキャンセル要求の受け付けが完了します。
5. キャンセル後の状態を確認する場合は,[更新]ボタンをクリックする。
[アクション結果詳細]画面から自動アクションをキャンセルする

操作手順を次に示します。

1. [アクション結果詳細]画面を表示する。
画面を表示する方法については、「(1) 自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
2. [アクションキャンセル]ボタンをクリックする。
キャンセルするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。
3. [OK]ボタンをクリックする。
選択した自動アクションのキャンセル要求の受け付けが完了します。
4. キャンセル後の状態を確認する場合は,[閉じる]ボタンをクリックして[アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面に戻り,[更新]ボタンをクリックする。

jcacancel コマンドから自動アクションをキャンセルする

自動アクションを, jcacancel コマンドを使用してキャンセルできます。jcacancel コマンドは, ホスト単位, システム単位で自動アクションの一括キャンセルしたいときなどに使用します。なお, このコマンドを使って自動アクションをキャンセルする場合には, どの自動アクションをキャンセルするのかが確認したあとに実行してください。確認方法については, 「(1) 自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。

コマンドの実行例を次に示します。host01 で状態がキューイング, 実行中となっている自動アクションを一括キャンセルする場合には, マネージャーで次のように入力します。

```
jcacancel -s host01
```

jcacancel コマンドの文法, および実行結果の表示形式については, マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcacancel」(1. コマンド)を参照してください。

(3) 自動アクションを再実行する

自動アクションの状態が次に示す状態のとき、その自動アクションを再実行できます。

- 「抑止」「終了」「実行失敗」「キャンセル」「強制終了」
- 「終了(キャンセル失敗)」「実行失敗(キャンセル失敗)」

再実行は、[アクション結果]画面、[アクション結果一覧]画面、または[アクション結果詳細]画面から行えます。なお、これらの画面を使って再実行する場合には JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。また、業務グループの参照・操作制限を設定している場合、JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2) JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

[アクション結果]画面、または[アクション結果一覧]画面から自動アクションを再実行する

操作手順を次に示します。

1. [アクション結果]画面、または[アクション結果一覧]画面を表示する。
画面を表示する方法については、「(1) 自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
2. 再実行する自動アクションを選択する。
3. [再実行]ボタンをクリックする。
再実行要求をするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。
4. [OK]ボタンをクリックする。
選択した自動アクションの再実行要求の受け付けが完了します。
5. 再実行後の状態を確認する場合は、[更新]ボタンをクリックして[アクション結果一覧]画面を更新する。

[アクション結果詳細]画面から自動アクションを再実行する

操作手順を次に示します。

1. [アクション結果詳細]画面を表示する。
画面を表示する方法については、「(1) 自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
2. [再実行]ボタンをクリックする。
再実行要求をするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。
3. [OK]ボタンをクリックする。
自動アクションの再実行要求の受け付けが完了します。
4. 再実行後の状態を確認する場合は、[閉じる]ボタンをクリックして[アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面に戻り、[更新]ボタンをクリックする。

7.2.3 自動アクション機能の稼働状況を確認する

自動アクション機能が稼働していないと、自動アクションの実行契機となるイベントがマネージャー上の JP1/Base に登録されても自動アクションが実行されません。自動アクション機能の稼働状況は、`jcastatus` コマンドを使用して確認できます。

`jcastatus` コマンドを実行すると、自動アクション機能の稼働状況（稼働、休止、停止）に応じて、それぞれの状態を示す情報（`RUNNING`、`STANDBY`、または `STOP`）が標準出力に出力されます。稼働状況が「稼働（`RUNNING`）」であれば自動アクション機能は稼働しています。「休止（`STANDBY`）」の場合、自動アクション機能が稼働していないため、自動アクションが実行されません。稼働状態にするには `jcachange` コマンドを実行する必要があります。「停止（`STOP`）」の場合、JP1/IM・Manager が停止しているおそれがあります。この場合には JP1/IM・Manager を再起動する必要があります。

詳細については、下記参照先を参照してください。

`jcastatus` コマンドの文法、表示形式について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcastatus`」(1. コマンド)

`jcachange` コマンドの文法、表示形式について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcachange`」(1. コマンド)

JP1/IM・Manager の起動・停止について

参照先：「3. JP1/IM・Manager の起動と終了」

7.3 統合機能メニューで他アプリケーションの画面を表示する

[統合機能メニュー] 画面には、JP1/IM と連携するプログラムの機能が一覧表示され、この画面からプログラムを起動できます。起動できるプログラムには次の 2 種類があります。

ビューアー上のアプリケーションプログラム

JP1/IM・View と同じホストにインストールされているアプリケーションプログラムのことです。統合機能メニューからプログラムを選択すると、実行ファイルが起動されます。

WWW ページ

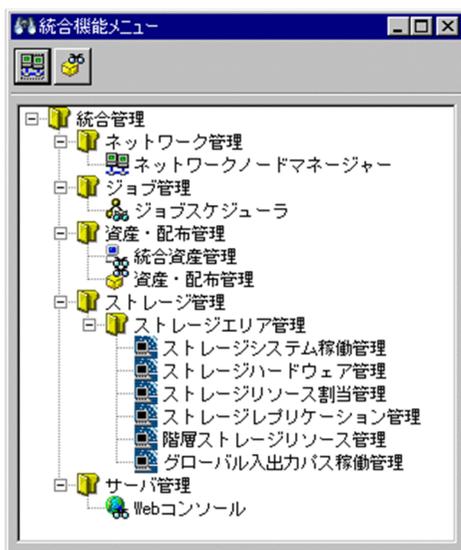
システム上のアプリケーションが WWW ページを提供している場合、その WWW ページを表示できます。統合機能メニューでプログラムを選択すると WWW ブラウザーが起動され、WWW ページが表示されます。

これらの機能を利用するには、WWW ページの URL を、あらかじめ設定しておく必要があります。

また、統合機能メニューを使用して、ほかの製品と連携する場合には、その製品の稼働環境（サポート OS やブラウザーなど）を事前に確認してください。

[統合機能メニュー] 画面の例を次に示します。

図 7-2 [統合機能メニュー] 画面の例



上図は、ビューアー上に JP1/IM と連携するアプリケーションプログラムを何もインス

ツールしていない状態のときの [統合機能メニュー] 画面です。ビューアーにアプリケーションプログラムをインストールした場合は、そのインストールしたアプリケーションプログラムがツリーに追加された状態で表示されます。

連携するアプリケーションプログラムについては、「7.3.2 [統合機能メニュー] 画面から操作できる機能」を参照してください。

7.3.1 [統合機能メニュー] 画面の操作

[統合機能メニュー] 画面には、JP1/IM と連携するプログラムの機能が、ツリー形式で表示されます。フォルダは機能の分類を表します。ツリーの末端をダブルクリックすると、WWW ページやアプリケーションプログラムの画面を表示できます。

操作方法を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面 , [監視ツリー] 画面から [オプション] - [統合機能メ

ニュー起動] を選択する。または、ツールバーから  をクリックする。

[統合機能メニュー] 画面が表示されます。

JP1/IM - View の tuning.conf ファイルで「MENU_AUTO_START=ON」が指定されている場合は、ログイン時に自動的に [統合機能メニュー] 画面が表示されます。

2. 統合機能メニューのツリーを展開して、表示したい項目をダブルクリックする。
選択した機能の画面が表示されます。

注意事項

統合機能メニューからアプリケーションプログラムを呼び出す場合、JP1/IM - View を起動した OS ユーザーに、呼び出すアプリケーションプログラムの実行権限がないとアプリケーションプログラムを起動できません。

呼び出すアプリケーションプログラムが実行できる権限で JP1/IM - View を起動する必要があります。

次の機能はツールバーのボタンからも呼び出せます。

表 7-1 ツールバーのボタンから呼び出せる機能

機能名	ボタン
ネットワークノードマネージャー	
Windows リモートコントロール	
資産・配布管理	

注 Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 版の JP1/IM - View では、JP1/NETM/DM Manager の WWW ページ版との連携はできないため、[資産・配布管理] ボタンは表示されません。

7.3.2 [統合機能メニュー] 画面から操作できる機能

[統合機能メニュー] 画面に表示される機能を次の表に示します。

なお、画面種別がアプリケーション画面で、該当するプログラムがビューアーにインストールされていない場合、機能名はメニューに表示されません。

連携製品の対応バージョンの詳細については、各連携製品のマニュアルをご確認ください。

表 7-2 [統合機能メニュー] 画面に表示される機能

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
ネットワーク管理	-	ネットワークノードマネージャー	WWW ページ	JP1/Cm2/NNM	バージョン 8 以前	制限なし
				HP NNM	バージョン 7.5 以前	
	-	インターネットゲートウェイ	アプリケーション画面	JP1/Cm2/Internet Gateway Server	制限なし	制限なし
ジョブ管理	-	ジョブスケジューラー	アプリケーション画面	JP1/AJS - View	制限なし	制限なし
	-	シナリオ運用	アプリケーション画面	JP1/AJS2 - Scenario Operation View	制限なし	制限なし
	-	プリントサービス	アプリケーション画面	JP1/NPS	制限なし	制限なし
	ファイル転送	伝送の登録 / 実行	アプリケーション画面	JP1/FTP	制限なし	Windows Server 2003, Windows Server 2003 R2, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2
履歴情報の表示			アプリケーション画面			

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
		自動プログラムの登録	アプリケーション画面			
資産・配布管理	-	統合資産管理	WWW ページ	JP1/NETM/Asset Information Manager	制限なし	Windows Vista および Windows 7 以外の Windows
	-	資産・配布管理	WWW ページ	JP1/NETM/DM Manager	バージョン 7 以前	Windows Vista 以外の OS
	-	設備資産管理	アプリケーション画面	JP1/NetInsight II - Facility Manager	制限なし	制限なし
	-	Windows リモートコントロール	アプリケーション画面	JP1/NETM/Remote Control Manager	制限なし	制限なし
	-	配布 / 資産管理	アプリケーション画面	JP1/NETM/DM Manager	制限なし	制限なし
ストレージ管理	ストレージエリア管理	ストレージシステム稼働管理	WWW ページ	Hitachi Tuning Manager software	バージョン 3 以降	Windows , Solaris(SPARC) , Linux
		ストレージハードウェア管理	WWW ページ	Hitachi Device Manager software	バージョン 3 以降	
		ストレージリソース割当管理	WWW ページ	Hitachi Provisioning Manager	バージョン 03-50 ~ 06-40	
		ストレージレプリケーション管理	WWW ページ	Hitachi Replication Manager software	バージョン 03-50 以降 (バージョン 5 より前の場合は, Replication Monitor)	

7. JP1/IM によるシステムの操作

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
		階層ストレージリソース管理	WWW ページ	Hitachi Tiered Storage Manager software	バージョン 4 以降	
		グローバル入出力パス稼働管理	WWW ページ	Hitachi Global Link Manager software	バージョン 05-00 ~ 06-60	Windows Server 2003 R2 (SP2) Windows XP Professional (SP2 または SP3) Windows Vista (SP なし , SP1 , SP2) Windows Server 2008 , Windows Server 2008 (x64) (SP なし , SP2) Windows Server 2008 R2 (x64) (SP なし , SP1) Windows 7 (SP なし)
サーバ管理	-	管理コンソール	アプリケーション画面	JP1/Server Conductor	制限なし	制限なし
	-	Web コンソール	WWW ページ			
ハードウェア管理	-	SANRISE2000 Remote Console	アプリケーション画面	SANRISE	制限なし	制限なし
	-	SANRISE H512/H48 Remote Control XP	アプリケーション画面			

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
統合通報管理	-	通報ルール設定	アプリケーション画面	TELstaff または JP1/IM - TELstaff	バージョン 9	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition • 32 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard

7. JP1/IM によるシステムの操作

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
						<ul style="list-style-type: none"> • 32 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 (x64) , Windows Server 2003 R2 (x64) , 32 ビット版の Windows Server 2008 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 のターミナルサービスには対応していません。

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
						<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 (x64) , Windows Server 2003 R2 (x64) , 32 ビット版の Windows Server 2008 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 のクラスタ機能には対応していません。 32 ビット版の Windows Server 2008 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 の Server Core インストール環境には対応していません。
メインフレーム連携	-	VOS3 コンソール操作	アプリケーション画面	VOS3 AOMPLUS(AOMPLUS CIF)	制限なし	制限なし
Cosminexus 運用管理	-	Cosminexus 運用管理ポータル	アプリケーション画面	Cosminexus Application Server	制限なし	制限なし

(凡例)

- : なし

注 Windows Vista 版の JP1/IM - View では , JP1/NETM/DM Manager の WWW ページ版との連携はできないため , [資産 ・ 配布管理] メニューは表示されません。

8

IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

この章では、IM 構成管理を使用してシステムの階層構成（IM 構成）を管理する手順について説明します。この章で説明する画面の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「4. IM 構成管理の画面」を参照してください。

8.1 ホストを管理する

8.2 システムの階層構成を管理する

8.3 仮想化システム構成を管理する

8.4 業務グループを管理する

8.5 プロファイルを管理する

8.6 サービスの稼働状況を管理する

8.7 IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする

8.1 ホストを管理する

JP1/IM システムの構成を変更する場合や、管理対象のホスト名や IP アドレスなどのホスト情報を変更する場合には、IM 構成管理 DB に登録されている管理対象ホストに関する情報を見直す必要があります。

IM 構成管理・ビューアーから次の作業を実施して、ホストの情報を管理してください。

ホストを登録する場合

IM 構成管理 DB に新しくホストを登録するには、[IM 構成管理] 画面から [ホスト登録] 画面を表示して設定します。

登録方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.1 ホストを登録する」を参照してください。

ホストを削除する場合

IM 構成管理 DB に登録されているホストは、[IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] ページで削除します。

削除方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.3 ホストを削除する」を参照してください。

ホストから情報を収集する場合

ホスト情報は、[IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] ページまたは [IM 構成] ページから収集します。

ホスト情報を収集するタイミングや収集方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.5 ホストから情報を収集する」を参照してください。

ホスト情報を変更する場合

IM 構成管理 DB に登録されているホスト情報は、[IM 構成管理] 画面から [ホスト属性編集] 画面を表示して変更します。

変更方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.4 ホスト情報を変更する」を参照してください。

なお、システムの階層構成（IM 構成）に登録されているホスト名を編集した場合、システムの階層構成を反映し直す必要があります。反映方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.4(3) システムの階層構成を反映する」を参照してください。

ホストの一覧を表示する場合

IM 構成管理 DB に登録したホストの一覧は、[IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] ページで表示します。

表示方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.2 ホスト情報を表示する」を参照してください。

8.2 システムの階層構成を管理する

システムの階層構成（IM 構成）を変更する場合に、IM 構成管理 DB に登録されているシステムの構成定義情報を見直す必要があります。

IM 構成管理・ビューアーから次の作業を実施して、システムの階層構成を管理してください。

システムの階層構成を取得する場合

システムの構成定義情報は、[IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] ページまたは [IM 構成] ページから取得します。システムを構成するすべてのホストから情報を取得できます。

取得方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「3.2.1 システムの階層構成を取得する」を参照してください。

システムの階層構成を表示する場合

システムの階層構成は、[IM 構成管理] 画面の [IM 構成] ページで表示します。

表示方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「3.2.2 システムの階層構成を表示する」を参照してください。

システムの階層構成を検証する場合

取得した構成定義情報と、IM 構成管理が保持している構成定義情報の内容が一致しているかどうかを検証できます。構成定義情報は、[IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] ページまたは [IM 構成] ページで検証します。

検証方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「3.2.3 システムの階層構成を検証する」を参照してください。

システムの階層構成を編集する場合

構成定義情報を編集することで、ホストの追加、移動、削除ができます。構成定義情報は、[IM 構成管理] 画面から [エージェント構成編集] 画面または [リモート監視構成編集] 画面を表示して編集します。

編集方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「3.2.4 システムの階層構成を編集する」を参照してください。

システムの階層構成を反映する場合

[エージェント構成編集] 画面、[リモート監視構成編集] 画面などで編集した構成定義情報を、システムを構成するすべてのホストに反映できます。構成定義情報は、[エージェント構成編集] 画面または [リモート監視構成編集] 画面で反映します。反映方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「3.2.4(3) システムの階層構成を反映する」を参照してください。

システムの階層構成の同期を取る場合

統合マネージャーと拠点マネージャーで、それぞれシステムの階層構成を定義した場合には、統合マネージャーと拠点マネージャーの間で、システムの階層構成の同

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

期を取る必要があります。[IM 構成管理] 画面の [IM 構成] ページで実施します。同期を取る方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.5 システムの階層構成の同期を取る」を参照してください。

8.3 仮想化システム構成を管理する

IM 構成管理・ビューアーを操作、またはコマンドを実行して、仮想化ホストを含むシステムの階層構成（仮想化システム構成）を管理する方法について説明します。

なお、仮想化構成を管理するためには、仮想化ソフトウェアおよび仮想化環境管理ソフトウェアが必要です。使用できるソフトウェアについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「6.3 仮想化システム構成の管理」を参照してください。

8.3.1 仮想化システムのホストを登録する

システムの階層構成に新しい仮想ホストを登録するには、[IM 構成管理] 画面から [ホスト登録] 画面を呼び出して登録する方法と、仮想化ソフトウェアおよび仮想化環境管理ソフトウェアの仮想化構成情報をインポートする方法の 2 とあります。

登録方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「3.3.1(2) 仮想化構成情報を設定する」を参照してください。

8.3.2 仮想化システムのホスト情報を表示する

システムの階層構成から、仮想ホストとして登録したホストの情報を表示する手順について説明します。ホストの情報を表示するには、[IM 構成管理] 画面から [ホスト一覧] ページを呼び出します。

1. [IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] タブをクリックする。
[ホスト一覧] ページが表示されます。
2. ツリー表示領域から仮想ホストを選択する。
3. 次に示すどちらかの方法でホストの情報を収集する。
 - メニューバーから [操作] - [ホスト情報収集] を選択する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ホスト情報収集] を選択する。

ホストの情報を収集するには、仮想ホスト上で、JP1/Base が動作している必要があります。

なお、VMware ESX および Virtage には JP1/Base をインストールできないので、[ホスト情報収集] を実行するとエラーになります。

4. [基本情報] ボタン、[製品情報] ボタン、[サービス情報] ボタンのどれかを選択する。
選択したボタンによって、ノード情報表示領域にホスト情報が表示されます。[下位ホスト情報] ボタンは選択できません。

8.3.3 セントラルスコープの監視ツリーへ反映する

システムの階層構成に登録した仮想ホストをセントラルスコープで監視するには、IM 構成管理の管理情報をエクスポートし、セントラルスコープの監視ツリー情報へインポートする必要があります。ここでは、その手順について説明します。

1. `jcfexport` コマンドを実行する。
IM 構成管理の構成情報をエクスポートします。
2. `jcsdbexport` コマンドを実行する。
セントラルスコープの監視ツリー情報をエクスポートします。
3. `jcfexport` コマンドと `jcsdbexport` コマンドの出力ファイルを引数にして、`jcfmkcsdata` コマンドを実行する。
IM 構成管理の構成情報と監視ツリー情報をマージします。
4. `jcsdbimport` コマンドを実行する。
マージされた IM 構成管理の管理情報と監視ツリー情報をインポートします。

セントラルスコープ・ビューアーで、マージした仮想ホストが表示されていることを確認してください。

8.4 業務グループを管理する

監視対象を業務グループ単位で設定している場合、業務グループの構成を見直すタイミングで、業務グループを作成、編集、および削除する必要があります。

業務グループを新しく作成する

手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.1(1)(a) 業務グループの作成」を参照してください。

業務グループの登録内容を編集する

手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.1(1)(b) 業務グループのプロパティの編集」を参照してください。

不要となった業務グループを削除する

手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.1(1)(c) 業務グループの削除」を参照してください。

業務グループを作成、編集、および削除したあとは、監視ツリーに業務グループと監視グループの階層構成の反映が必要です。手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.4(2) セントラルスコープの監視ツリーに業務グループ情報および監視グループ情報を反映する」を参照してください。

8.5 プロファイルを管理する

システムのアップデートやメンテナンスの際にプロファイルの内容を変更したり、プロファイルの内容をほかのホストのプロファイルに適用したりする場合に、IM 構成管理 DB に登録されているプロファイルを見直す必要があります。

IM 構成管理・ビューアーから次の作業を実施して、プロファイルを管理してください。

なお、プロファイルには、有効設定情報と設定ファイルの内容の 2 種類があります。

プロファイルを収集する場合

次のプロファイルを収集します。

- エージェントホストの JP1/Base の有効設定情報
- エージェントホストの JP1/Base の設定ファイル (ログファイルトラップ起動定義ファイル)
- リモートの監視対象ホストの有効設定情報

プロファイルの収集方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(2) プロファイルを収集する」を参照してください。

プロファイルリストを収集する場合

エージェントホストの JP1/Base で管理するプロファイルリストを収集します。収集した情報が、[プロファイル表示 / 編集] 画面のツリー表示領域に表示されます。

プロファイルリストの収集方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(1) プロファイルリストを収集する」を参照してください。

プロファイルを表示する場合

エージェントホストの JP1/Base、およびリモートの監視対象ホストのプロファイルを [プロファイル表示 / 編集] 画面に表示します。

表示方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(3) プロファイルを表示する」を参照してください。

設定ファイルを編集する場合

収集した設定ファイルを、[プロファイル表示 / 編集] 画面で編集します。なお、設定ファイルで編集できるプロファイル種別は、次のとおりです。

- イベント転送設定情報
- ログファイルトラップ情報
- イベントログトラップ情報
- ローカルアクション情報
- リモート監視ログファイルトラップ情報
- リモート監視イベントログトラップ情報

編集方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガ

イド」の「3.5.1(5) 設定ファイルを編集する」を参照してください。

設定ファイルの編集内容を反映する場合

編集した設定ファイルの内容を反映します。

反映方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「3.5.1(6) 設定ファイルの編集内容を反映する」を参照してください。

8.6 サービスの稼働状況を管理する

IM 構成管理・ビューアーを操作して、各ホストでのサービスの稼働状況を管理する方法について説明します。

8.6.1 サービスの稼働情報を収集する

エージェント構成の場合に、システムの階層構成から、ホストごとに稼働しているサービスの稼働情報を収集できます。

なお、リモート監視構成の場合は、サービスの稼働情報は収集できません。

サービスの稼働情報は、[IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] ページまたは [IM 構成] ページから収集しますが、選択するページによって手順が異なります。

(1) [ホスト一覧] ページからサービスの稼働情報を収集する

[IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] ページからサービスの稼働情報を収集する手順を次に示します。

1. [IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] タブをクリックする。
[ホスト一覧] ページが表示されます。
2. ツリー表示領域からホストを選択する。
「ホスト一覧」を選択して、サービスの稼働情報は収集できません。また、IM 構成管理が動作しているマネージャーにより、稼働情報を収集できるホストの範囲が異なります。選択できるホストの範囲については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「6.6.2 サービスの稼働情報の収集」を参照してください。
3. [サービス情報] ボタンをクリックする。
収集されたサービスの稼働情報が、ノード情報表示領域に表示されます。
4. メニューバーから [表示] - [最新情報に更新] を選択する。
ホストから最新のサービスの稼働情報が収集されて、ノード情報表示領域の表示が更新されます。

(2) [IM 構成] ページからサービスの稼働情報を収集する

[IM 構成管理] 画面の [IM 構成] ページからサービスの稼働情報を収集する手順を次に示します。

1. [IM 構成管理] 画面の [IM 構成] タブをクリックする。
[IM 構成] ページが表示されます。
2. ツリー表示領域からホストを選択する。
IM 構成管理が動作しているマネージャーにより、稼働情報を収集できるホストの範

囲が異なります。選択できるホストの範囲については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「6.6.2 サービスの稼働情報の収集」を参照してください。

3. 次に示すどちらかの方法でホスト情報を収集する。
 - メニューバーから [操作] - [ホスト情報収集] を選択する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ホスト情報収集] を選択する。
4. [サービス情報] ボタンをクリックする。
収集されたサービスの稼働情報が、ノード情報表示領域に表示されます。
5. メニューバーから [表示] - [最新情報に更新] を選択する。
ホストから最新のサービスの稼働情報が収集されて、ノード情報表示領域の表示が更新されます。

8.6.2 サービスの稼働情報を表示する

システムの階層構成（IM 構成）から、ホストごとに稼働しているサービスの稼働情報を表示する手順については、「8.6.1 サービスの稼働情報を収集する」を参照してください。

[IM 構成管理] 画面のサービス情報には次の稼働情報が表示されます。

表 8-1 サービスごとに表示される稼働情報

製品名	サービス名	稼働状態
JP1/Base	JP1/Base	サービスの稼働状態が次のステータスで表示される <ul style="list-style-type: none"> • 稼働中 • 停止中 • 一部稼働中 • 収集失敗
	イベントサービス	
	ログファイルトラップ	
JP1/IM・Manager	JP1/IM-Manager	

[IM 構成管理] 画面の詳細情報には、次のとおり、各サービスの状態を収集するコマンドの実行結果が表示されます。

表 8-2 各サービスの状態を収集するコマンド

サービス名	収集コマンド
JP1/Base	jbs_spmd_status
イベントサービス	jevstat
ログファイルトラップ	jevlogstat ALL
JP1/IM-Manager	jco_spmd_status
ログファイルトラップ（リモート）	jcfalllogstat
イベントログトラップ（リモート）	jcfaletstat

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

注 収集コマンド相当の情報が出力されます。

8.7 IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする

コマンドを実行して、IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする方法について説明します。

8.7.1 IM 構成管理の管理情報をエクスポートする

IM 構成管理の管理情報を出力（エクスポート）してから入力（インポート）することで、あるホストから別のホストへコピーすることができます。また、エクスポートされたシステムの構成情報を編集することで、簡単に変更することができます。ここでは、`jcfexport` コマンドによってエクスポートされる管理情報について説明します。

(1) ホスト情報

IM 構成管理の管理対象ホストに関する情報がホスト入力情報ファイルとホスト収集情報ファイルにエクスポートされます。

(a) ホスト入力情報ファイル

ホスト入力情報ファイルのファイル名は、`host_input_data.csv` です。ホスト入力情報ファイルを編集してインポートできます。

ホスト入力情報ファイルに出力されるホスト情報を次の表に示します。

表 8-3 エクスポートされるホスト情報（ホスト入力情報ファイル）

行	出力項目	出力値
1 行目 (ヘッダー 情報)	製品名	JP1/IM-CF
	ファイルフォーマットバージョン	ファイルフォーマットのバージョン 例えば、JP1/IM-Manager のバージョンが 09-01 の場合は、「090100」と出力されます。
	文字コード	文字コード マネージャーの環境変数 LANG の設定に依存します。詳細は、表 8-4 を参照してください。

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

行	出力項目	出力値
2 行目 (ヘッダー 情報)	ホスト名	Host_name
	IP アドレス	IPAddress
	ホスト名一覧	Host_list
	コメント	Comment
	ホスト種別	Host_type
	実行系ホスト	Running_host_name
	待機系ホスト	Standby_host_name
	VMM ホスト	VMM_host_name
	仮想化管理種別	Virtual_manager_type
	ユーザー名	Username
	パスワード	Password
	ドメイン名	Domain_name
	通信種別	Connection_type
	仮想化管理元ホスト	Virtual_host_manager
	リモート通信種別	Remote_connection_type
認証情報の区分	Authentication_section	
3 行目以降	ホスト名	システムの階層構成に登録したホストのホスト名
	IP アドレス	システムの階層構成に登録したホストの IP アドレス (複数ある場合はコンマ(,)で区切り, 全体をダブルクォーテーション(")で囲む)
	ホスト名一覧	ホストに登録したホスト名の一覧 (複数ある場合はコンマ(,)で区切り, 全体をダブルクォーテーション(")で囲む)
	コメント	ホストに登録したコメント
	ホスト種別	ホストの種別 (physical, logical, virtual, unknown)
	実行系ホスト	実行系となるホストのホスト名
	待機系ホスト	待機系となるホストのホスト名 (複数ある場合はコンマ(,)で区切り, 全体をダブルクォーテーション(")で囲む)
	VMM ホスト	仮想マシンモニターが動作しているホストのホスト名
	仮想化管理種別	仮想化管理の種別 (ESX, Hyper-V, JP1/SC/CM, SCVMM, vCenter, Virtage)
	ユーザー名	ユーザー名
	パスワード	パスワード情報であるため出力されません。
ドメイン名	仮想マシンモニターが動作しているホストのドメイン名	

行	出力項目	出力値
	通信種別	通信種別 (http , https)
	仮想化管理元ホスト	ホストに登録したホスト名
	リモート通信種別	リモート監視の場合に出力される通信種別 (disable , ssh , wmi)
	認証情報の区分	リモート監視の場合に出力される認証情報 (common , host , 空白)

注 ESX は , VMware ESX を指します。

表 8-4 ファイルの文字コード

OS	環境変数 LANG の形式	変換する文字コード
Windows	-	日本語 OS : MS932
		英語 OS : C (ISO-8859-1)
HP-UX	ja_JP.SJIS	Shift_JIS
	ja_JP.eucJP	EUC-JP
	C	C (ISO-8859-1)
AIX	Ja_JP.IBM-932 または Ja_JP	Shift_JIS
	ja_JP.IBM-eucJP または ja_JP	EUC-JP
	C	C (ISO-8859-1)
Linux	ja_JP.UTF-8 または ja_JP.utf8	UTF-8
	C	C (ISO-8859-1)
-	上記以外	UTF-8

(凡例)

- : 該当なし

ホスト入力情報の出力例を次に示します。

```

JP1/IM-CF;095000;UTF-8,,,,,,,,,,,,,
Host_name,IPAddress,Host_list,Comment,Host_type,Running_host_name,
Standby_host_name,VMM_host_name,Virtual_manager_type,Username,Password,Domain_name,Connection_type,Virtual_host_manager,Remote_connection_type,Authentication_section
Jp1-bs1,10.200.30.50, Jp1-bs1, マネージャ, physical,,,,,ESX,esxuser,,,,,
Jp1-bs3,disable,
Jp1-bs2,10.200.30.52, Jp1-bs2, エージェントホスト
,virtual,,,,,Jp1-bs1,,,,,ssh,comon
Jp1-bs3,10.200.30.53,"Jp1-bs3,jp1-bs4",管理ホスト
,physical,,,,vCenter,vcuser,,,,http,wmi,host
Jp1-bs5,10.200.30.54, Jp1-bs5, 論理ホスト
,logical,jp1-sv1,jp1_sv2,,,,,disable,

```

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

(b) ホスト収集情報ファイル

ホスト収集情報ファイルのファイル名は、`host_collect_data.csv` です。ホスト収集情報ファイルを編集したりインポートしたりできません。

ホスト収集情報ファイルに出力されるホスト情報を次の表に示します。

表 8-5 エクスポートされるホスト情報（ホスト収集情報ファイル）

行	出力項目	出力値
1 行目 (ヘッダー 情報)	製品名	JP1/IM-CF
	ファイルフォーマットバージョン	ファイルフォーマットのバージョン 例えば、JP1/IM-Manager のバージョンが 09-01 の場合は、「090100」と出力されます。
	文字コード	文字コード マネージャーの環境変数 LANG の設定に依存します。詳細は、表 8-4 を参照してください。
2 行目 (ヘッダー 情報)	実ホスト名	Real_host_name
	OS 名	OS_name
	製品名	JP1_product_name
	製品形名	JP1_product_id
	バージョン	JP1_product_version
	インストールパス	Install_path
	環境設定ファイル格納フォルダ	Conf_dir
	更新日時	Date
	更新日時 (GMT)	Total_time
	ホスト名	Host_name
	仮想化製品種別	Virtual_manager_type
	仮想化製品バージョン	Virtual_manager_version
3 行目以降	実ホスト名	ホストの実ホスト名
	OS 名	ホスト上で動作している OS 名
	製品名	ホスト上で動作している製品名
	製品形名	製品の型名
	バージョン	製品のバージョン
	インストールパス	製品のインストールパス

行	出力項目	出力値
	環境設定ファイル格納フォルダ	製品の環境設定ファイルを格納したフォルダ
	更新日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss
	更新日時 (GMT)	YYYY/MM/DD hh:mm:ss (GMT) ¹
	ホスト名	システムの階層構成に登録したホストのホスト名
	仮想化製品種別	仮想化製品の種別 (ESX ² , JP1/SC/CM, Hyper-V, SCVMM, vCenter, Virtage)
	仮想化製品バージョン	仮想化製品のバージョン 更新日時は、仮想化構成収集日時を出力します。

注 1 仮想化ソフトウェアおよび仮想化環境管理ソフトウェアを使用している場合は、仮想化構成収集日時が出力されます。

注 2 ESX は、VMware ESX を指します。

ホスト収集情報の出力例を次に示します。

```
JP1/IM-CF;090100;UTF-8,,,,,,,,,,,,,
Real_host_name,OS_name,JP1_product_name,JP1_product_id,JP1_product
_version,Install_path,Conf_dir,Date,Total_time,Host_name,Virtual_m
anager_type,Virtual_manager_version
jpl_bs1,Windows,JP1/Base,P-242C-6L94,0900,C:¥Program
Files¥Hitachi¥JP1Base,C:¥Program Files¥Hitachi¥JP1Base¥conf,2009/
11/28 10:45:20,1205115658437,jpl-bs1,,
jpl-bs2,Windows,,,,,,,,,2009/11/28
10:45:20,1205115658437,jpl-bs2,ESX,3.5
jpl-bs3,Windows,,,,,,,,,2009/11/28
10:45:20,1205115658437,jpl-bs3,vCenter,4.0
```

(2) システムの階層構成情報

システムの階層構成の情報がファイルにエクスポートされます。エクスポートされたファイルを編集してインポートできます。

出力される情報は、次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視
- リモート監視

(a) エージェント監視の構成情報

エクスポートされるファイル名は、system_tree_information.txt です。

リモート監視を使用している場合、エージェント監視の構成情報は編集できません。

このファイルに出力されるエージェント監視の構成情報を次の表に示します。

表 8-6 エクスポートされるエージェント監視の構成情報

出力項目	出力値
[管理ホスト]	<ul style="list-style-type: none"> JP1/Base のホストを管理する統合マネージャー、拠点マネージャー、または中継マネージャーのどれかを表す。 最初に定義された管理ホストが統合マネージャーで、以降に定義された管理ホストが拠点マネージャーまたは中継マネージャーである。 次に [] で括られたホストが出てくるまでを管理対象ホストとする。 システムの階層構成を分割定義した場合、ホスト名の前にアスタリスクを付与する。
管理対象ホスト	<ul style="list-style-type: none"> 管理ホストに管理される JP1/Base のホスト。 拠点マネージャーまたは中継マネージャーは、統合マネージャーの管理対象ホストとして定義されている。 システムの階層構成を分割定義した場合、ホスト名の前にアスタリスクを付与する。

(b) リモート監視の構成情報

リモート監視の構成情報がファイルにエクスポートされます。リモート監視の構成情報は編集できません。

(3) プロファイル情報

ホストで動作するプロファイル情報がエクスポートされます。エクスポートの対象となるファイルは、次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視
- リモート監視

(a) エージェント監視のプロファイル情報

ホストで動作する JP1/Base プロファイル情報がファイルにエクスポートされます。ファイルは「definition_files」ディレクトリ以下の 1 階層目のディレクトリ名の「ホスト名」、2 階層目のディレクトリ名の「JP1Base」以下にエクスポートされます。また、ログファイルトラップの動作定義ファイルは 3 階層目のディレクトリ名の「cf_log_file_trap」以下にエクスポートされます。エクスポートの対象となるプロファイル情報を次に示します。

表 8-7 エクスポートされるエージェント監視のプロファイル情報とエクスポートファイル名

プロファイル情報	エクスポートファイル名
イベントの転送設定ファイル	forward
ログファイルトラップ動作定義ファイル	ファイル名は任意
ログファイルトラップ起動定義ファイル	jevlog_start.conf
イベントログトラップ動作定義ファイル	nthevent.conf
ローカルアクション実行定義ファイル	jbslact.conf

(b) リモート監視のプロファイル情報

JP1/IM - Manager プロファイル情報がファイルにエクスポートされます。リモート監視のプロファイル情報は編集できません。

(4) リモート認証情報

リモート監視をしている場合に、リモート認証情報がエクスポートされます。リモート認証情報は編集できません。

(5) 業務グループ情報

業務グループを使用している場合に、業務グループの情報がファイルにエクスポートされます。エクスポートされるファイル名は、`monitoring_system_data.csv` です。`monitoring_system_data.csv` に出力される業務グループ情報を次の表に示します。

表 8-8 エクスポートされる業務グループ情報

行	出力項目	出力値
1 行目 (ヘッダー情報)	製品名	JP1/IM-CF
	ファイルフォーマットバージョン	ファイルフォーマットのバージョン 例えば、JP1/IM - Manager のバージョンが 09-50 の場合は、「095000」と出力されます。
	文字コード	文字コード マネージャーの環境変数 LANG の設定に依存します。詳細は、表 8-4 を参照してください。
2 行目 (ヘッダー情報)	業務グループ名	Monitoring_system_name
	割り当て JP1 資源グループ名	JP1_resource_group_name
	コメント	Comment
	ホスト名	Host_name_list
3 行目以降	業務グループ名	業務グループの名称
	割り当て JP1 資源グループ名	業務グループに割り当てた JP1 資源グループの名称
	コメント	コメント
	ホスト名	業務グループに登録されたホストのホスト名 (複数ある場合はコンマ(,)で区切り、全体をダブルクォーテーション(")で囲む)

注 業務グループ情報は、業務グループ名で昇順にソートして出力されます。

業務グループ情報の出力例を次に示します。

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

```
JP1/IM-CF;095000;UTF-8,,,
Monitoring_system_name,JP1_resource_group_name,Comment,Host_name_list
System1,,This is the empty system,
System2,Resource_A,This is System2,"host21,host22,host23,host24"
System3,Resource_A,This is System3,"host31,host32"
```

(6) 監視グループ情報

業務グループを使用している場合に、IM 構成管理の監視グループ情報がファイルにエクスポートされます。エクスポートされるファイル名は、`monitoring_group_data.csv` です。`monitoring_group_data.csv` に出力される監視グループ情報を次の表に示します。

表 8-9 エクスポートされる監視グループ情報

行	出力項目	出力値
1 行目 (ヘッダー情報)	製品名	JP1/IM-CF
	ファイルフォーマットバージョン	ファイルフォーマットのバージョン 例えば、JP1/IM・Manager のバージョンが 09-50 の場合は、「095000」と出力されます。
	文字コード	文字コード マネージャーの環境変数 LANG の設定に依存します。詳細は、表 8-4 を参照してください。
2 行目 (ヘッダー情報)	監視グループパス	Monitoring_group_path
	コメント	Comment
	ホスト名	Host_name_list
3 行目以降	監視グループパス	監視グループのパス
	コメント	コメント
	ホスト名	監視グループに登録されたホストのホスト名 (複数ある場合はコンマ (,) で区切り、全体をダブルクォーテーション (") で囲む)

注 監視グループ情報は、監視グループパスで昇順にソートして出力されます。

監視グループ情報の出力例を次に示します。

```
JP1/IM-CF;095000;UTF-8,,,
Monitoring_group_path,Comment,Host_name_list
/System1/Group1,This is the empty group,
/System1/Group2,This is Group2,host2
/System2/Group1,This is Group1,"host11,host12,host13,host14"
```

8.7.2 IM 構成管理の管理情報をインポートする

あるホストから出力（エクスポート）された IM 構成管理の管理情報を，必要があれば編集し，別のホストへ入力（インポート）します。インポートは，`jcfimport` コマンドで実行しますが，ホスト情報の収集情報はインポートできません。

インポートを実行すると IM 構成管理が保持するデータが変更されるため，インポート前にバックアップすることをお勧めします。

ここでは，`jcfimport` コマンドによってインポートされるシステム構成情報について説明します。

(1) ホスト情報

手動入力情報の場合，エクスポートファイル（`host_input_data.csv`）の内容がインポートされます。

手動入力情報のエクスポートファイル（`host_input_data.csv`）からインポートされる項目と，各項目の入力範囲を次に示します。

表 8-10 インポートされるホスト情報（手動入力情報）

項目	入力範囲	必須 / 任意	デフォルト
ホスト名	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	必須 ¹	-
IP アドレス	IP アドレスを入力できます。共通定義情報で指定した値まで入力できます。デフォルトは 4 個です。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，ピリオド（.），コロン（:）です。	任意	空欄
ホスト名一覧	ホスト名を入力できます。共通定義情報で指定した値 +1 個まで入力できます。デフォルトは 5 個です。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄
コメント	最大 80 バイトの文字列を入力できます。	任意	空欄
ホスト種別	physical, logical, virtual, unknown のどれかを入力できます。	任意	physical
実行系ホスト	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

項目	入力範囲	必須 / 任意	デフォルト
待機系ホスト	ホスト名を入力できます。共通定義情報で指定した値まで入力できます。デフォルトは4個です。ホスト名は1個当たり最大255バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字、半角ハイフン(-)、ピリオド(.)です。	任意	空欄
VMM ホスト	最大255バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字、半角ハイフン(-)、ピリオド(.)です。	任意	空欄
仮想化管理種別	ESX ² 、JP1/SC/CM、Hyper-V、SCVMM、vCenter、Virtageのどれかを入力できます。大文字、小文字の区別はありません。	任意	空欄
ユーザー名	最大255バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字です。	任意	空欄
パスワード	最大255バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字です。	任意	空欄
ドメイン名 ³	最大255バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字です。	任意	空欄
通信種別 ⁴	http、httpsのどれかを入力できます。大文字、小文字の区別はありません。	任意	https
仮想化管理元ホスト名	最大255バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字、半角ハイフン(-)、ピリオド(.)です。	任意	空欄
リモート通信種別	リモート監視の場合に使用できる通信種別です。disable、ssh、wmiのどれかを入力できます。	任意	disable
認証情報の区分	リモート監視の場合に使用できる認証情報の区分です。common、host、空白のどれかを入力できます。	任意	空白

(凡例)

- : デフォルト値がない。

注

全角文字は3バイトで換算されます。

注 1

必須の項目が設定されていない場合は、エラーとなります。任意の項目が設定されていない場

合は、デフォルトの値がインポートされます。

注 2 ESX は、VMware ESX を指します。

注 3 仮想化管理種別が SCVMM の場合に入力が必要です。

注 4 仮想化管理種別が vCenter の場合に入力が必要です。

ホスト情報に、文字コード間に互換性のない文字、および機種依存文字を使用していると、インポートしたときに文字化けが発生するおそれがあります。

手動入力情報のエクスポートファイル (host_input_data.csv) の内容が次のどれかの場合には、エラーとなり、インポートされません。

- ホスト名が重複している。
- ホスト名が 255 バイトより大きい。
- ホスト数がサポート数分 (IM データベースのサイズが、S または M の場合は 1,024 台、L の場合は 10,000 台) を超えている。
- 入力範囲外の値が設定されている。
- 入力データの列が少ない (コンマの数が少ない)。
- 実行系ホスト、待機系ホスト、および VMM ホストに記載されているホスト名が、ホスト情報ファイルに存在しない。
- 実行系ホストおよび待機系ホストのホストの種別に、physical、virtual 以外が設定されている。
- VMM ホストのホストの種別に physical 以外が設定されている。
- ホスト種別に physical、logical、virtual、unknown 以外が設定されている。
- 仮想化管理種別に ESX、Hyper-V、JP1/SC/CM、SCVMM、vCenter、Virtage 以外が設定されている。
- ホスト種別が logical、unknown のホストに仮想化管理種別が設定されている。
- 仮想化管理元ホストに記載されているホストがホスト情報ファイルに存在しない。
- 仮想化管理元ホストに記載されているホストの種別が physical、virtual 以外が設定されている。
- ドメイン名が設定されているホストの仮想化管理種別に SCVMM 以外が設定されている。
- 通信種別が指定されているホストの仮想化管理種別に vCenter 以外が設定されている。
- 通信種別に http、https 以外の文字列が設定されている。
- 仮想化システム構成に関する情報が次の表の内容に該当しない。

ホスト種別	仮想化管理種別	VMMホスト名	仮想化管理元ホスト名	ユーザー名	パスワード	補足
物理ホスト	-	×	×	×	×	-
	ESX	×	任意	×	×	仮想化管理元ホスト名は、vCenter を指定する。

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

ホスト種別	仮想化管理種別	VMMホスト名	仮想化管理元ホスト名	ユーザー名	パスワード	補足
	Hyper-V	×	任意	×	×	仮想化管理元ホスト名は、SCVMMを指定する。
	JP1/SC/CM	×	×	×	×	-
	SCVMM	×	×	任意	任意	-
	vCenter	×	任意	任意	任意	仮想化管理元ホスト名は、SCVMMを指定する。
	Virtage	×	任意	×	×	仮想化管理元ホスト名は、JP1/SC/CMを指定する。
仮想ホスト	-	必須	×	×	×	VMMホスト名は、SCVMM、vCenter、JP1/SC/CM以外を指定する。
	SCVMM	必須	×	任意	任意	VMMホスト名は、SCVMM、vCenter、JP1/SC/CM以外を指定する。
	JP1/SC/CM	必須	×	×	×	VMMホスト名は、SCVMM、vCenter、JP1/SC/CM以外を指定する。
	vCenter	必須	任意	任意	任意	VMMホスト名は、SCVMM、vCenter、JP1/SC/CM以外を指定する。 仮想化管理元ホスト名は、SCVMMを指定する。
論理ホスト	-	×	×	×	×	-
不明	-	×	×	×	×	-

(凡例)

- : 該当なし

× : 入力できない(入力した場合はエラーとなる)

- リモート通信種別が disable, ssh, wmi 以外が設定されている。
- 認証情報の区分が common, host, 空白以外が設定されている。

また、インポート先ホストとホスト名が同じホストは、手動入力情報のエクスポートファイル(host_input_data.csv)がインポートされたあと、IM構成管理の管理対象ホストとして登録されません。

(2) システムの階層構成情報

システムの階層構成情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。エクスポートファイルは、次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視
- リモート監視

(a) エージェント監視の構成情報

エージェント監視の構成情報のエクスポートファイル名は、`system_tree_information.txt` です。

エージェント監視の構成情報のエクスポートファイルの内容が次のどれかの場合は、エラーとなり、インポートされません。

システムの階層構成情報のエクスポートファイルの内容が次のどれかの場合は、エラーとなり、インポートされません。

- 同一ホストが複数行に存在する（管理対象ホストが複数の上位ホストを持つ）
- ホストの構成がループしている
- 管理ホストに設定される管理ホスト名が [] で囲まれていない（「」で閉じられていない）
- 管理ホストにホスト名が設定されていない
- ホスト数が 10,000 台より多く定義されている

ホスト情報（手動入力情報）のエクスポートファイル（`host_input_data.csv`）、またはエージェント監視の構成情報のエクスポートファイルを編集した結果、システムの階層構成情報のエクスポートファイルに設定されたホスト名が、ホスト情報（手動入力情報）のエクスポートファイルに設定されていない場合があります。この場合、システムの階層構成情報のエクスポートファイルがインポートされたあと、インポート警告メッセージが表示されて、未定義のホストが IM 構成管理の管理対象ホストとして自動的に登録されます。

システムの階層構成情報をインポートする場合、指定したディレクトリにシステムの階層構成情報のエクスポートファイルが存在しないときは、エラーメッセージが表示されて、インポートが中止されます。

(b) リモート監視の構成情報

リモート監視をしている場合に、リモート監視の構成情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。リモート監視の構成情報は編集できません。

(3) プロファイル情報

プロファイル情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。インポートの対象となるファイルは、次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視
- リモート監視

(a) エージェント監視のプロファイル情報

インポートの対象となるエージェント監視のプロファイル情報のエクスポートファイルを次に示します。

表 8-11 インポートされるエージェント監視のプロファイル情報のエクスポートファイル

プロファイル情報	エクスポートファイル名
イベントの転送設定ファイル	forward
ログファイルトラップ動作定義ファイル	ファイル名は任意
ログファイルトラップ起動定義ファイル	jevlog_start.conf
イベントログトラップ動作定義ファイル	nthevent.conf
ローカルアクション実行定義ファイル	jbslact.conf

エージェント監視のプロファイル情報のインポートでは、「definition_files」ディレクトリ以下のディレクトリ名を使用してインポート先が決まります。「definition_files」ディレクトリ以下の1階層目のディレクトリ名は「ホスト名」、2階層目のディレクトリ名は「製品名」として読み込まれ、各ディレクトリに格納されたファイルが設定情報として該当するホストに登録されます。このため、ホスト情報（手動入力情報）のエクスポートファイル（host_input_data.csv）でホスト名を変更した場合は、同様にディレクトリ名も変更する必要があります。変更しないと、プロファイル情報はインポートされません。

プロファイル情報のファイルを、エクスポートデータ情報のエクスポートファイル（data_information.txt）の encode に記載されている文字コードとして読み込みます。この文字コードは、エクスポートを実行したサーバの OS の環境変数「LANG」が設定されます。プロファイル情報をインポートする場合には、エクスポートファイル（data_information.txt）に記述されている文字コードとプロファイル情報のファイルの文字コードが一致しているかどうかを確認してください。

ホスト情報に、文字コード間に互換性のない文字、および機種依存文字を使用していると、インポートしたときに文字化けが発生するおそれがあります。

ホスト数が 10,000 台より多く定義されている場合は、エラーとされて、インポートされません。

プロファイル（設定ファイル）のエクスポートファイルの内容に未対応製品や未対応のプロファイルなどがある場合には、その部分を無視して処理を続けます。

(b) リモート監視のプロファイル情報

リモート監視をしている場合に、リモート監視のプロファイル情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。リモート監視のプロファイル情報は編集できません。

(4) リモート認証情報

リモート監視をしている場合に、リモート認証情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。リモート認証情報は編集できません。

(5) 業務グループ情報

業務グループを使用している場合に、IM 構成管理の監視グループ情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。業務グループ情報のエクスポートファイル (monitoring_system_data.csv) の内容が次のどれかの場合は、エラーとなり、インポートされません。

- 同じ階層に同じ名称の業務グループが存在する
- 入力範囲外
- 入力データの列が少ない (コンマの数が合わない)

インポートの対象となる項目および各項目の入力範囲を次に示します。

表 8-12 インポートされる項目 (業務グループ情報)

項目	入力範囲	必須 / 任意	デフォルト
業務グループ名	最大 2,046 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御文字以外です。大文字・小文字を区別します。	必須	-
割り当て JP1 資源グループ名	最大 64 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、" / [] ; : , = + ? < > , タブ , スペースを除く ASCII コードです。	任意	空欄
コメント	最大 80 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御文字以外です。	任意	空欄
ホスト名	複数のホストをコンマで区切って指定できます。一つのホストに対して最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字、半角ハイフン (-)、ピリオド (.) です。	任意	空欄

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

(凡例)

- : デフォルト値がない。

(6) 監視グループ情報

業務グループを使用している場合に、業務グループ情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。監視グループ情報のエクスポートファイル (monitoring_group_data.csv) の内容が次のどれかの場合は、エラーとなり、インポートされません。

- 同じ階層に同じ名称の監視グループまたはホストが存在する
- 入力範囲外
- 入力データの列が少ない (コンマの数が合わない)
- 上位の監視グループが、下位の監視グループよりも行番号の若い行に定義されていない

インポートの対象となる項目および各項目の入力範囲を次に示します。

表 8-13 インポートされる項目 (監視グループ情報)

項目	入力範囲	必須 / 任意	デフォルト
監視グループパス	最大 2,046 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御文字以外です。大文字・小文字を区別します。	必須	-
コメント	最大 80 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御文字以外です。	任意	空欄
ホスト名	複数のホストをコンマで区切って指定できます。一つのホストに対して最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は、制御コードを除く半角英数字、半角ハイフン (-)、ピリオド (.) です。	任意	空欄

(凡例)

- : デフォルト値がない。

8.7.3 インポートした IM 構成管理の管理情報をシステムに反映する

`jcfimport` コマンドを実行して IM 構成管理の管理情報をインポートしたあとに、次の操作を実行してシステムに反映します。

(1) ホスト情報の収集

ホスト情報を収集する手順を次に示します。

1. [IM 構成管理] 画面の [ホスト一覧] タブまたは [IM 構成] タブをクリックする。
[ホスト一覧] ページまたは [IM 構成] ページが表示されます。
2. ツリー表示領域からホストを選択する。
選択したホストに下位のホストがある場合、[下位ホスト情報] ボタンをクリックして表示される [下位ホスト情報] のリストからも、ホストを選択できます。この場合、複数のホストを同時に選択できます。
3. 次に示すどちらかの方法でホストの情報を収集する。
 - メニューバーから [操作] - [ホスト情報収集] を選択する。
 - 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ホスト情報収集] を選択する。

選択したホストの情報を収集するかどうかを確認するメッセージが出力されるので、「はい」を選択します。選択したホストの情報収集が実行されます。

(2) システムの階層構成情報の反映

システムの階層構成情報を反映する手順を次に示します。

(a) エージェント構成の場合

システムの階層構成情報を反映していない場合、[IM 構成管理] 画面の [IM 構成] タブでツリーがグレー表示されます。

次の手順でシステムの階層構成情報を反映してください。

1. [IM 構成管理] 画面のメニューバーから [編集] - [エージェント構成編集] を選択する。
[エージェント構成編集] 画面が表示されます。
2. [更新権取得] チェックボックスをチェックする。
JP1/IM システムの構成の編集ができるようになります。
3. ツリーの最上位ノード (統合マネージャー) を選択して、次のどちらかの方法で、統合マネージャーを変更する。
 - メニューバーから [操作] - [ホスト交換] を選択する。

8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

- 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ホスト交換] を選択する。

なお、エクスポートしたホストとインポートしたホストが同じ場合には、この手順は不要です。

4. [エージェント構成編集] 画面のメニューバーから [操作] - [エージェント構成の反映] を選択する。

実システムにシステムの階層構成情報が反映されます。

5. [更新権取得] チェックボックスのチェックを外す。

なお、現在のシステムの階層構成を取得したい場合には、この操作は不要です。[IM 構成管理] 画面のメニューバーから [編集] - [IM 構成取得] を実行して、現在のシステムの階層構成を取得してください。

(b) リモート監視構成の場合

次の手順でシステムの階層構成情報を反映してください。

1. [IM 構成管理] 画面のメニューバーから [編集] - [リモート監視構成編集] を選択する。

[リモート監視構成編集] 画面が表示されます。

2. [更新権取得] チェックボックスをチェックする。

JP1/IM システムの構成の編集ができるようになります。

3. ツリーの最上位ノード (統合マネージャー) を選択して、次のどちらかの方法で、統合マネージャーを変更する。

- メニューバーから [操作] - [ホスト交換] を選択する。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから [ホスト交換] を選択する。

なお、エクスポートしたホストとインポートしたホストが同じ場合には、この手順は不要です。

4. [リモート監視構成編集] 画面のメニューバーから [操作] - [リモート監視構成の反映] を選択する。

実システムにシステムの階層構成情報が反映されます。

5. [更新権取得] チェックボックスのチェックを外す。

なお、現在のシステムの階層構成を取得したい場合には、この操作は不要です。[IM 構成管理] 画面のメニューバーから [編集] - [IM 構成取得] を実行して、現在のシステムの階層構成を取得してください。

(3) プロファイル情報の反映

IM 構成管理の管理情報をインポートしただけでは、システムに設定ファイルは反映されません。次の方法で設定ファイルの反映をしてください。

- 設定ファイルを一括で反映する方法
- ホストごとに設定ファイルを反映する方法

設定ファイルの反映方法は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(6) 設定ファイルの編集内容を反映する」を参照してください。

なお、現在のシステムのプロファイル情報を取得したい場合には、プロファイル情報の反映は不要です。プロファイルを一括で収集してください。プロファイルの収集方法は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(1) プロファイルリストを収集する」を参照してください。

9

BJEX との連携

JP1/IM は、BJEX が発行する応答要求メッセージを JP1 イベントとして監視し、JP1/IM - View から応答入力する機能を提供しています。この章では、BJEX と連携するために JP1/IM が提供する機能、BJEX との連携方法、BJEX 連携時の画面、および BJEX 連携時に使用するコマンドオプションについて説明します。

9.1 BJEX との連携の概要

9.2 BJEX 連携用の JP1/IM の機能

9.3 BJEX と連携するための設定

9.4 応答待ちイベントの操作

9.5 BJEX 連携時の画面

9.6 BJEX 連携時のコマンド

9.1 BJEX との連携の概要

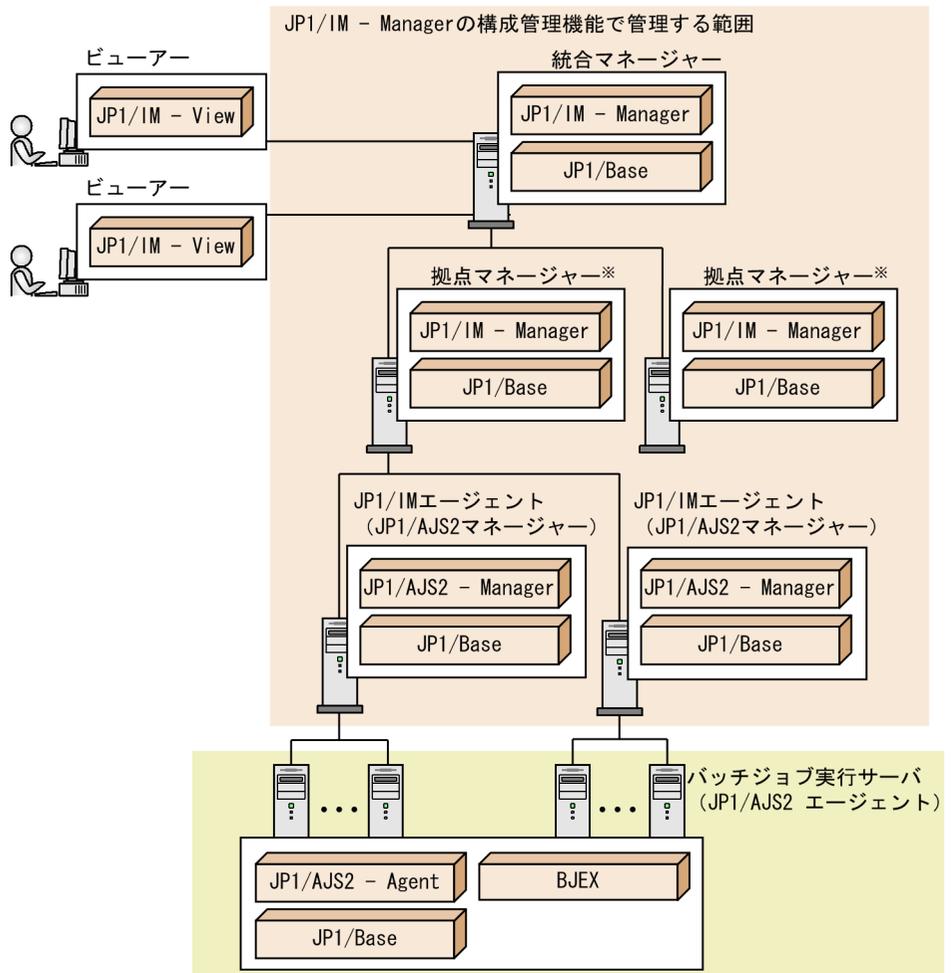
BJEX は、メインフレームと類似のジョブ管理システムを、オープンシステムで実現する製品です。JP1/AJS と連携して、バッチジョブ（バッチ処理を実行するジョブ）を制御するジョブ管理システムを、バッチジョブ実行システムといいます。バッチジョブ実行システムに JP1/IM を導入することで、BJEX が発行する JP1 イベントを基に、JP1/IM - View からバッチジョブの実行状況の監視、および実行結果の確認ができます。

BJEX が出力するメッセージには、バッチジョブの実行中にオペレーターに応答入力を促す応答要求メッセージがあります。BJEX は、応答要求メッセージを JP1 イベントとして発行します。JP1/IM では、この JP1 イベントを監視し、メッセージに対して応答入力できる機能を提供しています。応答要求メッセージに相当する JP1 イベントを応答待ちイベントと呼びます。応答待ちイベントを管理し、応答する機能を応答待ちイベント管理機能と呼びます。応答待ちイベント管理機能は、BJEX と連携する場合に使用します。デフォルトでは無効となっているため、BJEX と連携する場合は有効にしてください。

9.1.1 バッチジョブ実行システムと連携する場合のシステム構成

バッチジョブ実行システムと JP1/IM を連携する場合のシステム構成について説明します。

図 9-1 バッチジョブ実行システムと JP1/IM の構成例



注※ 拠点マネージャーまたは中継マネージャーを配置できます。

図の例では、拠点マネージャーがある階層型のシステムで、バッチジョブ実行システムを監視しています。

各サーバの役割、および前提製品について説明します。適用 OS については、各製品のマニュアルを参照してください。また、適用バージョンについては、JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

ビューアー

JP1/IM - View から JP1/IM - Manager に接続して、監視や操作をします。前提製品を次に示します。

- JP1/IM - View

注 WWW ページ版の JP1/IM - View では、通常の JP1 イベントと同様に応答

9. BJEX との連携

待ちイベントを監視できますが、操作できる機能に制限があります。詳細については、「9.4 応答待ちイベントの操作」を参照してください。

統合マネージャー

システムを統合管理するサーバです。前提製品を次に示します。

- JP1/IM - Manager
- JP1/Base

拠点マネージャーまたは中継マネージャー

大規模なシステムを監視する場合などシステムを階層で管理したい場合に、統合マネージャーの下に配置するサーバです。前提製品を次に示します。

- JP1/IM - Manager
- JP1/Base

JP1/IM エージェント (JP1/AJS マネージャー)

JP1/IM の監視対象のサーバです。図の例では、JP1/AJS のマネージャーでもあります。前提製品を次に示します。

- JP1/AJS - Manager
- JP1/Base

バッチジョブ実行サーバ (JP1/AJS エージェント)

JP1/AJS - Manager から実行依頼を受けたバッチジョブなどの処理を実行するサーバです。バッチジョブ実行サーバは、JP1/IM の構成管理対象に含まれていなくても、JP1/IM と連携できます。JP1/IM - Manager とバッチジョブ実行サーバの BJEX は 1 : n (n は 1 以上の整数) の構成で連携できます。連携する場合の設定方法については、「9.3 BJEX と連携するための設定」を参照してください。前提製品を次に示します。

- JP1/AJS - Agent
- JP1/Base
- BJEX

9.2 BJEX 連携用の JP1/IM の機能

BJEX 連携用に JP1/IM が提供している機能について説明します。

9.2.1 応答待ちイベントと JP1/IM の関係

応答待ちイベント（イベント ID：00005C21）は、BJEX で実行しているバッチジョブがオペレーターの応答入力待ちの状態になると発行されます。応答待ちイベントを JP1/IM で監視するためには、BJEX 側で、応答待ちイベントを JP1/IM・Manager のホスト（統合マネージャー）に直接発行する必要があります。また、JP1/IM・Manager では、応答待ちイベント管理機能を有効にする必要があります。

応答待ちイベント（イベント ID：00005C21）の詳細については、マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。

(1) 応答待ちイベントの発行経路

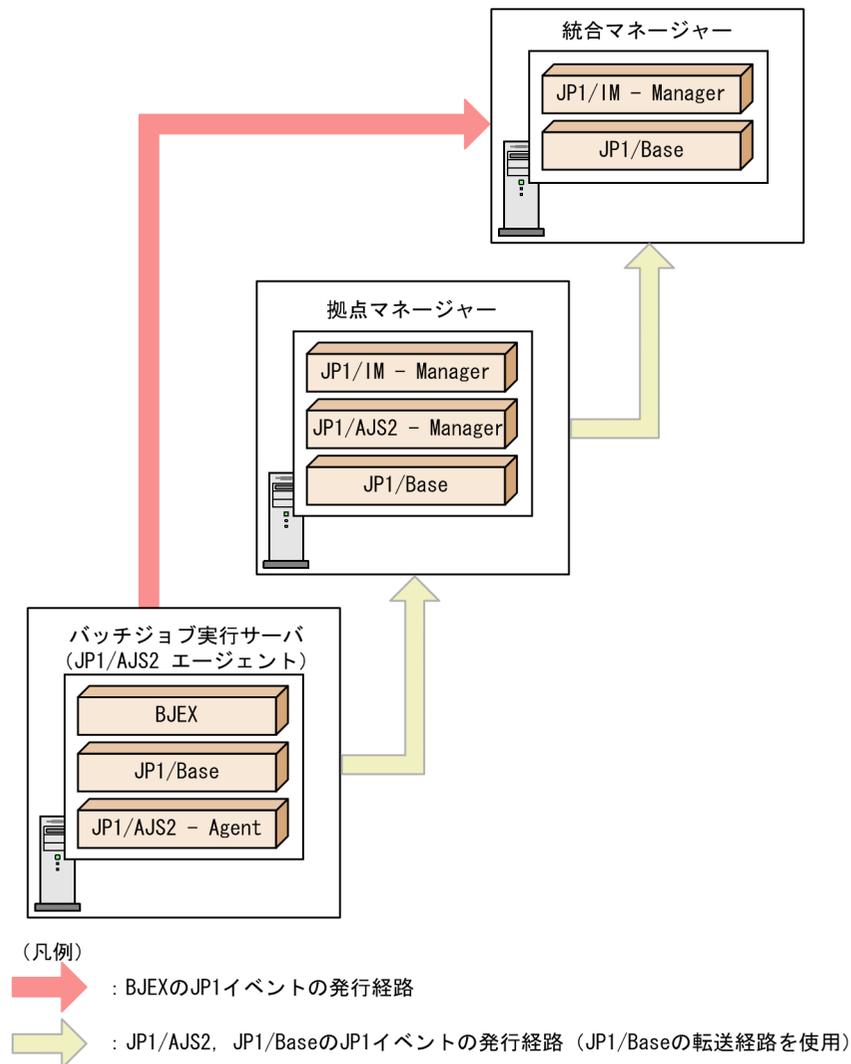
BJEX が発行する JP1 イベント（応答待ちイベントを含む）は、JP1/Base のイベント転送経路を使わないで、統合マネージャーに対して直接発行します。BJEX が発行するすべての JP1 イベントを統合マネージャーに対して直接発行するには、BJEX の設定ファイル（`bjex.conf`）で JP1/IM・Manager のホスト名を指定します。

BJEX と BJEX 以外の製品が発行する JP1 イベントの到着順序

JP1/AJS や JP1/Base など、BJEX ホスト上にある BJEX 以外の製品が発行する JP1 イベントは、JP1/Base の転送経路を使って、拠点マネージャーを経由して統合マネージャーに転送します。そのため、BJEX と BJEX 以外の製品が発行した JP1 イベントが統合マネージャーに到着する順番が入れ替わる場合があります。この場合は、JP1 イベントのメッセージテキスト中に含まれるジョブ ID を参照して、ジョブごとにメッセージを区別してください。

BJEX ホストから発行される JP1 イベントの発行経路を次の図に示します。

図 9-2 BJEX ホストから発行される JP1 イベントの発行経路



！ 注意事項

BJEX が指定したホスト以外の JP1/IM - Manager に応答待ちイベントを転送した場合、転送先のホストでは応答待ちイベントとして扱われません。そのため、転送先のホストでは応答入力できません。

(2) 応答待ちイベント管理機能

応答待ちイベント管理機能を有効にすると、応答待ちイベントに対して、JP1/IM - View から応答入力するための機能が有効になります。応答待ちイベント管理機能は BJEX と連携する JP1/IM - Manager で設定します。

また、応答待ちイベント管理機能を有効にしたあとに、ユーザーごとに応答入力や操作を可能にするかどうかを、JP1/IM - View の [ユーザー環境設定] 画面で設定する必要があります。

設定方法については、「9.3 BJEX と連携するための設定」を参照してください。

なお、応答待ちイベント管理機能、および応答待ちイベントの応答・操作を有効にしくても、通常の JP1 イベントとして応答待ちイベントを監視できます。

! 注意事項

応答待ちイベントとして扱われる JP1 イベントは、応答待ちイベント管理機能を有効にしたあとに JP1/IM - Manager が受信した応答待ちイベントです。

9.2.2 応答待ちイベントの監視

応答待ちイベントは通常の JP1 イベントと同様に扱われます。そのため自動アクションによる通知なども行えます。

ここでは、次の機能について、応答待ちイベントへの対応を説明します。このほかの機能については、通常の JP1 イベントと同じ対応のため説明を省略します。

- [イベントコンソール] 画面での監視
- JP1 イベントのフィルタリング
- 繰り返しイベントの集約表示
- イベント検索
- JP1/IM - View での表示情報の CSV 出力

(1) [イベントコンソール] 画面での監視

応答待ちイベントは、通常の JP1 イベントと同様に、[イベント監視] ページ、[重要イベント] ページ、および [イベント検索] ページのイベント一覧に表示されます。また、応答待ちイベント管理機能、および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合だけ表示される [応答待ちイベント] ページには、応答待ちイベントだけが表示されます。ただし、WWW ページ版の JP1/IM - View には [応答待ちイベント] ページは表示されません。

[イベントコンソール] 画面のイベント一覧では、通常の JP1 イベントと同様に、応答待ちイベントに対して次の操作・設定ができます。

- 応答待ちイベントの詳細表示
- 連携製品のモニター起動
- 自動アクションの実行結果表示
- JP1 イベントの表示項目の変更
- JP1 イベントの背景色設定

9. BJEX との連携

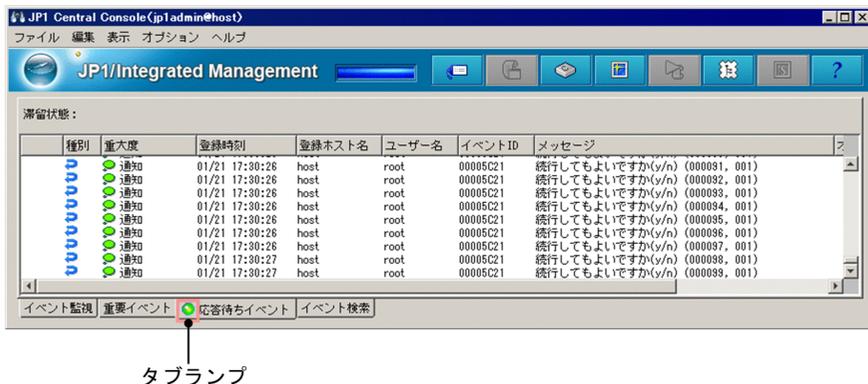
- 応答待ちイベントへの対処状況設定
- 指定期間のイベント表示の設定

これらの機能の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1 JP1 イベントによる集中監視」を参照してください。

(a) [応答待ちイベント] ページでの監視

[応答待ちイベント] ページには、応答していない応答待ちイベントの一覧が表示されます。[応答待ちイベント] ページを次に示します。

図 9-3 [応答待ちイベント] ページ



応答していない応答待ちイベントがあるかどうかは、[応答待ちイベント] ページのタブランプで確認できます。[応答待ちイベント] ページに応答待ちイベントが表示されると、[応答待ちイベント] ページのタブランプが緑色に点灯します。

応答待ちイベントは、イベント DB とは別に、応答待ちイベント滞留ファイルと呼ばれるファイルに保持されます。これを応答待ちイベントの滞留といいます。[応答待ちイベント] ページには、応答待ちイベントファイルに滞留している応答待ちイベントの情報が表示されます。

応答待ちイベントは、次の契機で [応答待ちイベント] ページから削除されます。

- 応答待ちイベントに回答したとき
- 応答待ちイベントの滞留が解除されたとき
- 応答待ちイベントがキャンセルされたとき

応答待ちイベントの滞留が解除される契機については、「9.2.3 応答待ちイベントの滞留」を参照してください。

[応答待ちイベント] ページに表示されているすべての応答待ちイベントが [応答待ちイベント] ページから消えると、タブランプの点灯が消えます。

各ページのイベント一覧では、応答待ちイベントであることが判別できるように、[種別] に応答待ちイベントを示すマーク  が表示されます。

なお、[応答待ちイベント] ページでは、JP1 イベントの背景色を設定しても背景に色は付きません。

(2) 応答待ちイベントのフィルタリング

次のフィルターで応答待ちイベントをフィルタリングできます。

- ユーザーフィルター
- 重要イベントフィルター
- 表示フィルター

応答待ちイベント管理機能を有効にすると、ユーザーフィルター、および重要イベントフィルターの条件定義画面に、応答待ちイベントを表示対象とするかどうかを選択する項目が表示されます。表示フィルターで応答待ちイベントをフィルタリングする場合は、応答待ちイベント管理機能、および応答待ちイベントの応答・操作を有効にする必要があります。

各フィルターの条件定義画面の詳細については、「9.5.8 フィルターの条件定義画面」を参照してください。

なお、イベント取得フィルターには、応答待ちイベントをフィルタリングする条件指定はありません。イベント取得フィルターは、応答待ちイベントを発行する製品単位で JP1 イベントをフィルタリングするよう設定してください。

(3) 応答待ちイベントの集約表示

ネットワーク障害などが原因で、一つのバッチジョブから同一の応答待ちイベントが連続して発行された場合、集約表示されます。集約表示されるのは、[イベント監視] ページ、および [重要イベント] ページだけです。

何らかの障害によって同一の応答待ちイベントが複数発行されても、すべてに応答する必要はありません。一つの応答待ちイベントに反応することで、ほかの同一の応答待ちイベントは反応不要となります。ただし、反応不要となった応答待ちイベントは [応答待ちイベント] ページに残ったままとなるため、応答待ちイベントの滞留を解除する必要があります。応答待ちイベントの滞留については、「9.2.3 応答待ちイベントの滞留」を参照してください。

(4) 応答待ちイベントの検索

JP1 イベントを検索する際、応答待ちイベントを検索条件として指定できます。応答待ちイベント管理機能、および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合だけ、[イベント検索条件設定] 画面に応答待ちイベントの条件項目が表示されます。

[イベント検索条件設定] 画面の詳細については、「9.5.7 [イベント検索条件設定] 画面」を参照してください。

なお、ログインしているマネージャーを検索対象にした場合だけ応答待ちイベントに対して反応できます。ログインしているマネージャー以外を検索対象とした場合は、反応

待ちイベントであれば表示されますが応答できません。

(5) JP1/IM - View での表示情報の CSV 出力

イベント一覧に表示された応答待ちイベントの情報を CSV 出力できます。CSV 出力する機能には、次の二つがあります。

- イベント一覧情報をファイルに保存する。
JP1/IM - View に表示されるイベント情報のスナップショットを CSV 出力して保存できます。スナップショットとは、特定のタイミングで情報を抽出することを意味します。
- JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピーする。
クリップボードにコピーする機能を有効にしている場合、応答待ちイベントの情報やアクションの実行結果などについて、選択した部分の情報を CSV 形式でクリップボードにコピーできます。デフォルトでは有効となっています。

応答待ちイベントを CSV 出力して保存、またはクリップボードにコピーできるイベント一覧を次の表に示します。

表 9-1 CSV 出力、またはクリップボードにコピーできるイベント一覧

操作	[イベント監視] ページ	[重要イベント] ページ	[関連イベント一覧] 画面	[応答待ちイベント] ページ	[イベント検索] ページ
CSV 出力			×		
クリップボードにコピー					

(凡例)

: できる。

× : できない。

応答待ちイベントを CSV 出力して保存、またはクリップボードへコピーした場合、アイコンで表示されている「種別」は、「応答待ちイベント」の文字列に変わって出力されません。[応答待ちイベント] ページの情報を CSV 出力した場合、ヘッダー情報の出力対象画面名には、「応答待ちイベント」が出力されます。

クリップボードにコピーする機能を有効にする手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.13 JP1/IM - View の動作カスタマイズ」を参照してください。

9.2.3 応答待ちイベントの滞留

応答待ちイベント管理機能を有効にすると、マネージャーのイベント DB に到着した応答待ちイベントは、イベント DB とは別に、応答待ちイベント滞留ファイルへ 2,000 件

まで保持されます。これを応答待ちイベントの滞留といいます。

[応答待ちイベント] ページには、応答待ちイベント滞留ファイルに保持されている応答待ちイベントの情報が表示されます。

(1) 応答待ちイベントの滞留が解除される契機

応答待ちイベントは、次の契機で滞留が解除され、応答待ちイベント滞留ファイルから削除されます。

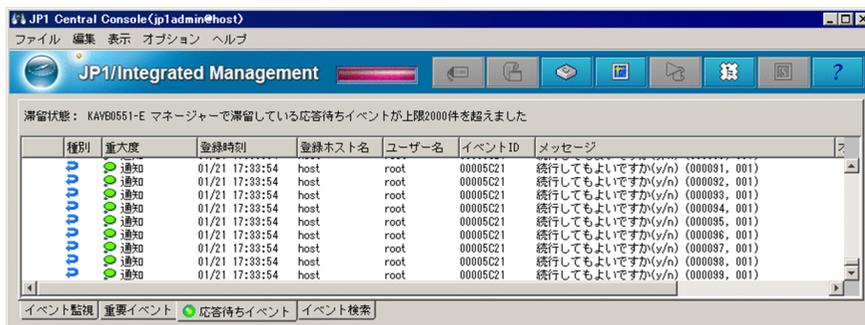
- 応答待ちイベントの応答に成功した場合
- BJEX から応答待ちイベントをキャンセルした場合
- 応答待ちイベントの滞留を手動で解除した場合
- 応答待ちイベントが 2,000 件を超えて発生した場合
最も古い応答待ちイベントの滞留が解除されます。
- 応答待ちイベント管理機能を無効にして JP1/IM - Manager を再起動した場合

滞留の解除後、JP1/IM - View でイベント一覧の表示を更新すると、[応答待ちイベント] ページから滞留を解除した応答待ちイベントの表示が削除されます。なお、滞留が解除されて [応答待ちイベント] ページから表示が削除されても、応答待ちイベントがイベント DBに残っている場合は、[イベント検索] ページから検索できます。

(2) 応答待ちイベントが上限の 2,000 件を超えた場合の通知

JP1/IM - Manager は、応答待ちイベントの滞留数を監視し、滞留数が 2,000 件を超えると、上限を超えたことを通知する JP1 イベント (イベント ID : 00003F41) を発行します。また、[応答待ちイベント] ページ上には KAVB0551-E のメッセージが表示されます。

図 9-4 応答待ちイベントが 2,000 件を超えた場合の [応答待ちイベント] ページ



滞留している応答待ちイベントの上限超過を通知する JP1 イベントは、一度しか発行されません。また、KAVB0551-E のメッセージは [応答待ちイベント] ページに表示されたままとなります。滞留数が上限を超えた場合は、メッセージに従って対処したあとに、滞留状態の監視を復帰させてください。滞留状態の監視を復帰させると、[応答待ちイベント] ページ上に表示されていた KAVB0551-E のメッセージが消え、再度 2,000 件を超

えたときに JP1 イベントで通知します。

滞留状態の監視の復帰方法については、「9.4.4 応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させる」を参照してください。

滞留が解除された応答待ちイベントに応答したい場合

滞留数が上限を超えて、[応答待ちイベント] ページから削除された応答待ちイベントに対して応答したい場合は、[イベント検索] ページで応答待ちイベントを検索して応答してください。滞留が解除された応答待ちイベントを特定するには、マネージャーの統合トレースログに出力される KAVB1801-E のメッセージで確認してください。

応答待ちイベントがイベント DB から削除された場合は、BJEX ホスト上で、BJEX が提供する応答コマンド (bjexchmsg) を使用して応答できます。BJEX の応答コマンドを使った応答方法については、マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。

9.2.4 応答待ちイベントへの応答

応答待ちイベントに対して、JP1/IM - View から応答入力できます。例えば、バッチ処理の続行をオペレーターに確認するメッセージに対して、続行するかどうかを「yes」などのテキスト形式で応答入力できます。応答入力は、応答待ちイベントから表示する [応答入力] 画面で設定します。

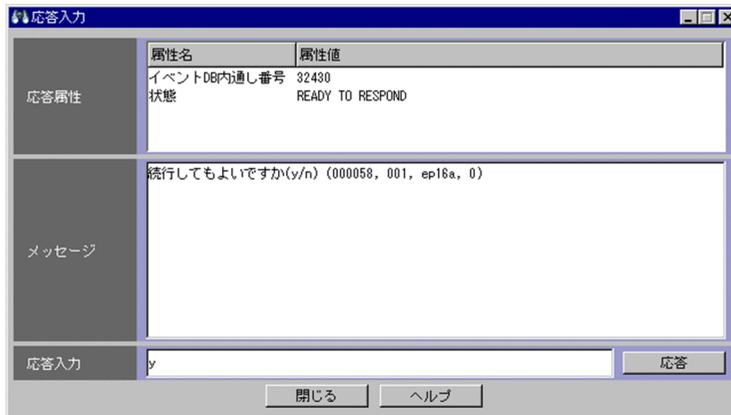
[応答入力] 画面は、次に示すページのイベント一覧から応答したい応答待ちイベントを選択して起動します。

- [応答待ちイベント] ページ
- [イベント検索] ページ
検索先がログインしているマネージャーの場合だけ応答できます。
- [関連イベント一覧] 画面
[関連イベント一覧] 画面が、[応答待ちイベント] ページから派生した場合だけ応答できます。[イベント検索] ページから派生した場合は、検索先がログインしているマネージャーの場合だけ応答できます。

(1) 応答待ちイベントへの応答の仕組み

応答待ちイベントへの応答は、応答待ちイベントの発行元プロセスが存在し、応答できる状態の場合だけ可能です。発行元プロセスの状態は、[応答入力] 画面の [応答属性] に表示される [状態] で確認できます。発行元プロセスの状態は、[応答入力] 画面を表示するタイミングで、JP1/IM - Manager が BJEX に対して確認します。BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信エラーなどで、発行元プロセスの状態が確認できなかった場合は、KAVB0555-E のメッセージが出力され [応答入力] 画面を表示できません。

図 9-5 [応答入力] 画面



[応答属性] の [状態] に表示される，応答待ちイベントの発行元プロセスの状態を次の表に示します。

表 9-2 応答待ちイベントの発行元プロセスの状態

発行元プロセスの状態	説明	応答入力の可否
READY TO RESPOND	BJEX のジョブが応答を待っている状態。	
NO LONGER MANAGED BY BJEX	次のどれかの状態を示す。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/AJS から BJEX のジョブがキャンセルされた状態。 BJEX のジョブが KILL された状態。 応答した応答待ちイベントに対して [応答入力] 画面を表示・更新した場合に，対象の応答待ちイベントの状態を BJEX で保持していない。 	×
RESPONDED SUCCESSFULLY	[応答入力] 画面で応答し，応答に成功した状態（応答した [応答入力] 画面にだけ表示される）。	×
ALREADY RESPONDED	すでに応答した状態（応答した応答待ちイベントに対して [応答入力] 画面を表示・更新した場合に表示される）。	×

（凡例）

- ： 応答入力できる。
- ×： 応答入力できない。

発行元プロセスの状態が「READY TO RESPOND」の場合に，応答入力できます。それ以外の状態の応答待ちイベントは，すでに応答したか，発行元プロセスが存在しないため応答不要です。

応答待ちイベントに回答すると，回答入力した内容が BJEX に送信されます。入力した

9. BJEX との連携

内容が BJEX に到達し、応答に成功すると、応答待ちイベントの状態が「対処済」になります。また、応答待ちイベントの滞留が解除され、[応答待ちイベント] ページから削除されます。

JP1/IM・Manager と BJEX 間で、応答待ちイベントの発行元プロセスの状態確認や応答入力での通信する際、60 秒を超えて接続に失敗するとタイムアウトします。タイムアウト時間は変更できません。運用後に、応答待ちイベントの発行元サーバやネットワークの負荷が高いことが要因で、頻繁にエラーメッセージ (KAVB0554-E, KAVB0555-E) が出力される場合は、タイムアウト時間を長く設定してください。タイムアウト時間の設定方法については、「9.3.4(1) 接続のタイムアウト時間の設定」を参照してください。

(2) 応答待ちイベントに応答するための条件

応答待ちイベントに応答できる条件を次に示します。

- 応答する JP1 ユーザーが JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限を持っている。
- 応答していない応答待ちイベントである。
応答待ちイベントに応答できるのは一度だけです。イベント取得フィルターのイベント取得開始位置を変更して再取得しても、応答した応答待ちイベントには応答できません。
- 応答待ちイベント管理機能を有効にした状態で受信した応答待ちイベントである。
応答待ちイベント管理機能を無効にした状態で受信した応答待ちイベントは、応答入力できません。
- イベント検索をした場合、検索先がログインしているマネージャーである。

なお、WWW ページ版の JP1/IM・View では応答入力できません。

(3) BJEX の応答コマンドによる応答

BJEX と JP1/IM・Manager 間の通信エラーなどによって JP1/IM・View からの応答入力に失敗した場合や、応答待ちイベントの滞留が解除されてイベント DB から削除されてしまった場合など、JP1/IM・View 上から応答できなくなった場合は、BJEX ホスト上で、BJEX が提供する応答コマンド (bjexchmsg) を使用して応答できます。BJEX の応答コマンドを使った応答方法については、マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。

9.2.5 応答待ちイベントのキャンセル

JP1/AJS から BJEX のジョブをキャンセルしたり、BJEX でジョブを削除したりした場合など、発行した応答待ちイベントへの応答が不要になるケースがあります。このような場合、ジョブをキャンセルした時点で、BJEX は JP1/IM・Manager に対してキャンセルイベント (イベント ID : 00005C22, 00005C23, または 00005C24) を発行します。JP1/IM・Manager がキャンセルイベントを受信すると、キャンセル対象の応答待ちイベントの滞留が解除され、[応答待ちイベント] ページから削除されます。また、応答待ちイベントの対処状況が「対処済」となります。

キャンセルイベントの詳細については、マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。

また、JP1/IM - View 上から手動で応答待ちイベントをキャンセルすることもできます。不要となった応答待ちイベントをキャンセルするには、JP1/IM - View 上で応答待ちイベントの滞留を解除します。

9.3 BJEX と連携するための設定

JP1/IM - Manager のセットアップが済んでいることを前提に、BJEX と連携するための設定について説明します。

なお、JP1/Base と JP1/IM - Manager については次の構成および設定を推奨します。

- マネージャー上の JP1/Base、および JP1/IM - Manager をクラスタ構成にする。
- JP1/Base と JP1/IM - Manager のヘルスチェック機能を有効にする。

9.3.1 JP1/IM - Manager の設定

JP1/IM - Manager で必要な設定について説明します。

(1) 応答待ちイベント管理機能を有効にする

応答待ちイベント管理機能は JP1/IM - Manager で設定します。応答待ちイベント管理機能を有効にすると、次の機能が有効になります。

- 応答待ちイベントの滞留
- 応答待ちイベントのキャンセル
- 応答待ちイベントの応答・操作の設定
[ユーザー環境設定] 画面に応答待ちイベントの応答・操作を有効にするための設定項目が表示されます。
- 応答待ちイベントのフィルタリング
[ユーザーフィルター詳細設定] 画面、および [重要イベント定義設定] 画面に、応答待ちイベントをフィルタリングするかどうかを選択する項目が表示されます。

応答待ちイベント管理機能を有効にする手順を次に示します。

1. jcoimdef コマンドを実行する。

jcoimdef -resevent ONを実行します。

2. JP1/IM - Manager を再起動する。

注 jco_spmd_reload コマンドによるリロードでは、有効になりません。

jcoimdef コマンドの -resevent オプションについては、「9.6.1 jcoimdef」を参照してください。

(2) イベント取得フィルターの設定

イベント取得開始位置を、前回停止したときの状態から処理を続行するように設定してください。

イベント取得フィルターの取得開始位置の設定手順を次に示します。

1. jcoimdef コマンドを実行する。

`jcoimdef -b -1`を実行します。

2. JP1/IM - Manager を再起動, または `jco_spmd_reload` コマンドを実行する。

`jcoimdef` コマンドについては, マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcoimdef`」(1. コマンド)を参照してください。

`jco_spmd_reload` コマンドについては, マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jco_spmd_reload`」(1. コマンド)を参照してください。

9.3.2 JP1/IM - View の設定

JP1/IM - View で必要な設定について説明します。

(1) 応答待ちイベントの応答および操作を有効にする

応答待ちイベントの応答・操作は, ユーザーごとに JP1/IM - View の [ユーザー環境設定] 画面で有効に設定します。この設定を有効にすると, 次の機能が有効となります。

- [応答待ちイベント] の監視
[イベントコンソール] 画面に [応答待ちイベント] ページが表示されます。
- 応答待ちイベントへの応答
[応答入力] 画面で応答できます。
- 応答待ちイベントの検索
[イベント検索条件設定] 画面に, 検索条件として応答待ちイベントを指定する項目が表示されます。
- 応答待ちイベントのフィルタリング
[表示フィルター設定] 画面に, 応答待ちイベントを表示対象にするかどうかを選択する項目が表示されます。

応答待ちイベントの応答・操作を有効にする手順を次に示します。

1. [ユーザー環境設定] 画面を表示する。
[イベントコンソール] 画面で [オプション] - [ユーザー環境設定] を選択します。
2. [応答待ちイベント] の [有効] チェックボックスをチェックする。
3. [OK] ボタンをクリックする。

[ユーザー環境設定] 画面の詳細については, 「9.5.6 [ユーザー環境設定] 画面」を参照してください。

(2) ユーザーフィルターの設定

ユーザーフィルターを使用して, ユーザーごとに監視できる JP1 イベントを制限できます。応答待ちイベントを表示させたくないユーザーには, ユーザーフィルターで応答待

9. BJEX との連携

ちイベントを表示しないように設定してください。デフォルトでは応答待ちイベントを表示します。

ユーザーフィルターの作成方法、および変更方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.2.2 ユーザーフィルターを設定する」を参照してください。

[ユーザーフィルター詳細定義] 画面については、「9.5.8 フィルターの条件定義画面」を参照してください。

9.3.3 JP1/Base の設定

認証サーバの JP1/Base で、応答待ちイベントを操作する JP1 ユーザーに対して操作権限を設定してください。

次の操作をする JP1 ユーザーには、JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限が必要です。

- 応答待ちイベントへの応答入力
- 応答待ちイベントの滞留の手動解除

次の操作をする JP1 ユーザーには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。

- 応答待ちイベントの滞留状態監視の復帰

設定方法の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章を参照してください。

9.3.4 BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信に関する設定

BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信に関する設定について説明します。

(1) 接続のタイムアウト時間の設定

応答待ちイベントの発行元プロセスの状態確認や応答入力で通信する際の、接続のタイムアウト時間を変更できます。通常は設定を変更する必要はありません。運用後に、応答待ちイベントの発行元サーバやネットワークの負荷が高いことが要因で、頻繁にエラーメッセージ (KAVB0554-E, KAVB0555-E) が出力される場合は、タイムアウト時間を長く設定してください。タイムアウト時間は、JP1/IM - Manager で設定します。

接続のタイムアウト時間を変更する手順を次に示します。

1. マネージャーで任意のファイルを作成し、次のパラメーターを定義する。

```
[論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER]  
"RESEV_TIMEOUT_MAX"=dword:16進数値
```

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

60 ~ 3,600 (秒) の 16 進数値で指定します。デフォルトは「dword:0000003c」(60 秒) です。

2. jbssetcnf コマンドを実行する。
作成した定義ファイルを引数にして、jbssetcnf コマンドを実行します。
jbssetcnf コマンドを実行すると、定義ファイルの設定が共通定義情報に反映されます。jbssetcnf コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
3. jco_spmdd_reload コマンドを実行するか、JP1/IM - Manager を再起動する。
定義した内容が有効になります。
jco_spmdd_reload コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_spmdd_reload」(1. コマンド)を参照してください。

(2) ファイアウォール環境でのパケット・フィルタリングの設定

ファイアウォール環境で運用する場合は、BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信がファイアウォールを通過できるようにパケット・フィルタリングを設定してください。BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信で使用するポート番号とファイアウォールの通過方向 (コネクション確立の方向) を次の表に示します。

表 9-3 BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信で使用するポート番号

サービス名	ポート	通過方向
jp1bsplugin	20306/tcp	JP1/IM - Manager BJEX
jp1limevt	20098/tcp	BJEX JP1/IM - Manager

(凡例)

: コネクション確立時の接続方向を示します。

このほかに、JP1/IM および JP1/Base が使用するポート番号については次の説明を参照してください。

- JP1/Base のポート番号：マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のポート番号の説明
- JP1/IM のポート番号：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「付録 C ポート番号」

9.3.5 BJEX の設定

BJEX で必要な設定について説明します。

(1) 連携する JP1/IM - Manager の指定

BJEX が連携できる JP1/IM - Manager は 1 ホストであり、連携する JP1/IM - Manager

9. BJEX との連携

を指定する必要があります。BJEX が連携する JP1/IM - Manager を指定するためには、BJEX の設定ファイル (bjex.conf) に、連携する JP1/IM - Manager のホスト名を指定します。

BJEX の設定ファイル (bjex.conf) の詳細については、マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。

(2) 応答待ちイベントの発行数の設定

BJEX が発行する応答待ちイベントの発行数の上限を設定できます。滞留できる応答待ちイベントには 2,000 件の上限があるため、次の計算式の値が 2,000 以下になるように、各 BJEX ホストで発行する応答待ちイベント数を見積もってください。

一つの BJEX ホストで発行する応答待ちイベント数の上限 × BJEX ホスト数

応答待ちイベントの発行数の上限数は、BJEX の設定ファイル (bjex.conf) で設定します。設定の詳細については、マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。

9.4 応答待ちイベントの操作

応答待ちイベントに対する操作手順について説明します。

! 注意事項

WWW ページ版の JP1/IM - View の制限事項

WWW ページ版の JP1/IM - View では、応答入力、滞留の解除、および滞留状態の監視の復帰操作はできません。また、[イベントコンソール] 画面に [応答待ちイベント] ページは表示されません。応答待ちイベントの対処状況の変更、およびインシデント手動登録の操作はできません。

9.4.1 応答待ちイベントに応答する操作の流れ

セントラルコンソール、およびセントラルスコープで応答待ちイベントを監視して、応答する操作の流れについて説明します。

(1) セントラルコンソールで応答待ちイベントを監視する

セントラルコンソールで応答待ちイベントを監視し、応答する流れを次の図に示します。

9. BJEX との連携

図 9-6 セントラルコンソールで応答待ちイベントを監視して応答する流れ

1. [応答待ちイベント] ページに
応答待ちイベントが表示
される。



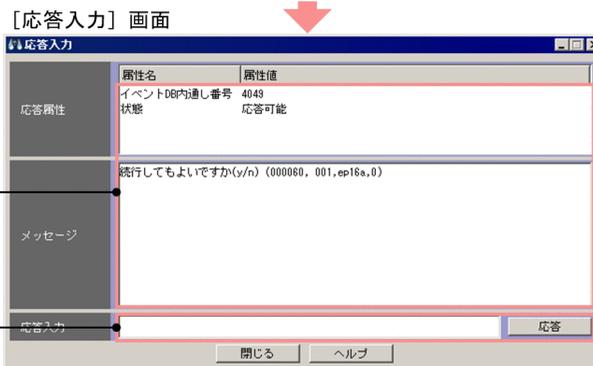
「応答待ちイベント」の
アイコン



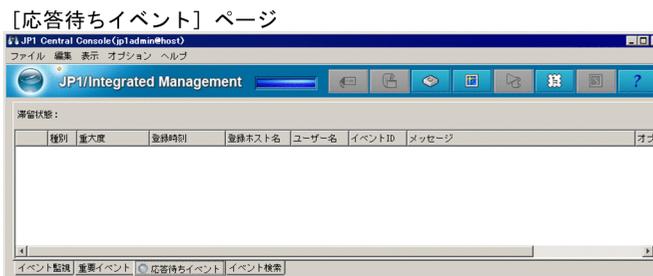
2. [応答入力] 画面を表示
する。

3. 応答待ちイベントの発行元
プロセスの状態や、メッ
セージの内容を確認する。

4. 応答入力し、[応答] を
クリックする。



5. 応答に成功すると、[応
答待ちイベント] ページ
から応答待ちイベントが
消える。



6. [イベント検索] ページ
で応答待ちイベントを検
索すると、「対処済」と
なる。



「対処済」のアイコン
(凡例)



: ユーザーの操作

図中の番号に従って説明します。

1. 応答待ちイベントを受信すると、[イベントコンソール] 画面の [応答待ちイベント] ページに
応答待ちイベントが表示されます。
2. 応答待ちイベントから [応答入力] 画面を表示します。
3. 応答待ちイベントの発行元プロセスの状態やメッセージの内容を確認します。

発行元プロセスの状態が「READY TO RESPOND」になっていることを確認します。

4. [応答入力] 欄に応答内容を入力し,[応答] ボタンをクリックします。
5. 応答に成功すると,[応答待ちイベント] ページから応答待ちイベントが削除されます。
6. [イベント検索] ページで応答待ちイベントを検索すると, 応答待ちイベントの状態は「対処済」となります。

(2) セントラルスコープで応答待ちイベントを監視する

セントラルスコープで応答待ちイベントを監視して応答する流れを次の図に示します。

9. BJEX との連携

図 9-7 セントラルスコープで応答待ちイベントを監視して応答する流れ

1. 応答待ちイベントが、監視オブジェクトの状態変更条件に一致し、監視オブジェクトの状態が変わる。

2. 状態変更イベントの検索によって、応答待ちイベントを表示する。

3. [応答入力] 画面を表示する。

4. 応答待ちイベントの発行元プロセスの状態や、メッセージの内容を確認する。

5. 応答入力し、[応答] をクリックする。

6. [イベント検索] ページで再度応答待ちイベントを検索すると、「対処済」となる。



「対処済」のアイコン

7. 応答待ちイベントの対処済みに連動して、[監視ツリー] 画面の監視オブジェクトの状態が自動的に「正常」に戻る。

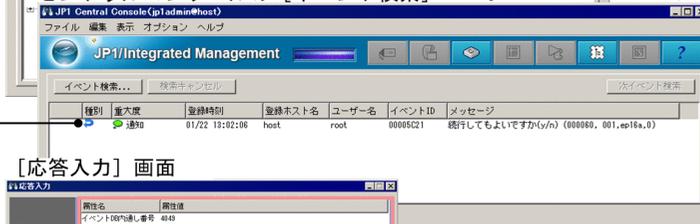
(凡例)

：ユーザーの操作

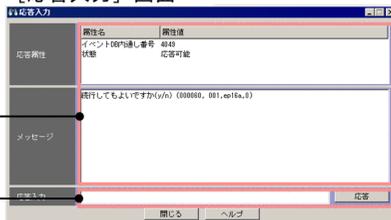
セントラルスコープの [監視ツリー] 画面



セントラルコンソールの [イベント検索] ページ



[応答入力] 画面



セントラルコンソールの [イベント検索] ページ



セントラルスコープの [監視ツリー] 画面



図中の番号に従って説明します。

1. 監視オブジェクトの状態変更条件に一致する応答待ちイベントを受信すると、監視オブジェクトの状態が変わります。
2. 監視オブジェクトから状態変更イベントを検索して、[イベント検索] ページに

待ちイベントを表示します。

3. 応答待ちイベントから [応答入力] 画面を表示します。
4. 応答待ちイベントの発行元プロセスの状態やメッセージの内容を確認します。
発行元プロセスの状態が「READY TO RESPOND」になっていることを確認します。
5. [応答入力] 欄に応答内容を入力し, [応答] ボタンをクリックします。
6. [イベント検索] ページで再度応答待ちイベントを検索すると, 応答に成功した応答待ちイベントの状態は「対処済」となります。
7. 応答待ちイベントの対処済みに連動して, [監視ツリー] 画面上の監視オブジェクトの状態が正常に戻ります。

9.4.2 応答待ちイベントに回答する

応答待ちイベントに回答するための条件については、「9.2.4(2) 応答待ちイベントに回答するための条件」を参照してください。なお、この操作には JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限が必要です。

応答待ちイベントに回答する手順を次に示します。

1. 次のどれかの方法で [応答入力] 画面を表示する。
 - [応答待ちイベント] ページ, または [イベント検索] ページで応答待ちイベントを選択したあと, [メインメニュー] - [表示] - [応答入力] を選択する。
 - [応答待ちイベント] ページ, [イベント検索] ページ, または [関連イベント一覧] 画面で応答待ちイベントを選択したあと, ポップアップメニューの [応答入力] を選択する。
 - [イベント詳細] 画面の [応答入力] ボタンをクリックする。
2. [応答入力] 画面の [応答入力] 欄に, 応答内容を入力する。
メッセージの内容を確認し, 応答内容を入力します。
 - 入力できるバイト数は 512 バイトまでです。
 - 入力できる文字は, ASCII コード 0x20-0x7E の範囲の文字です。
3. [応答] ボタンをクリックする。
応答をしてよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] ボタンをクリックすると応答します。[いいえ] ボタンをクリックすると, 応答しないで [応答入力] 画面に戻ります。
応答に成功すると, [応答待ちイベント] ページから応答待ちイベントが削除され, 応答待ちイベントの対処状況が「対処済」に変わります。

9.4.3 応答待ちイベントの滞留を手動で解除する

応答が不要となった場合や, 応答に成功したのに滞留の解除に失敗した場合に, 応答待ちイベントの滞留を手動で解除してください。なお、この操作には JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限が必要です。

応答待ちイベントの滞留を解除する手順を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面の [応答待ちイベント] ページを表示する。
2. 滞留を解除したい応答待ちイベントの発行元プロセスの状態を確認する。
滞留を解除したい応答待ちイベントを選択して,[応答入力] 画面を表示します。発行元プロセスの状態が「NO LONGER MANAGED BY BJEX」または「ALREADY RESPONDED」になっていることを確認します。
3. 応答待ちイベントの対処状況を「対処済」にする。
滞留を解除して問題なければ, 応答待ちイベントの対処状況を「対処済」にします。応答待ちイベントを選択し,[表示] - [対処済] を選択します。
4. 滞留を解除したい応答待ちイベントを選択し,[表示] - [滞留解除] を選択する。
または, ポップアップメニューの [滞留解除] を選択する。
複数の応答待ちイベントを選択できます。[滞留解除] を選択すると, 滞留が解除されます。
イベント一覧の表示を更新すると, 応答待ちイベントが [応答待ちイベント] ページから削除されます。

誤って滞留を解除した場合, 再度滞留させることはできません。誤って滞留を解除した応答待ちイベントに回答したい場合は, [イベント検索] ページで応答待ちイベントを検索して回答してください。

9.4.4 応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させる

応答待ちイベントの滞留数が 2,000 件を超えたあとに, 滞留状態の監視を復帰させると, 再び滞留数が 2,000 件を超えた場合に JP1 イベントで通知します。なお, この操作には JP1_Console_Admin 権限が必要です。

滞留状態の監視を復帰させる前に, マネージャーの統合トレースログであふれた応答待ちイベントを確認し, 回答してください。滞留が解除された応答待ちイベントに回答する方法については, 「9.2.3(2) 応答待ちイベントが上限の 2,000 件を超えた場合の通知」を参照してください。

応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させる手順を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面で,[オプション] - [機能状態通知復帰] - [滞留状態監視] を選択する。
滞留状態の監視が復帰します。復帰したあとに [イベントコンソール] 画面を更新すると,[応答待ちイベント] ページの [滞留状態] に表示されている KAVB0551-E のメッセージが消えます。

9.5 BJEX 連携時の画面

応答待ちイベント管理機能，および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合に，通常と表示される項目が異なる画面について説明します。

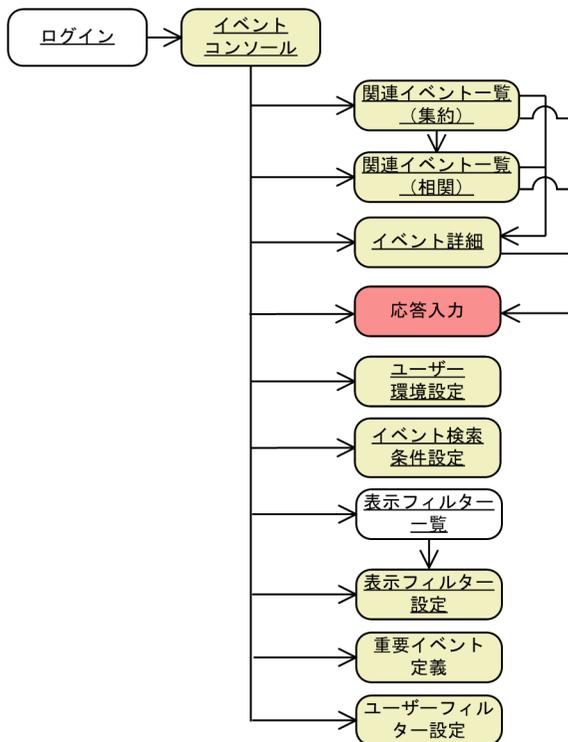
- [イベントコンソール] 画面
- [イベント詳細] 画面
- [応答入力] 画面
- [関連イベント一覧] 画面
- [ユーザー環境設定] 画面
- [イベント検索条件設定] 画面
- フィルターの条件定義画面
 - [ユーザーフィルター設定] 画面
 - [重要イベント定義] 画面
 - [表示フィルター設定] 画面

なお，画面の表示方法や，この節で説明していない画面項目や仕様については，応答待ちイベント管理機能，および応答待ちイベントの応答・操作を無効にした場合と同じです。マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 画面リファレンス」の「1. 画面遷移と [ログイン] 画面」を参照してください。

9.5.1 画面遷移

BJEX と連携した場合の JP1/IM・View の画面遷移を次に示します。なお，図中のログイン画面，および [表示フィルター一覧] 画面については，この節では説明しません。

図 9-8 JP1/IM - View の画面遷移



(凡例)

- 画面名 : 下線のある画面は、WWWページ版でも使用できます。
補足 HP-UX (IPF) 版JP1/IM - ManagerではWWWページ版を使用できません。
- : BJEX連携時でも表示項目が通常と同じ画面です。
- : BJEX連携時に表示項目が通常と異なる画面です。
- : BJEX連携時に追加される画面です。

9.5.2 [イベントコンソール] 画面

応答待ちイベントは、[イベントコンソール] 画面の次に示すページに表示されます。
[応答待ちイベント] ページは、応答待ちイベント管理機能の設定が有効で、[ユーザー環境設定] 画面で [応答待ちイベント] が有効な場合だけ表示されます。

- [イベント監視] ページ
- [重要イベント] ページ
- [イベント検索] ページ
- [応答待ちイベント] ページ

なお、業務グループの参照・操作制限が有効になっている場合、これらの画面には、担当する業務グループ内で発生した JP1 イベントだけが表示されます。業務グループの参

照・操作制限については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4 業務グループの参照・操作制限の仕組み」を参照してください。

JP1 イベントの種別を示すカラムには、応答待ちイベントを示すマーク  が表示されません。

応答待ちイベント管理機能、および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合に、[イベントコンソール] 画面に追加されるメニュー項目を次の表に示します。

表 9-4 [イベントコンソール] 画面の追加メニュー項目

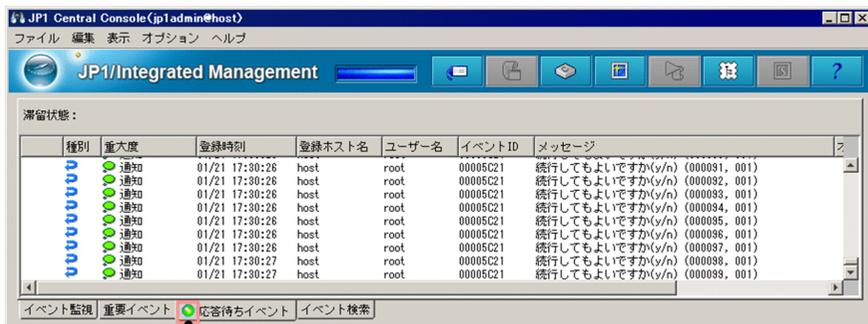
メニュー		コマンド	機能
表示		応答入力	<p>選択している応答待ちイベントの [応答入力] 画面を表示します。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Operator 権限以上のユーザーが実行できます。</p> <p>なお、このメニューを選択できるのは次の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択しているタブが [応答待ちイベント] ページ、[イベント検索] ページである。 • [イベント検索] ページの場合、検索先がログインしているマネージャーである。 • 単一選択である。 • 選択している JP1 イベントが応答待ちイベントである。
		滞留解除	<p>選択している応答待ちイベントの滞留を解除します。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Operator 権限以上のユーザーが実行できます。</p> <p>なお、このメニューを選択できるのは次の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択しているタブが [応答待ちイベント] ページである。
オプション	機能状態通知復帰	滞留状態監視	<p>応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させます。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーが実行できます。</p> <p>なお、次の場合は非活性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 滞留数が 2,000 件を超えていない場合。

これらのメニューは、WWW ページ版の JP1/IM - View では常に非活性です。

(1) [応答待ちイベント] ページ

[応答待ちイベント] ページには、応答していない応答待ちイベントの一覧が表示されます。なお、WWW ページ版の JP1/IM - View にはこのページは表示されません。

図 9-9 [イベントコンソール] 画面の [応答待ちイベント] ページ



タブランプ

表示項目を次に示します。

[滞留状態]

応答待ちイベントの滞留状態を表示する領域です。応答待ちイベントの滞留数が 2,000 件以内の場合は、何も表示されません。滞留数が 2,000 件を超えると、滞留数が上限を超えたことを通知する KAVB0551-E メッセージが表示されます。メッセージは、滞留状態の監視を復帰するまで表示され続けます。

イベント一覧

次の条件を満たす応答待ちイベントが表示されます。

- JP1/IM - Manager で滞留している（応答していない）応答待ちイベント
- イベント取得フィルターを通過した応答待ちイベント
- ログインしている JP1 ユーザーに対応するユーザーフィルターを通過した応答待ちイベント

応答待ちイベントの対処状況を変更、または滞留を解除する場合、一度に操作できるイベント件数は、最大 2,000 件です。

タブランプ

[応答待ちイベント] ページに応答待ちイベントがある場合に緑色に点灯します。

[応答待ちイベント] ページに応答待ちイベントがない場合はグレーで表示されません。

9.5.3 [イベント詳細] 画面

[イベント詳細] 画面には、JP1 イベントの詳細な属性情報が表示されます。

なお、業務グループの参照・操作制限が有効になっている場合、この画面には、担当する業務グループ内で発生した JP1 イベントだけが表示されます。業務グループの参照・操作制限については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4 業務グループの参照・操作制限の仕組み」を参照してください。

[イベント詳細] 画面を次に示します。

図 9-10 [イベント詳細] 画面



応答待ちイベント管理機能，および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合に
表示される項目を次に示します。

[応答入力]

選択している応答待ちイベントの [応答入力] 画面を表示します。次の場合にこの
ボタンは活性します。

- 表示している JP1 イベントが応答待ちイベントである。
- [イベント詳細] 画面の起動元が [応答待ちイベント] ページ，[イベント検索]
ページ，[関連イベント一覧] 画面（派生元が応答可能なイベント一覧）のどれか
の場合。
- JP1 ユーザーが JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限を持っている。

WWW ページ版の JP1/IM - View では常に非活性です。

9.5.4 [応答入力] 画面

[応答入力] 画面は，応答待ちイベントに対して応答入力するための画面です。[応答入
力] 画面を表示するには，JP1_Console_Operator 権限以上が必要です。

この画面は，次の操作で表示できます。

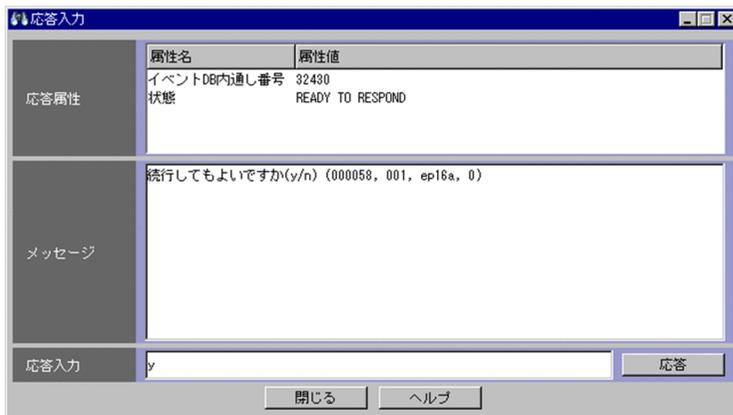
- [イベントコンソール] 画面で応答待ちイベントを選択したあと，[メインメニュー]

9. BJEX との連携

- [表示] - [応答入力] を選択する。
- [イベントコンソール] 画面、または [関連イベント一覧] 画面で応答待ちイベントを選択したあと、ポップアップメニューの [応答入力] を選択する。
- [イベント詳細] 画面の [応答入力] ボタンをクリックする。

[応答入力] 画面を次に示します。

図 9-11 [応答入力] 画面



[応答入力] 画面の表示項目を次に示します。

[応答属性]

応答待ちイベントに回答するために必要な情報が表示されます。

イベント DB 内通し番号

応答待ちイベントのイベント DB 内通し番号が表示されます。

状態

応答待ちイベントの発行元プロセスの状態が表示されます。

- READY TO RESPOND：発行元プロセスが存在するため、応答できます。
- NO LONGER MANAGED BY BJEX：発行元プロセスが存在しないため、応答できません。
- RESPONDED SUCCESSFULLY：応答に成功しました（応答した [応答入力] 画面にだけ表示されます）。
- ALREADY RESPONDED：すでに応答しました（応答した応答待ちイベントに対して [応答入力] 画面を表示・更新した場合に表示されます）。

[メッセージ]

応答待ちイベントのメッセージが表示されます。

[応答入力]

応答内容を入力します。

- 入力できるバイト数は 512 バイトまでです。
- 入力できる文字は、ASCII コード 0x20-0x7E の範囲の文字です。

- 入力できる文字コードは UTF-8 です。

[応答]

応答を実行します。応答内容を入力したあとクリックすると、応答してよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示され、[はい] ボタンをクリックすると応答が実行されます。応答の仕組みについては、「9.2.4 応答待ちイベントへの応答」を参照してください。

9.5.5 [関連イベント一覧] 画面

[関連イベント一覧] 画面は、次の 2 種類あります。

- [関連イベント一覧 (集約)] 画面
繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合に、集約イベントの繰り返しイベントを一覧表示します。
- [関連イベント一覧 (相関)] 画面
相関イベント発行機能を使用し、相関イベントの相関元イベントを一覧表示します。

応答待ちイベント管理機能、および応答待ちイベントの応答・操作を有効にすると、次の表に示すメニュー項目が追加されます。

なお、業務グループの参照・操作制限が有効になっている場合、これらの画面には、担当する業務グループ内で発生した JP1 イベントだけが表示されます。業務グループの参照・操作制限については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4 業務グループの参照・操作制限の仕組み」を参照してください。

表 9-5 [関連イベント一覧] 画面の追加ポップアップメニュー項目

メニュー	コマンド	機能
表示	応答入力	<p>選択している応答待ちイベントの [応答入力] 画面を表示します。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Operator 権限以上のユーザーが実行できます。</p> <p>このメニューを選択できるのは次の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [関連イベント一覧] 画面を表示した元の画面が、[イベントコンソール] 画面の [応答待ちイベント] ページである。または、[関連イベント一覧] 画面を表示した元の画面が、[イベントコンソール] 画面の [イベント検索] ページであり、検索先がログインしているマネージャーである。 • 単一選択である。 • 選択している JP1 イベントが応答待ちイベントである。 <p>なお、画面は常に非活性です。</p>
	滞留解除	常に非活性です。

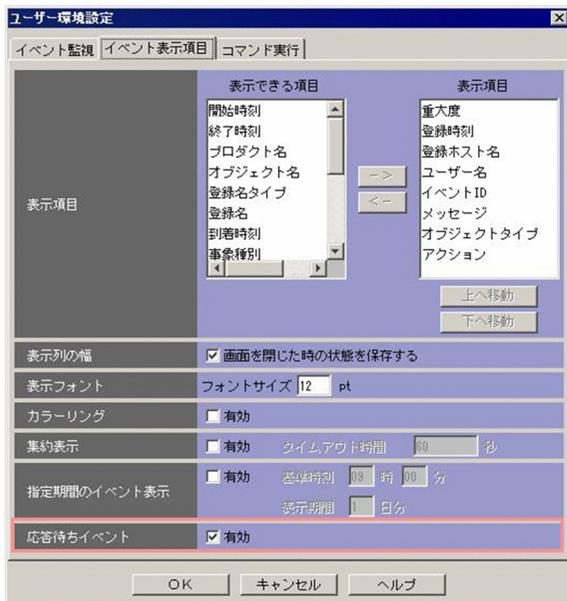
これらのメニューは、WWW ページ版の JP1/IM - View では常に非活性です。

9.5.6 [ユーザー環境設定] 画面

[ユーザー環境設定] 画面では、[イベントコンソール] 画面のイベント一覧の表示を自動的に更新するかどうか、およびイベント一覧に表示する項目などを設定します。

[ユーザー環境設定] 画面を次に示します。

図 9-12 [ユーザー環境設定] 画面



応答待ちイベント管理機能を有効にした場合に表示される項目を次に示します。

[応答待ちイベント]

応答待ちイベントの応答・操作を有効にするかどうかを指定します。有効にする場合は [有効] チェックボックスをチェックします。

設定を無効から有効に変更した場合、[OK] ボタンをクリックすると JP1/IM - View に設定内容が反映されます。

設定を有効から無効に変更した場合、[OK] ボタンをクリックしたあと JP1/IM - Manager にログインし直すことで JP1/IM - View に設定内容が反映されます。

9.5.7 [イベント検索条件設定] 画面

[イベント検索条件設定] 画面では、JP1 イベントを検索するときの検索条件を設定します。[イベント検索条件設定] 画面を次に示します。

図 9-13 [イベント検索条件設定] 画面

応答待ちイベント管理機能、および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合に
表示される項目を次に示します。

[応答待ちイベント]

応答待ちイベントを検索条件とするかどうかを選択します。

9.5.8 フィルターの条件定義画面

次の条件を満たす場合に、各フィルターの条件定義画面に応答待ちイベントをフィルタ
リングするための項目が表示されます。

表 9-6 応答待ちイベントをフィルタリングするための条件

フィルター	条件定義画面	条件
ユーザーフィルター	[ユーザーフィルター設定] 画面	応答待ちイベント管理機能の設定を有効にします。
重要イベントフィルター	[重要イベント定義] 画面	応答待ちイベント管理機能の設定を有効にします。

9. BJEX との連携

フィルター	条件定義画面	条件
表示フィルター	[表示フィルター設定] 画面	<ul style="list-style-type: none"> • 応答待ちイベント管理機能の設定を有効にします。 • 応答待ちイベントの応答・操作を有効にします。

上記機能を有効にした場合に、各フィルターの条件定義画面に表示される項目を次に示します。

図 9-14 各フィルターの条件定義画面に表示される項目

[応答待ちイベント]

応答待ちイベントを表示対象とするかどうかを選択します。

9.6 BJEX 連携時のコマンド

BJEX と連携する場合に使用するコマンドのオプションについて説明します。そのほかのオプションや、コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「1. コマンド」を参照してください。なお、参照先のマニュアルでは、BJEX 連携用のオプションについては説明していません。

9.6.1 jcoimdef

jcoimdef コマンドは、JP1/IM - Manager のシステム環境を設定、または設定値を参照するためのコマンドです。このコマンドを実行すると設定内容が標準出力に出力されます。

BJEX と連携する場合に指定するオプションを次に示します。

```
-resevent ON|OFF
```

-resevent ON を指定すると、応答待ちイベント管理機能が有効になります。

-resevent OFF を指定すると、応答待ちイベント管理機能が無効になります。

JP1/IM - Manager を起動させたまま、jcoimdef コマンドの -resevent オプションで、応答待ちイベント管理機能を有効または無効に設定変更した場合は、JP1/IM - Manager の再起動が必要です。また、接続中の JP1/IM - View も再起動が必要です。

jcoimdef コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」(1. コマンド)を参照してください。

9.6.2 jim_log.bat (Windows 限定)

jim_log.bat は、JP1/IM - Manager または JP1/IM - View で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - Manager、JP1/IM - View、および JP1/Base の保守資料、OS のシステム情報、統合トレースログなどを採取します。

BJEX と連携する場合に指定するオプションを次に示します。

```
-a
```

応答待ちイベント滞留ファイルを採取しない場合に指定します。

なお、jim_log.bat で採取した応答待ちイベント滞留ファイルは、次に示すフォルダに一次資料として格納されます。

物理ホストの一次資料の内部フォルダ

資料格納フォルダ %jpl_default%\imm_1st\cons\log\response

9. BJEX との連携

論理ホストの一次資料の内部フォルダ

資料格納フォルダ ¥ 論理ホスト名 ¥ imm_1st ¥ cons ¥ log ¥ response

jim_log.bat の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.bat (Windows 限定)」

(1. コマンド) を参照してください。

9.6.3 jim_log.sh (UNIX 限定)

jim_log.sh は、JP1/IM - Manager で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - Manager および JP1/Base の保守資料、OS のシステム情報、統合トレースログなどを採取します。

BJEX と連携する場合に指定するオプションを次に示します。

-a

応答待ちイベント滞留ファイルを採取しない場合に指定します。

なお、jim_log.sh で採取した応答待ちイベント滞留ファイルは、次に示すディレクトリに一次資料として格納されます。

物理ホストの一次資料の内部ディレクトリ

./var/opt/jplcons/log/response

論理ホストの一次資料の内部ディレクトリ

./ 共有ディスク /jplcons/log/response

jim_log.sh の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.sh (UNIX 限定)」(1. コマンド) を参照してください。

10 トラブルシューティング

この章では、JP1/IM でトラブルが発生した場合の対処方法や、トラブルの原因になりやすい項目について説明します。

10.1 対処の手順

10.2 ログ情報の種類

10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料

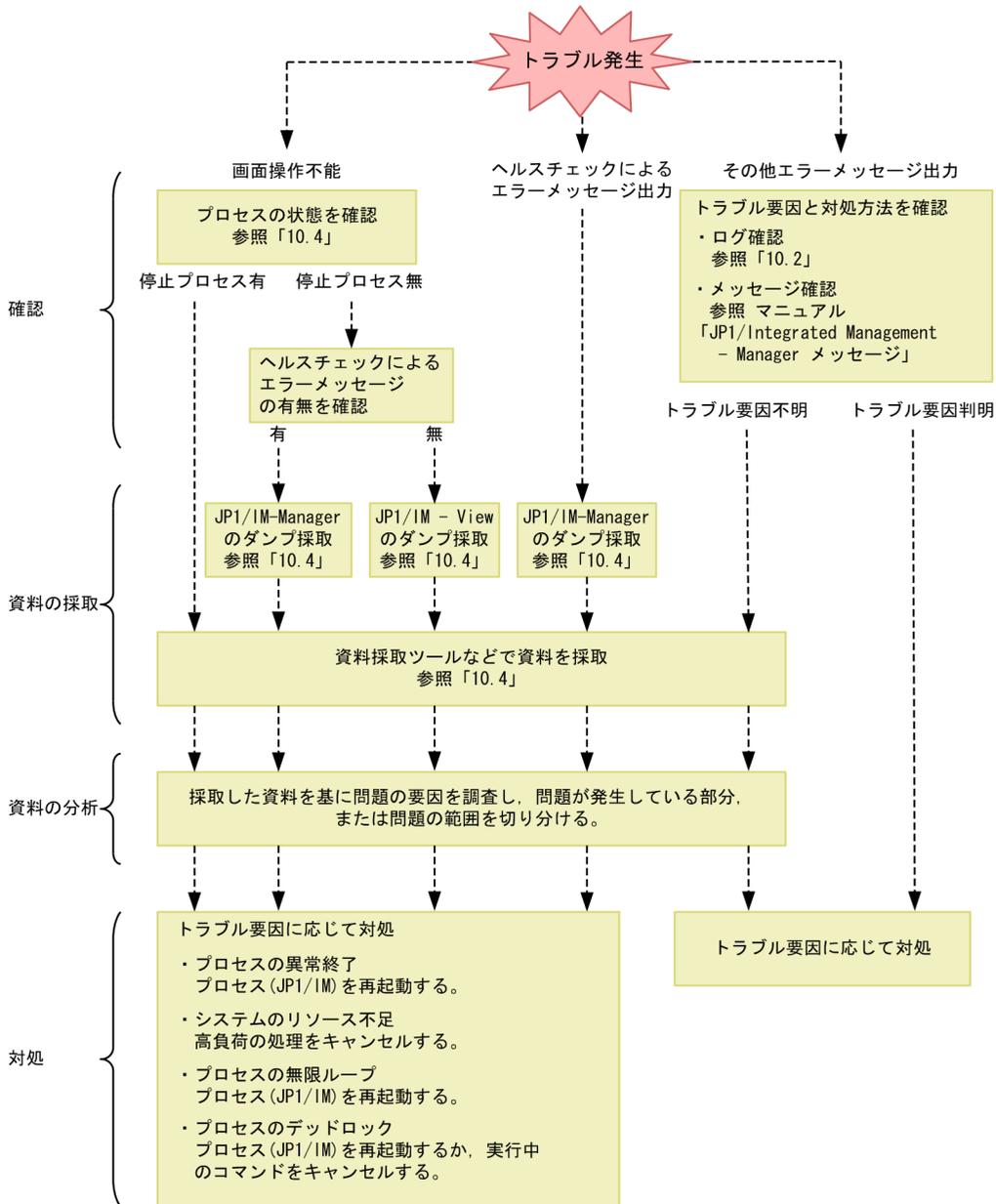
10.4 資料の採取方法

10.5 トラブルへの対処方法

10.1 対処の手順

JP1/IM でトラブルが起きた場合の対処の手順を次の図に示します。

図 10-1 トラブル発生時の対処手順



10.2 ログ情報の種類

JP1/IM を運用しているときに出力されるログ情報は 2 種類あります。

- 共通メッセージログ
- 統合トレースログ

この節では、2 種類のログ情報について説明します。

10.2.1 共通メッセージログ

共通メッセージログとは、システム側のトラブルを通知する、システム管理者向けのログ情報のことです。共通メッセージログは、必要最小限のトラブル情報を通知します。

共通メッセージログは、UNIX の場合は syslog ファイル、Windows の場合は Windows イベントログに出力されます。

UNIX の場合は、次のファイルに出力されます。

- /var/adm/syslog/syslog.log (HP-UX の場合)
- /var/adm/messages (Solaris の場合)
- /var/adm/syslog/ 以下のファイル (AIX の場合)
- /var/log/messages (Linux の場合)

! 注意事項

UNIX の場合は、syslog ファイルにメッセージが出力されるときに、メッセージが欠落することがあります。

10.2.2 統合トレースログ

統合トレースログとは、各プログラムが出力するトレース情報を、統合トレース機能 (HNTRLib2) を通じて、一つの出力先ファイルにまとめて採取するログ情報のことです。共通メッセージログより詳しい内容のメッセージが出力されます。

統合トレースログのデフォルトの出力先は次のとおりです。

Windows の場合

```
システムドライブ ¥Program
Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2{1|2|3|4}.log
```

UNIX の場合

```
/var/opt/hitachi/HNTRLib2/spool/hntr2{1|2|3|4}.log
```

統合トレースログファイルは、任意のテキストエディターで参照できます。統合トレ

出力項目	説明
AP 名 (16 バイト以内)	<p>アプリケーションを識別するための名称 (アプリケーション識別名)。JP1/IM・Manager で出力される AP 名は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JP1/IM-Manager サービス JP1/IM-Manager • イベント基盤サービス evflow • アクション実行サービス jcamain • インシデント登録サービス jcdmain • 関連イベント発行サービス evgen • セントラルスコープサービス jcsmain • IM 構成管理サービス jcfmain • プロセス管理 JCO_SPMD • jcochstat コマンド jcochngstat • そのほかのコマンド コマンド名 <p>JP1/IM・View で出力される AP 名は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • セントラルコンソール・ビューアー JP1/IM-View • セントラルスコープ・ビューアー JP1/IM-View • IM 構成管理・ビューアー JP1/IM-View • ツリー編集画面 JP1/IM-Edit
pid	プロセス ID。OS が付けるプロセス ID。
tid	スレッド ID。スレッドを識別するための ID。
メッセージ ID	メッセージの出力形式で説明したメッセージ ID。この製品で使用するメッセージ ID。
メッセージテキスト	統合トレースログに出力されるメッセージのテキスト。この製品から出力されるメッセージテキスト。

統合トレースログに出力されるログの時刻は、出力したプロセスのタイムゾーンでフォーマットされます。

このため、環境変数 TZ を変更したユーザーなどがサービスを起動したり、コマンドを実行したりすると、OS に設定されているタイムゾーンと異なる時刻が出力されることがあります。

10.2.3 ログファイルおよびディレクトリ一覧

JP1/IM が出力するログ情報の種類とデフォルトのファイル名およびディレクトリ名について説明します。

なお、ここで説明するファイルは、製品保守の必要上出力しているものです。これらのファイルについては、ユーザーが参照または変更する必要はありません。ただし、システム障害が発生したときなどには、資料採取のためにこれらのファイルをご利用元で一時的に保管していただくことがあります。

(1) Windows の場合

Windows 版の JP1/IM が出力するデフォルトのログファイルおよびフォルダを次の表に示します。

「ログの種類」には、JP1/IM が出力するログの種類を記載しています。

「デフォルトのファイル名・フォルダ名」には、JP1/IM - Manager, JP1/IM - View, または JP1/Base をデフォルトでインストールした場合のログファイル名を絶対パスで記載しています。また、クラスタ運用の場合の「デフォルトのファイル名・フォルダ名」には、共有フォルダのログファイル名を絶対パスで記載しています。

「最大ディスク使用量」には、ログファイルが最大でどの程度ディスクを使用するのかを記載しています。ログファイルが複数ある場合は、その合計量を記載しています。

「ファイルの切り替え時期」には、JP1/IM が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを記載しています。ファイルがこの欄に示すサイズに達したとき、またはこの欄に示す事象が起きたときに、出力先が切り替わります。なお、ログファイルが複数あり、最大ディスク使用量に達した場合は、更新日付の古いファイルから上書きされます。

表 10-3 JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) のログファイル・フォルダ一覧 (Windows)

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
プロセス管理ログ	Console パス ¥log¥JCO_SPMD{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	Console パス ¥log¥JCO_SPMD_COMMAND{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥JCO_SPMD{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥JCO_SPMD_COMMAND{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
スタックトレースログ	Console パス ¥log¥javaalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時、または 256 キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切り 替え時期
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
論理ホスト設定プログラムログ	Console パス ¥log¥jplhassetup.{log log.old}	2,000 キロバイト	1,000 キロバイト
インストールログ	Console パス ¥log¥command¥comdef[_old].log	512 キロバイト	256 キロバイト
イベントコンソールログ	Console パス ¥log¥console¥EVCONS{1 2 3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	Console パス ¥log¥console¥jplcons{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト ¹
	Console パス ¥log¥console¥evtcon_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
	Console パス ¥log¥console¥JCOAPI{1 2 3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	Console パス ¥log¥console¥jplconsM{1 2 ... 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト ¹
	Console パス ¥log¥console¥jplfilterDef{1 2 3 4 5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	Console パス ¥log¥console¥jplbizGroupDef{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥EVCONS{1 2 3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥jplcons{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト ¹
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥evtcon_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥JCOAPI{1 2 3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥jplconsM{1 2 ... 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト ¹

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切り 替え時期
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥jplfilterDef{1 2 3 4 5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥jplbizGroupDef{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
自動アクショント レースログ	Console パス ¥log¥action¥JCAMAIN{1 2 3 4 5}.log	25,600 キロバ イト ²	5,120 キロバ イト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥JCAMAIN{1 2 3 4 5}.log	25,600 キロバ イト ²	5,120 キロバ イト
製品情報のログ	Console パス ¥log¥hliclib¥hliclibtrc{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	Console パス ¥log¥hliclib¥hlicliberr{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	Console パス ¥log¥hliclib¥hliclibmgrtrc{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	Console パス ¥log¥hliclib¥hliclibmgrerr{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥hliclib¥hliclibtrc{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥hliclib¥hlicliberr{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥hliclib¥hliclibmgrtrc{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥hliclib¥hliclibmgrerr{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
アクション情報ファ イル	Console パス ¥log¥action¥actinf.log	626 キロバ イト ³	切り替えなし
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actinf.log	626 キロバ イト ³	切り替えなし
アクションホスト名 格納ファイル	Console パス ¥log¥action¥acttxt{1 2}.log	48.9 メガバ イト ⁴	アクション情 報ファイルの ラップアラウ ンド時

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切り 替え時期
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥acttxt{1 2}.log	48.9 メガバイト ⁴	アクション情報ファイルのラップアラウンド時
アクション再実行用 ファイル	Console パス ¥log¥action¥actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
jcochafmode , jcochstat , jcoevtreport コマ ンドトレースログ ⁵	Console パス ¥log¥command¥CMD{1 2 3}.log	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト
	Console パス ¥log¥command¥jplcons_cmd{1 2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
	Console パス ¥log¥command¥jplconsM_cmd{1 2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
プラグインのログ	Console パス ¥log¥command¥jcoplugin{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通知状態格納ファイル	Console パス ¥log¥notice¥notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥notice¥notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
アクション定義バック アップファイル	Console パス ¥log¥action¥actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし
イベント基盤トレース ログ	Console パス ¥log¥evflow¥EVFLOW{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス ¥log¥evflow¥jplevflowM{1 2 ... 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥evflow¥jplactDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥evflow¥jplchsevDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切り 替え時期
	Console パス ¥log¥evflow¥jplhostmapDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥evflow¥evflow_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト x 3	256 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥EVFLOW{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥jplevflowM{1 2... 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥jplactDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥jplchsevDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥jplhostmapDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥evflow_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト x 3	256 キロバイト
マッチング情報ファイル	Console パス ¥log¥evflow¥evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
イベント基盤エラーログ	Console パス ¥log¥evflow¥jplevflow{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥jplevflow{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト
イベント基盤スタックトレース	Console パス ¥log¥evflow¥javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
自動アクションエラーログ	Console パス ¥log¥action¥jplact{1 2 3}.log	15,360 キロバイト	5,120 キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切 り替え時期
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥faction¥jplact{1 2 3}.log	15,360 キロバ イト	5,120 キロバ イト
インシデント登録履 歴ファイル	Console パス ¥operation¥discrim¥discrim{1 2 3}.log ⁶	30 メガバイ ト ⁶	10 メガバイト ⁶
	共有フォルダ ¥jplcons¥operation¥discrim¥discrim{1 2 3}.log ⁶	30 メガバイ ト ⁶	10 メガバイト ⁶
インシデント登録ト レースログ	Console パス ¥log¥jcdmain¥JCDMAIN{1 2 3}.log	15 メガバイ ト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥jcdmain¥jpledSchsevDef{1 2}.log	10 メガバイ ト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥jcdmain¥jcdmain_exe{1 2 3}.log	256 キロバイ ト × 3	256 キロバイ ト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥JCDMAIN{1 2 3}.log	15 メガバイ ト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥jpledSchsevDef{1 2}.log	10 メガバイ ト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥jcdmain_exe{1 2 3}.log	256 キロバイ ト × 3	256 キロバイ ト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥jcdmain_exe{1 2 3}.log	256 キロバイ ト × 3	256 キロバイ ト
インシデント登録個 別ログ (インシデント 登録サービス用)	Console パス ¥log¥jcdmain¥jpledS{1 2}.log	20 メガバイ ト	10 メガバイト
	Console パス ¥log¥jcdmain¥jpledSM{1 2}.log	20 メガバイ ト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥jpledS{1 2}.log	20 メガバイ ト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥jpledSM{1 2}.log	20 メガバイ ト	10 メガバイト
インシデント登録個 別ログ (コマンド用)	Console パス ¥log¥jcdmain¥jpledS_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイ ト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥jcdmain¥jpledSM_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイ ト	5 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切り 替え時期
インシデント登録個別ログ(アダプタコマンド用)	Console パス ¥log¥jcdmain¥idm_adapter{1 2 3}.log	768 キロバイト	256 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥idm_adapter{1 2 3}.log	768 キロバイト	256 キロバイト
JDBC トレースログ	Console パス ¥log¥jcdmain¥pderr{1 2}.trc	2 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥pderr{1 2}.trc	2 メガバイト	1 メガバイト
インシデント登録スタックトレースログ	Console パス ¥log¥jcdmain¥javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
インシデント登録の処理引き継ぎ定義ファイル	Console パス ¥log¥jcdmain¥eds_discrim_info{1 2 3 4}.dat	488 メガバイト ⁷	停止時
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥eds_discrim_info{1 2 3 4}.dat	488 メガバイト ⁷	停止時
インシデント登録定義の適用ログ	Console パス ¥log¥jcdmain¥jpledsDefine{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥jpledsDefine{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
関連イベント発行履歴ファイル	Console パス ¥operation¥evgen¥egs_discrim{1 2 3}.log ⁸	30 メガバイト ⁸	10 メガバイト ⁸
	共有フォルダ ¥jplcons¥operation¥evgen¥egs_discrim{1 2 3}.log ⁸	30 メガバイト ⁸	10 メガバイト ⁸
関連イベント発行トレースログ	Console パス ¥log¥evgen¥EVGEN{1 2 3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥evgen¥evgen_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evgen¥EVGEN{1 2 3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切り 替え時期
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evgen¥evgen_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
関連イベント発行個別ログ	Console パス ¥log¥evgen¥jplegs{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス ¥log¥evgen¥jplegsM{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evgen¥jplegs{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evgen¥jplegsM{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
関連イベント発行個別ログ(コマンド用)	Console パス ¥log¥evgen¥jplegs_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス ¥log¥evgen¥jplegsM_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
関連イベント発行スタックトレースログ	Console パス ¥log¥evgen¥javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evgen¥javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
関連イベントの発行処理引き継ぎ定義ファイル	Console パス ¥log¥evgen¥egs_discrim_info{1 2 3 4}.dat	312 メガバイト ⁹	停止時
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evgen¥egs_discrim_info{1 2 3 4}.dat	312 メガバイト ⁹	停止時
関連イベント発行定義の適用ログ	Console パス ¥log¥evgen¥jplegsDefine{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evgen¥jplegsDefine{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
応答待ちイベント滞留ファイル ¹⁰	Console パス ¥log¥response¥revent.dat	40 メガバイト	切り替えなし
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥response¥revent.dat	40 メガバイト	切り替えなし

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切 り替え時期
応答待ちイベント滞 留バックアップファ イル	Console バス ¥log¥response¥revent.dat.dump	40 メガバイ ト	切り替えなし
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥response¥revent.d at.dump	40 メガバイ ト	切り替えなし
コマンド実行履歴保 存フォルダ	Base バス ¥log¥COMMAND¥	マニュアル「JP1/Base 運用ガ イド」を参照してください	
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥		
リモートコマンドロ グ	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmd_result{1 2 3} .log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi{1 2 3}.log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi_trace{1 2 3}.log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom{1 2 3}.log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom_trace{1 2 3}.log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe{1 2 3}.log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe_trace{1 2 3}.log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter{1 2 3}. log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter_trace{1 2 3}.log		
	Base バス ¥log¥JCOCMD¥JCOCMDCMD{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmd_resul t{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi{1 2 3}.log		

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切 り替え時期
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi_trace{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom_trace{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe_trace{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter_trace{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥JCOCMD¥JCOCMDCMD{1 2 3}.log		
構成管理ログ	Base パス ¥log¥route¥JBSRT{1 2 3}.log		
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥route¥JBSRT{1 2 3}.log		
トレースログファイル	Base パス ¥sys¥tmp¥event¥logtrap¥jelallog¥jelallog{1 2 3 4 5}.log		
	Base パス ¥sys¥tmp¥event¥logtrap¥jelalelt¥jelalelt{1 2 3 4 5}.log		
統合監視 DB の API ログ	Console パス ¥log¥evflow¥EVFLOW_DBAPI{1 2 ... 16}.log	200 メガバイト	12.5 メガバイト
	Console パス ¥log¥console¥EVCONS_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス ¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	2 メガバイト	1 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク 使用量	ファイルの切り 替え時期
	Console パス ¥log¥command¥CMD_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥EVFLOW_DBAPI{1 2 ... 16}.log	200 メガバイト	12.5 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥EVCONS_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	2 メガバイト	1 メガバイト
IM 構成管理 DB の API ログ	Console パス ¥log¥evflow¥EVFLOW_CFDDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス ¥log¥console¥EVCONS_CFDDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス ¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_CFDDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス ¥log¥command¥CMD_CFDDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥evflow¥EVFLOW_CFDDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥console¥EVCONS_CFDDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_CFDDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
jcodbsetup コマンドのログ	Console パス ¥log¥imdb¥jcodbsetup{1 2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト
jcodbunsetup コマンドのログ	Console パス ¥log¥imdb¥jcodbunsetup{1 2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト

注 プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは、JP1/IMの各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

注 1 ファイルサイズが、この値より数十キロバイト程度大きくなる場合があります。

注 2 マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update)」(2. 定義ファイル)によ

て、64 キロバイト～100 メガバイトの間で設定できます。

注 3 マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update)」(2. 定義ファイル) によって、1～4,096 キロバイトの間で設定できます。

注 4 アクション情報ファイルの容量がデフォルト (626 キロバイト) の場合の値です。このファイルの最大ディスク占有量は次の見積もり式で算出できます。また、アクションを再実行した場合、一回の再実行ごとに5キロバイトずつ増加します。

$((\text{アクション情報ファイルの容量} / 64 \text{ バイト}) - 1) \times 5 \text{ キロバイト}$

注 5 クラスタ運用の場合も、物理ホスト上の jcochstat, jcochafmode コマンドトレースログに出力されます。

注 6 マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「インシデント登録環境定義ファイル (jcdmain.conf.update)」(2. 定義ファイル) によって、ファイル数、ファイルサイズを変更できます。

注 7 このファイルは、インシデント登録処理中のデータを引き継ぐときのメモリー情報を書き出したものであるため、インシデント登録条件や引き継ぎ元の JP1 イベントの情報などによってファイルサイズが異なってきます。見積もりの詳細については、JP1/IM・Manager のリリースノートを参照してください。

注 8 マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「関連イベント発行環境定義ファイル」(2. 定義ファイル) によって、ファイル面数、ファイルサイズを変更できます。

注 9 このファイルは関連イベントの発行処理中のデータを引き継ぐときのメモリー情報を書き出したものであるため、関連イベント発行条件や関連元イベントの情報などによってファイルサイズが異なってきます。見積もりの詳細については、JP1/IM・Manager のリリースノートを参照してください。

注 10 応答待ちイベント管理機能を有効にして JP1/IM・Manager を起動した時点で作成されず。

表 10-4 JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) のログファイル・フォルダ一覧
(Windows)

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
セントラルスコープトレースログ	Scope パス ¥log¥jcsmain{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	Scope パス ¥log¥jcsmain_trace{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsmain{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
通信用トレースログ	Scope パス ¥log¥jcsmain_trace_com{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace_com{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	Scope パス ¥log¥jcsmain_trace_ping{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace_ping{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
論理ホスト設定プログラムログ	Scope パス ¥log¥jplhassetup.{log log.old}	2,000 キロバイト	1,000 キロバイト
DB 操作 API トレースログ	Scope パス ¥log¥jcsmain_trace_db{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace_db{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcshostsexport コマンドログ	Scope パス ¥log¥jcshostsexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcshostsexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcshostsimport コマンドログ	Scope パス ¥log¥jcshostsimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcshostsimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbsetup コマンドログ	Scope パス ¥log¥jcsdbsetup{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsdbsetup{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcschstat コマンドログ	Scope パス ¥log¥jcschstat{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcschstat{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbexport コマンドログ	Scope パス ¥log¥jcsdbexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsdbexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
jcsdbimport コマンドログ	Scope パス ¥log¥jcsdbimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsdbimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbconvert コマンドログ	Scope パス ¥log¥jcsdbconvert{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jcsdbconvert{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jp1csverup コマンドログ	Scope パス ¥log¥jp1csverup_front{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jp1cshaverup コマンドログ	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥jp1cshaverup_front{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト

表 10-5 JP1/IM - Manager (IM 構成管理) のログファイル・フォルダ一覧 (Windows)

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
IM 構成管理トレースログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfallogtrap{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfallogtrap_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfallogtrap_trace_auth{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfmain{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfmain_trace{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfmain_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogtrap{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogtrap_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogtrap_trace_auth{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_trace{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通信用トレースログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfmain_trace_com{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfmain_ping{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_trace_com{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_ping{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
論理ホスト設定プログラムログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jplhassetup.{log log.old}	2,000 キロバイト	1,000 キロバイト
DB 操作 API トレースログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfmain_trace_db{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_trace_db{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
コマンド共通ログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfcommand{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfcommand{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
jcfcolvmesx コマンドログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfcolvmesx_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfexport コマンドログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfexport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfexport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfimport コマンドログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfimport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfimport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfmkhostsdata コマンドログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfmkhostsdata_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
スタックトレースログ	Manager パス ¥log¥imcf¥javalog{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時、または 256 キロバイト

注 プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは、JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

表 10-6 JP1/IM - View のログファイル・フォルダー一覧

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
JP1/IM - View ログ ¹	View パス ¥log¥VIEW{1 2 3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	View パス ¥log¥jplconv{1 2 3 4}.log	1,000,000 キロバイト	5,000 キロバイト ²
	View パス ¥log¥jplconvM{1 2 ... 20}.log	1,000,000 キロバイト	5,000 キロバイト ²
	View パス ¥log¥jplcsov[_old].log	6,144 キロバイト	3,072 キロバイト ²
	View パス ¥log¥jplcsovM[_old].log	6,144 キロバイト	3,072 キロバイト ²

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	View パス ¥log¥jplcimv[_old].log ³	20,480 キロバイト	10,240 キロバイト ²
	View パス ¥log¥jplcimvM[_old].log ³	20,480 キロバイト	10,240 キロバイト ²
	View パス ¥log¥imcm¥jplcmJP1_IM-CM_VIEW{1 2 3}.log ³	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト ²
	View パス ¥log¥imcm¥jplcmJP1_IM-CM_VIEW_dbg{1 2 3}.log ³	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト ²
	View パス ¥log¥imrm¥jplrmJP1-IM-RM View{1 2 3}.log ⁴	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト
	View パス ¥log¥imrm¥jplrmJP1-IM-RM View_dbg{1 2 3}.log ⁴	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト
	View パス ¥log¥jrmview¥view{1 2 3}.log ⁴	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト
スタックトレースログ ¹	View パス ¥log¥javalog0{1 2}.log	512 キロバイト	起動時、または 256 キロバイト
統合トレースログ	システムドライブ : ¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hnr2{1 2 3 4}.log	1,024 キロバイト	256 キロバイト
製品情報のログ ¹	View パス ¥log¥hliclib¥hliclibtrc{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	View パス ¥log¥hliclib¥hlicliberr{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	View パス ¥log¥hliclib¥hliclibmgrtrc{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	View パス ¥log¥hliclib¥hliclibmgrerr{1 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト

注 Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista の場合は「view パス ¥log¥」を「システムドライブ : ¥ProgramData¥HITACHI¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1CoView¥log¥」に置き換えてください。

注 1 プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは、JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

注 2 ファイルサイズが、この値より数十キロバイト程度大きくなる場合があります。

注 3 JP1/IM - Central Information Master 連携時にだけ出力されます。

注 4 JP1/IM - Rule Operation 連携時にだけ出力されます。

表 10-7 JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーのログファイル・フォルダー一覧

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
IM 構成管理トレースログ	View パス ¥log¥jcfview¥VIEW{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
スタックトレースログ	View パス ¥log¥jcfjava¥log{1 2}.log	512 キロバイト	起動時、または 256 キロバイト
統合トレースログ	システムドライブ :¥ProgramFiles¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hnr2{1 2 3 4}.log	1,024 キロバイト	256 キロバイト

注 Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista の場合は「View パス ¥log¥」を「システムドライブ :¥ProgramData¥HITACHI¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1CoView¥log¥」に置き換えてください。

注 プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは、JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

(2) UNIX の場合

UNIX 版の JP1/IM が出力するデフォルトのログファイルおよびディレクトリを次の表に示します。

「ログの種類」には、JP1/IM が出力するログの種類を記載しています。

「デフォルトのファイル名・ディレクトリ名」には、JP1/IM - Manager または JP1/Base をデフォルトでインストールした場合のログファイル名を絶対パスで記載しています。また、クラスタ運用の場合の「デフォルトのファイル名・ディレクトリ名」には、共有ディレクトリのログファイル名を絶対パスで記載しています。

「最大ディスク使用量」には、ログファイルが最大でどの程度ディスクを使用するのかが記載しています。ログファイルが複数ある場合は、その合計量を記載しています。

「ファイルの切り替え時期」には、JP1/IM が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを記載しています。ファイルがこの欄に示すサイズに達したとき、またはこの欄に示す事象が起きたときに、出力先が切り替わります。なお、ログファイルが複数あり、最大ディスク使用量に達した場合は、更新日付の古いファイルから上書きされます。

10. トラブルシューティング

表 10-8 JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) のログファイル・ディレクトリ一覧 (UNIX)

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
プロセス管理ログ ¹	/var/opt/jplcons/log/JCO_SPMD{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	/var/opt/jplcons/log/JCO_SPMD_COMMAND{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/JCO_SPMD{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/JCO_SPMD_COMMAND{1 2 3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
スタックトレースログ ¹	/var/opt/jplcons/log/javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
JP1/IM 起動時ログ ¹	/var/opt/jplcons/log/jco_start.log[.old]	1 キロバイト	起動時
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jco_start_論理ホスト名.log[.old]	1 キロバイト	起動時
JP1/IM 強制終了時のログ ^{1, 2}	共有ディレクトリ /jplcons/log/jco_killall.cluster{なし 1 2 3 4}	2 キロバイト	jco_killall.cluster コマンド実行時
インストールログ	/var/opt/jplcons/log/JCO_SETUP/jco_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jplcons/log/JCO_SETUP/jco_inst.log ¹	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jplcons/log/jco_setup/論理ホスト名/jco_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jplcons/log/jco_setup/論理ホスト名/reg.txt ¹	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jplcons/log/jco_setup/論理ホスト名/reg_def.txt ¹	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jplcons/log/command/comdef[_old].log ¹	512 キロバイト	256 キロバイト
イベントコンソールログ ¹	/var/opt/jplcons/log/console/EVCONS{1 2 3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	/var/opt/jplcons/log/console/jplcons{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト ³

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	/var/opt/jplcons/log/console/JCOAPI{1 2 3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	/var/opt/jplcons/log/console/jplconsM{1 2・・・ 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト ³
	/var/opt/jplcons/log/console/jplfilterDef{1 2 3 4 5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/console/jplbizGroupDef{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/console/evtcon_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/console/EVCONS{1 2 3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/console/jplcons{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト ³
	共有ディレクトリ /jplcons/log/console/JCOAPI{1 2 3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/console/jplconsM{1 2・・・ 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト ³
	共有ディレクトリ /jplcons/log/console/jplfilterDef{1 2 3 4 5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/console/jplbizGroupDef{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/console/evtcon_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
自動アクショント レースログ ¹	/var/opt/jplcons/log/action/JCMAIN{1 2 3 4 5}.log ⁴	25,600 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/JCMAIN{1 2 3 4 5}.log ⁴	25,600 キロバイト	5,120 キロバイト
アクション情報ファイル ¹	/var/opt/jplcons/log/action/actinf.log	626 キロバイト ⁵	切り替えなし
		Linux (IPF) の場合 1,094 キロバイト ⁵	
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/actinf.log	626 キロバイト ⁵	切り替えなし

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
		Linux (IPF) の場合 1,094 キロバイト ⁵	
アクションホスト名 格納ファイル ¹	/var/opt/jplcons/log/action/ acttxt{1 2}.log	48.9 メガバイト ⁶	アクション情報ファイルのラップアラウンド時
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/ acttxt{1 2}.log	48.9 メガバイト ⁶	アクション情報ファイルのラップアラウンド時
アクション再実行用 ファイル ¹	/var/opt/jplcons/log/action/ actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/ actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
jcochafmode , jcochstat , jcoevtreport コマ ンドトレースログ 1, 7	/var/opt/jplcons/log/command/ CMD{1 2 3}.log	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト
	/var/opt/jplcons/log/command/ jplcons_cmd{1 2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
	/var/opt/jplcons/log/command/ jplconsM_cmd{1 2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
プラグインのログ ¹	/var/opt/jplcons/log/command/ jcoplugin{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通知状態格納ファイル ¹	/var/opt/jplcons/log/notice/ notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ /jplcons/log/notice/ notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
アクション定義バック アップファイル ¹	/var/opt/jplcons/log/action/ actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/ actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし
イベント基盤トレース ログ ¹	/var/opt/jplcons/log/evflow/ EVFLOW{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/evflow/ jplevflowM{1 2 ... 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/evflow/ jplactDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/evflow/ jplchsevDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/evflow/ jplhostmapDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	/var/opt/jplcons/log/evflow/evflow_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/EVFLOW{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/jplevflowM{1 2 ... 20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/jplactDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/jplchsevDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/jplhostmapDef{1 2 3 4 5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/evflow_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
マッチング情報ファイル ¹	/var/opt/jplcons/log/evflow/evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
		Linux (IPF) の場合 24 バイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
		Linux (IPF) の場合 24 バイト	切り替えなし
イベント基盤エラーログ ¹	/var/opt/jplcons/log/evflow/jplevflow{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/jplevflow{1 2 3 4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト
自動アクションエラーログ ¹	/var/opt/jplcons/log/action/jplact{1 2 3}.log	15,360 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/jplact{1 2 3}.log	15,360 キロバイト	5,120 キロバイト
インシデント登録履歴ファイル ¹	/var/opt/jplcons/operation/discrim/discrim{1 2 3}.log ⁸	30 メガバイト ⁸	10 メガバイト ⁸
	共有ディレクトリ /jplcons/operation/discrim/discrim{1 2 3}.log ⁸	30 メガバイト ⁸	10 メガバイト ⁸
インシデント登録トレースログ ¹	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/JCDMAIN{1 2 3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/jpledsehsevDef{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/jcdmain_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/JCDMAIN{1 2 3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/jpledschsevDef{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/jcdmain_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
インシデント登録個別ログ (インシデント登録サービス用) 1	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/jpleds{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/jpledsM{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/jpleds{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/jpledsM{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
インシデント登録個別ログ (コマンド用) 1	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/jpleds_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/jpledsM_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
インシデント登録個別ログ (アダプタコマンド用) 1	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/idm_adapter{1 2 3}.log	768 キロバイト	256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/idm_adapter{1 2 3}.log	768 キロバイト	256 キロバイト
JDBC トレースログ 1	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/pderr{1 2}.trc	2 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/pderr{1 2}.trc	2 メガバイト	1 メガバイト
インシデント登録スタックトレースログ 1, 9	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/javalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
インシデント登録の処理引き継ぎ定義ファイル 1	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/eds_discrim_info{1 2 3 4}.dat	488 メガバイト ¹⁰	停止時

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ /jplcons/log/jcdmain/ eds_discrim_info{1 2 3 4}.dat	488 メガバイト ¹⁰	停止時
インシデント登録定義の適用ログ ¹	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/ jpledDefine{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ jcdmain/jpledDefine{1 2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
関連イベント発行履歴ファイル ¹	/var/opt/jplcons/operation/evgen/ egs_discrim{1 2 3}.log ¹¹	30 メガバイト ¹¹	10 メガバイト ¹¹
	共有ディレクトリ /jplcons/operation/ evgen/egs_discrim{1 2 3}.log ¹¹	30 メガバイト ¹¹	10 メガバイト ¹¹
関連イベント発行トレースログ ¹	/var/opt/jplcons/log/evgen/ EVGEN{1 2 3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/evgen/ evgen_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evgen/ EVGEN{1 2 3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evgen/ evgen_exe{1 2 3}.log	256 キロバイト × 3	256 キロバイト
関連イベント発行個別ログ (関連イベント発行サービス用) ¹	/var/opt/jplcons/log/evgen/ jplegs{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/evgen/ jplegsM{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evgen/ jplegs{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evgen/ jplegsM{1 2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
関連イベント発行個別ログ (コマンド用) ¹	/var/opt/jplcons/log/evgen/ jplegs_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jplcons/log/evgen/ jplegsM_cmd{1 2 3 4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
関連イベント発行スタックトレースログ ^{1, 9}	/var/opt/jplcons/log/evgen/ jvalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evgen/ jvalog0{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時, または 256 キロバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
関連イベントの発行 処理引き継ぎ定義 ファイル ¹	/var/opt/jplcons/log/evgen/ egs_discrim_info{1 2 3 4}.dat	312 メガバ イト ¹²	停止時
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evgen/ egs_discrim_info{1 2 3 4}.dat	312 メガバ イト ¹²	停止時
関連イベント発行定 義の適用ログ ¹	/var/opt/jplcons/log/evgen/ jplegsDefine{1 2}.log	10 メガバ イト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evgen/ jplegsDefine{1 2}.log	10 メガバ イト	5 メガバイト
応答待ちイベント滞 留ファイル ^{1, 13}	/var/opt/jplcons/log/response/ resevent.dat	40 メガバ イト	切り替えなし
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ response/resevent.dat	40 メガバ イト	切り替えなし
応答待ちイベント滞 留バックアップファ イル ^{1, 13}	/var/opt/jplcons/log/response/ resevent.dat.dump	40 メガバ イト	切り替えなし
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ response/resevent.dat.dump	40 メガバ イト	切り替えなし
統合監視 DB の API ログ ¹	/var/opt/jplcons/log/evflow/ EVFLOW_DBAPI{1 2... 16}.log	200 メガバ イト	12.5 メガバ イト
	/var/opt/jplcons/log/console/ EVCONS_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	50 メガバ イト	10 メガバ イト
	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/ JCDMAIN_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	2 メガバ イト	1 メガバ イト
	/var/opt/jplcons/log/command/ CMD_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	50 メガバ イト	10 メガバ イト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/ EVFLOW_DBAPI{1 2... 16}.log	200 メガバ イト	12.5 メガバ イト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ console/ EVCONS_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	50 メガバ イト	10 メガバ イト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ jcdmain/ JCDMAIN_DBAPI{1 2 3 4 5}.log	2 メガバ イト	1 メガバ イト
IM 構成管理 DB の API ログ ¹	/var/opt/jplcons/log/evflow/ EVFLOW_CFBDBAPI{1 2 3 4 5}.log	30 メガバ イト	10 メガバ イト
	/var/opt/jplcons/log/console/ EVCONS_CFBDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバ イト	10 メガバ イト
	/var/opt/jplcons/log/jcdmain/ JCDMAIN_CFBDBAPI{1 2 3 4 5}.log	30 メガバ イト	10 メガバ イト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	/var/opt/jplcons/log/command/ CMD_CFDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/evflow/ EVFLOW_CFDBAPI{1 2 3 4 5}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ console/EVCONS_CFDBAPI{1 2 3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ jcdmain/ JCDMAIN_CFDBAPI{1 2 3 4 5}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
jcodbsetup コマンドのログ ¹	/var/opt/jplcons/log/imdb/ jcodbsetup{1 2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト
jcodbunsetup コマンドのログ ¹	/var/opt/jplcons/log/imdb/ jcodbunsetup{1 2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト
コマンド実行履歴保存ディレクトリ ¹	/var/opt/jplbase/log/COMMAND/ 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND	マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください	
リモートコマンドログ ¹	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmd_result{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdapi{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdapi_trace{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcmc{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcmc_trace{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcom{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcom_trace{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdexe{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdexe_trace{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdrouter{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdrouter_trace{1 2 3}.log		
	/var/opt/jplbase/log/JCOCMD/ JCOCMDCMD{1 2 3}.log		

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmd_result{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdapi{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdapi_trace{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcmc{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcmc_trace{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcom{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdcom_trace{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdexe{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdexe_trace{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdrouter{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ jcocmdrouter_trace{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/JCOCMD/ JCOCMDCMD{1 2 3}.log		
構成管理ログ ¹	/var/opt/jplbase/log/route/ JBSRT{1 2 3}.log		
	共有ディレクトリ /jplbase/log/route/ JBSRT{1 2 3}.log		
トレースログファイル ¹	/var/opt/jplbase/sys/tmp/event/ logtrap/jeallog/ jeallog{1 2 3 4 5}.log		

注 1 プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは、JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

注 2 クラスタ環境でだけ作成されます。

注 3 ファイルサイズが、この値より数十キロバイト程度大きくなる場合があります。

注 4 マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update)」（2. 定義ファイル）によって、64 キロバイト～ 100 メガバイトの間で設定できます。

注 5 マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル (action.conf.update)」（2. 定義ファイル）によ

て、1 ~ 4,096 キロバイト (Linux (IPF) の場合は 1 ~ 7,168 キロバイト) の間で設定できます。

注 6 アクション情報ファイルの容量がデフォルト (626 キロバイト) の場合の値です。このファイルの最大ディスク占有量は次の見積もり式で算出できます。また、アクションを再実行した場合、一回の再実行ごとに 5 キロバイトずつ増加します。

((アクション情報ファイルの容量 / 64 バイト) - 1) × 5 キロバイト

注 7 クラスタ運用の場合も、物理ホスト上の jcochstat, jcochafmode コマンドトレースログに出力されます。

注 8 マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「インシデント登録環境定義ファイル (jcdmain.conf.update)」(2. 定義ファイル) によって、ファイル数、ファイルサイズを変更できます。

注 9 HP-UX (IPF), Solaris では出力されません。

注 10 このファイルは、インシデント登録処理中のデータを引き継ぐときのメモリー情報を書き出したものであるため、インシデント登録条件や引き継ぎ元の JP1 イベントの情報などによってファイルサイズが異なってきます。見積もりの詳細については、JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

注 11 マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「関連イベント発行環境定義ファイル」(2. 定義ファイル) によって、ファイル面数、ファイルサイズを変更できます。

注 12 このファイルは関連イベントの発行処理中のデータを引き継ぐときのメモリー情報を書き出したものであるため、関連イベント発行条件や関連イベントの情報などによってファイルサイズが異なってきます。見積もりの詳細については、JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

注 13 応答待ちイベント管理機能を有効にして JP1/IM - Manager を起動した時点で作成されます。

表 10-9 JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) のログファイル・ディレクトリ一覧 (UNIX)

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
セントラルスコープ ログ	/var/opt/jp1scope/log/ jcsmain{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jp1scope/log/ jcsmain_trace{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1scope/log/ jcsmain{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1scope/log/ jcsmain_trace{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
通信用トレースログ	/var/opt/jp1scope/log/ jcsmain_trace_com{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1scope/log/ jcsmain_trace_com{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jp1scope/log/ jcsmain_trace_ping{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcsmain_trace_ping{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
DB 操作 API トレースログ	/var/opt/jplscope/log/ jcsmain_trace_db{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcsmain_trace_db{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcshostsexport コマンドログ	/var/opt/jplscope/log/ jcshostsexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcshostsexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcshostsimport コマンドログ	/var/opt/jplscope/log/ jcshostsimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcshostsimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbsetup コマ ンドログ	/var/opt/jplscope/log/ jcsdbsetup{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcsdbsetup{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcschstat コマ ンドログ	/var/opt/jplscope/log/ jcschstat{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcschstat{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbimport コマ ンドログ	/var/opt/jplscope/log/ jcsdbimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcsdbimport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbexport コマ ンドログ	/var/opt/jplscope/log/ jcsdbexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplscope/log/ jcsdbexport{1 2 3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
インストールログ	/var/opt/jplscope/log/JCS_SETUP/ jcs_setup.log	100 キロバ イト	インストール 時
	/var/opt/jplscope/log/jcs_setup/ 論理ホスト名 /jcs_setup.log	100 キロバ イト	インストール 時
	/var/opt/jplscope/log/jcs_setup/ 論理ホスト名 /reg.txt	100 キロバ イト	インストール 時
	/var/opt/jplscope/log/jcs_setup/ 論理ホスト名 /reg_def.txt	100 キロバ イト	インストール 時

注 プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは、JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレー

スログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

表 10-10 JP1/IM - Manager (IM 構成管理) のログファイル・ディレクトリー一覧
(UNIX)

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリー名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
IM 構成管理トレースログ	/var/opt/jplimm/log/imcf/jcfallogtrap{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jplimm/log/imcf/jcfallogtrap_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	/var/opt/jplimm/log/imcf/jcfallogtrap_trace_auth{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jplimm/log/imcf/jcfmain{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jplimm/log/imcf/jcfmain_trace{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jplimm/log/imcf/jcfmain_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplimm/log/imcf/jcfallogtrap{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplimm/log/imcf/jcfallogtrap_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplimm/log/imcf/jcfallogtrap_trace_auth{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplimm/log/imcf/jcfmain{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplimm/log/imcf/jcfmain_trace{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jplimm/log/imcf/jcfmain_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通信用トレースログ	/var/opt/jplimm/log/imcf/jcfmain_trace_com{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト

10. トラブルシューティング

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_ping{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_com{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1imm/log/imcf/jcfmain_ping{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
DB 操作 API トレースログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_db{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_db{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
コマンド共通ログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/¥jcfcommand{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1imm/log/imcf/jcfcommand{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfcolvmesx コマンドログ	Manager パス ¥log¥imcf¥jcfcolvmesx_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfexport コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfexport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1imm/log/imcf/jcfexport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfimport コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfimport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ /jp1imm/log/imcf/jcfimport_VM_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfmkhostsdata コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmkhostsdata_trace{1 2 3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
スタックトレースログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/javalog{1 2 3 4}.log	1 メガバイト	起動時、または 256 キロバイト
インストールログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/JCF_SETUP/jcf_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/JCF_SETUP/ 論理ホスト名 / jcf_setup.log	100 キロバイト	インストール時

注 プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは、JP1/IM の各機能が出力するログ

情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料

トラブルが発生したときに採取が必要な資料を示します。

なお、JP1 では採取が必要な資料を一括採取するための資料採取ツールを用意しています。資料採取ツールで採取できる資料は、OS のシステム情報や JP1 の情報です。次からは Windows , UNIX のそれぞれの場合について説明します。

10.3.1 Windows の場合

(1) OS のシステム情報

OS に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できません。

なお、資料採取ツール (jim_log.bat コマンド , jcoview_log.bat コマンド) では採取できる資料に違いがあります。次の表に示す資料は、 jim_log.bat コマンドを実行するとすべて採取されます。 jcoview_log.bat コマンドを実行するときに採取できる資料については右端の列に示します。

表 10-11 OS のシステム情報 (Windows)

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
資料採取日時	<ul style="list-style-type: none"> date /t の実行結果 time /t の実行結果 	date.log	
日立総合インストーラのログファイル	Windows のインストール先フォルダ ¥Temp¥HCDINST¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	
JP1/IM・Manager のインストール/アンインストールログファイル	Windows のインストール先フォルダ ¥Temp¥HITACHI_JP1_INST_LOG¥jp1imm_inst{1 2 3 4 5}.log	jp1imm_inst{1 2 3 4 5}.log	
JP1/IM・View インストール/アンインストールログファイル	Windows のインストール先フォルダ ¥Temp¥HITACHI_JP1_INST_LOG¥jplcoview_inst{1 2 3 4 5}.log	jplcoview_inst{1 2 3 4 5}.log	
JP1/Base インストール/アンインストールログファイル	Windows のインストール先フォルダ ¥Temp¥HITACHI_JP1_INST_LOG¥jplbase_inst{1 2 3 4 5}.log	jplbase_inst{1 2 3 4 5}.log	

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
製品情報ログファイル	Windows のインストール先フォルダ ¥Temp¥jplcommon¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピー	
マシンに設定されているホスト名の設定	システムルートフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	hosts	
マシンに設定されているサービスポートの設定	システムルートフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥services	services	
NIC の実装状況	ipconfig /all の実行結果	ipconfig.log	
起動サービス一覧	net start の実行結果	netstart.log	
ネットワーク統計情報	netstat -na の実行結果	netstat.log	
マシンの環境変数	set の実行結果	set.log	
マシンのシステム情報	msinfo32 /report ファイル名の実行結果	msinfo32.log	
レジストリ情報	レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI または レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI の内容を regedit コマンドで採取した結果	hitachi_reg.txt	
製品情報ファイル	システムドライブ:Program Files¥jplcommon¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	
JP1/IM - Manager のインストール情報	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{BB5D25EC-537C-4794-BD7A-C7E22CC4AD30}¥setup.ini	imm_setup.ini	
JP1/IM - Manager のインストールログファイル	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{BB5D25EC-537C-4794-BD7A-C7E22CC4AD30}¥setup.ilg	imm_setup.ilg	

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
JP1/Base のインストール情報	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{F8C71F7C-E5DE-11D3-A21E-006097C00EBC}¥setup.ini	base_setup.ini	
JP1/Base のインストールログファイル	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{F8C71F7C-E5DE-11D3-A21E-006097C00EBC}¥setup.ilg	base_setup.ilg	
JP1/IM・View のインストール情報	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{6C01AA81-B45B-4AA6-ACE9-AC9A86B19F1F}¥setup.ini	imv_setup.ini	
JP1/IM・View のインストールログファイル	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{6C01AA81-B45B-4AA6-ACE9-AC9A86B19F1F}¥setup.ilg	imv_setup.ilg	
JP1/Base のアクセス権限情報 (インストールフォルダ)	cacls Base パスの実行結果	cacls_jplbase.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Base の実行結果 ²	cacls_jplbase.log	-
JP1/Base のアクセス権限情報 (ログフォルダ)	cacls Base パス ¥log の実行結果	cacls_jplbase_log.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Base¥log の実行結果 ²	cacls_jplbase_log.log	-
JP1/Base のアクセス権限情報 (コマンド実行履歴フォルダ)	cacls Base パス ¥log¥COMMAND の実行結果	cacls_jplbase_log_COMMAND.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Base¥log¥COMMAND の実行結果 ²	cacls_jplbase_log_COMMAND.log	-
JP1/Base のアクセス権限情報 (イベント DB フォルダ)	cacls Base パス ¥sys の実行結果	cacls_jplbase_sys.log	

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
JP1/Base のアクセス権限情報 (イベント DB フォルダ)	cacls Base パス ¥sys¥event の実行結果	cacls_jplbase_sys_event.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Base¥event の実行結果 ²	cacls_jplbase_event.log	-
JP1/Base のアクセス権限情報 (イベント DB フォルダ)	cacls Base パス ¥sys¥event¥servers の実行結果	cacls_jplbase_sys_event_servers.log	
JP1/Base のアクセス権限情報 (イベント DB フォルダ)	cacls Base パス ¥sys¥event¥servers¥default の実行結果	cacls_jplbase_sys_event_servers_default.log	
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console) のアクセス権限情報 (インストールフォルダ)	cacls Console パスの実行結果	cacls_jplcons.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Cons の実行結果 ²	cacls_jplcons.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console) のアクセス権限情報 (ログフォルダ)	cacls Console パス ¥log の実行結果	cacls_jplcons_log.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Cons¥log の実行結果 ²	cacls_jplcons_log.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console) のアクセス権限情報 (相関履歴フォルダ)	cacls Console パス ¥operation の実行結果	cacls_jplcons_operation.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Cons¥operation の実行結果 ²	cacls_jplcons_operation.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console) のアクセス権限情報 (インシデント登録履歴フォルダ)	cacls Console パス ¥operation¥discrim の実行結果	cacls_jplcons_operation_discrim.log	

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Cons¥operation¥discrim の実行結果 ²	cacls_jplcons_operation_discrim.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console) のアクセス権限情報 (関連イベント発行履歴フォルダ)	cacls Console パス ¥operation¥evgen の実行結果	cacls_jplcons_operation_evgen.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Cons¥operation¥evgen の実行結果 ²	cacls_jplcons_operation_evgen.log	-
JP1/IM - View のアクセス権限情報 (インストールフォルダ)	cacls View パス の実行結果	cacls_jplcoview.log	
JP1/IM - View のアクセス権限情報 (ログフォルダ)	Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 以外の場合 cacls View パス ¥log の実行結果	cacls_jplcoview_log.log	
	Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista の場合 cacls システムドライブ :¥ProgramData¥HITACHI ¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1Coview¥log の実行結果	cacls_programdata_jplcoview_log.log	
JP1/IM - Manager のアクセス権限情報 (インストールフォルダ)	cacls Manager パス の実行結果	cacls_jplimm.log	
JP1/IM - Manager のアクセス権限情報 (ログフォルダ)	cacls Manager パス ¥log の実行結果	cacls_jplimm_log.log	
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (インストールフォルダ)	cacls Scope パス の実行結果	cacls_jplscope.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope の実行結果 ²	cacls_jplscope.log	-

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (ログフォルダ)	cacls Scopeパス¥logの実行結果	cacls_jp1scope_log.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥logの実行結果 ²	cacls_jp1scope_log.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (DB フォルダ)	cacls Scope パス ¥databaseの実行結果	cacls_jp1scope_database.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥databaseの実行結果 ²	cacls_jp1scope_database.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (DB フォルダ)	cacls Scope パス ¥database¥eventの実行結果	cacls_jp1scope_database_event.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥database¥eventの実行結果 ²	cacls_jp1scope_database_event.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (DB フォルダ)	cacls Scope パス ¥database¥jcsdbの実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥database¥jcsdbの実行結果 ²	cacls_jp1scope_database_jcsdb.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (DB フォルダ)	cacls Scope パス ¥database¥jcsdb¥eventの実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb_event.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥database¥jcsdb¥eventの実行結果 ²	cacls_jp1scope_database_jcsdb_event.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (DB フォルダ)	cacls Scope パス ¥database¥jcsdb¥pwの実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb_pw.log	

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥database¥jcsdb¥pw の実行結果 ²	cacls_jp1scope_database_jcsdb_pw.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (DB フォルダ)	cacls Scope パス ¥database¥jcsdb¥tree の実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb_tree.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥database¥jcsdb¥tree の実行結果 ²	cacls_jp1scope_database_jcsdb_tree.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のアクセス権限情報 (DB フォルダ)	cacls Scope パス ¥database¥jcsdhosts の実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdhosts.log	
	cacls 共有フォルダ ¥JP1Scope¥database¥jcsdhosts の実行結果 ²	cacls_jp1scope_database_jcsdhosts.log	-
JP1/Base のファイル一覧	dir Base パス /s の実行結果	dir_jp1base.log	
	dir 共有フォルダ¥JP1Base /s の実行結果 ²	dir_論理ホスト名_jp1base.log	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console) のファイル一覧	dir Console パス /s の実行結果	dir_jp1cons.log	
	dir 共有フォルダ¥JP1Cons /s の実行結果 ²	dir_論理ホスト名_jp1cons.log	-
JP1/IM - View のファイル一覧	dir View パス /s の実行結果	dir_jp1coview.log	
	Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 限定 dir システムドライブ ¥ProgramData¥HITACHI ¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1CoView /s の実行結果	dir_programdata_jp1coview.log	
JP1/IM - Manager のファイル一覧	dir Manager パス /s の実行結果	dir_jp1imm.log	
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) のファイル一覧	dir Scope パス /s の実行結果	dir_jp1scope.log	

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
	dir 共有フォルダ ¥JP1Scope /s の実行結果 ²	dir_論理ホスト名_jp1scope.log	-
ネットワークアドレス解決のためのホスト名	jbsgethostbyname の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jbsgethostbyname.log(標準出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力) 	
	jbsgethostbyname 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jbsgethostbyname.log(標準出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力) 	-
ヘルスチェック	jbshcstatus -debug -a の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力) 	
	jbshcstatus -debug -a -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力) 	-
イベントサービスのプロセス稼働状態	jevstat の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jevstat.log(標準出力) • jevstat_err.log(標準エラー出力) 	
イベントサービス以外のプロセス稼働状態	jbs_spmd_status の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力) 	
	jbs_spmd_status -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力) 	-
自動アクションの実行結果	jcashowa の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力) 	
	jcashowa -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力) 	-
自動アクションの動作状況	jcastatus の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力) 	
	jcastatus -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力) 	-
自動アクション定義ファイルの内容	jcastatus -d の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力) 	

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
	jcastatus -d -h 論理ホスト名の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力) 	-
インシデント登録サービスの動作状況	jcoedsstatus の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jcoedsstatus.log(標準出力) • jcoedsstatus_err.log(標準エラー出力) 	
	jcoedsstatus -h 論理ホスト名の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jcoedsstatus.log(標準出力) • jcoedsstatus_err.log(標準エラー出力) 	-
関連イベント発行サービスの動作状況	jcoegsstatus の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jcoegsstatus.log(標準出力) • jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力) 	
	jcoegsstatus -h 論理ホスト名の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jcoegsstatus.log(標準出力) • jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力) 	-
プロセス稼働状態	jco_spm�_status の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jco_spm�_status.log(標準出力) • jco_spm�_status_err.log(標準エラー出力) 	
	jco_spm�_status -h 論理ホスト名の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • jco_spm�_status.log(標準出力) • jco_spm�_status_err.log(標準エラー出力) 	-
資料採取コマンドの実行結果	jim_log.bat コマンドの実行結果	jim_log_result.log	
Windows イベントログ	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション：システムルートフォルダ ¥system32¥config¥AppEvent.Evt • システム：システムルートフォルダ ¥system32¥config¥SysEvent.Evt 	<ul style="list-style-type: none"> • AppEvent (Backup).evt • AppEvent (Backup).txt • SysEvent (Backup).evt • SysEvent (Backup).txt 	
クラッシュダンプ ³	ユーザー指定フォルダ ¥user.dmp	user.dmp	4
ワトソン (Dr. Watson) ログ ³	ユーザー指定フォルダ ¥drwtasn32.log	drwtasn32.log	

(凡例)

: jcoview_log.bat コマンドで採取する。

: JP1/IM・View と同一ホストに JP1/Base, JP1/IM・Manager がインストールされている場合だけ, jcoview_log.bat コマンドで採取する。

- : jcoview_log.bat コマンドで採取しない。

注 1 資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。格納先については、次を参照

してください。

- マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.bat (Windows 限定)」(1. コマンド)
- マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoview_log.bat (Windows 限定)」(1. コマンド)

注 2 論理ホスト(クラスタ)環境の資料を採取する際に採取できません。

注 3 あらかじめ出力設定をしておく必要があります(参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド」の「1.19.2(1) 障害発生時の資料採取の準備」)。

注 4 Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 版の JP1/IM - View, JP1/IM - Manager では, クラッシュダンプは採取しません。

(2) JP1 の情報

JP1 に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。また、ネットワーク接続でのトラブルの場合、接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

なお、資料採取ツール(jim_log.bat コマンド, jcoview_log.bat コマンド)では採取できる資料に違いがあります。次の表に示す資料は、jim_log.bat コマンドを実行するとすべて採取されます。jcoview_log.bat コマンドを実行するときに採取できる資料については右端の列に示します。

表 10-12 JP1 の情報 (Windows)

情報の種類		採取資料	ファイル名 ¹	View
JP1/IM, JP1/Base 共通	統合トレースログ	システムドライブ: Program Files\Hitachi\HNTRLib2\spool	デフォルトで次のファイル hntr2[1 2 3 4].log	
JP1/IM - Manager(コンポーネント共通)	パッチ情報	Manager パス ¥PATCHLOG.TXT	Patchlog_jp1imm.txt	-
	設定および定義ファイル	Manager パス ¥conf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
	ログファイル	Manager パス ¥log¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)	設定および定義ファイル	Console パス ¥conf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
		共有フォルダ ¥JP1Cons¥conf¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-
	共通定義情報	Console パス ¥default¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View	
ログファイル	Console パス ¥log¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
	共有フォルダ ¥JP1Cons¥log¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-	
応答待ちイベント滞留ファイル ³	Console パス ¥log¥response¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
	共有フォルダ ¥jp1cons¥log¥response¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
インシデント登録履歴ファイル	Console パス ¥operation¥discrim¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
	共有フォルダ ¥JP1Cons¥operation¥discrim¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-	
関連イベント発行履歴ファイル	Console パス ¥operation¥evgen¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
	共有フォルダ ¥JP1Cons¥operation¥evgen¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-	
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)	設定および定義ファイル	Scope パス ¥conf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥conf¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-	
共通定義情報	Scope パス ¥default¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
ログファイル	Scope パス ¥log¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥log¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-	
DB 情報	Scope パス ¥database¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-	
	共有フォルダ ¥JP1Scope¥database¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-	
JP1/IM - Manager(IM 構成管理)	設定および定義ファイル	Manager パス ¥conf¥imcf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
	共有フォルダ ¥jplimm¥conf¥imcf¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-
共通定義情報	Manager パス ¥system¥default¥new¥imcf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
ログファイル	Manager パス ¥log¥imcf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
	共有フォルダ ¥jplimm¥log¥imcf¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-
JP1/IM - View	パッチ情報	View パス ¥Patchlog.txt	Patchlog_jp1coview.txt
	設定および定義ファイル	View パス ¥conf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
		Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 限定 システムドライブ: ¥ProgramData¥HITACHI¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1CoView¥conf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	View パス ¥default¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
	ログファイル	Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista 以外の場合 View パス ¥log¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista の場合 システムドライブ :¥ProgramData¥HITACHI¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1CoView¥log¥ 以下のファイル		左記ファイルのコピーファイル	
JP1/Base	パッチ情報	Base パス ¥PatchLog.txt	Patchlog_jp1base.txt
	設定および定義ファイル	Base パス ¥conf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
		共有フォルダ ¥JP1Base¥conf¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	Base パス ¥default¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
	ログファイル	Base パス ¥log¥ 以下のファイル	左記フォルダ配下の COMMAND 以外の全 ファイル

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	View
	共有フォルダ ¥JP1Base¥log¥ 以下のファイル ²	左記フォルダ配下のCOMMAND 以外の全ファイル	-
プラグインサービスの設定ファイル	Base パス ¥plugin¥conf¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
ログおよびテンポラリファイル	Base パス ¥sys¥tmp¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
	共有フォルダ ¥JP1Base¥event ²	左記フォルダ配下のIMEvent*. * 以外の全ファイル	-
コマンド実行履歴ファイル	Base パス ¥log¥COMMAND¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
	共有フォルダ ¥JP1Base¥log¥COMMAND¥ 以下のファイル ²	左記ファイルのコピーファイル	-
イベント DB	Base パス ¥sys¥event¥servers¥default¥ 以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	-
	共有フォルダ ¥JP1Base¥event ²	IMEvent*. *	-

(凡例)

: jcoview_log.bat コマンドで採取する。

- : jcoview_log.bat コマンドで採取しない。

注 1 資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。格納先については、次を参照してください。

- マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.bat (Windows 限定)」(1. コマンド)
- マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoview_log.bat (Windows 限定)」(1. コマンド)

注 2 論理ホスト(クラスタ)環境の資料を採取する際に採取できます。

注 3 応答待ちイベント滞留ファイルは、応答待ちイベント管理機能を有効にすると作成されます。jim_log.bat コマンドのオプションによって採取しないこともできます。詳細については、「9.6.2 jim_log.bat (Windows 限定)」を参照してください。

(3) オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について次に示す情報が必要です。

オペレーション内容の詳細

発生時刻

マシン構成(各 OS のバージョン, ホスト名, セントラルコンソールの構成)

再現性

JP1/IM - View からログインしている場合のログインユーザー名

(4) 画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

エラーダイアログボックスのハードコピー（および詳細ボタンがある場合はその内容）

(5) WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は、次の資料の採取が必要です。

ビューアー側

Java のスタックトレースログ

Java のスタックトレースログを取得するには、[Java コンソール] 画面が表示されるよう、設定しておく必要があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.16.4 [Java コンソール] 画面の表示設定」を参照してください。

Java™ Plug-in の Java トレースファイル

Java トレースファイルは、次の場所にあります。

Java™ Plug-in 1.4.2 :

システムドライブ : ¥Documents and Settings¥ ログインユーザー名
¥Application Data¥Sun¥Java¥Deployment¥log¥

マネージャー側

HTTP サーバのエラーログ

HTTP サーバのアクセスログ

(6) ユーザーダンプ (Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista 限定)

Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は、ユーザーダンプを採取してください。

(7) 問題レポート (Windows Server 2008, または Windows Vista 限定)

Windows Server 2008, または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は、問題レポートを採取してください。

注

Windows Server 2008 R2 (x64) 以降の場合は除きます。

10.3.2 UNIX の場合

(1) OS のシステム情報

OS に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できません。

表 10-13 OS のシステム情報 (UNIX)

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
インストール済み日立製品情報	/etc/.hitachi/pplistd/pplistd	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • pplistd
Hitachi PP Installer のインストールログファイル	/etc/.hitachi/.install.log*	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • .install.log*
Hitachi PP Installer のアンインストールログファイル	/etc/.hitachi/.uninstall.log*	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • .uninstall.log*
共通定義情報	/opt/jpl/hcclibcnf/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console) の core の解析情報 (バックトレース)	seraph による解析結果 /var/opt/jplcons	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • core_モジュール名.log
	seraph による解析結果 共有ディレクトリ /jplcons/log ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • core_モジュール名.log
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope) の core の解析情報 (バックトレース)	seraph による解析結果 /var/opt/jplscope	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • core_モジュール名.log
	seraph による解析結果 共有ディレクトリ /jplscope/log ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • core_モジュール名.log

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
JP1/Base インストール ログファイル	/tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG/ jplbase_inst{1 2 3 4 5}.log	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jplbase_inst{1 2 3 4 5}.log
JP1/IM - Manager インストール ログファイル	/tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG/ jplimm_inst{1 2 3 4 5}.log	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jplimm_inst{1 2 3 4 5}.log
ファイル一覧	<ul style="list-style-type: none"> • ls -lRa /opt/jplimm の実行結果 • ls -lRa /var/opt/jplimm の実行結果 • ls -lRa /opt/jplcons の実行結果 • ls -lRa /etc/opt/jplcons の実行結果 • ls -lRa /var/opt/jplcons の実行結果 • ls -lRa /opt/jplscope の実行結果 • ls -lRa /etc/opt/jplscope の実行結果 • ls -lRa /var/opt/jplscope の実行結果 • ls -lRa /opt/jplbase の実行結果 • ls -lRa /etc/opt/jplbase の実行結果 • ls -lRa /var/opt/jplbase の実行結果 	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • inst_dir.log
	<ul style="list-style-type: none"> • ls -lRa 共有ディレクトリ /jplcons の実行結果 ² • ls -lRa 共有ディレクトリ /jplscope の実行結果 ² • ls -lRa 共有ディレクトリ /jplbase の実行結果 ² • ls -lRa 共有ディレクトリ /event の実行結果 ² 	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • share_dir.log
資料採取日時	date の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jpl_default_imm_2nd.tar.{Z gz} • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} • date.log
ディスク情報	df -k の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • df.log
マシンの環境変数	env の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • env.log
マシンに設定されているホスト名の設定	<ul style="list-style-type: none"> • /etc/hosts (HP-UX) • /etc/inet/hosts (Solaris) • /etc/hosts (AIX) • /etc/hosts (Linux) 	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • hosts

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
I/O システム 情報 (HP-UX 限 定)	ioscan の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.Z • ioscan.log
プロセス間 通信の共有 メモリス テータス	ipcs -ma の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • ipcs.log
ネットワー クアドレス 解決のため のホスト名	jbsgethostbyname の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jbsgethostbyname.log(標準 出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力)
	jbsgethostbyname 論理ホスト名の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • jbsgethostbyname_論理ホス ト名.log
ヘルス チェック	jbshcstatus -debug -a の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エ ラー出力)
	jbshcstatus -debug -a -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エ ラー出力)
イベント サービスの プロセス稼 働状態	jevstat の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jevstat.log(標準出力) • jevstat_err.log(標準エラー 出力)
イベント サービス以 外のプロセ ス稼働状態	jbs_spm�_status の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jbs_spm�_status.log(標準出 力) • jbs_spm�_status_err.log(標準エラー出力)
	jbs_spm�_status -h 論理ホスト名 の実行結 果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • jbs_spm�_status.log(標準出 力) • jbs_spm�_status_err.log(標準エラー出力)

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
自動アクションの実行結果	jcashowa の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力)
	jcashowa -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力)
自動アクション機能の動作状態	jcastatus の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力)
	jcastatus -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力)
自動アクション定義ファイルの内容	jcastatus -d の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力)
	jcastatus -d -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力)
インシデント関連サービスの動作状態	jcoedsstatus の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jcoedsstatus.log(標準出力) • jcoedsstatus_err.log(標準エラー出力)
	jcoedsstatus -h 論理ホスト名 の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • jcoedsstatus.log(標準出力) • jcoedsstatus_err.log(標準エラー出力)
関連イベント発行サービスの動作状況	jcoegsstatus の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • jcoegsstatus.log(標準出力) • jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力)

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
	jcoegsstatus -h 論理ホスト名の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} jcoegsstatus.log(標準出力) jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態	jco_spm�_status の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} jco_spm�_status.log(標準出力) jco_spm�_status_err.log(標準エラー出力)
	jco_spm�_status -h 論理ホスト名の実行結果 ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.Z{Z gz} jco_spm�_status.log(標準出力) jco_spm�_status_err.log(標準エラー出力)
資料採取コマンドの実行結果	jim_log.sh コマンドの実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} jim_log_result.log
NIC の実装状況	netstat -i の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} netstat_i.log
ネットワーク統計情報	netstat -na の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} netstat_na.log
マシンに設定されているユーザーの一覧	/etc/passwd	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} passwd
プロセス一覧	ps -elfa の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} ps.log
マシンに設定されているサービスのポートの設定	<ul style="list-style-type: none"> /etc/services (HP-UX) /etc/inet/services (Solaris) /etc/services (AIX) /etc/services (Linux) 	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} services
メモリー情報	<ul style="list-style-type: none"> swapinfo -t の実行結果 (HP-UX) swap -l の実行結果 (Solaris) lspas -s の実行結果 (AIX) cat /proc/meminfo (Linux) 	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} swapinfo.log
システム診断情報	<ul style="list-style-type: none"> dmesg の実行結果 (HP-UX) dmesg の実行結果 (Solaris) alog -o -t boot の実行結果 (AIX) dmesg の実行結果 (Linux) 	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} sys_info.log

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
シスログ (syslog)	<ul style="list-style-type: none"> • /var/adm/syslog/syslog.log (HP-UX) • /var/adm/messages (Solaris) • /var/adm/messages (AIX) • /var/log/messages (Linux) 	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • syslog.log
jcgencore コマンドで出力した JP1/IM-Manager(JP1/IM-Central Console)の core の解析情報 (バックトレース)	seraph による解析結果 /var/opt/jplcons	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • trace_モジュール名.log
	seraph による解析結果 共有ディレクトリ /jplcons/log (jcgencore で出力した core) ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • trace_モジュール名 .log
OS のバージョン情報	uname -a の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • uname_a.log
カーネルパラメータ情報	<p>HP-UX の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • sysdef の実行結果 • kmtune の実行結果 • ulimit -a の実行結果 <p>Solaris の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • sysdef -i の実行結果 • ulimit -a の実行結果 <p>AIX の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • lsattr -E -l sys0 の実行結果 • ulimit -a の実行結果 • /etc/security/limits の実行結果 <p>Linux の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • sysctl -a の実行結果 • ulimit -a の実行結果 	<p>HP-UX の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • ssysdef.log • kmtune.log • ulimit.log <p>Solaris の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • sysdef.log • ulimit.log <p>AIX の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • isattr.log • ulimit.log • limits <p>Linux の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • sysctl.log • ulimit.log
ページサイズ情報	<ul style="list-style-type: none"> • dmesg の実行結果 (HP-UX) • pagesize の実行結果 (Solaris) • pagesize の実行結果 (AIX) • 採取しない (Linux) 	<ul style="list-style-type: none"> • jp1_default_imm_1st.tar.{Z gz} • pagesize.log

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
OS のパッチ適用状況	HP-UX の場合 <ul style="list-style-type: none"> • swlist -l product の実行結果 • swlist -l の実行結果 • swlist -l fileset -a patch_state *.* ,c=patch の実行結果 Solaris の場合 <ul style="list-style-type: none"> • showrev -a の実行結果 AIX の場合 <ul style="list-style-type: none"> • instfix -a -icv の実行結果 • lslpp -l -a の実行結果 Linux の場合 <ul style="list-style-type: none"> • rpm -qa の実行結果 	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} HP-UX の場合 <ul style="list-style-type: none"> • swlist_pro.log • swlist.log • swlist_pat.log Solaris の場合 <ul style="list-style-type: none"> • showrev.log AIX の場合 <ul style="list-style-type: none"> • instfix.log • lslpp.log Linux の場合 <ul style="list-style-type: none"> • rpm.log

注 1 資料採取ツールを実行したあとの圧縮ファイルおよび解凍後のファイル名です（圧縮ファイル、解凍後のファイルの順に記載しています）。

圧縮ファイルは Windows, HP-UX, Solaris および AIX の場合は .tar.Z 形式, Linux の場合は .tar.gz 形式で作成されます。

圧縮ファイルの内部ディレクトリ構成については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.sh (UNIX 限定)」(1. コマンド)を参照してください。

注 2 論理ホスト（クラスタ）環境の資料を採取する際に採取できます。

(2) JP1 の情報

JP1 に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。また、ネットワーク接続でのトラブルの場合、接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

表 10-14 JP1 の情報 (UNIX)

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
JP1/IM, JP1/Base 共通	/var/opt/hitachi/HNTRLib2/spool/ 以下の全ファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • デフォルトで以下のファイル hnr2[1 2 3 4].log
JP1/IM - Manager (コンポーネント共通)	パッチ適用履歴	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • patch_history
	パッチログ情報	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • update.log

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹	
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)	自動起動および自動終了スクリプト	/etc/opt/jplcons/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.Z • 左記ファイルのコピーファイル
	設定および定義ファイル	/etc/opt/jplcons/conf/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	共有ディレクトリ /jplcons/conf/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル 	
共通定義情報	/etc/opt/jplcons/default/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル 	
ログファイル	/var/opt/jplcons/log/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル 	
	共有ディレクトリ /jplcons/log/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル 	
応答待ちイベント滞留ファイル ³	/var/opt/jplcons/log/response/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル 	
	共有ディレクトリ /jplcons/log/response/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} • 左記ファイルのコピーファイル 	
jcogencore コマンドで出力した core の解析情報 (Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jplcons/log (jcogencore で出力した core)	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_2nd.tar.{Z gz} • car_モジュール名.tar.Z 	
	car コマンドの結果 共有ディレクトリ /jplcons/log (jcogencore で出力した core) ²	<ul style="list-style-type: none"> • 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} • car_モジュール名.tar.Z 	
core の解析情報 (Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jplcons/log	<ul style="list-style-type: none"> • jpl_default_imm_2nd.tar.{Z gz} • core_モジュール名_car.tar.Z 	

10. トラブルシューティング

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
	car コマンドの結果 共有ディレクトリ /jplcons/ log ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} core_ モジュール名 _car.tar.Z
インシデント登録 履歴ファイル	/var/opt/jplcons/ operation/discrim/ 以下の ファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_2nd.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
	共有ディレクトリ /jplcons/ operation/discrim/ 以下の ファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
相関イベント発行 履歴ファイル	/var/opt/jplcons/ operation/evgen/ 以下の ファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_2nd.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
	共有ディレクトリ /jplcons/ operation/evgen ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
JP1/IM - Manager(J P1/IM - Central Scope)	/etc/opt/jplscope/conf/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
	共有ディレクトリ /jplscope/ conf/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
共通定義情報	/etc/opt/jplscope/ default/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
ログファイル	/var/opt/jplscope/log/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
	共有ディレクトリ /jplscope/ log/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイ ル
core の解析情報 (Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jplscope/log	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_2nd.tar . {Z gz} core_ モジュール名 _car.tar.Z

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
	car コマンドの結果 共有ディレクトリ /jplscope/ log ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} core_モジュール名 _car.tar.Z
	DB 情報	<ul style="list-style-type: none"> /var/opt/jplscope/ database/ 以下のファイル 左記ファイルのコピーファイル
	共有ディレクトリ /jplscope/ database/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
JP1/IM - Manager(I M 構成管理)	設定および定義 ファイル	<ul style="list-style-type: none"> /etc/opt/jplimm/conf/ imcf/ 以下のファイル 左記ファイルのコピーファイル
	共有ディレクトリ /jplimm/ conf/imcf/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} ./ 共有ディレクトリ / jplimm/conf/imcf 左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	<ul style="list-style-type: none"> /etc/opt/jplimm/ default/imcf/ 以下のファイル 左記ファイルのコピーファイル
	ログファイル	<ul style="list-style-type: none"> /var/opt/jplimm/log/ imcf/ 以下のファイル 左記ファイルのコピーファイル
	共有ディレクトリ /jplimm/ log/imcf/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} ./ 共有ディレクトリ / jplimm/log/imcf 左記ファイルのコピーファイル
	core の解析情報 (Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jplimm/log

10. トラブルシューティング

情報の種類		採取資料	ファイル名 ¹
		car コマンドの結果 共有ディレクトリ /jplimm/ log ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} ./var/opt/jplimm/log/ _論理ホスト名 /core/ core_モジュール名 _car.tar.Z
JP1/Base	自動起動および自動終了スクリプト	/etc/opt/jplbase/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
	設定および定義ファイル	/etc/opt/jplbase/conf/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ /jplbase/conf/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	/etc/opt/jplbase/default/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
	プラグインサービスの設定ファイル	/opt/jplbase/conf/plugin/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
	パッチ適用履歴	/opt/jplbase/PatchInfo	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} PatchInfo
	パッチログ情報	/opt/jplbase/PatchLog	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} PatchLog
	ログファイル	/var/opt/jplbase/log	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} 左記ディレクトリ配下のCOMMAND 以外の全ファイル
共有ディレクトリ /jplbase/log ²		<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} 左記ディレクトリ配下のCOMMAND 以外の全ファイル 	
ログおよびテンポラリファイル	/var/opt/jplbase/sys/tmp/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jpl_default_imm_1st.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル 	

情報の種類	採取資料	ファイル名 ¹
	共有ディレクトリ /event ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_1st.tar.{Z gz} 左記ディレクトリ配下の IMEvent* 以外の全ファイル
SES 設定ファイル	<ul style="list-style-type: none"> /tmp/.JP1_SES* /usr/tmp/jp1_ses /usr/lib/jp1_ses/log /usr/lib/jp1_ses/sys /usr/bin/jp1_ses/jp* /var/opt/jp1_ses 	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_2nd.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
コマンド実行履歴 ファイル	/var/opt/jp1base/log/ COMMAND/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_2nd.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
	共有ディレクトリ /jp1base / log/COMMAND/ 以下のファイル ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
イベント DB	/var/opt/jp1base/sys/ event/servers/default/ 以下のファイル	<ul style="list-style-type: none"> jp1_default_imm_2nd.tar . {Z gz} 左記ファイルのコピーファイル
	共有ディレクトリ /event ²	<ul style="list-style-type: none"> 論理ホスト名 _imm_2nd.tar.{Z gz} IMEvent*.*

注 1 資料採取ツールを実行したあとの圧縮ファイルおよび解凍後のファイル名です（圧縮ファイル、解凍後のファイルの順に記載しています）。

圧縮ファイルは HP-UX, Solaris および AIX の場合は .tar.Z 形式, Linux の場合は .tar.gz 形式で作成されます。

圧縮ファイルの内部ディレクトリ構成については, マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.sh (UNIX 限定)」(1. コマンド)を参照してください。

注 2 論理ホスト(クラスタ)環境の資料を採取する際に採取できます。

注 3 応答待ちイベント滞留ファイルは, 応答待ちイベント管理機能を有効にすると作成されます。jim_log.sh コマンドのオプションによって採取しないこともできます。詳細については, 「9.6.3 jim_log.sh (UNIX 限定)」を参照してください。

(3) オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について次に示す情報が必要です。

オペレーション内容の詳細

発生時刻

マシン構成(各 OS のバージョン, ホスト名, セントラルコンソールの構成)

10. トラブルシューティング

再現性

JP1/IM - View からログインしている場合のログインユーザー名

(4) 画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

エラーダイアログボックスのハードコピー

(5) WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は、次の資料の採取が必要です。

ビューアー側

Java のスタックトレースログ

Java のスタックトレースログを取得するには、[Java コンソール] 画面が表示されるよう、設定しておく必要があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.16.4 [Java コンソール] 画面の表示設定」を参照してください。

Java™ Plug-in の Java トレースファイル

Java トレースファイルは、次の場所にあります。

システムドライブ : ¥Documents and Settings¥ ログインユーザー名
¥Application Data¥Sun¥Java¥Deployment¥log¥

マネージャー側

HTTP サーバのエラーログ

HTTP サーバのアクセスログ

10.4 資料の採取方法

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

10.4.1 Windows の場合

(1) プロセスの状態を確認する

Windows のタスクマネージャを使用して、プロセスの動作状態を確認してください。正常に動作している場合に表示されるプロセスを次に示します。

(a) JP1/IM - Manager

JP1/IM - Manager のプロセスを次に示します。なお、表内の括弧 () 内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10-15 JP1/IM - Manager のプロセス (Windows)

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jco_spmd.exe (1)	JP1/IM - Manager のプロセス管理	jcmain.exe (1)	アクション実行サービス (プロセス管理表示名: jcmain)
		evtcon.exe (1)	イベントコンソールサービス (プロセス管理表示名: evtcon)
		evflow.exe (1)	イベント基盤サービス (プロセス管理表示名: evflow)
		jcsmain.exe (1)	セントラルスコープサービス ² (プロセス管理表示名: jcsmain)
		jcfmain.exe (1)	IM 構成管理サービス ² (プロセス管理表示名: jcfmain)
		jcdmain.exe (2) ¹	インシデント登録サービス ² (プロセス管理表示名: jcdmain)
		evgen.exe (2) ^{1 3}	関連イベント発行サービス ² (プロセス管理表示名: evgen)
jco_service.exe (1)	JP1/IM - Manager の Windows サービス制御	-	-

(凡例)

- : なし

注 1 最大で 2、通常は 1 です。内訳は次のとおりです。

- ・インシデント登録サービスまたは関連イベント発行サービスのプロセス本体
- ・イベントサービスと接続する際に一時的に生成されるプロセス。次の場合に生成される。
 - ・インシデント登録サービス起動時、または関連イベント発行サービス起動時
 - ・イベント取得フィルター更新時

10. トラブルシューティング

注 2 デフォルトでは動作しません。また、インシデント登録サービスは JP1/IM - Incident Master 連携用の機能です。

注 3 統合監視 DB を使用しない場合のサービスです。

クラスタシステムで運用する場合、物理ホストおよび論理ホストごとに、上記のプロセスを実行します。同時に実行するプロセス数は、実行している物理ホストおよび論理ホストの数に、上記のプロセス数を掛けた数になります。

表中で、親プロセスが `jco_spmd.exe` であるプロセスはプロセス管理が制御しており、`jco_spmd_status` コマンドでプロセスの状態を確認できます。

正常に動作している場合の表示例を次に示します。

```
c:\>jco_spmd_status
KAVB3690-I JP1_CONS の状態通知処理を開始します
稼働中のプロセスを表示します
プロセス名称 プロセスID
    evflow          3672
    jcamain         4088
    evtcon          4236
    jcsmain         4668
    jcfmain         4950
    jcdmain         5423
    evgen           5624
KAVB3691-I プロセスは全て起動しています
```

- `jcsmain` は、セントラルスコープの機能を有効にした場合だけ表示されます。
- `jcfmain` は、IM 構成管理の機能を有効にした場合だけ表示されます。
- `jcdmain` は JP1/IM - Incident Master 連携用のインシデント登録サービスを有効にした場合にだけ表示されます。
- `evgen` は関連イベント発行サービスを有効にした場合だけ表示されます。

(b) JP1/IM - View

JP1/IM - View のプロセスを次に示します。なお、表内の括弧 () 内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10-16 JP1/IM - View のプロセス

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jcoview.exe (3+3 1+3 2)	JP1/IM - View の プロセス管理	jcoview_evt.exe (3+3 1)	スレッドダンプ出力 イベントの送信
		java.exe (3+3 1+3 2)	JP1/IM - View の画 面制御

注 1 JP1/IM - View (JP1/IM - Central Information Master 連携部分) が起動している場合に加算されます。

注 2 JP1/IM - View (JP1/IM - Rule Operation 連携部分) が起動している場合に加算されます。

(c) JP1/IM - IM 構成管理・ビューアー

JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーのプロセスを次に示します。なお、表内の括弧 () 内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10-17 JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーのプロセス

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jcfview.exe (3)	JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーの画面制御	jcfview_evt.exe (3)	スレッドダンプ出力イベントの送信
		java.exe (3)	JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーの画面制御

一つのマシンからログインして起動できる JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーの数は三つまでです。JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーを一つ起動するごとに、一つのプロセスが起動します。

(2) JP1/IM 用スレッドダンプを出力する

(a) JP1/IM - View

次の手順に従いダンプファイルを出力してください。

1. タスク マネージャを開く。
2. [アプリケーション] ページ上で JP1/IM - View を選択し、ポップアップメニューから [手前に表示] を選択する。
これによって操作不能になった JP1/IM - View かどうかを特定します。操作不能な JP1/IM - View を特定できた場合、次に進みます。
3. ポップアップメニューから [プロセスを表示] を選択する。
[プロセス] ページに切り替わります。JP1/IM - View の java.exe が選択された状態で表示されるため、これによってプロセス ID (PID) を特定します。
注 PID 項目がない場合はメニューの [表示] - [列の選択] を選択し、[列の選択] 画面で [PID(プロセス ID)] チェックボックスをチェックしてください。
4. 特定できたプロセス ID を引数にして、jcothreaddmp コマンドを実行する。

jcothreaddmp コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcothreaddmp (Windows 限定)」(1. コマンド) を参照してください。

10. トラブルシューティング

(b) JP1/IM - Manager

ヘルスチェック機能によって、JP1/IM - Manager のイベントコンソールサービス、インシデント登録サービス、および関連イベント発行サービスの異常を検知した場合に、JP1/IM - Manager 用のダンプファイルを出力してください。次のように `jcogencore` コマンドを実行します。

```
jcogencore
```

`jcogencore` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcogencore`」(1. コマンド)を参照してください。

(3) WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報を採取する

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は、この節で上げているほかの資料に加えて、次の資料を採取してください。

ビューアー側

Java のスタックトレースログ

採取手順を次に示します。

1. [Java コンソール] 画面を選択し、「v」を入力する。
Java のスタックトレースログが [Java コンソール] 画面上に出力されます。
2. コピーしてテキストファイルなどに手動で貼り付ける。
3. テキストファイルを保存する。

Java™ Plug-in の Java トレースファイル

Java トレースファイルは、次の場所にあります。

システムドライブ : ¥Documents and Settings¥ ログインユーザー名
¥Application Data¥Sun¥Java¥Deployment¥log¥

! 注意事項

Java™ Plug-in の Java トレースファイルは、Java™ Plug-in の再起動時に消去されてしまいます。トラブルが発生したら、再起動する前にこのトレースファイルの内容を別ファイルに保存してください。

マネージャー側

HTTP サーバのエラーログ

HTTP サーバのアクセスログ

(4) 資料採取ツールを実行する

資料採取ツール (jim_log.bat または jcoview_log.bat) を実行します。

JP1/IM - Manager で提供している jim_log.bat を実行すれば、同ホスト上の JP1/IM - Manager , JP1/IM - View の障害調査に必要な資料を採取できます。

また、JP1/IM - View で提供している jcoview_log.bat を実行すれば、JP1/IM - View の障害調査に必要な資料を採取できます。

運用に合わせて使い分けてください。

なお、資料採取ツールで採取する資料の総容量は膨大になるため、実行する前に容量を見積もり、ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。jim_log.bat で採取する資料サイズについては、JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

jcoview_log.bat で採取する資料サイズについては、JP1/IM - View のリリースノートを参照してください。

次に、ツールの実行例を示します。

```
C:¥>"C:¥Program Files¥HITACHI¥JP1IMM¥tools¥jim_log.bat" -f 資料格納フォルダ
```

資料格納フォルダは絶対パスで指定してください。また、資料格納フォルダが空白を含むフォルダの場合、" で囲んで指定してください。

ツールを実行すると、資料格納フォルダに指定したフォルダ下に jp1_default フォルダができ、そこに採取した資料がコピーされます。なお、採取した資料は、圧縮ツールを使用して圧縮してください。

(5) オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

オペレーション内容の詳細

発生時刻

再現性

JP1/IM - View からログインしている場合は、ログインユーザー名

マシン構成 (各 OS のバージョン、ホスト名、セントラルコンソールの構成)

(6) 画面上のエラー情報を採取する

画面にエラーが表示された場合は、その情報も採取します。次に示すハードコピーを採取してください。

エラーダイアログボックスのハードコピー

詳細ボタンがある場合はその内容をコピーしてください。

(7) ユーザーダンプを採取する (Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista 限定)

Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合, エラーダイアログボックスが表示されている状態で, 次の手順でユーザーダンプを採取してください。

1. タスクマネージャを起動する。
タスクマネージャは次のどちらかの手順で起動できます。
 - タスクバーの空いている場所で右クリックをして「タスクマネージャ」を選択する。
 - [Ctrl] + [Shift] + [Esc] キーを押してタスクマネージャを起動する。
2. [プロセス] タブをクリックする。
3. アプリケーションエラーで停止した JP1/IM - View のプロセス名を右クリックし, 「ダンプファイルの生成」を選択する。
4. ユーザーダンプの出力先パスを示すダイアログボックスが表示されるので, そこから採取する。

注意事項

エラーダイアログボックスを消してしまうと正常なダンプは取得されないため, ユーザーダンプを採取できなくなってしまいます。誤って採取前にエラーダイアログボックスを ([OK] ボタンなどをクリックして) 消してしまった場合は, 現象を再現させてからユーザーダンプを採取してください。

(8) 問題レポートを採取する (Windows Server 2008, または Windows Vista 限定)

Windows Server 2008, または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合, 次の手順で問題レポートを採取してください。

注

Windows Server 2008 R2 (x64) 以降の場合は除きます。

1. [ファイル名を指定して実行] のテキストボックスに「wercon」と入力し, [OK] ボタンをクリックする。
[問題のレポートと解決策] ダイアログボックスが開きます。
2. 左側の領域で, [問題の履歴の表示] をクリックする。
3. 該当する問題をダブルクリックする。
問題レポートの詳細が表示されます。

4. 「クリップボードにコピー」を選択する。
5. コピーした内容を、テキストファイルにコピーして保存する。
保存した問題レポートを、障害調査用の資料として利用してください。

10.4.2 UNIX の場合

(1) プロセスの状態を確認する

ps コマンドを使用したときに表示されるプロセス名を次に示します。なお、UNIX の場合、資料採取ツール (jim_log.sh) を実行することでほかの資料とともに ps コマンドの実行結果を採取できます。

(a) JP1/IM - Manager

JP1/IM - Manager のプロセスを次に示します。なお、表内の括弧 () 内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10-18 JP1/IM - Manager のプロセス (UNIX)

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jco_spm (1) ¹	プロセス管理	jcmain (1)	アクション実行サービス (プロセス管理表示名: jcmain)
		evtcon ¹ (1)	イベントコンソールサービス (プロセス管理表示名: evtcon)
		evflow (1)	イベント基盤サービス (プロセス管理表示名: evflow)
		jcsmain (1)	セントラルスコープサービス ³ (プロセス管理表示名: jcsmain)
		jcfmain (1)	IM 構成管理サービス ³ (プロセス管理表示名: jcfmain)
		jcdmain (2) ²	インシデント登録サービス ³ (プロセス管理表示名: jcdmain)
		evgen (2) ^{2 4}	関連イベント発行サービス ³ (プロセス管理表示名: evgen)

注 1 これらのプロセスは、一時的にプロセス数が増加することがあります。

注 2 最大で 2、通常は 1 です。内訳は次のとおりです。

- ・ インシデント登録サービス、または関連イベント発行サービスのプロセス本体
- ・ イベントサービスと接続する際に一時的に生成されるプロセス。次の場合に生成される。
 - ・ インシデント登録サービス起動時、または関連イベント発行サービス起動時
 - ・ イベント取得フィルター更新時

注 3 デフォルトでは動作しません。また、インシデント登録サービスは JP1/IM - Incident

10. トラブルシューティング

Master 連携用の機能です。

注 4 統合監視 DB を使用しない場合のサービスです。

クラスタシステムで運用する場合、物理ホストおよび論理ホストごとに、上記のプロセスを実行します。同時に実行するプロセス数は、実行している物理ホストおよび論理ホストの数に、上記のプロセス数を掛けた数になります。なお、クラスタシステムで動作しているプロセスは、ps コマンド実行時には次のように表示されます (evtcon , jcdmain , evgen は後ろに論理ホスト名がつきません)。

```
jco_spmc 論理ホスト名
evflow 論理ホスト名
jcamain 論理ホスト名
evtcon
jcdmain
evgen
jcsmain 論理ホスト名
jcfmain 論理ホスト名
```

表中で、親プロセスが jco_spmc であるプロセスはプロセス管理が制御しており、jco_spmc_status コマンドでプロセスの状態を確認できます。

正常に動作している場合の表示例を次に示します。

```
# jco_spmc_status
KAVB3690-I JP1_CONS の状態通知処理を開始します
稼働中のプロセスを表示します
プロセス名称 プロセスID
    evflow          3672
    jcamain          4088
    evtcon           4236
    jcsmain          4846
    jcfmain          4950
    jcdmain          5423
    evgen            5624
KAVB3691-I プロセスは全て起動しています
```

- jcsmain は、セントラルスコープの機能を有効にした場合だけ表示されます。
- jcfmain は、IM 構成管理の機能を有効にした場合だけ表示されます。
- jcdmain は JP1/IM - Incident Master 連携用のインシデント登録サービスを有効にした場合にだけ表示されます。
- evgen は相関イベント発行サービスを有効にした場合だけ表示されます。

(2) JP1/IM 用ダンプファイルを出力する

(a) JP1/IM - Manager

ヘルスチェック機能によって、JP1/IM - Manager の異常を検知した場合にだけ JP1/IM - Manager 用のダンプファイルを出力してください。次のように jcogencore コマンドを実行します。

```
jcogencore
```

jcogencore コマンドを実行すると、どのプロセスのダンプファイルを出力するかの問い合わせメッセージが表示されます。この場合、ヘルスチェック機能によって通知されたメッセージ情報に含まれるプロセスのダンプファイルを出力するよう選択してください。なお、すでにダンプファイルが存在する場合、上書きするかの問い合わせメッセージが表示されます。ダンプファイルを上書きしない場合は、n を選択し、コマンドを終了してください。そのあと、ダンプファイルを退避し、再度 jcogencore コマンドを実行してください。

jcogencore コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcogencore」(1. コマンド)を参照してください。

(3) WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報を採取する

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は、この節で上げているほかの資料に加えて、次の資料を採取してください。

ビューアー側

Java のスタックトレースログ

採取手順を次に示します。

1. [Java コンソール] 画面を選択し、「v」を入力する。
Java のスタックトレースログが [Java コンソール] 画面上に出力されます。
2. コピーしてテキストファイルなどに手動で貼り付ける。
3. テキストファイルを保存する。

Java™ Plug-in の Java トレースファイル

Java トレースファイルは、次の場所にあります。

システムドライブ : %Documents and Settings% ログインユーザー名
%Application Data%Sun%Java%Deployment%log%

! 注意事項

Java™ Plug-in の Java トレースファイルは、Java™ Plug-in の再起動時に消去されてしまいます。トラブルが発生したら、再起動する前にこのトレースファイルの内容を別ファイルに保存してください。

マネージャー側

HTTP サーバのエラーログ

HTTP サーバのアクセスログ

(4) 資料採取ツールを実行する

資料採取ツール (`jim_log.sh`) を実行します。

JP1/IM - Manager で提供している `jim_log.sh` を実行すれば、同ホスト上の JP1/IM - Manager, JP1/Base の障害調査に必要な資料を採取できます。

なお、資料採取ツールで採取する資料の総容量は膨大になるため、実行する前に容量を見積もり、ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。資料サイズの見積もりについては、JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

次に、ツールの実行例を示します。

```
# /opt/jp1imm/tools/jim_log.sh -f 資料格納ディレクトリ
```

ツールを実行すると、採取資料が tar 形式でまとめられ、圧縮した形で出力されます。

(5) オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

オペレーション内容の詳細

発生時刻

再現性

JP1/IM - View からログインしている場合は、ログインユーザー名

マシン構成 (各 OS のバージョン, ホスト名, セントラルコンソールの構成)

(6) 画面上のエラー情報を採取する

画面にエラーが表示された場合は、その情報も採取します。次に示すハードコピーを採取してください。

エラーダイアログボックスのハードコピー

詳細ボタンがある場合はその内容をコピーしてください。

10.5 トラブルへの対処方法

一般的に想定されるトラブルについて、対処方法を説明します。

表 10-19 一般的に想定されるトラブル

項番	トラブルの内容
1	JP1/IM - View からログインできない
2	[イベントコンソール] 画面で定義メニューが表示されない
3	コマンド実行ができない
4	コマンド実行履歴ファイルが壊れている
5	自動アクションの実行状態が「状態不明」と表示される
6	自動アクションが遅延する
7	監視オブジェクト DB が破損している
8	監視オブジェクト DB のロックが解除されない
9	アクション結果の詳細情報 (メッセージ) に KAVB5150-W が表示される
10	インシデントが登録できない (JP1/IM - Incident Master 連携機能)
11	JP1/IM - Central Scope , JP1/IM - View のどちらかのバージョンが古い
12	関連イベントの発行処理の対象となる JP1 イベントが多発した
13	JP1/IM - View に関連イベントが表示されない
14	JP1/IM - View でログインしたあと, JP1/IM - View の画面が表示されない
15	コマンド実行, 自動アクションで実行したバッチファイルが正常終了しない (Windows 限定)
16	JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) が受信した JP1 イベントの処理が遅延する
17	応答待ちイベントが JP1/IM - View に表示されない
18	応答待ちイベントが JP1/IM - View に表示されるが, 応答待ちイベントとして表示されない (種別の矢印アイコンが表示されない, 応答入力できない)
19	[イベントコンソール] 画面に JP1 イベントが表示されない
20	対処状況が変更できない
21	イベント検索が実行できない
22	メモ情報が設定できない
23	IM データベースが終了できない
24	IM データベースに接続できない
25	JP1/IM - Manager がアンインストールできない
26	IM データベースをセットアップしたときに, ポート番号不正のエラーメッセージが出力される
27	IM データベースのセットアップに失敗する
28	IM データベースのセットアップでセットアップ情報ファイルが不正と出力される
29	IM データベースを起動できない, またはデータベース関連のコマンドが実行できない

10. トラブルシューティング

項番	トラブルの内容
30	IM 構成管理でホスト情報の収集に失敗した
31	IM 構成管理でシステムの階層構成の反映に失敗した
32	IM 構成管理でログファイルトラップ動作定義ファイルの取得に失敗した
33	JP1/IM・View から起動中のログファイルトラップがすべて表示されない
34	プロファイルの設定ファイルと有効設定情報の内容が異なる
35	IM 構成管理・ビューアで,[ホスト登録],[エージェント構成編集]などのメニュー項目が非活性になっている
36	IM 構成管理で仮想化システム構成の収集に失敗した
37	IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップの有効設定情報が参照できない
38	IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップが稼働しているにもかかわらず JP1 イベントが受信されない
39	IM 構成管理・ビューアで,処理中ダイアログが表示され続ける

(1) JP1/IM - View からログインできない場合の対処方法

メッセージの種類によって対処方法が異なります。

「KAVB1200-E 接続中に通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/IM・Manager が起動されていません。
- 接続先ホスト名が誤っています。

対処

要因に従って対処してください。

- JP1/IM・Manager を起動してください。
- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。

「KAVB0104-E ユーザー認証に失敗しました」メッセージが出力される。

要因

接続先に対するユーザー名またはパスワードが誤っています。

対処

接続先に対するユーザー名またはパスワードが正しいかどうかを確認してください。

「KAVB0109-E 接続ホストと認証サーバの間で,通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

接続先ホスト上で設定されている認証サーバが起動されていません。

対処

認証サーバを起動してください。

「KNAN20100-E 指定された接続先ホスト名のアドレスの解決に失敗しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 接続先ホスト名が誤っています。
- 接続先ホストが起動されていません。
- 接続先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

「KNAN20101-E 接続中に通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 接続先ホスト名が誤っています。
- 接続先ホストが起動されていません。
- 接続先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

「KNAN20102-E 接続中に通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 接続先ホスト名が誤っています。
- ポート番号が誤っています。
- 接続先ホストが起動されていません。
- 接続先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- ポート番号は使用できる番号どうかを確認してください。
- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

10. トラブルシューティング

「KNAN20103-E データ送信中に、通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

接続ホストと認証サーバの間で、通信エラーが発生しました。

対処

「KNAN20104-E データ受信中に、通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

ホスト接続中に、通信エラーが発生しました。

対処

次を確認してから、再度実行してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

(2) [イベントコンソール] 画面で定義メニューが表示されない場合の対処方法

[イベントコンソール] 画面の「オプション」のメニューで定義関連が非活性となる。

要因

JP1 資源グループの設定が誤っています。

対処

JP1 資源グループの設定で、ログインする JP1 ユーザーの JP1 資源グループにグループ名「JP1_Console」、権限レベルに「JP1_Console_Admin」または「JP1_Console_Operator」が設定されているか確認してください。

(3) コマンド実行ができない場合の対処方法

[コマンド実行] 画面で「KAVB0415-E 実行ホスト名に指定された業務グループ、または監視グループが定義されていないため、コマンドが実行できません。(実行ホスト名: 実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定した業務グループ、または監視グループが定義されていません。

対処

業務グループまたは監視グループを見直してから、コマンドを再実行してください。なお、このメッセージは JP1/Base の jccomdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は、システム管理者に連絡し、業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0416-E 実行ホスト名に指定されたホストが管理対象でないため、コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定したホストは管理対象ではありません。

対処

ホストを見直してから、コマンドを再実行してください。なお、このメッセージは JP1/Base の jcocmdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は、システム管理者に連絡し、業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0417-E 実行ホスト名に指定された業務グループに対してコマンドを実行する権限がないため、コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定した業務グループに対してコマンドを実行する権限がありません。

対処

業務グループ、または監視グループを見直してから、コマンドを再実行してください。なお、このメッセージは JP1/Base の jcocmdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は、システム管理者に連絡し、業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0418-E 実行ホスト名に指定されたホストに対してコマンドを実行する権限がないため、コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定したホストに対してコマンドを実行する権限がありません。

対処

ホストを見直してから、コマンドを再実行してください。なお、このメッセージは JP1/Base の jcocmdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は、システム管理者に連絡し、業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0419-E 実行ホスト名に指定されたホスト名と同じ名称のホストグループが定義されているため、コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行先ホスト名に実行ホストと同じ名称のホストグループ名が指定されています。

10. トラブルシューティング

対処

実行ホスト名に指定したホスト名と同じ名称のホストグループがないか確認してください。ある場合は、ホスト名かホストグループのどちらかの名称を変更してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0422-E 業務グループ, または監視グループにホストが定義されていません。(グループ名: グループ名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定した業務グループ, または監視グループには、ホストが一つも定義されていません。

対処

指定した業務グループ, または監視グループにホストを定義してください。また、業務グループ, または監視グループのパスの表記を見直してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0423-E 業務グループ, または監視グループが定義されていません。(グループ名: グループ名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に、定義されていない業務グループ, または監視グループが指定されています。

対処

指定した業務グループ, または監視グループを定義してください。また、業務グループ, または監視グループのパスの表記を見直してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB2027-E ユーザー名のユーザ偽装に失敗したため、コマンド実行できません」メッセージが出力される。

要因

ユーザーマッピングの設定が誤っています。

対処

ユーザーマッピングの設定を確認してください。設定されていない場合はユーザーマッピングを設定してください。この設定は Windows の場合必須です。なお、マッピング元のサーバ名として指定するホストが DNS を使用している場合、ドメイン名を含めて記述する必要があります。ホスト名が正しくて、偽装に失敗する場合は DNS を使用していないか確認してください。ユーザーマッピングの設定については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザーマッピングに関する章を参照してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB2031-E ホスト(ホスト名)が管理対象でないため、コマンドが実行できません」メッセージが出力される。

要因

構成定義ファイルの定義に誤りがあります。または、実行ホスト名が解決できません。

対処

- 構成定義ファイルの定義で構成情報が定義されているか確認してください。
- 実行ホスト名を解決できるようにしてください。
- Windows で物理ホストと論理ホストの両方を起動する環境でこのメッセージが出力される場合は、ネットワークの設定が不足しています。詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のクラスタ運用に関する注意事項（Windows 限定の注意事項）の中の、同一ホスト上で物理ホスト環境と論理ホスト環境を構築する場合の項を参照してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB8452-E ログイン中に業務グループによる参照・操作制限機能が有効から無効に変更されたため、実行できません」メッセージが出力される。

要因

JP1/IM - View が接続している状態で、業務グループによる参照・操作制限を有効から無効に変更しています。

対処

JP1/IM - View を再起動したあと、再ログインしてからコマンドを再実行してください。

DOS プロンプトでの実行結果とコマンド実行画面や自動アクションでの実行結果が異なる。

要因

実行する OS ユーザーの環境が不正です。

対処

jcocmddef コマンドの `-loaduserprofile` オプションを有効にしてください。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「7.4.4(3)(c) コマンドを実行するときの環境」、およびマニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章を参照してください。

(4) コマンド実行履歴ファイルが壊れている場合の対処方法

電源断によるマシン停止などによってコマンド実行履歴ファイルへの書き込みが中断された場合、自動アクションまたはコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れる場合があります。

その場合、次に示すメッセージが出力されます。

- JP1/IM - View の [アクション結果詳細] 画面、または `jcashowa` コマンドで自動アクションの実行結果を表示したときに、実行結果に「KAVB5151-W コマンド実行履歴からデータの取得に失敗しました」が表示される。
自動アクションのコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
- `jcocmdlog` コマンドを実行したときに、「KAVB2523-E コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルがオープンできません」が出力される。
コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。

10. トラブルシューティング

- jccocmdlog コマンドを実行したときに、「KAVB2525-E 自動アクションのコマンド実行履歴ファイルがオープンできません」が出力される。
自動アクションのコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
- jccocmdlog コマンドを実行したときに、「KAVB2527-E コマンド実行履歴ファイルの読込に失敗しました」が出力される。
 - オプションに `-act` を指定している場合、自動アクションのコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
 - オプションに `-window` を指定している場合、コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
 - `-act` と `-window` のオプションを指定していない場合、自動アクションまたはコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
- 統合トレースログに「KAVB2064-E コマンド実行履歴ファイルの書き込みに失敗しました」が出力される。
自動アクションまたはコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。

これらのメッセージが出力される場合、次の手順でコマンド実行履歴ファイルの状態を確認してください。

1. 壊れたおそれのあるファイルを (a) に示す手順で確認する。
2. 確認の結果、壊れていない場合には各メッセージの対処方法に従って、対処する。
3. 壊れている場合は、(b) の手順で回復する。
4. (b) の手順でも回復しない場合は、(c) の手順に従ってコマンド実行履歴ファイルを削除する。

(a) コマンド実行履歴ファイルの確認手順

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを確認する場合

Windows の場合

コマンドプロンプトから次のコマンドを実行してください。

```
cd Base パス ¥log¥COMMAND
```

(論理ホストの場合 : cd 共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND)

```
Jischk -l3 Base パス ¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8
```

UNIX の場合

次のコマンドを実行してください。

```
cd /var/opt/jplbase/log/COMMAND
```

(論理ホストの場合 : cd 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND)

```
/opt/jplbase/bin/Jischk -l3 actisamlogv8
```

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを確認する場合

Windows の場合

コマンドプロンプトから次のコマンドを実行してください。

```
cd Base パス ¥log¥COMMAND
(論理ホストの場合: cd 共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND)
Jischk -l3 Base パス ¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8
```

UNIX の場合

次のコマンドを実行してください。

```
cd /var/opt/jplbase/log/COMMAND
(論理ホストの場合: cd 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND)
/opt/jplbase/bin/Jischk -l3 cmdisamlogv8
```

Jischk コマンドでファイルの不正が検出されない場合、コマンド実行履歴ファイルは壊れていません。Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合には、(b) に示す手順でコマンド実行履歴ファイルを回復してください。

Jischk コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(b) コマンド実行履歴ファイルの回復手順

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを回復する場合

Windows の場合

次の操作は Administrators 権限で実行してください。また、回復する際には、ACTISAMLOGV8.DRF の約 3 倍の空き容量が必要です。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行し、コマンド実行履歴ファイルを回復する。

なお、Jiscond コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

```
cd Base パス ¥log¥COMMAND
(論理ホストの場合: cd 共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND)
```

```
Jiscond ACTISAMLOGV8
```

4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して、コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。

```
Jischk -l3 ACTISAMLOGV8
```

Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合、コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合、(c) に示す手順で自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除してください。

5. JP1/Base を起動する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

UNIX の場合

次の操作はスーパーユーザー権限で実行してください。また、回復する際には、actisamlogv8.DAT の約 3 倍の空き容量が必要です。

10. トラブルシューティング

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. 次のコマンドを実行し、コマンド実行履歴ファイルを回復する。
なお、Jiscond コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

```
cd /var/opt/jp1base/log/COMMAND
```

(論理ホストの場合: cd 共有ディレクトリ /jp1base/log/COMMAND)

```
/opt/jp1base/bin/Jiscond actisamlogv8
```

4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して、コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。

```
/opt/jp1base/bin/Jischk -l3 actisamlogv8
```

Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合、コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合、(c) に示す手順で自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除してください。

5. JP1/Base を起動する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを回復する場合

Windows の場合

次の操作は Administrators 権限で実行してください。また、回復する際には、CMDISAMLOGV8.DRF の約 3 倍の空き容量が必要です。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行し、コマンド実行履歴ファイルを回復する。

Jiscond コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

```
cd Base パス %log%COMMAND
```

(論理ホストの場合: cd 共有フォルダ %jp1base%log%COMMAND)

```
Jiscond CMDISAMLOGV8
```

4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して、コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。

```
Jischk -l3 CMDISAMLOGV8
```

Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合、コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合、(c) に示す手順でコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除してください。

5. JP1/Base を起動する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

UNIX の場合

次の操作はスーパーユーザー権限で実行してください。また、回復する際には、

cmdisamlogv8.DAT の約 3 倍の空き容量が必要です。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. 次のコマンドを実行する。


```
cd /var/opt/jp1base/log/COMMAND
```

 (論理ホストの場合: cd 共有ディレクトリ /jp1base/log/COMMAND)


```
/opt/jp1base/bin/Jiscond cmdisamlogv8
```
4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して、コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。


```
/opt/jp1base/bin/Jischk -l3 cmdisamlogv8
```

 Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合、コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合、(c) に示す手順でコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除してください。
5. JP1/Base を起動する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

(c) コマンド実行履歴ファイルの削除手順

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除する場合

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除すると、過去の自動アクションによる履歴はすべて失われます。削除することに問題がある場合は、ファイルをバックアップしてください。詳細については、「1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. コマンド実行履歴ファイルを削除する。
正常に回復できなかった次のファイルを削除してください。なお、コマンド実行履歴ファイルについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

Windows の場合

表 10-20 削除対象ファイル格納場所 (Windows)

ファイル名	ファイル名
自動アクションのコマンド実行履歴ファイル	<ul style="list-style-type: none"> • Base パス ¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.DRF • Base パス ¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.K01 • Base パス ¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.KDF
	<ul style="list-style-type: none"> • 共有フォルダ ¥jp1base¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.DRF • 共有フォルダ ¥jp1base¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.K01 • 共有フォルダ ¥jp1base¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.KDF

10. トラブルシューティング

ファイル名	ファイル名
アクション情報ファイル	Console パス ¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス ¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥acttxt{1 2}.log

UNIX の場合

表 10-21 削除対象ファイル格納場所 (UNIX)

ファイル名	ファイル名
自動アクションのコマンド 実行履歴ファイル	<ul style="list-style-type: none"> • /var/opt/jplbase/log/COMMAND/actisamlogv8.DAT • /var/opt/jplbase/log/COMMAND/actisamlogv8.K01 • /var/opt/jplbase/log/COMMAND/actisamlogv8.DEF
	<ul style="list-style-type: none"> • 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/ actisamlogv8.DAT • 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/ actisamlogv8.K01 • 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/ actisamlogv8.DEF
アクション情報ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納 ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log

4. JP1/Base を起動する。

5. JP1/IM - Manager を起動する。

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除する場合

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除すると、過去のコマンド実行による履歴はすべて失われます。削除することに問題がある場合は、ファイルをバックアップしてください。詳細については、「1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

1. JP1/IM - Manager を停止する。

2. JP1/Base を停止する。

3. コマンド実行履歴ファイルを削除する。

正常に回復できなかった次のファイルを削除してください。なお、コマンド実行履歴ファイルについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

Windows の場合

表 10-22 削除対象ファイル格納場所 (Windows)

ファイル名	ファイル名
コマンド実行のコマンド実行履歴ファイル	<ul style="list-style-type: none"> • Base パス ¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.DRF • Base パス ¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.K01 • Base パス ¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.KDF
	<ul style="list-style-type: none"> • 共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.DRF • 共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.K01 • 共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.KDF

UNIX の場合

表 10-23 削除対象ファイル格納場所 (UNIX)

ファイル名	ファイル名
コマンド実行のコマンド実行履歴ファイル	<ul style="list-style-type: none"> • /var/opt/jplbase/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DAT • /var/opt/jplbase/log/COMMAND/cmdisamlogv8.K01 • /var/opt/jplbase/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DEF
	<ul style="list-style-type: none"> • 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DAT • 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/cmdisamlogv8.K01 • 共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DEF

4. JP1/Base を起動する。
5. JP1/IM - Manager を起動する。

(5) 自動アクションの実行状態が「状態不明」と表示される場合の対処方法

自動アクションの実行結果を保存したファイル (アクション情報ファイル, アクションホスト名格納ファイル, コマンド実行履歴ファイル) に不整合が発生しているおそれがあります。

この場合, 実行結果を保存したファイルを削除する必要があります。なお, ファイルを削除すると, 過去の自動アクションの実行結果は参照できなくなります。削除することに問題がある場合は, ファイルをバックアップしてください。詳細については, 「1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

削除手順を次に示します。

1. JP1/IM - Manager を停止し, JP1/Base を停止する。
クラスタ構成の場合は, クラスタソフトの操作で論理ホストを停止してください。ま

10. トラブルシューティング

た、停止確認後に共有ディスクを共有ディレクトリにマウントしてください。

2. アクション情報ファイル、アクションホスト名格納ファイル、およびコマンド実行履歴ファイルを削除する。

削除ファイルの格納場所は次の表のとおりです。

Windows の場合

表 10-24 削除対象ファイル格納場所 (Windows)

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	Console パス ¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス ¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
	共有フォルダ ¥jplcons¥log¥action¥acttxt{1 2}.log
コマンド実行履歴ファイル	Base パス ¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
	共有フォルダ ¥jplbase¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル

UNIX の場合

表 10-25 削除対象ファイル格納場所 (UNIX)

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log
	共有ディレクトリ /jplcons/log/action/acttxt{1 2}.log
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jplbase/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
	共有ディレクトリ /jplbase/log/COMMAND/ 以下の全ファイル

3. JP1/Base を起動し、JP1/IM - Manager を起動する。

クラスタ構成の場合は、共有ディスクをアンマウントしてから、クラスタソフトの操作で論理ホストを起動してください。

(6) 自動アクションが遅延する場合の対処方法

自動アクションの状態が「実行中」のままになっている。

まず、jcccmdshow コマンド で、コマンドの状態を確認してください。その結果に

よって、対処方法が異なります。確認して得られた結果ごとに、考えられる要因とその対処方法について次に説明します。

「コマンド実行経過時間 (ETIME)」が長いコマンドがある場合。

要因

終了しないコマンドまたは時間がかかるコマンドが実行されています。

対処

`jcocmddel` コマンド で、終了しないコマンドを削除してください。詳細については、「7.1.4 コマンドの実行状態を確認または削除する」およびマニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「7.4.4(6) トラブルシューティング用コマンド」を参照してください。

「KAVB2239-E 接続先ホストへのネットワーク接続を確立できませんでした」メッセージが表示される場合。

要因

実行先ホストの JP1/Base がコマンド実行中に停止しました。

対処

実行先ホストの JP1/Base を再起動してください。

なお、JP1/Base を監視する方法として、JP1/Base のヘルスチェック機能があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「7.4.8 JP1/Base のヘルスチェック機能」を参照してください。

「コマンド実行状態 (STATUS)」が「Q」となっているコマンドが大量にある場合。

要因

自動アクション実行数が多過ぎます。

対処

実行中の自動アクションを確認して、次を見直してください。

- 不要な自動アクションが設定されていないか
- 自動アクションを設定する JP1 イベントを絞り込めないか

不要な自動アクションがない場合は、`jcocmddef` コマンド で、コマンド同時実行数を増やしてください。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「12.7.6 コマンド実行環境の検討」を参照してください。

注

`jcocmdshow` コマンド、`jcocmddel` コマンドおよび `jcocmddef` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章を参照してください。

(7) 監視オブジェクト DB が破損している場合の対処方法

「KAVB7247-E JP1/IM - CS は JP1/IM - View からの操作要求が実行できませんでした (要因: データベースのレコード不正) 」, 「KAVB7248-E JP1/IM - CS は JP1/IM - View からの操作要求が実行できませんでした (要因: データベースの操作不能) 」などのメッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB に論理矛盾が発生している。

対処

次の処置を実行してください。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 障害調査用に, Scope パス ¥database フォルダのバックアップをとる。
3. jcsdbsetup -f コマンドを実行する。
4. Scope パス ¥database¥jcshosts フォルダ内のすべてのファイルを削除する。
5. jcshostsimport -r jcshosts コマンドを実行する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

(8) 監視オブジェクト DB のロックが解除されない場合の対処方法

監視オブジェクト DB がロックされたままになっている。

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB でロック取得に失敗している。

対処

次の処置を実行してください。

1. jcsmain プロセスが起動していないことを, jco_spmc_status コマンドで確認する。
2. Jismlocktr コマンドを実行する。
3. Scope パス ¥database 以下のファイルをロックしているプロセスを確認する。
4. 手順 3 で確認したプロセス ID に対して, Jislckfree -p PID コマンドを実行する。

Jismlocktr, Jislckfree コマンドは JP1/Base が提供しています。詳細については, マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドの章を参照してください。

(9) アクション結果の詳細情報（メッセージ）に KAVB5150-W が表示される場合の対処方法

[アクション結果詳細] 画面を表示すると、メッセージ欄に「KAVB5150-W コマンド実行履歴に該当データがありません」と表示される。

要因

コマンド実行履歴ファイル（ISAM）がラップしたおそれがあります。コマンド実行履歴ファイルがラップすると、自動アクションの実行結果が表示されません。

対処

この現象が頻繁に起こる場合には、コマンド実行履歴ファイルのレコード数の上限値を大きくすることを検討してください。レコード数の上限値を大きくすると、ディスク容量も圧迫しますので、その点も考慮に入れてください。

次に手順を示します。

レコード数の上限値を変更する

レコード数の上限値を変更した場合、設定を有効にするためにコマンド実行履歴ファイルを削除する必要があります。コマンド実行履歴ファイルを削除すると、過去の自動アクション、コマンド実行による履歴はすべて失われます。削除することに問題がある場合は、ファイルをバックアップしてください。詳細については、「1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

1. jcocmddef コマンドで、コマンド実行履歴ファイルのレコード数を変更する。

2. JP1/IM, JP1/Base を停止する。

クラスタ構成の場合は、クラスタソフトの操作で論理ホストを停止してください。

また、停止確認後に共有ディスクを共用ディレクトリにマウントしてください。

3. コマンド実行履歴ファイルを削除する。

コマンド実行履歴保存ディレクトリ以下の全ファイルが該当します。コマンド実行履歴保存ディレクトリは、デフォルトでは下記のとおりです。

Windows の場合

表 10-26 コマンド実行履歴ファイル格納場所（Windows）

ファイル名	格納場所
コマンド実行履歴ファイル	Base パス ¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル
	共有フォルダ ¥jp1base¥log¥COMMAND¥ 以下の全ファイル

UNIX の場合

表 10-27 コマンド実行履歴ファイル格納場所 (UNIX)

ファイル名	格納場所
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/ 以下の全ファイル
	共有ディレクトリ /jp1base/log/COMMAND/ 以下の全ファイル

なお、コマンド実行履歴ファイルについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

4. JP1/Base, JP1/IM を起動する。

クラスタ構成の場合は、共有ディスクをアンマウントしてから、クラスタソフトの操作で論理ホストを起動してください。

jcocmddef コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章を参照してください。

(10) インシデントが登録できない場合 (JP1/IM - Incident Master 連携機能) の対処方法

メッセージの種類によって対処方法が異なります。

「KAJV0183-E JP1/IM - Incident Master との接続に失敗しました。接続をリトライします」が統合トレースログに出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/IM - Incident Master が起動していない。
- インシデント登録定義ファイルに指定されたホスト名が誤っている。
- インシデント登録定義ファイルに指定されたホスト名が JP1/IM - Manager 上のホストで名前解決できていない (ホスト名から IP アドレスが参照できない)。
- JP1/IM - Manager ・ JP1/IM - Incident Master 間のネットワークに問題がある。

対処

要因に従って対処してください。

- JP1/IM - Incident Master を起動してください。
- インシデント登録定義ファイルに指定されたホスト名が正しいか確認してください。
- DNS または JP1/IM - Manager ホスト上の services ファイルに JP1/IM - Incident Master のホスト名を追記し、名前解決ができるようにしてください。
- JP1/IM - Manager ・ JP1/IM - Incident Master 間のネットワークに問題がないか確認してください。

「KAJV0233-E インシデント登録定義ファイルに有効な条件が定義されていません」が

統合トレースログに出力される。

要因

インシデント登録定義が定義されていません。

対処

インシデント登録定義を定義してください。インシデント登録定義は、JP1/IM - Incident Master から `jcisetfilter` コマンドを使って定義します。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Incident Master」を参照してください。

(11) JP1/IM - Central Scope , JP1/IM - View のどちらかのバージョンが古い場合の対処方法

メッセージの種類によって対処方法が異なります。

「KAVB6060-E 接続先サーバには対応していません」が表示される。

要因

JP1/IM - View よりも JP1/IM - Manager , JP1/IM - Central Scope が古いバージョン, または監視オブジェクト DB が古いバージョンです。

対処

JP1/IM - View よりも JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope が古いバージョンの場合

次の手順に従って、JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [ツリーを保存] の操作をし、編集した監視ツリーを csv ファイルに保存する。
2. JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope を JP1/IM - View と同じバージョンにバージョンアップする。
3. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [ツリーを開く] の操作をし、保存しておいた csv ファイルを読み込む。
4. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [サーバのツリーを更新] の操作をし、サーバのツリーを更新する。

JP1/IM - View と JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope が同じバージョンで、監視オブジェクト DB が古いバージョンの場合

次の手順に従って、監視オブジェクト DB をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [ツリーの保存] の操作をし、編集した監視ツリーを csv ファイルに保存する。
2. 監視オブジェクト DB をバージョンアップする。
3. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [サーバのツリーを開く] の操作をし、保存しておいた csv ファイルを読み込む。
4. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [サーバのツリーを更新] の

10. トラブルシューティング

操作をし、サーバのツリーを更新する。

監視オブジェクト DB のバージョンアップについては次を参照してください。

- 物理ホストの場合
Windows：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.19.3(2) セントラルスコープのバージョンアップコマンドの実行」
UNIX：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.18.6(2) セントラルスコープのバージョンアップコマンドの実行」
- 論理ホストの場合
Windows：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.2(2) バージョンアップ時のセットアップ」
UNIX：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.2(2) バージョンアップ時のセットアップ」

JP1/IM - View よりも JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope が新しいバージョンで、監視オブジェクト DB が古いバージョンの場合

次の手順に従って、JP1/IM - View をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー（編集集中）]画面で [ファイル] - [ツリーの保存] の操作をし、編集した監視ツリーを csv ファイルに保存する。
2. JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope をアンインストールする。
3. JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope のインストールディレクトリを削除する。
4. JP1/IM - View と同じバージョンの JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope をインストールする。
5. [監視ツリー（編集集中）]画面で [ファイル] - [サーバのツリーを開く] の操作をし、保存しておいた csv ファイルを読み込む。
6. [監視ツリー（編集集中）]画面で [ファイル] - [サーバのツリーを更新] の操作をし、サーバのツリーを更新する。
7. 新しいバージョンの JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope にバージョンアップする。
8. JP1/IM - View を JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope と同じバージョンにバージョンアップする。

「KAVB6046-E ユーザー (ユーザー) には操作に必要な権限がありません」のメッセージが表示される。

要因

JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope よりも JP1/IM - View が古いバージョン、または JP1/IM - View の編集データが古いバージョンです。

対処

次の手順に従って、JP1/IM - View をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー（編集集中）]画面で [ファイル] - [ツリーを保存] の操作をし、編

- 集した監視ツリーを csv ファイルに保存する。
2. JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope をアンインストールする。
 3. JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope のインストールディレクトリを削除する。
 4. JP1/IM - View と同じバージョンの JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope をインストールする。
 5. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [ツリーを開く] の操作をし、保存しておいた csv ファイルを読み込む。
 6. [監視ツリー (編集)] 画面で [ファイル] - [サーバのツリーを更新] の操作をし、サーバのツリーを更新する。
 7. 新しいバージョンの JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope にバージョンアップする。
 8. JP1/IM - View を JP1/IM - Manager または JP1/IM - Central Scope と同じバージョンにバージョンアップする。

(12) 関連イベントの発行処理の対象となる JP1 イベントが多発した場合の対処方法

システムのメンテナンスなどで、関連イベントの発行処理の対象となる JP1 イベントが多発した場合、関連イベントの発行処理が過負荷状態になるおそれがあります。

回避方法は次の二つがあります。

- 関連イベントの発行処理を休止する。
- JP1/IM - Manager を停止する。

なお、関連イベントの発行処理を休止しても状況回避できない場合だけ、JP1/IM - Manager を停止してください。

関連イベントの発行処理を休止する。

関連イベントの発行処理をいったん休止して、状況が回復したあとで関連イベントの発行処理を再開してください。

手順を次に示します。

1. jcoegsstop コマンドを実行して、関連イベントの発行処理を休止する。
jcoegsstop コマンドを実行すると、関連イベント発行サービスが機能停止状態になります。この間に発生した JP1 イベントは処理の対象外になります。
サービスを停止させずに処理だけを停止するため、クラスタ運用している場合にフェールオーバーさせないで運用を継続できます。
2. 関連イベント発行処理を再開したい場合、jcoegsstart コマンドを実行する。

JP1/IM - Manager を停止する。

JP1/IM - Manager を停止する場合、起動オプションが cold であれば次に説明する手順を実施する必要はありません。warm の場合だけ実施してください。

手順を次に示します。

10. トラブルシューティング

1. 関連イベント発行システムプロファイル (`egs_system.conf`) を編集して、起動オプションを `cold` に変更する。
2. JP1/IM - Manager を再起動する。
3. 関連イベント発行システムプロファイル (`egs_system.conf`) を編集して、起動オプションを `warm` に戻す。
4. `jco_spmd_reload` コマンドを実行して、起動オプションの設定を有効にする。

(13) JP1/IM - View に関連イベントが表示されない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- 関連イベントの発行が有効になっていない。
- 関連イベント発行定義が定義されていない。
- 関連イベントがフィルタリングされている。
- 反映した関連イベント発行定義が破損している。

それぞれの対処を次に示します。

関連イベントの発行が有効になっていない。

関連イベント発行サービスはオプション機能であり、デフォルトでは起動しません。関連イベント発行サービスの起動設定をしていない場合、`jcoimdef` コマンドで起動設定をしたあと、JP1/IM - Manager を再起動すると関連イベント発行サービスが起動するようになります。

関連イベントの発行処理が稼働していることを確認するには、JP1/IM - Manager を再起動したあと、`jcoegsstatus` コマンドを実行して、関連イベント発行サービスが関連稼働状態 (RUNNING) になっていることを確認してください。

関連イベント発行定義が定義されていない。

関連イベント発行サービスは、関連イベント発行定義に従って関連イベントを発行します。関連イベント発行定義はデフォルトでは定義されていないため、関連イベントは発行されません。

関連イベント発行定義ファイルを作成したあと、`jcoegschange` コマンドを実行して、関連イベント発行サービスに関連イベント発行定義を反映してください。反映した関連イベント発行定義は `jcoegsstatus` コマンドで確認できます。

関連イベントがフィルタリングされている。

関連イベントがイベント取得フィルター、ユーザーフィルター、重要イベントフィルターおよび表示フィルターのフィルタリング対象になっていないかどうか確認してください。

関連イベントは通常の JP1 イベントと同様に、イベント取得フィルター、ユーザーフィルター、重要イベントフィルターおよび表示フィルターの対象になります。また、重大度が定義されていないイベントは、イベント取得フィルターによってフィルタリングされます (デフォルト設定の場合)。

反映した関連イベント発行定義が破損している。

統合トレースログに次のメッセージが出力される場合、jcoegschange コマンドで
 関連イベント発行サービスに反映した関連イベント発行定義が壊れたおそれがあり
 ます。

- 「KAJV2246-E 関連イベント発行定義保存ファイルが壊れているため定義不正が検
 出されました。行番号:行番号 不正内容:不正内容」

このメッセージが出力された場合、jcoegschange コマンドを実行して、再度関連
 イベント発行定義を反映してください。

(14) JP1/IM - View でログインしたあと、JP1/IM - View の画面が表示されない 場合の対処方法

JP1/IM - View でログインしたあと、JP1/IM - View の画面が表示されない。なお、タスク
 バーには、JP1/IM - View のタスクバーボタンが表示されている。

要因

次の操作をすると、JP1/IM - View でログインしたあとに画面が表示されません。

- 仮想画面構成 によって、JP1/IM - View が表示されていない画面領域を表示した
 状態で、JP1/IM - View を終了する。

注

メモリー上にディスプレイ画面以上のデスクトップを持ち、分割したそれぞれの
 の領域を仮想的に一つのデスクトップとして表示することで複数のデスクトップ
 を画面を切り替えて使用できる構成のことをいいます。
 仮想デスクトップともいいます。

対処

次のどれかの方法で対処してください。

対処 1

1. [Alt] + [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. タスクバーから「重ねて表示」を選択し、すべての画面を重ねて表示する。
3. JP1/IM - View やそのほかの画面の表示位置およびサイズを変更する。

対処 2

1. [Alt] + [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. タスクバーから「上下に並べて表示」を選択し、すべての画面を上下に並べ
 て表示する。
3. JP1/IM - View やそのほかの画面の表示位置およびサイズを変更する。

対処 3

1. [Alt] + [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. タスクバーから「左右に並べて表示」を選択し、すべての画面を左右に並べ
 て表示する。
3. JP1/IM - View やそのほかの画面の表示位置およびサイズを変更する。

10. トラブルシューティング

対処 4

1. [Alt] + [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. JP1/IM - View のコンテキストメニューから「移動」を選択し、カーソルキーで位置を調整する。
3. 表示された画面またはその画面の枠の位置を決定したら、リターンキーを押す。

対処 5

1. [Alt] + [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. JP1/IM - View のコンテキストメニューから「最大化」を選択し、画面を最大化した状態でいったんログアウトする。
3. 再ログインしたあと、画面の表示位置およびサイズを変更する。

(15) コマンド実行、自動アクションで実行したバッチファイルが正常終了しない場合 (Windows 限定) の対処方法

要因

次の条件を満たす場合、バッチファイルの処理が中断され、バッチファイルが正常に処理されません。

- コマンド実行先に指定したホストの OS が Windows2000 である。
- バッチファイルで FOR /F コマンドを使用している。
- FOR /F コマンドの実行後、標準エラー出力への出力をしている。

対処

次のどちらかの方法で対処してください。

- FOR /F コマンドを使用しない。
- FOR /F コマンド実行後に標準エラー出力への出力をしない。

(16) JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) が受信した JP1 イベントの処理が遅延する場合の対処方法

要因

状態変更条件設定の個別条件設定で、属性値に指定した文字列 (ホスト名または IP アドレス) の名前解決ができていないおそれがあります。

対処

名前解決に失敗したホスト名は、次のログファイルに出力されます。

Windows の場合

```
Scopeパス¥log¥jcsmain_trace{1|2|3}.log
```

UNIX の場合

```
/var/opt/jp1scope/log/jcsmain_trace{1|2|3}.log
```

注

JP1/Base のログファイルトラップ機能の監視対象にはしないでください。

名前解決に失敗した場合、上記ログファイル内に、次のメッセージが出力されます。
 ...fs_jcsHostsAccessPtr->getHostByName() is failed. (host = 名前解決に失敗したホスト名,jplerror = 2001)...

または、

...fs_jcsHostsAccessPtr->getHostByAddr() is failed. (host = 名前解決に失敗したIPアドレス,jplerror = 2001)...

これを確認の上、個別条件の条件として [ホスト名比較] を設定し、次に示すどれかの方法で属性値に指定したホスト名または IP アドレスの名前解決ができるようにしてください。

- 個別条件の属性値に指定したホスト名または IP アドレスをホスト情報 DB に登録する。
- 個別条件の属性値に指定したホスト名または IP アドレスを JP1/Base の jp1hosts に登録する。
- 個別条件の属性値に指定したホスト名または IP アドレスを hosts や DNS などに登録する。

(17) 応答待ちイベントが JP1/IM - View に表示されない場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- 応答待ちイベント管理機能が無効となっている。
jcoimdef コマンドの -resevent オプションの指定が OFF となっているおそれがあります。
- 応答待ちイベントが発行されていない。
- 応答待ちイベントは発行されているが、JP1/IM - Manager でフィルタリングされている。

対処

応答待ちイベント管理機能を有効が無効となっている場合は、jcoimdef コマンドの -resevent オプションの指定を ON にしてください。

また、次の手順で要因を切り分けて対処してください。

1. JP1/IM - Manager ホストのイベント DB に応答待ちイベントが登録されていることを確認する。
 管理者ユーザーなど、ユーザーフィルターが設定されていない JP1 ユーザーでイベント検索し、応答待ちイベントがイベント DB に登録されていることを確認します。
 登録されていない場合は、手順 2 の方法で調査します。
 登録されている場合は、JP1/IM - Manager のフィルター（イベント取得フィルター、またはユーザーフィルター）でフィルタリングされているため、フィルター条件を見直してください。
2. BJEX ホストのログを確認し、BJEX のエラー、または通信エラーが発生していないことを確認する。
 エラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処方法に従って

10. トラブルシューティング

対処してください。BJEX のセットアップ時の誤りや通信エラーが考えられません。

(18) 応答待ちイベントが JP1/IM - View に表示されるが、応答待ちイベントとして表示されない (種別の矢印アイコンが表示されない、応答入力できない) 場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- 応答待ちイベント管理機能が無効となっている。
jcoimdef コマンドの `-resevent` オプションの指定が OFF となっているおそれがあります。
- BJEX の設定で、JP1/IM - Manager のホスト名の指定が間違っている。
ホスト名ではなく IP アドレスが指定されているおそれがあります。
- BJEX で設定した JP1/IM - Manager のホスト以外のホストに転送している応答待ちイベントである。

対処

要因に従って対処してください。

- 応答待ちイベント管理機能を有効にする。
jcoimdef コマンドの `-resevent` オプションの指定を ON にしてください。
- BJEX の設定で、正しい JP1/IM - Manager のホスト名を指定する。
- 応答待ちイベントに回答する場合は、BJEX で設定した JP1/IM - Manager ホストに対してログインする。

(19) [イベントコンソール] 画面に JP1 イベントが表示されない場合の対処方法

要因

フィルターの除外条件、有効な共通除外条件に、条件が何も設定されていない条件群があるため、すべての JP1 イベントが除外されています。

対処

次のフィルターの除外条件および有効な共通除外条件を見直してください。

- イベント取得フィルター
- ユーザーフィルター
- 重要イベントフィルター
- 表示フィルター

(20) 対処状況が変更できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。または、イベントコンソールと `jcochstat` コマンドの接続が確立しない。

- 指定した JP1 イベントが変更できないイベントだった。
- イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。
- イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスと IM データベースサービスの接続が確立しない。

それぞれの対処を次に示します。

イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。または、イベントコンソールと jcochstat コマンドの接続が確立しない。

マネージャー上のイベントコンソールが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態である、ネットワークの設定に誤りがあるというおそれがあります。

- 対処

jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベントコンソールサービスが起動しているか確認し、再度対処状況を変更します。

または、ping コマンドなどを使用してログインしているホストが正常に稼働しているか確認し、再度対処状況を変更します。

指定したイベントが変更できないイベントだった。

- 対処

イベント DB 内通し番号の指定を見直し、再度対処状況を変更します。

イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。

- 対処

イベントサービスが起動しているか確認し、再度対処状況を変更します。

イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。

イベント基盤サービスが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベント基盤サービスが起動しているか確認し、再度対処状況を変更します。

イベント基盤サービスと IM データベースサービスの接続が確立しない。

IM データベースサービスが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

IM データベースサービスを起動後、再度対処状況を変更します。

(21) イベント検索が実行できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- イベントコンソールとビューアーの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスとイベントコンソールサービスの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。

10. トラブルシューティング

- イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。
- サポートしていない条件で JP1 イベントを検索した。
- イベント検索実行時、指定した正規表現が間違っている。
- 除外条件を指定してイベント検索を実行した時、検索ホストの JP1/Base のバージョンが 08-11 以前だった。

それぞれの対処を次に示します。

イベントコンソールとビューアーの接続が確立しない。

マネージャー上のイベントコンソールが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっている、ネットワークの設定に誤りがあるというおそれがあります。

- 対処

`jco_spmc_status` コマンドを実行してマネージャー上のイベントコンソールサービスが起動しているか確認し、イベント検索を再実行します。

または、`ping` コマンドを使用してログインしているホストが正常に稼働しているか確認し、イベント検索を再実行します。

イベント基盤サービスとイベントコンソールサービスの接続が確立しない。

イベント基盤サービスが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

`jco_spmc_status` コマンドを実行してマネージャー上のイベント基盤サービスが起動しているか確認し、イベント検索を再実行します。

イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。

統合監視 DB が起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

統合監視 DB を起動後、イベント検索を再実行します。

イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。

検索先ホストのイベントサービスが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっている、ネットワークの設定に誤りがあるというおそれがあります。

- 対処

`jevstat` コマンドを実行して検索先ホスト上のイベントサービスが起動しているか確認し、再度検索します。`jevstat` コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

または、`ping` コマンドを使用して検索先ホストが正常に稼働しているか確認し、再度検索します。

サポートしていない条件で JP1 イベントを検索した。

バージョン 06-00 以前の JP1/Base のイベントサービスに対して、サポートしてい

ない条件（「を含む」、「を含まない」、「正規表現」の指定、または対処状況の複数指定）で JP1 イベントを検索しました。または、バージョン 06-51 以前の JP1/Base のイベントサービスに対して、サポートしていない条件（「正規表現」の指定）で JP1 イベントを検索しました。

- 対処
「を含む」、「を含まない」、「正規表現」を選択していないか、対処状況を複数選択していないかを確認後、再度検索します。

イベント検索実行時、指定した正規表現が間違っている。

- 対処
指定した正規表現を確認後、再度検索します。

除外条件を指定してイベント検索を実行した時、検索ホストの JP1/Base のバージョンが 08-11 以前だった。

- 対処
イベント検索の実行先に指定したホストの、JP1/Base のバージョンを確認し、08-11 以前の場合は除外条件を使用しないでイベント検索をします。

(22) メモ情報が設定できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。
- イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。

それぞれの対処を次に示します。

イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。

マネージャー上のイベントコンソールが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態である、ネットワークの設定が誤っているというおそれがあります。

- 対処
イベントコンソールサービス、またはホストが正常に稼働しているか確認し、メモ情報を設定します。
jco_spmc_status コマンドを実行してマネージャー上のイベントコンソールサービスが起動しているか確認し、再度メモ情報を設定します。
または、ping コマンドなどを使用してログインしているホストが正常に稼働しているか確認し、再度メモ情報を設定します。

イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。

イベント基盤サービスが起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処
jco_spmc_status コマンドを実行してマネージャー上のイベント基盤サービスが起動しているか確認し、再度メモ情報を設定します。

10. トラブルシューティング

イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。

統合監視 DB が起動していない、システム（ホスト、ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

統合監視 DB を起動後、再度メモ情報を設定します。

(23) IM データベースが終了できない場合の対処方法

要因

接続中の JP1/IM - Manager プロセスが存在します。

対処

JP1/IM - Manager が起動しているかどうか確認します。起動している場合、JP1/IM - Manager を終了してから IM データベースを終了します。

(24) IM データベースに接続できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- IM データベースを使用する設定になっていない。
- IM データベースが起動していない。
- ポート番号が正しく設定されていない。
- 非クラスタシステムの論理ホストをセットアップしたときに、`jcofdbsetup` または `jcofdbsetup` コマンドの `-c` オプションに「standby」を指定している。

それぞれの対処を次に示します。

IM データベースを使用する設定になっていない。

- 対処

`jcoimdef` コマンドのオプションを指定せずに使用して、「S_DB」の設定値が ON になっているか確認してください。`jcoimdef` コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcoimdef`」(1. コマンド)を参照してください。

IM データベースが起動していない。

- 対処

IM データベースが起動していることを確認してください。

ポート番号が正しく設定されていない。

- 対処

指定したポート番号が次のポート番号と重複していないかどうか確認してください。

- ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号
- `services` ファイルに記載されているポート番号
- ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号

- ほかの製品，OS などが使用する一時ポート番号

非クラスタシステムの論理ホストをセットアップしたときに，オプション `-c` に「standby」を指定している。

- 対処
非クラスタシステムの論理ホストをセットアップする場合，`jcfdbsetup` または `jcodbsetup` コマンドの `-c` オプションに「online」を指定してください。

(25) JP1/IM - Manager がアンインストールできない場合の対処方法

「KAVB9940-E 物理ホストの IM データベースサービスがアンセットアップされていません」メッセージまたは「KAVB9941-E 論理ホストの IM データベースサービスがアンセットアップされていません」メッセージが出力される。

要因

IM データベースがアンセットアップされていません。

対処

統合監視 DB と IM 構成管理 DB がアンセットアップされていることを確認してください。

(26) IM データベースをセットアップしたときに，ポート番号不正のエラーメッセージが出力される場合の対処方法

「KNAN11044-E ポート番号が重複しています」メッセージが出力される。

要因

指定したポート番号が，ほかで使用しているポート番号と重複しています。

対処

指定したポート番号が次のポート番号と重複していないかどうか確認してください。

- ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号
- `services` ファイルに記載されているポート番号
- ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号
- ほかの製品，OS などが使用する一時ポート番号

(27) IM データベースのセットアップに失敗する場合の対処方法

「KNAN11084-E DB ファイルシステム領域の作成に失敗しました」メッセージが出力される。

次の要因が考えられます。

- `IMBDDIR`，`SHAREBDDIR` に指定したパスのファイルシステムがラージファイルに対応していない。
- カーネルパラメーターが適切に設定されていない。
- `LOGICALHOSTNAME` や `ONLINEHOSTNAME` に正しいホスト名を指定していない。

10. トラブルシューティング

それぞれの対処を次に示します。

IMBDDIR, SHAREDDBDIR に指定したパスのファイルシステムがラージファイルに対応していない。

- 対処
対象の OS でラージファイル設定を有効にしてください。

カーネルパラメーターが適切に設定されていない。

- 対処
カーネルパラメーターが正しく設定されているか確認してください。カーネルパラメーターの詳細は, JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

LOGICALHOSTNAME や ONLINEHOSTNAME に正しいホスト名を指定していない。

- 対処
次の項目を確認してください。
 - LOGICALHOSTNAME や ONLINEHOSTNAME に指定したホスト名が適切かどうか
 - データベース関連のコマンドの -h オプションに指定したホスト名が適切かどうか
 - hosts ファイルに指定したホスト名が記載されているかどうか, およびホスト名の重複がないかどうか
 - 指定したホスト名に対応する IP アドレスが適切かどうか, および IP アドレスの重複がないかどうか

(28) IM データベースのセットアップでセットアップ情報ファイルが不正と出力される場合の対処方法

次のメッセージが出力される。

- 「KNAN11030-E セットアップ情報ファイルに必須項目が指定されていません。(項目名: 項目名)」
- 「KNAN11038-E セットアップ情報ファイルに指定した項目が不正です。(項目名: 項目名)」
- 「KNAN11047-E セットアップ情報ファイルに指定した項目名が不正です。(項目名: 項目名)」
- 「KNAN11048-E セットアップ情報ファイルに指定した項目名が重複しています。(項目名: 項目名)」

次の要因が考えられます。

- 指定されていない必須項目と値がある。
- 項目名に正しい文字列が指定されていない。
- 値に正しい値が指定されていない。
- " = " の前後に不要な空白文字が入っている。

それぞれの対処を次に示します。

指定されていない必須項目と値がある。

- 対処
セットアップ情報ファイルおよびクラスタ情報ファイルを確認し、必須項目をすべて指定してください。

項目名に正しい文字列が指定されていない。

- 対処
セットアップ情報ファイルおよびクラスタ情報ファイルを確認し、必須項目をすべて指定してください。

値に正しい値が指定されていない。

- 対処
指定できる値であるかどうか確認し、修正してください。

" = " の前後に不要な空白文字が入っている。

- 対処
" = " の前後などに不要な空白文字がないかどうか確認し、ある場合それを削除してください。

(29) IM データベースを起動できない、またはデータベース関連のコマンドが実行できない場合の対処方法

データベース関連のコマンドを実行するときに、「KNAN11037-E IM データベースサービスのデータ格納ディレクトリにアクセスできません」メッセージまたは「KNAN11143-E IM データベースサービスの構成が不正です」メッセージが出力される。

次の要因が考えられます。

- UNIX の場合、IM データベースのインストールディレクトリやデータ格納ディレクトリがアンマウントされている。
- ホスト名が変更されている。
- IM データベースが、ほかの製品で使用しているポート番号と重複したものを使用している。

それぞれの対処を次に示します。

UNIX の場合、IM データベースのインストールディレクトリやデータ格納ディレクトリがアンマウントされている。

- 対処
ディレクトリにアクセスできるかどうか確認し、アクセスできない場合はマウントしてください。

ホスト名が変更されている。

- 対処
ホスト名を一度以前のホスト名に戻してから、IM データベースのホスト名を変更する手順に従って、ホスト名を変更してください。

10. トラブルシューティング

IM データベースが、他製品で使用しているポート番号と重複したものを使用している。

- 対処
指定したポート番号が次のポート番号と重複していないかどうか確認してください。
 - ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号
 - services ファイルに記載されているポート番号
 - ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号
 - ほかの製品、OS などが使用する一時ポート番号

(30) IM 構成管理でホスト情報の収集に失敗した場合の対処方法

メッセージの種類によって対処方法が異なります。

「KNAN22017-E ホスト (ホスト名) と通信できなかったため、ホスト情報の収集に失敗しました」メッセージが出力され、ホスト情報の収集に失敗する。

要因

次の要因が考えられます。

- 収集先ホスト名が異なります。
- 収集先ホストの名前解決ができていません。
- 収集先ホストが起動されていません。
- 収集先ホストの JP1/Base が起動されていません。
- 収集先ホストとの通信で障害が発生しています。
- 収集先ホストの JP1/Base がバージョン 7 未満です。
- エージェントで設定しているホスト名とマネージャーからアクセスしようとするホスト名が異なります。

対処

要因に従って対処してください。

- 収集先ホスト名が正しいかどうか確認してください。
- 収集先ホストが起動しているかどうか確認してください。
- 収集先ホストの JP1/Base が起動しているかどうか確認してください。
- 収集先ホストとの通信に問題はないかどうか確認してください。
- 収集先ホストの JP1/Base がバージョン 7 以上であるか確認してください。
- エージェントで設定しているホスト名を入力して、マネージャーからアクセスしてください。また、名前解決ができるホスト名を入力してください。

次のメッセージが出力され、ホスト情報の収集に失敗する。

- KNAN21400-W ホスト (ホスト名) のホスト情報の収集に一部成功しました
JP1/Base からのホスト情報の収集に成功しました
リモートによるホスト情報の収集に失敗しました
詳細情報: 詳細情報
- KNAN21402-E ホスト (ホスト名) のホスト情報の収集に失敗しました
JP1/Base からホスト情報収集に失敗しました

詳細情報：詳細情報

リモートによるホスト情報の収集に失敗しました

詳細情報：詳細情報

- KNAN21403-E ホスト (ホスト名) のリモートによるホスト情報の収集に失敗しました

詳細情報：詳細情報

要因

次の要因が考えられます。

- リモート通信設定が設定されていない。
- 監視対象ホストが存在しない。
- ログファイルの収集がタイムアウトした。
- 認証に失敗した。
- 秘密鍵が存在しない。
- リモート監視プロセスの作成に失敗した。

それぞれの対処を次に示します。

リモート通信設定が設定されていない。

監視対象ホストのリモート通信設定をしてから再度実行してください。

監視対象ホストが存在しない。

監視対象ホストが存在するか確認してください。

ログファイルの収集がタイムアウトした。

次の項目を確認してください。

監視対象ホスト名のホストの OS が UNIX の場合

- 監視対象ホスト名のホストへの通信ができるか。
- 監視対象ホスト名のリモート通信種別が正しく設定されているか。
- 監視対象ホスト名のホストで SSH サーバが起動しているか。

上記を確認して異常がない場合は、SSH 接続の設定が正常に実施できているかどうかを確認してください。

監視対象ホスト名のホストの OS が Windows の場合

- 監視対象ホスト名のホストへの通信ができるか。
- 監視対象ホストにログインするユーザーのパスワードが有効期限を過ぎていないか。
- 監視対象ホスト名のリモート通信種別が正しく設定されているか。
- WMI サービスが起動しているか

上記を確認して異常がない場合は、WMI 接続の設定が正常に実施できているかどうかを確認してください。

認証に失敗した。

次の項目を確認してください。

監視対象ホスト名のホストの OS が UNIX の場合

10. トラブルシューティング

- SSH 認証の設定が正しいか。

上記を確認して異常がない場合は、SSH 接続の設定が正常に実施できているかどうかを確認してください。

監視対象ホスト名のホストの OS が Windows の場合

- [システム共通設定] 画面または [リモート監視設定] 画面のユーザー名、パスワード、ドメイン名が正しく設定されているか。
- 監視対象ホスト名のホストで DCOM が正しく設定されているか。
- JP1/IM - Manager のホストで DCOM が正しく設定されているか。

上記を確認して異常がない場合は、WMI 接続の設定が正常に実施できているかどうかを確認してください。

秘密鍵が存在しない。

秘密鍵があるかどうかを確認してください。

リモート監視プロセスの作成に失敗した。

[システム共通設定] 画面の IM ホストアカウントの設定を確認してください。

(31) IM 構成管理でシステムの階層構成の反映に失敗した場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- システムの階層構成を反映するホストの JP1/Base が起動していません。
システムの階層構成を反映する場合、システムの階層構成に含まれているすべてのホストが起動している必要があります。
- システムの階層構成を反映するホストが、すでに別のシステムの階層構成に含まれています。
- 統合マネージャー、中継マネージャー、エージェント間で名前解決ができません。

対処

要因に従って対処してください。

- システムの階層構成の反映が失敗したホストの JP1/Base が起動しているか確認したあと、再実行してください。
- システムの階層構成の反映が失敗したホスト上で、`jbsrt_get` コマンドを実行し、別のシステムの階層構成に含まれていないか確認してください。別のシステムの階層構成に含まれていた場合、そのシステムの階層構成から削除したあとに、再実行してください。
- 各ホスト間で、ホスト名の名前解決ができていないかどうか確認してください。名前解決されていない場合は、名前解決されるように設定を変更したあとに、再実行してください。

(32) IM 構成管理でログファイルトラップ動作定義ファイルの取得に失敗した場合の対処方法

要因

ログファイルトラップ動作定義ファイルは、エージェント内でユニークにする必要があります。同一の設定ファイルで複数のログファイルトラップを起動している、または異なるディレクトリであっても、同一の名称の動作定義ファイルでログファイルトラップを起動しているおそれがあります。

対処

次の手順で対処してください。

1. エージェント上で、ログファイルトラップを停止する。
2. ログファイルトラップ動作定義ファイル名をエージェント内でユニークな名称になるように設定し、再度ログファイルトラップ機能を起動する。
3. IM 構成管理・ビューアーの [プロファイル表示 / 編集] 画面で、[操作] メニューから [プロファイルツリー再構築] を選択して、プロファイルツリーを再構築する。

(33) JP1/IM - View から起動中のログファイルトラップがすべて表示されない場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- ログファイルトラップ機能を起動したあとに、プロファイルツリーの再構築を実行していません。
[プロファイル表示 / 編集] 画面の起動後、プロファイルツリーの再構築後、またはプロファイルの一括収集後に、ログファイルトラップが起動または再起動されたおそれがあります。
- ログファイルトラップを起動するときに指定した動作定義ファイルが、JP1Baseパス ¥conf 配下にはありません。

対処

要因に従って対処してください。

- 最新のプロファイルリストを収集する必要があります。IM 構成管理・ビューアーの [プロファイル表示 / 編集] 画面で、[操作] メニューから [プロファイルツリー再構築] を選択して、プロファイルツリーを再構築してください。
- ログファイルトラップ動作定義ファイルを JP1Base パス ¥conf 配下に配置して、ログファイルトラップ機能を再起動してください。
ログファイルトラップを起動したあと、IM 構成管理・ビューアーの [プロファイル表示 / 編集] 画面で、[操作] メニューから [プロファイルツリー再構築] を選択して、プロファイルツリーを再構築してください。

(34) プロファイルの設定ファイルと有効設定情報の内容が異なる場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- 設定ファイルを編集したあと、編集内容を反映していない、または反映に失敗し

10. トラブルシューティング

ています。

- 設定ファイルの記述が一部間違っています。
設定ファイルの記述が一部間違っていると、エージェントでは記述誤りの個所を読み飛ばして反映する場合があります。この場合、IM 構成管理・ビューアーから反映を実行したときにエラーダイアログが表示されます。

対処

要因に従って対処してください。

- IM 構成管理・ビューアーの [プロファイル表示 / 編集] 画面から、設定ファイルの内容を確認したあと、プロファイルの反映を実行し、正常に反映が終了したことを確認してください。
- 設定ファイルの反映に失敗した場合、設定ファイルの記述どおりにサービスが稼働していないおそれがあります。記述誤りを修正し、反映を再実行してください。

(35) IM 構成管理・ビューアーで、[ホスト登録], [エージェント構成編集] などのメニュー項目が非活性になっている場合の対処方法

要因

IM 構成管理・ビューアーにログインした JP1 ユーザーに IM 構成管理の権限 (JP1_CF_Admin , JP1_CF_Manager , JP1_CF_User のどれか) が割り当てられていないため、実行できる操作が参照だけになっています。次の場合が考えられます。

- 認証サーバに設定されている JP1/Base がバージョン 8 以前です。
- 認証サーバに設定されている JP1/Base をバージョン 8 以前から上書きインストールしたあと、JP1 ユーザーに IM 構成管理の権限 (JP1_CF_Admin , JP1_CF_Manager , JP1_CF_User のどれか) を割り当てていません。
- JP1 ユーザーに IM 構成管理の権限 (JP1_CF_Admin , JP1_CF_Manager , JP1_CF_User のどれか) を割り当てていません。

対処

要因に従って対処してください。

- 認証サーバに設定されている JP1/Base をバージョン 9 以降にしてください。
- ログインする JP1 ユーザーの JP1 資源グループにグループ名「JP1_Console」、権限レベルに IM 構成管理の権限 (JP1_CF_Admin , JP1_CF_Manager , JP1_CF_User のどれか) を割り当ててから、再度ログインしてください。
なお、IM 構成管理の権限レベルによって、各メニューの操作できる範囲が異なります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド」の「付録 E.3 IM 構成管理に必要な操作権限」を参照してください。

(36) IM 構成管理で仮想化システム構成の収集に失敗した場合の対処方法

「KNAN22062-E ホスト (ホスト名) の通信種別はサポートしていないため、仮想化構成の収集に失敗しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 収集先ホスト名が異なります。
- 収集先ホストの名前解決ができていません。
- 収集先ホストが起動されていません。
- 収集先ホストの JP1/SC/CM, SCVMM, vCenter が起動されていない、またはセットアップされていません。
- 収集先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 収集先ホスト名が正しいかどうか確認してください。
- 収集先ホストが起動しているかどうか確認してください。
- 収集先ホストの JP1/SC/CM, SCVMM, vCenter が起動しているかどうか、およびセットアップが完了しているかどうか確認してください。
- 収集先ホストとの通信に問題はないかどうか確認してください。

(37) IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップの有効設定情報が参照できない場合の対処方法

「KNAN22422-E ログファイルトラップ情報の有効設定上の収集が出来ませんでした。(詳細情報: 該当するサービスもしくはプロセスが稼働していません)」または、「KNAN22422-E イベントログトラップ情報の有効設定上の収集が出来ませんでした。(詳細情報: 該当するサービスもしくはプロセスが稼働していません)」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- リモート監視ログファイルトラップの稼働中にエラーが発生したため、リモート監視ログファイルトラップが停止した。
- リモート監視イベントログトラップの稼働中にエラーが発生したため、リモート監視イベントログトラップが停止した。

対処

リモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップの稼働中に発生したエラーの内容は、統合ログに出力されます。統合ログに出力されているエラーメッセージの対処を参照して、エラーの原因を取り除いてください。その後、リモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップを停止したあと、再度起動してください。

(38) IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップが稼働しているにもかかわらず JP1 イベントが受信されない場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

10. トラブルシューティング

- リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルのフィルター (`filter ~ end-filter`) の指定に誤りがあります。
- リモート監視ログファイルトラップの監視間隔が長く、ログファイルの差分がまだ監視されていません。
- リモートの監視対象ホストまたは監視対象ログファイルが不正な状態ですが、[プロファイル表示 / 編集] 画面の [有効設定情報] ページで [ログファイルトラップ情報] - [起動オプション動作] の [open リトライ指定 [-r]] を有効に指定している、または `jcfsallogstart` コマンドに `-r` オプションを指定しているためエラーが発生していません。
- リモート監視ログファイルトラップの起動オプションでフィルターの指定が誤っているため、監視対象のログファイルデータが監視対象ホストから転送されていません。

対処

- リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルのフィルター (`filter ~ end-filter`) の指定が正しいかどうか確認してください。
 - `jcfsallogstart` コマンドの `-t` オプションで指定しているファイル監視間隔以上の時間が経過しても JP1 イベントが受信されないかどうか確認してください
 - リモートの監視対象ホストが Windows の場合、リモートの監視対象ホストでログ監視をするための NetBIOS の設定が正しいかどうかを確認してください。
NetBIOS の設定については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.18.2 NetBIOS の設定」を参照してください。
 - リモートの監視対象ホストが UNIX の場合、リモートの監視対象ホストでログ監視をするための SSH の設定が正しいかどうかを確認してください。SSH の設定については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.17.1 SSH の設定」を参照してください。
 - 監視対象ログファイルが読み取りできる状態であることを確認してください。
 - リモート監視ログファイルトラップの起動オプションでフィルターの指定に誤りがないか確認してください。フィルターの指定に誤りがない場合、リモートの監視対象ホストで SSH 接続を使用しているユーザーが、次のコマンドを実行できるかどうかを確認してください。
 - Linux の場合
`/bin/grep -E 'フィルターに指定した正規表現文字列' 監視対象ログファイルパス`
 - Solaris の場合
`/usr/xpg4/bin/grep -E 'フィルターに指定した正規表現文字列' 監視対象ログファイルパス`
 - Linux , Solaris 以外の場合
`/usr/bin/grep -E 'フィルターに指定した正規表現文字列' 監視対象ログファイルパス`
- また、監視対象ログファイルのデータが、フィルターの指定によって除外されてい

ないかどうかを確認してください。

(39) IM 構成管理・ビューアーで処理中ダイアログが表示され続ける場合の対処方法

要因

JP1/IM・Manager ホスト，または操作対象のエージェントが停止しています。

対処

JP1/IM・Manager ホスト，または操作対象のエージェントが停止していないかどうか確認してください。

停止している場合は，[処理中] ダイアログボックスの [×] (閉じる) ボタンをクリックし，IM 構成管理・ビューアーを強制終了してください。

停止していない場合は，IM 構成管理が処理中のため，処理が完了するまで待ってください。

索引

B

- BJEX と JP1/IM - Manager 間の通信に関する設定 198
- BJEX との連携の概要 182
- BJEX と連携するための設定 196
- BJEX の設定 199
- BJEX 連携時の画面 207
 - [イベント検索条件設定] 画面 214
 - [イベントコンソール] 画面 208
 - [イベント詳細] 画面 210
 - [応答入力] 画面 211
 - 画面遷移 207
 - [関連イベント一覧] 画面 213
 - フィルターの条件定義画面 215
 - [ユーザー環境設定] 画面 214
- BJEX 連携時のコマンド 217
 - jcoimdef 217
 - jim_log.bat (Windows 限定) 217
 - jim_log.sh (UNIX 限定) 218
- BJEX 連携用の JP1/IM の機能 185

D

- DB の管理 12
 - 再作成 20
 - 再作成 (イベント DB) 22
 - 再作成 (応答待ちイベント滞留ファイル) 24
 - 再作成 (監視オブジェクト DB ・ ホスト情報 DB) 21
 - 再作成 (コマンド実行履歴) 20
 - サイズ拡張 (IM データベース) 25
 - 再編成 12
 - 再編成 (IM データベース) 12
 - 再編成 (イベント DB) 12
 - 再編成 (応答待ちイベント滞留ファイル) 12
 - 再編成 (監視オブジェクト DB ・ ホスト情報 DB) 12
 - 再編成 (コマンド実行履歴) 12

- バックアップ 14
- バックアップ (IM データベース) 18
- バックアップ (イベント DB) 17
- バックアップ (応答待ちイベント滞留ファイル) 17
- バックアップ (監視オブジェクト DB) 16
- バックアップ (コマンド実行履歴) 14
- バックアップ (ホスト情報 DB) 16
- ポート変更 (IM データベース) 27
- リカバリー 14
- リカバリー (IM データベース) 18
- リカバリー (イベント DB) 17
- リカバリー (応答待ちイベント滞留ファイル) 17
- リカバリー (監視オブジェクト DB) 16
- リカバリー (コマンド実行履歴) 14
- リカバリー (ホスト情報 DB) 16
- DB の再作成および設定変更 20
- DB のバックアップおよびリカバリー 14

I

IM 構成管理

- IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする 161
- 仮想化システム構成を管理する 153
- 業務グループを管理する 155
- サービスの稼働状況を管理する 158
- システムの階層構成の管理 149
- セントラルスコープの監視ツリーへ反映する 154
- プロファイルを管理する 156
- ホストを管理する 150
- IM 構成管理・ビューアーで、[ホスト登録], [エージェント構成編集] などのメニュー項目が非活性になっている場合の対処方法 330

- IM 構成管理・ビューアーで処理中ダイアログが表示され続ける場合の対処方法 333
 - IM 構成管理で仮想化システム構成の収集に失敗した場合の対処方法 330
 - IM 構成管理でシステムの階層構成の反映に失敗した場合の対処方法 328
 - IM 構成管理でホスト情報の収集に失敗した場合の対処方法 326
 - IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップが稼働しているにもかかわらず JP1 イベントが受信されない場合の対処方法 331
 - IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップの有効設定情報が参照できない場合の対処方法 331
 - IM 構成管理でログファイルトラップ動作定義ファイルの取得に失敗した場合の対処方法 328
 - IM 構成管理の管理情報
 - インポートする 169
 - エクスポートする 161
 - IM データベース
 - サイズ拡張 25
 - バックアップ・リカバリー手順 18
 - ポート変更 27
 - IM データベースが終了できない場合の対処方法 322
 - IM データベースに接続できない場合の対処方法 322
 - IM データベースの再編成 12
 - IM データベースのセットアップでセットアップ情報ファイルが不正と出力される場合の対処方法 324
 - IM データベースのセットアップに失敗する場合の対処方法 323
 - IM データベースを起動できない、またはデータベース関連のコマンドが実行できない場合の対処方法 325
 - IM データベースをセットアップしたときに、ポート番号不正のエラーメッセージが出力される場合の対処方法 323
 - IP アドレス
 - 変更した場合の影響および必要作業 39
 - IP アドレスの設定変更 37
 - IP アドレスの変更によって必要となる作業 39
 - IP アドレスの変更による影響 39
-
- ## J
- jeochfilter コマンドを使用して切り替える (イベント取得フィルター) 106
 - jeochfilter コマンドを使用して切り替える (共通除外条件) 108
 - JP1/IM
 - BJEX との連携 181
 - JP1/IM - Manager からログアウトする 60
 - JP1/IM - Manager にログインする 56
 - JP1/IM - Manager の起動と終了 47
 - JP1/IM - Manager へのログインとログアウト 55
 - JP1/IM - Manager を起動する 48
 - JP1/IM - Manager を終了する 51
 - JP1/IM - View の表示情報を CSV 出力する 110
 - JP1/IM が動作するホストの設定変更 37
 - JP1/IM システムの構成変更 35
 - JP1/IM システムのメンテナンス 1
 - JP1/IM によるシステムの操作 125
 - JP1/IM の設定情報の変更 36
 - JP1 イベントによりシステムを監視する 62
 - JP1 イベントを検索する 94
 - JP1 イベントを発行したアプリケーションをモニター起動する 101
 - イベント取得フィルターを切り替える 104
 - イベントの重大度を変更する 91
 - [監視ツリー] 画面で監視する 114
 - 起動する 48
 - 起動と終了に関する注意事項 53

- 自動アクションの状況を確認し、自動
アクションの操作を行う 131
- 重要イベントの対処状況を設定する
90
- 終了する 51
- 資料の採取方法 283
- スレッドダンプを出力する
(Windows) 285
- 設定情報の管理 2
- セントラルコンソールによるシステム
の監視 61
- セントラルスコープによるシステムの
監視 113
- 対処の手順 220
- ダンプファイルを出力する (UNIX)
290
- ディスク容量の管理 30
- データベースの管理 12
- 統合機能メニューで他アプリケーション
の画面を表示する 140
- トラブルシューティング 219
- トラブル発生時に採取が必要な資料
256
- トラブルへの対処方法 293
- [ビジュアル監視] 画面で監視する
120
- 表示フィルターを有効にする 103
- メモ情報を編集する 93
- 履歴レポートの活用 32
- ログアウトする 60
- ログインする 56
- ログ情報の種類 221
- JP1/IM - Central Scope ,JP1/IM - View のど
ちらかのバージョンが古い場合の対処方法
311
- JP1/IM - Incident Master
 - JP1 イベントをインシデントとして登
録する 85
 - 操作する 85
 - トラブルシューティング (インシデン
トが登録できない) 310
- JP1/IM - Manager
 - GUI でログインする 56
 - 起動する 48
 - 起動と終了に関する注意事項 53
 - コマンドでログインする 58
 - 終了する 51
 - ログアウトする 60
 - ログインする 56
 - ログファイル一覧 (IM 構成管理)
(UNIX) 253
 - ログファイル一覧 (IM 構成管理)
(Windows) 237
 - ログファイル一覧 (JP1/IM - Central
Console) (UNIX) 242
 - ログファイル一覧 (JP1/IM - Central
Console) (Windows) 224
 - ログファイル一覧 (JP1/IM - Central
Scope) (UNIX) 251
 - ログファイル一覧 (JP1/IM - Central
Scope) (Windows) 235
- JP1/IM - Manager がアンインストールでき
ない場合の対処方法 323
- JP1/IM - Rule Operation
 - 操作する 87
 - ルール起動要求の状況を確認する 87
 - [ルール結果詳細] 画面を表示する 88
- JP1/IM - Service Support
 - JP1 イベントをインシデントとして
JP1/IM - Service Support に登録す
る (JP1/IM - Service Support 連
携) 84
 - 操作する 84
- JP1/IM - View
 - JP1 イベントを発行したアプリケー
ションをモニター起動する 101
 - イベント一覧を CSV 出力する 110
 - [イベント取得条件一覧] 画面からイ
ベント取得フィルターを切り替える
105
 - [イベント取得条件一覧] 画面から共
通除外条件を切り替える 106
 - [コマンド] ボタンでコマンドを実行
する 127
 - コマンドを実行するユーザー 129

- [システム環境設定]画面からイベント取得フィルターを切り替える 104
 - [システム環境設定]画面から共通除外条件を切り替える 105
 - システムを操作する 125
 - [実行コマンド]でコマンドを実行する 126
 - 自動アクションの結果確認と再実行をする 131
 - 統合機能メニューで他アプリケーションの画面を表示する 140
 - ログインしたあと画面が表示されない 315
 - ログインできない場合の対処方法 294
 - ログファイル一覧 239
 - JP1/IM - View から起動中のログファイルトラップがすべて表示されない場合の対処方法 329
 - JP1/IM - View の表示情報を CSV 出力する 110
 - JP1/IM システム
 - 構成の管理 149
 - 構成の同期を取る 151
 - 構成を管理する 151
 - 構成を検証する 151
 - 構成を取得する 151
 - 構成を反映する 151
 - 構成を表示する 151
 - 構成を編集する 151
 - JP1 イベント
 - 一覧に表示できる項目 63
 - イベント検索で対処状況を設定する 99
 - イベントの重大度を変更する 91
 - 検索結果の表示 97
 - 検索する 94
 - 検索手順 94
 - 検索の方法 94
 - 固有の拡張属性を表示する(イベント情報のマッピング) 70
 - システムを監視する 62
 - 重要イベントだけを表示する 75
 - 重要イベントの対処状況を設定する 90
 - 詳細情報を表示する 68
 - 対処状況を表示する 74
 - 発行したアプリケーションをモニター起動する 101
 - 表示する 62
 - 表示フィルターを有効にする 103
 - 見方 62
 - JP1 イベント検索
 - 検索手順 94
 - 操作する 94
 - JP1 イベントによりシステムを監視する 62
 - JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する 70
 - JP1 イベントの詳細情報を表示する 68
 - JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピーする 111
 - JP1 イベントの対処状況を表示する 74
 - JP1 イベントをインシデントとしてJP1/IM - Incident Master に登録する(JP1/IM - Incident Master 連携) 85
 - JP1 イベントをインシデントとしてJP1/IM - Service Support に登録する(JP1/IM - Service Support 連携) 84
- ## K
-
- KAVB0104-E 294
 - KAVB0109-E 294
 - KAVB0415-E 296
 - KAVB0416-E 297
 - KAVB0417-E 297
 - KAVB0418-E 297
 - KAVB0419-E 297
 - KAVB0422-E 298
 - KAVB0423-E 298
 - KAVB1200-E 294
 - KAVB2027-E 298
 - KAVB2031-E 298
 - KAVB2239-E 307
 - KAVB7247-E 308
 - KAVB7248-E 308

KAVB8452-E 299
 KNAN20100-E 295
 KNAN20101-E 295
 KNAN20102-E 295
 KNAN20103-E 296
 KNAN20104-E 296

U

UNIX の場合 (JP1/IM - Manager を起動する) 49
 UNIX の場合 (JP1/IM - Manager を終了する) 51

W

Windows の場合 (JP1/IM - Manager を起動する) 48
 Windows の場合 (JP1/IM - Manager を終了する) 51
 WWW ページ版の JP1/IM - View
 ログインする 57
 WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する
 情報を採取する (UNIX) 291
 WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する
 情報を採取する (Windows) 286

あ

アクション結果の詳細情報 (メッセージ) に
 KAVB5150-W が表示される場合の対処方法 309
 アプリケーションをモニター起動する 101

い

イベント
 重大度を変更する 91
 イベント DB の再作成手順 22
 イベント DB の再編成 12
 イベント DB のバックアップ・リカバリー手順 17
 イベント一覧の表示項目 62
 イベント検索が実行できない場合の対処方法 319

イベント検索で対処状況を設定する 99
 [イベントコンソール] 画面
 トラブルシューティング (定義メニューが表示されない) 296
 [イベントコンソール] 画面に JP1 イベント
 が表示されない場合の対処方法 318
 [イベントコンソール] 画面の各ページから
 表示する 84, 86
 イベント取得フィルター
 jcochfilter コマンドを使用して切り替
 える 106
 切り替える 104
 [システム環境設定] 画面または [イ
 ベント取得条件一覧] 画面から切り
 替える 104
 [イベント詳細] 画面から表示する 85, 86
 イベント情報のマッピング 70
 イベントの CSV 出力 32
 イベントの検索方向 96
 インシデント
 [イベントコンソール] 画面の各ペ
 ージから表示する 84, 86
 [イベント詳細] 画面から表示する
 85, 86
 [関連イベント一覧] 画面から表示す
 る 85, 86
 インシデントが登録できない場合 (JP1/IM -
 Incident Master 連携機能) の対処方法
 310
 インポートした IM 構成管理の管理情報をシ
 ステムに反映する 177

え

エージェント構成とリモート監視構成の違い
 44
 エージェントホストまたはマネージャーホス
 トでコマンドを実行する 128

お

応答待ちイベント 182
 応答 192
 応答する 205

応答待ちイベントと JP1/IM の関係
 185
 応答待ちイベントとして表示されない
 318
 監視 187
 キャンセル 194
 セントラルコンソールで応答待ちイベ
 ントを監視する 201
 セントラルスコープで応答待ちイベ
 ントを監視する 203
 滞留 190
 滞留状態の監視を復帰させる 206
 滞留を手動で解除する 205
 発行経路 185
 応答待ちイベントが JP1/IM・View に表示さ
 れない場合の対処方法 317
 応答待ちイベント管理機能 182, 186
 応答待ちイベント滞留ファイル 190
 再作成 24
 再編成 12
 バックアップ・リカバリー手順 17
 オペレーション内容を確認する (UNIX)
 292
 オペレーション内容を確認する (Windows)
 287

か

ガイド情報
 表示する (監視ツリー) 118
 表示する (ビジュアル監視) 124
 仮想化システム構成の管理 153
 ホスト情報を表示する 153
 ホストを登録する 153
 画面上のエラー情報を採取する (UNIX)
 292
 画面上のエラー情報を採取する (Windows)
 287
 画面に表示されるイベント 66
 監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB
 の再作成手順 21
 監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB
 の再編成 12

監視オブジェクト DB が破損している場合の
 対処方法 308
 監視オブジェクト DB のバックアップ・リカ
 バリー手順 16
 監視オブジェクト DB のロックが解除されな
 い場合の対処方法 308
 監視構成の変更 44
 監視ツリー
 ガイド情報を表示する 118
 画面で監視する 114
 監視ノードの監視状態を変更する
 115
 監視ノードの状態を変更する 114
 監視ノードの属性を表示する 117
 監視ノードを検索する 116
 状態変更イベントを検索する 116
 情報をローカルホストに保存する
 119
 [ビジュアル監視] 画面から呼び出す
 121
 [ビジュアル監視] 画面を表示する
 118
 ログインユーザーの一覧を表示する
 119
 [監視ツリー] 画面の情報をローカルホスト
 に保存する 119
 監視ノード
 監視ツリーから監視状態を変更する
 115
 監視ツリーから検索する 116
 監視ツリーから状態を変更する 114
 監視ツリーから属性を表示する 117
 [ビジュアル監視] 画面から監視状態
 を変更する 121
 [ビジュアル監視] 画面から検索する
 122
 [ビジュアル監視] 画面から状態を変
 更する 121
 [ビジュアル監視] 画面から属性を表
 示する 123
 管理する
 ホスト 150

[関連イベント一覧]画面から表示する
85, 86

き

起動する 48
 注意事項 53
起動と終了に関する注意事項 53
共通メッセージログ 221
業務グループ
 管理する 155
業務グループを管理する 155

く

クラスタシステム
 JP1/IM を運用する (起動) 50
 JP1/IM を運用する (終了) 52
繰り返しイベントの集約表示
 操作する 76

け

検索結果の表示 (JP1 イベント) 97
検索する
 JP1 イベント 94
 監視ノード (監視ツリーから) 116
 監視ノード (ビジュアル監視から)
 122
検索の方法 (JP1 イベント) 94

こ

コマンド実行
 コマンドの実行状態を確認する 129
 [コマンド] ボタンでコマンドを実行
 する 127
 コマンドを削除する 129
 コマンドを実行する 126
 [実行コマンド] でコマンドを実行す
 る 126
 トラブルシューティング (コマンド実
 行ができない) 296

トラブルシューティング (バッチファ
 イルが正常終了しない (Windows 限
 定)) 316

トラブルシューティング (履歴ファイ
 ルが壊れている) 299

コマンド実行ができない場合の対処方法 296
コマンド実行履歴の再作成手順 20
コマンド実行履歴の再編成 12
コマンド実行履歴のバックアップ・リカバ
 リー手順 14
コマンド実行履歴ファイルが壊れている場合
 の対処方法 299
コマンドを実行する 126
コマンドを実行するユーザー 129

さ

サービスの稼働状況の管理 158
 稼働情報を収集する 158
 稼働情報を表示する 159

し

システム構成情報
 エクスポート・インポートする 161
システムの階層構成での監視構成の変更 44
システムの日時変更 40
 過去に戻す 40
 時刻を進める 42
システムの日時変更時に必要な作業 40
自動アクション
 稼働状況を確認する 139
 キャンセルする 136
 再実行する 138
 実行結果を確認する 133
 実行状況を確認する 131
 状況を確認し、操作を行う 131
 トラブルシューティング
 (KAVB5150-W が表示される) 309
 トラブルシューティング (実行状態が
 「状態不明」と表示される) 305
 トラブルシューティング (遅延する)
 306

トラブルシューティング (バッチファイルが正常終了しない (Windows 限定)) 316

集約

集約イベントと繰り返しイベントを表示する 76
集約表示の見方 77

重要イベント

対処状況を設定する 90
表示する 75

終了する 51

注意事項 53

状態変更イベント

検索する (監視ツリー) 116
検索する (ビジュアル監視) 122

資料採取ツール

実行する (UNIX) 292
実行する (Windows) 287

資料の採取方法 283

せ

正規表現

指定方法 (イベント検索) 96

設定情報および DB の移行 34

設定情報の管理 2

設定情報の変更 36

設定する

IP アドレスの設定変更 37
JP1/IM の設定情報の変更 36
ホストの設定変更 37

設定ファイルの編集内容を反映する 157

選択したイベントの登録ホストに定義された
コマンドを実行する 128

セントラルコンソール

システムを監視する 61

セントラルスコープ

[監視ツリー] 画面で監視する 114
システムを監視する 113
[ビジュアル監視] 画面で監視する
120

セントラルスコープの監視ツリーへ反映する
154

そ

関連イベントの発行

関連イベントを表示および操作する
80

トラブルシューティング (JP1/IM -
View に関連イベントが表示されな
い) 314

トラブルシューティング (発行処理の
対象となる JP1 イベントが多発し
た) 313

発行履歴 32

操作する 47

GUI でログイン 56

JP1/IM - View の表示情報を CSV 出
力 110

JP1 イベント検索結果を表示 97

JP1 イベントによりシステムを監視
62

JP1 イベントの固有の拡張属性を表示
(イベント情報のマッピング) 70

JP1 イベントの詳細情報を表示 68

JP1 イベントの対処状況を表示 74

JP1 イベントをインシデントとして
JP1/IM - Incident Master に登録
85

JP1 イベントをインシデントとして
JP1/IM - Service Support に登録す
る (JP1/IM - Service Support 連
携) 84

JP1 イベントを検索 94

イベント検索で対処状況を設定 99

イベント取得フィルターの切り替え
104

イベントの重大度を変更 91

[監視ツリー] 画面からガイド情報を
表示 118

[監視ツリー] 画面から監視ノードの
監視状態を変更 115

[監視ツリー] 画面から監視ノードの
状態を変更 114

[監視ツリー] 画面から監視ノードの
属性を表示 117

[監視ツリー] 画面から監視ノードを検索 116

[監視ツリー] 画面から状態変更イベントを検索 116

[監視ツリー] 画面で監視 114

[監視ツリー] 画面の情報をローカルホストに保存 119

期間を指定してイベントを表示 82

起動 48

繰り返しイベントの対処状況を変更 79

繰り返しイベントを表示 76

コマンドでログイン 58

コマンドの実行状態を確認 129

[コマンド] ボタンでコマンドを実行 127

コマンドを削除 129

時刻を指定してイベントを表示 83

[実行コマンド] でコマンドを実行 126

自動アクション機能の稼働状況を確認 139

自動アクションの実行結果を確認 133

自動アクションの実行状況を確認 131

自動アクションをキャンセル 136

自動アクションを再実行 138

集約イベントの対処状況を変更 79

集約イベントを表示 76

重要イベントだけを表示 75

重要イベントの対処状況を設定 90

重要イベントを削除 90

終了 51

関連イベント 80

[統合機能メニュー] 画面 141

[ビジュアル監視] 画面からガイド情報を表示 124

[ビジュアル監視] 画面から [監視ツリー] 画面の呼び出し 121

[ビジュアル監視] 画面から監視ノードの監視状態を変更 121

[ビジュアル監視] 画面から監視ノードの状態を変更 121

[ビジュアル監視] 画面から監視ノードの属性を表示 123

[ビジュアル監視] 画面から監視ノードを検索 122

[ビジュアル監視] 画面から状態変更イベントを検索 122

[ビジュアル監視] 画面で監視 120

[ビジュアル監視] 画面を表示 118

表示フィルターを有効化 103

メモ情報を編集 93

モニター起動 101

ルール起動要求の状況を確認 87

ルール起動要求の操作 87

ログアウト 60

ログイン 56

ログインユーザーの一覧を表示 119

た

他アプリケーションの画面を表示する 140

対処状況が変更できない場合の対処方法 318

対処状況の変更
変更する 74

対処の手順 (トラブルシューティング) 220

ダンプファイルの管理 31

ち

注意事項
JP1/IM の起動と終了 53

て

ディスク容量の管理 30

データベースの管理 12

再作成 20

再作成 (イベント DB) 22

再作成 (応答待ちイベント滞留ファイル) 24

再作成 (監視オブジェクト DB・ホスト情報 DB) 21

再作成 (コマンド実行履歴) 20

サイズ拡張 (IM データベース) 25

再編成 12
 再編成 (IM データベース) 12
 再編成 (イベント DB) 12
 再編成 (応答待ちイベント滞留ファイル) 12
 再編成 (監視オブジェクト DB・ホスト情報 DB) 12
 再編成 (コマンド実行履歴) 12
 バックアップ 14
 バックアップ (IM データベース) 18
 バックアップ (イベント DB) 17
 バックアップ (応答待ちイベント滞留ファイル) 17
 バックアップ (監視オブジェクト DB) 16
 バックアップ (コマンド実行履歴) 14
 バックアップ (ホスト情報 DB) 16
 ポート変更 (IM データベース) 27
 リカバリー 14
 リカバリー (IM データベース) 18
 リカバリー (イベント DB) 17
 リカバリー (応答待ちイベント滞留ファイル) 17
 リカバリー (監視オブジェクト DB) 16
 リカバリー (コマンド実行履歴) 14
 リカバリー (ホスト情報 DB) 16
 データベースの再編成 12
 データベース容量の管理 30

と

統合監視 DB の内容を CSV 出力する 110
 統合機能メニュー
 画面から操作できる機能 142
 画面の操作 141
 他アプリケーションの画面を表示する 140
 統合トレースログ 221
 トラブルシューティング 219
 採取が必要な資料 256
 資料の採取方法 283
 対処の手順 220

対処方法 293
 ログ情報の種類 221

は

バックアップ
 IM データベース 18
 イベント DB 17
 応答待ちイベント滞留ファイル 17
 監視オブジェクト DB 16
 コマンド実行履歴 14
 設定情報 (UNIX) 7
 設定情報 (Windows) 2
 データベース (DB) 14
 バックアップ対象ファイル (UNIX) 8
 バックアップ対象ファイル (Windows) 2
 ホスト情報 DB 16
 バッチジョブ実行システム 182
 バッチジョブ実行システムと連携する場合のシステム構成 182

ひ

ビジュアル監視
 ガイド情報を表示する 124
 画面から [監視ツリー] 画面を呼び出す 121
 画面で監視する 120
 監視ツリーから [ビジュアル監視] 画面を表示する 118
 監視ノードの監視状態を変更する 121
 監視ノードの状態を変更する 121
 監視ノードの属性を表示する 123
 監視ノードを検索する 122
 状態変更イベントを検索する 122
 [ビジュアル監視] 画面で監視する 120
 表示する
 集約イベント 76
 表示フィルター
 有効にする 103

ふ

- プロセスの状態を確認する
 - UNIX 289
 - Windows 283
- プロファイル
 - 管理する 156
- プロファイルの管理 156
 - 収集する 156
 - 設定ファイルを編集する 156
 - 表示する 156
- プロファイルの設定ファイルと有効設定情報の内容が異なる場合の対処方法 329
- プロファイルリストを収集する 156

へ

- 編集する
 - メモ情報 93

ほ

- ホスト情報
 - DBのバックアップ・リカバリー手順 16
 - 収集する 150
- ホスト情報を変更する 150
- ホストの管理 150
 - 一覧を表示する 150
 - 削除する（[IM 構成管理]画面） 150
 - 情報を収集する 150
 - 登録する 150
- ホストの設定変更 37
- ホスト名
 - 変更した場合の影響および必要作業 37
 - 変更によって必要となる作業 38
 - 変更による影響 37

ま

- マッピング
 - イベント情報 70

め

- メモ情報が設定できない場合の対処方法 321
- メンテナンス 1
 - 設定情報の管理 2
 - ディスク容量の管理 30
 - データベースの管理 12
 - 履歴レポートの活用 32

も

- モニター画面 101
- モニター起動
 - JP1 イベントを発行したアプリケーションを起動する 101
- 問題レポートを採取する（Windows Server 2008, または Windows Vista 限定） 288

ゆ

- ユーザーダンプを採取する（Windows 7, Windows Server 2008, または Windows Vista 限定） 288

り

- リカバリー
 - IM データベース 18
 - イベント DB 17
 - 応答待ちイベント滞留ファイル 17
 - 監視オブジェクト DB 16
 - コマンド実行履歴 14
 - 設定情報（UNIX） 11
 - 設定情報（Windows） 7
 - データベース（DB） 14
 - ホスト情報 DB 16
- リモート監視構成からエージェント構成に監視構成を変更する場合の注意事項 45
- リモート監視構成でマネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更したときに必要な作業 42
- 履歴レポートの活用 32

る

ルール起動要求の状況を確認し、ルール起動
要求の操作をする (JP1/IM - Rule
Operation 連携) 87

れ

連携製品

BJEX 181

ろ

ログアウトする 60

ログインする 56

GUI から 56

ログインユーザーの一覧を表示する 119

ログ情報の種類 221

ログファイル一覧 224

ログファイル容量の管理 31